

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第33集

泉坂下遺跡 VI

保存整備事業に伴う第5次確認調査報告

令和4年11月

常陸大宮市教育委員会

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第33集

いずみ さか した い せき
泉 坂 下 遺 跡 VI

保存整備事業に伴う第5次確認調査報告

令和4年11月

常陸大宮市教育委員会



遺跡全景（南東から、奥に市街地中心部、右奥に久慈川上流部を望む）



遺跡全景（北から、市街地南部・那珂台地・久慈川下流方面を望む）



第30トレンチ出土人面付土器 (No.38) 部分



第30トレンチ出土人面付土器 (No.38) 復元

ごあいさつ

常陸大宮市は茨城県北西部に位置し、県都水戸市から北へ約20kmの、平成の大合併で誕生した人口約3万8千人の市で、市域の北部には八溝・久慈山系の山地が連なり、南西端に那珂川、東部に久慈川、中央部にそれらの支流である玉川や緒川が流れます。当市域は、これらが緑豊かな丘陵・台地・低地を織り成す景勝の地であり、原始・古代の重要な遺跡が多く残されています。

昭和55年頃、泉字坂下で水田耕作をしていた菊池榮一氏（故人）が、偶然2個の弥生土器を発見し、大宮町歴史民俗資料館（当時）に寄贈されたことで、泉坂下は遺跡として認識されるようになりました。この土器がきっかけとなり、平成18年に鈴木素行氏による学術調査が行われて、再葬墓が確認されるとともにきわめて遺存状態の良い人面付壺形土器が出土しました。

市としましても、この貴重な遺跡を未来に引き継ぐためには国の史跡指定を受けることが肝要との考えから、指定申請に必要な基礎資料を得るため、平成24年度から平成28年度まで4次にわたる確認調査を実施しました。これによって、再葬墓群の全体像を明らかにする成果が挙げられ、当遺跡は平成29年に国の史跡指定を受けることができました。さらに、同年、人面付壺形土器をはじめとする出土遺物が国の重要文化財指定を受け、市にとって二重の喜びとなりました。

その一方、再葬墓の営まれる前段階の社会についての解明という課題が浮上しました。これは、弥生時代再葬墓遺跡である当遺跡の理解に不可欠であり、整備や展示等といった活用にも大きくかかわる問題です。そこで、縄文時代晩期の集落に焦点を当てた確認調査を計画し、平成30年度に第5次、令和元年度に第6次の調査を実施しました。本書はそのうち第5次確認調査の成果をまとめたものです。今後の整備計画の基本資料として活用されることはもとより、考古学研究の貴重な資料となるものと信じております。

最後になりますが、発掘調査にあたり御指導いただきました文化庁文化財第二課、茨城県教育庁総務企画部文化課、泉坂下遺跡保存活用整備検討委員会委員の皆様、全般にわたり御協力いただきました地元の皆様及びその他御指導・御協力いただいた関係各位に衷心より深く感謝申し上げます。

令和4年11月

常陸大宮市教育委員会
教育長 小野 司寿男

例 言

- 1 本書は、国宝重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて、平成30（2018）年度に常陸大宮市教育委員会が実施した、国指定史跡泉坂下遺跡の第5次確認調査の報告書である。
- 2 泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在する。
- 3 この調査は、泉坂下遺跡の整備活用のための資料を得ることを目的とした確認調査である。国史跡指定を受けるまでに4次にわたる確認調査を実施して資料を蓄積してきたが、指定を受け整備活用が当面の事業となったことから、今回は資料が不足している縄文時代晩期の集落を主たる調査対象として確認調査を行なうこととしたものである。
- 4 今回の調査の目的は弥生時代再葬墓が造営される前段階の社会の実態に迫ることで、対象は遺跡北西部に存在することがおよそ判明している縄文時代晩期の集落である。より具体的には、すでに存在が判明している竪穴住居跡の規模・構造等の解明と未調査区域における遺構の存否の確認である。調査対象面積は1,500㎡、実際の調査面積は144㎡である。
- 5 令和元（2019）年度には第6次確認調査を実施し、令和2年度には調査報告書がすでに刊行されている（常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第35集「泉坂下遺跡Ⅶ」, 2021年3月）。第5次調査にかかる本報告書に逆転・先行する形となっているが、事務的な事情によるものであり、基本的に本報告書は調査の時系列による記載をしている（付図を除き、第6次調査の成果を反映していない）。
- 6 骨角器及び自然遺体については、自然科学分析（同定分析）をパリオ・サーヴェイ株式会社に委託して行なった。その成果については付章を設けて掲載し、必要に応じて本文中または観察表中で参照している。
- 7 現地調査及び整理期間は、以下のとおりである。ただし、整理作業は、第6次調査その他の作業もあり、断続的に行なわざるをえなかった。また、第6次調査の整理作業と概ね並行して行なった。

現地調査 平成30年9月3日～同年11月22日

整理作業 平成30年11月26日～令和3年（2021）年7月31日

令和4（2022）年8月16日～同年11月30日（校正）

- 8 現地調査は、常陸大宮市教育委員会文化スポーツ課主幹中林香澄、同嘱託職員萩野谷悟、同嘱託職員相田尚人が担当した。整理及び本書の執筆・編集は、萩野谷が担当した。

なお、調査等に関する本市教育委員会の組織は以下のとおりである。

【平成30年度】上久保洋一（教育長、12月24日まで）、茅根正憲（教育長、12月25日から）、栗田和弘（教育部長）、大町隆（次長）、皆川嗣郎（文化スポーツ課長）、石井聖子（同参事）、大高正徳（同課長補佐）、會沢英行（同主任）、中林香澄（同主幹）、高橋拓也（同主幹）、萩野谷悟（同嘱託職員）、相田尚人（同嘱託職員）

【平成31（令和元）年度】茅根正憲（教育長）、大町隆（教育部長）、皆川嗣郎（次長兼文化スポーツ課長）、石井聖子（同参事）、関和朗（同課長補佐）、會沢英行（同係長）、高橋拓也（同主幹）、萩野谷悟（同嘱託職員）、鈴木素行（同嘱託職員）、吹野富美夫（同臨時職員）

【令和2年度】茅根正憲（教育長）、大町隆（教育部長）、諸澤正行（次長）、石井聖子（文化スポーツ課長）、砂川明生（同課長補佐）、會沢英行（同係長）、石川優水（同主幹）、高橋拓也（同主幹）、杉浦果奈（同主事）、萩野谷悟、鈴木素行、吹野富美夫、岡部孝代、小野千里、

河西恵子、須藤公子（以上、同会計年度任用職員）

【令和3年度】茅根正憲（教育長、12月24日まで）、橋本勇夫（教育長職務代理人、12月25日から令和4年3月31日まで）、諸澤正行（教育部長）、坪裕志（文化スポーツ課長）、砂川明生（同課長補佐）、會沢英行（同主査）、中林香澄（同主任）、杉浦果奈（同主事）、萩野谷悟、鈴木素行、岡部孝代、河西恵子、須藤公子（以上、同会計年度任用職員）

【令和4年度】小野司寿男（教育長）、諸澤正行（教育部長）、坪裕志（文化スポーツ課長）、後藤俊一（同課長補佐）、高村恵美（同主査）、石川優水（同主幹）、杉浦果奈（同主幹）、萩野谷悟、鈴木素行、岡部孝代、河西恵子、須藤公子（以上、同会計年度任用職員）

- 9 調査にあたっては、地権者である菊池清、菊池雄一、菊池隆広、菊池きよの各氏から多大なる御理解と御協力をいただいた。
- 10 調査は、文化庁文化財部記念物課彌宜田佳男主任文化財調査官(当時)、茨城県教育庁文化課、常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会（以下、保存委員会と略記）から全般にわたり御指導をいただきながら実施した。保存委員会を構成する委員は、以下の各氏である（敬称略）。
- 川崎純徳（座長）、相田美樹男、石川日出志、鈴木素行、谷口陽子
- また、保存委員会は令和元年度から「常陸大宮市泉坂下遺跡保存活用整備検討委員会」（以下、整備検討委員会と略記）と名称を変更するとともに、組織を拡充した。整備検討委員会の御指導をいただきながら、保存・活用・整備の方法等を検討している。委員会を構成する委員は、以下の各氏である（敬称略）。
- 川崎純徳（委員長）、秋山信夫（副委員長）、相田美樹男、石川日出志、鈴木素行、谷口陽子、後藤孝行（以上、令和元～4年度）、上川信也、高橋弘道（以上、令和元年度）、齋藤慶一郎、菅又章雄、中村晴夫（以上、令和2・3年度）、瀬谷修（令和2～4年度）、藤田雅久、矢花博之、粟生一行（以上、令和4年度）
- 11 現地調査及び整理作業は、以下の方々の御協力のもと実施した。
- 小野千里、篠原とよ子、須藤公子（以上、現地調査及び整理作業）、井坂桂一、柏勝、檜山博（以上、現地調査）、岡部孝代、河西恵子（以上、整理作業）
- 12 現地調査及び整理作業にあたっては、以下の方々から種々御教示や御協力をいただいた（順不同、敬称略）。記して謝意を表する。
- 五十嵐雄大、菊池芳文、菊池美波、田中美零、寺門節子、永井茂文・ゆわえ、中村信博、白田正子、橋本勝雄、樋口正子、横倉要次、渡邊明
- 13 出土遺物及び調査関係資料は、常陸大宮市教育委員会において保管している。

凡 例




- 1 地区設定については、平成18(2006)年の調査時に鈴木素行氏が現在の土地利用を考慮してグリッドを設定しているため、これを踏襲した。グリッドの南北軸はN-23°-Wである。

平成18年の調査時に設定した北西端の杭を基準とし、遺跡範囲内を東西・南北各々20mの大調査区に分割し、さらにこの大調査区を東西・南北に各々10等分し、2m四方の小調査区を設定した。大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ1, 2, 3..., 西から東へA, B, C...とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は北から南へ1, 2, 3...0, 西から東へa, b, c...j, とし、名称は大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b1区」のように呼称した。また、小調査区を1m四方に分割した場合もあり、北西→北東→南西→南東の順にア・イ・ウ・エとし、小調査区の末尾に付して示した。
- 2 トレンチは、平成18年調査時のものを第1トレンチとし、それを中心として東西南北に延ばすように設定し、さらに必要に応じて設定している。番号は随時、時計回りで付した。第5次調査では、第12トレンチ(再発掘)及び第28~31トレンチを調査している。
- 3 本文・実測図・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺 構 S B—掘立柱建物跡, S D—溝跡, S E—井戸跡, S I—竪穴住居跡, S K—土坑,
S X—性格不明遺構, P—柱穴, K—攪乱

遺 物 P—土器・土製品, Q—石器・石製品, S—石

その他 T—トレンチ
- 4 土層と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。
- 5 トレンチ・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。
 - (1) 全体図は400分の1, トレンチ実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
 - (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。
 - (3) トレンチ・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	竈材, 黒色処理(縄文土器を除く), 黒色物質付着(同左)
	釉
	赤彩, 赤色顔料付着
 - (4) トレンチ・遺物実測図中の●は土器・土製品, ■は石器・石製品, ▲は鉄・銅製品, ★は自然遺物の、それぞれ出土位置を示す。
- 6 遺物観察表の表記については以下のとおりである。
 - (1) 欠損がある場合、現存値は(), 推定値は[]を付して示した。計測値の単位は原則, cmで、重量はgで示した。有効数字の桁は表示のとおりである。
 - (2) 備考欄は、写真図版番号、残存状況その他必要と思われる事項を記した。
- 7 「主軸」は、竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については、長軸(長径)を軸とみなした。「主軸・長軸(長径)方向」は、その主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 N-10°-W)

目次

ごあいさつ

例言	ii
凡例	iv
目次	v
挿図・付図目次	v
表目次	vi
写真図版目次	vii
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の目的と方法	3
第3節 調査経過	6
第2章 位置と環境	10
第1節 地理的環境	10
第2節 歴史的環境	10
第3章 調査の成果	16
第1節 遺跡の概要	16
第2節 基本層序	20
第3節 遺構と遺物	21
1 第12トレンチ	21
2 第28トレンチ	27
3 第29トレンチ	45
4 第30トレンチ	62
5 第31トレンチ	110
6 表面採集	159
第4章 総括	161
付章 泉坂下遺跡第5次確認調査の出土骨	164
写真図版	
報告書抄録	

挿図・付図目次

第1図 泉坂下遺跡周辺遺跡分布図	12	第11図 第28トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	38
第2図 泉坂下遺跡遺構分布図	17	第12図 第28トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	39
第3図 第12・28トレンチ実測図	22	第13図 第28トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)	40
第4図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図	24	第14図 第29トレンチ実測図	45
第5図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)	28	第15図 第26号竪穴住居跡遺物出土状況図 (西区サブトレ内)	46
第6図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)	29	第16図 第26号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)	47
第7図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(3)	30	第17図 第26号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)	48
第8図 第27号竪穴住居跡実測図	34		
第9図 第27号竪穴住居跡出土遺物実測図	34		
第10図 第13号溝跡出土遺物実測図	36		

第18図	第28号竪穴住居跡出土遺物実測図	52	第44図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(7)	91
第19図	第29トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	53	第45図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(8)	92
第20図	第29トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	54	第46図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(9)	93
第21図	第29トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)	55	第47図	第31トレンチ実測図	111・112
第22図	第30トレンチ実測図	63・64	第48図	第33号竪穴住居跡実測図	113
第23図	第30号竪穴住居跡遺物出土状況図 (南側拡張区)	65	第49図	第33号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)	114
第24図	第30号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)	66	第50図	第33号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)	115
第25図	第30号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)	67	第51図	第33号竪穴住居跡出土遺物実測図(3)	116
第26図	第32号竪穴住居跡出土遺物実測図	70	第52図	第33号竪穴住居跡出土遺物実測図(4)	117
第27図	第37号竪穴住居跡出土遺物実測図	71	第53図	第34号竪穴住居跡出土遺物実測図	123
第28図	第29号竪穴住居跡出土遺物実測図	74	第54図	第36号竪穴住居跡出土遺物実測図	125
第29図	第31号竪穴住居跡出土遺物実測図	76	第55図	第209号土坑出土遺物実測図	126
第30図	第194号土坑出土遺物実測図	77	第56図	第210号土坑出土遺物実測図	127
第31図	第195号土坑出土遺物実測図	78	第57図	第205号土坑出土遺物実測図	128
第32図	第196号土坑出土遺物実測図	79	第58図	第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	134
第33図	第199号土坑出土遺物実測図	80	第59図	第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	135
第34図	第200号土坑出土遺物実測図	80	第60図	第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)	136
第35図	第202号土坑出土遺物実測図	82	第61図	第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(4)	137
第36図	第203号土坑出土遺物実測図	82	第62図	第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(5)	138
第37図	第204号土坑出土遺物実測図	83	第63図	第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(6)	139
第38図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	85	第64図	第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(7)	140
第39図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	86	第65図	第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(8)	141
第40図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)	87	第66図	表面採集遺物実測図	159
第41図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(4)	88	付 図	泉坂下遺跡測量図・トレンチ配置図	
第42図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(5)	89			
第43図	第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(6)	90			

表 目 次

第1表	泉坂下遺跡周辺遺跡一覧表	13	第6表	第28トレンチ確認遺構総括表	27
第2表	第5次調査確認遺構一覧表	18	第7表	第12号竪穴住居跡出土遺物観察表	30
第3表	基本土層分類及び土層解説	20	第8表	第27号竪穴住居跡出土遺物観察表	35
第4表	第12トレンチ確認遺構総括表	21	第9表	第13号溝跡出土遺物観察表	36
第5表	第12トレンチ遺構外出土遺物観察表	25	第10表	第28トレンチ遺構外出土遺物観察表	40

第11表	第29トレンチ確認遺構総括表	46	第25表	第200号土坑出土遺物観察表	81
第12表	第26号竪穴住居跡出土遺物観察表	49	第26表	第202号土坑出土遺物観察表	82
第13表	第28号竪穴住居跡出土遺物観察表	52	第27表	第203号土坑出土遺物観察表	82
第14表	第29トレンチ遺構外出土遺物観察表	56	第28表	第204号土坑出土遺物観察表	83
第15表	第30トレンチ確認遺構総括表	62	第29表	第30トレンチ遺構外出土遺物観察表	94
第16表	第30号竪穴住居跡出土遺物観察表	67	第30表	第31トレンチ確認遺構総括表	110
第17表	第32号竪穴住居跡出土遺物観察表	70	第31表	第33号竪穴住居跡出土遺物観察表	118
第18表	第37号竪穴住居跡出土遺物観察表	71	第32表	第34号竪穴住居跡出土遺物観察表	123
第19表	第29号竪穴住居跡出土遺物観察表	74	第33表	第36号竪穴住居跡出土遺物観察表	125
第20表	第31号竪穴住居跡出土遺物観察表	76	第34表	第209号土坑出土遺物観察表	126
第21表	第194号土坑出土遺物観察表	78	第35表	第210号土坑出土遺物観察表	127
第22表	第195号土坑出土遺物観察表	79	第36表	第205号土坑出土遺物観察表	129
第23表	第196号土坑出土遺物観察表	79	第37表	第31トレンチ遺構外出土遺物観察表	141
第24表	第199号土坑出土遺物観察表	80	第38表	表面採集遺物観察表	160

写真図版目次

巻頭図版1	遺跡全景(南東・北から)
巻頭図版2	30T出土人面付土器(№38)部分・復元
図版1	遺跡全景(南・北西から)
図版2	遺跡全景(西から)。遺跡全景とトレンチ配置状況(鉛直)
図版3	調査区全景(鉛直)。遺跡遠景(東から)
図版4	調査前風景, 12T・28T全景(28T東から), 12T・28T遺物出土状況(南・北から), 12T完掘状況(北から), 12T南部セクション(東から), 12T北部セクション, SK197確認状況(東から)
図版5	28T完掘状況(東から), 28Tサブトレ西部セクション・SK198確認状況(南から), 28Tサブトレ中央部セクション(南から), 28Tサブトレ東部セクション(南から), SI12・SD13確認状況(東から), SI12遺物出土状況(東から), SI12遺物出土状況近景(南・東から)
図版6	SI12・SD13セクション(南東から), SI27遺物出土状況(東・西から), SI27確認状況・床面(西から), 29T遺構確認状況(東・西から), 29T遺物出土状況(東・西から)
図版7	29T西部セクション(南から), 29T中央西セクション(南から), 29T中央部セクション(南から), 29T東部セクション(南から), SI26(奥)・28(手前)確認状況(西から), SI26西端部サブトレ内遺物出土状況(東から), SI26西端部サブトレ内遺物出土状況近景(南から), SI28確認状況(南から)
図版8	SI28確認状況及びセクション(北から), 30T遺構確認状況(東・西から), 30T上層遺物出土状況(東・西から), 30T西部下層遺物出土状況(西から), 30T人面付土器周辺遺物出土状況(南から), 30T人面付土器出土状況近景(南から)
図版9	30T桃核出土状況(北から), 30T東端部セクション, SI31(右)・32(左)確認状況(北から), SI30(奥)・37(手前)確認状況(西から), SI30(中央～右)・37(左)確認状況(南から), SI30東部, SK194確認状況(北から), SI30西部確認状況, 南側拡張区(北から), SI30・37セクション(北から), SI30拡張区遺物出土状況(西から)
図版10	SI30拡張区遺物出土状況(東・北から), SI29・SK201(手前左)確認状況(西から), SI29竈内遺物出土状況・SK203確認状況(南から), SI29竈内遺物出土状況近景(南から), SI31(中央)・32(奥), SK204(右)確認状況(西から), SK194確認状況(北から), SK195確認状況(北から)
図版11	SK195(手前左)・196(中央)・202(奥)確認状況(南から), SK199(手前)・200(奥)確認状況(南から), SK201(右)・215(左)確認状況(南から), SK203確認状況(南から), SK204確認状況(北から), SK218確認状況(南から), 31T遺構確認状況全景(東・西から)
図版12	31T遺物出土状況(東・西から), 31T西端部遺物出土状況(西から), 31T西端部セクション(東か

- ら), 31Tサブトレ西端部セクション, S I 34 (右)・35 (左) 確認状況 (南から), 31T西端部セクション (北から), 31Tサブトレセクション, S K 208・219・236 ~ 238・S D 14 確認状況 (南から), 31Tサブトレセクション, S K 207 確認状況 (南から)
- 図版13 31Tサブトレ北壁セクション及びS K 205 (中央)・206 (手前) 確認状況 (南から), 31Tサブトレ東端部セクション, S K 212・214 確認状況 (南から), S I 33 確認状況 (西から), S I 33 遺物出土状況 (西から), S I 33 遺物出土状況近景 (西から), S I 36・S K 210 確認状況 (北から), S K 212 ~ 214 確認状況 (東から), S K 211 確認状況 (南から)
- 図版14 上野小学校児童発掘体験風景, 現地説明会風景, 埋戻し前山砂散布状況 (30T・31T), 調査終了状況 (東・北東から)
- 図版15 12T遺構外出土遺物
- 図版16 S I 12 出土遺物 (1)
- 図版17 S I 12 出土遺物 (2)
- 図版18 S I 27 出土遺物, S D 13 出土遺物, 28T 遺構外出土遺物 (1)
- 図版19 28T 遺構外出土遺物 (2)
- 図版20 28T 遺構外出土遺物 (3)
- 図版21 S I 26 出土遺物 (1)
- 図版22 S I 26 出土遺物 (2), S I 28 出土遺物, 29T 遺構外出土遺物 (1)
- 図版23 29T 遺構外出土遺物 (2)
- 図版24 29T 遺構外出土遺物 (3)
- 図版25 29T 遺構外出土遺物 (4), S I 30 出土遺物 (1)
- 図版26 S I 30 出土遺物 (2), S I 32 出土遺物, S I 37 出土遺物 (1)
- 図版27 S I 37 出土遺物 (2), S I 29 出土遺物, S I 31 出土遺物 (1)
- 図版28 S I 31 出土遺物 (2), S K 194 出土遺物, S K 195 出土遺物, S K 196 出土遺物, S K 199 出土遺物, S K 200 出土遺物, S K 202 出土遺物, S K 203 出土遺物, S K 204 出土遺物, 30T 遺構外出土遺物 (1)
- 図版29 30T 遺構外出土遺物 (2)
- 図版30 30T 遺構外出土遺物 (3)
- 図版31 30T 遺構外出土遺物 (4)
- 図版32 30T 遺構外出土遺物 (5)
- 図版33 30T 遺構外出土遺物 (6)
- 図版34 30T 遺構外出土遺物 (7)
- 図版35 30T 遺構外出土遺物 (8)
- 図版36 30T 遺構外出土遺物 (9)
- 図版37 30T 遺構外出土遺物 (10)
- 図版38 30T 遺構外出土遺物 (11), S I 33 出土遺物 (1)
- 図版39 S I 33 出土遺物 (2)
- 図版40 S I 33 出土遺物 (3)
- 図版41 S I 33 出土遺物 (4)
- 図版42 S I 33 出土遺物 (5), S I 34 出土遺物, S I 36 出土遺物, S K 209 出土遺物 (1)
- 図版43 S K 209 出土遺物 (2), S K 210 出土遺物, S K 205 出土遺物, 31T 遺構外出土遺物 (1)
- 図版44 31T 遺構外出土遺物 (2)
- 図版45 31T 遺構外出土遺物 (3)
- 図版46 31T 遺構外出土遺物 (4)
- 図版47 31T 遺構外出土遺物 (5)
- 図版48 31T 遺構外出土遺物 (6)
- 図版49 31T 遺構外出土遺物 (7)
- 図版50 31T 遺構外出土遺物 (8)
- 図版51 31T 遺構外出土遺物 (9)
- 図版52 31T 遺構外出土遺物 (10), 表面採集遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

泉坂下遺跡は、当時の地権者菊池榮一氏（故人）の自宅敷地であったが、菊池氏が転居後水田にするため整地して出土した遺物を、当時の大宮町歴史民俗資料館と同町立上野小学校に寄贈したことから、一部に知られていた。寄贈されていた遺物は、石棒破片及び未成品7点、弥生土器2点である。うち壺形土器1点は、平成7（1995）年、大宮町歴史民俗資料館特別展「大宮の考古遺物」で展示され、図録（大宮町歴史民俗資料館編『大宮の考古遺物』大宮町教育委員会、平成7年）にも記載されたことから広く知られ、再葬墓遺跡の可能性のある遺跡として注目されるようになっていた。

これに着目した鈴木素行氏が、平成18（2006）年1月から2月にかけて、石棒製作遺跡の実態解明を目的として学術調査を実施した。ところが、調査当初から再葬墓遺構が良好な遺存状態で確認されるに及び、調査の目的が再葬墓の実態解明に変更となった。再葬墓が稀少な遺構である上に調査初日から人面付壺形土器が出土し、調査目的の変更は自然な動きであった。

その後、調査で得られた資料は慎重に整理され、詳細な考察とともに調査報告書『泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—』（鈴木素行編集・発行、平成23（2011）年8月25日）にまとめられた。なお、同報告書は、同年8月31日、鈴木氏の好意により実質同内容で「茨城県常陸大宮市泉坂下遺跡」として当市教育委員会から発行されている。また、調査で出土した遺物は、平成21（2009）年11月末日に鈴木氏から常陸大宮市に移管されている。当市はこれら資料の文化財としての重要性に鑑み、歴史民俗資料館で平成21年度企画展「再葬墓と人面付土器のふしぎ」（期間：平成21年12月15日～平成22（2010）年2月7日）を開催し、研究者や一般の注目を集めた。併せて開催されたシンポジウム（平成22年1月31日）は市外からも多くの参加者を得、関心の高さを裏付けたものであった。

これらの再葬墓出土物については、平成22年3月31日付で市指定文化財に指定され、さらには平成26（2014）年1月27日付で県指定文化財に指定されている。

また、遺跡の重要性も極めて高いことから、当市としては保存・整備の上、活用することとし、そのために常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会を組織して、その指導のもとに調査・保存・整備・活用をすることとした。以降、保存委員会では測量・確認調査についての検討・指導、整備の基本理念・基本計画等の具体的な検討を進めた。そこで、今後保存・整備・活用を円滑に進めるためには国史跡指定を得ることが肝要との考えから、その基礎資料を得ることを目的とした確認調査を、当初は3か年計画で実施することを立案した。

そして、平成24（2012）年10月から11月にかけて第1次、平成25（2013）年9月から11月にかけて第2次の確認調査を実施し、再葬墓遺構の分布範囲の確認や原地形の確認といった成果が挙げられた。これらについては『泉坂下遺跡Ⅱ 保存整備事業に伴う第1次確認調査報告』（茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第16集、平成25年7月31日、常陸大宮市教育委員会編集・発行）及び『泉坂下遺跡Ⅲ 保存整備事業に伴う第2次確認調査報告』（茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第21集、平成26年7月31日、同）にそれぞれまとめられている。しかし、ここまでの調査を終えた時点で、3か年では十分な確認調査は困難であるとして、3か年だった計画を

4か年へと変更することとした。

平成26年9月から12月にかけて実施した第3次調査では、再葬墓密集域を面的に広げて調査し、分布範囲を概ね把握できた。しかし、第10トレンチ1・2区で新たな再葬墓が確認されて、再葬墓が2群をなすことが判明し、新たな再葬墓群の範囲把握が最重要課題として浮上した。また、第9号溝跡についても、平安時代の竪穴住居跡との重複関係を捉えることが課題として残った。この結果については、『泉坂下遺跡Ⅳ 保存整備事業に伴う第3次確認調査報告』（茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第23集、平成27（2015）年7月31日、常陸大宮市教育委員会編集・発行）にまとめられている。

また、この第3次調査の現地調査期間に合わせて、様々な取り組みが行なわれた。10月2日、泉坂下遺跡を会場に、文化財写真技術研修会主催の文化財写真技術ミニ講習会 in いばらきが開催され、8名が参加した。さらに、市歴史民俗資料館では10月14日から11月24日にかけて、平成26年度企画展「Mission!!東日本の弥生時代を解明せよ！—ここまでわかった泉坂下遺跡—」を開催し、第2次調査までの成果を発表するとともに、11月9日には、午前10時から泉坂下遺跡で現地説明会を開催し、104名の参加があった。午後には市文化センターで泉坂下遺跡シンポジウムを開催し、参加者230名を集めた。

平成27年5月には、第4次調査に先駆けて、泉坂下遺跡の一部に地中レーダー探査を実施した。これは、第9号溝跡の検証を主目的とするもので、できるだけ遺跡の保存に配慮した調査方法を探っていく必要があると考えたため実施されたものである。これまでの調査結果やこの地中レーダー探査結果を踏まえて、第4次調査を平成27年9月1日から10月29日にかけて実施した。その成果は、平成18年の学術調査から第3次確認調査までの成果と合わせて『泉坂下遺跡Ⅴ 一人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群— 保存整備事業に伴う第4次確認調査報告及び総括報告』（茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第26集、平成28（2016）年12月1日、常陸大宮市教育委員会編集・発行）にまとめ、刊行した。

これを資料として国に史跡指定を申請したところ、平成29（2017）年6月16日、史跡指定が相当との文化審議会答申が出され、同年10月13日には文化庁長官から史跡指定がなされた。これに前後して、弥生時代再葬墓関係資料61点が国重要文化財の指定を受けた。3月10日文化審議会答申、9月15日正式指定である。

ダブル指定を記念して、平成29年12月2日には式典と祝賀会を、2日から翌3日にかけてシンポジウムを開催した。式典には文化庁福宜田佳男主任文化財調査官の御来臨を仰ぎ、遺跡の保存・整備・活用について御講演をいただいた。シンポジウムは「なんだっぺ？泉坂下～再葬墓研究最前線～」と題し、再葬墓の第一線の研究者にお集まりいただいて開催した。これに関連して、同タイトルで講演要旨・資料集を刊行した（常陸大宮市教育委員会編集・発行2017『シンポジウム「なんだっぺ？泉坂下～再葬墓研究最前線～」講演要旨・資料集』）。再葬墓研究の現状と課題を明らかにし今後の研究に資することを目的としたが、充実したシンポジウムとなった。なお、その後、このシンポジウムの成果をもとに再構成された『泉坂下遺跡と再葬墓研究の最前線』が雄山閣から『季刊考古学』別冊29として刊行され（石川日出志編、2019）、全国にアピールした。

こうして泉坂下遺跡は国史跡指定を受け、その出土遺物は国重要文化財の指定を受けて、記念行事も済んだが、次の課題は遺跡の整備・活用であった。4次にわたる確認調査を行ってきたが、もっとも不足しているのが縄文時代の情報であるというのが、第4次調査の段階ですでに保存委員会や市教育委員会の共通の認識となっていた。それまでも縄文時代のデータを得るべく調

査を実施してきており、特に遺跡北西部において縄文時代晩期の遺構が分布していることが判明したものの、調査密度は低く、この具体的な様相を明らかにする必要が痛感されたのである。そのため、さらに1次、必要に応じて2次にわたる確認調査を実施することとした。結局1次ではやはり不十分との判断になり2次の調査を実施することとなった。これが第5次と第6次の確認調査の趣旨で、平成30年度には第5次、令和元年度には第6次の確認調査を実施した。

その間、平成31(2019)年4月1日には、調査指導が中心であった泉坂下遺跡保存委員会を拡充し、教育関係者・周辺住民代表等を含めた泉坂下遺跡保存活用整備検討委員会に改組した。重点を整備・活用に移す体制整備であった。

第2節 調査の目的と方法

調査の目的は上記したとおり、「泉坂下遺跡整備の基本理念」(一部抜粋して下掲)に則り、将来の保存・活用のための基礎資料を得ることである。

第5次調査の主目的は、調査要項にあたる「国指定史跡 泉坂下遺跡第5次調査について」(平成30年7月2日、下掲)のとおり、縄文時代晩期の集落の具体相を把握することである。縄文時代から弥生時代への転換期における再葬墓は当時の社会を物語る重要な遺構であり、再葬墓直前の集落の在り方は再葬墓と切り離しては考えられないし、再葬墓が営まれる直前段階の様相に関する情報は、再葬墓遺跡としての泉坂下遺跡の整備・活用には必要不可欠であると判断されていた。しかし、これまでの調査では縄文時代晩期の遺構は一部を除き面的な確認にとどまり、遺構内の発掘をした場合もトレンチでの限定的なものであった。これは、従来の調査方針に従ったものではあったが、今後の整備・活用を見据えたとき、やはり遺跡の全体像を把握するには不十分であるという認識に至ったのであった。そこで、平成30年度に第5次、令和元年度に第6次の確認調査を実施することとしたのは前述のとおりである。

第5次調査では、具体的には①トレンチの配置がやや希薄であった。遺跡北西部の第12トレンチと第13トレンチの間にトレンチを設置して遺構・遺物の分布を確認すること、②これまで範囲の確認だけであった第12号竪穴住居跡とトレンチ内のみ遺構内を掘り込んで調査した第26号竪穴住居跡の規模や遺物の出土状況を確認することとした。基本的には掘り込みを行わず、サブトレンチ等の調査で対応することとしたのは従来と同様である。

トレンチの掘削は、下層に存在する遺構を保護するため、全て人力で行なうこととした。また埋め戻しの際も同様に人力で行なった。

なお、調査区域は主に陸田であり、調査した遺構が耕作により破壊されることが危惧されることから、遺構保護のため、これまでに引き続いて調査区域の借上げを行なうこととした。これによって耕作による遺構破壊の危惧がなくなることから、トレンチ幅は2mを基本とすることとした。

調査は常陸大宮市教育委員会が主体となって実施し、保存委員会が指導する体制を採ることとした。また状況によって茨城県文化課、文化庁にも指導を仰いだ。

調査区割については、平成18年調査の際のトレンチを基本とするグリッドによることとしたため、南北軸がN-23°-Wの傾きを見せるが、これは調査地の地形に合わせたものとなっている。

無論今後には生かせるよう、世界測地系(新・平面直角座標系)に反映できるようにした。

「泉坂下遺跡整備の基本理念（抜粋）」

1 当市の教育政策と泉坂下遺跡

（前略）泉坂下遺跡とその出土遺物は、当市の多くの優れた文化財の中でも、とりわけ大きな重要性を持つものであり、「郷土の誇れるもの」の中でも白眉といえる。泉坂下遺跡とその出土遺物の保存・活用は、当市の教育と教育政策の中核をなすべきものである。当市としては、泉坂下遺跡とその出土遺物を後世に向けて万全な保存をし、十分に活用していかなくてはならない。

（後略）

2 泉坂下遺跡の基本的性格と構造

（中略）当市域の再葬墓の遺跡としては、当遺跡のほか小野天神前遺跡、中台遺跡が知られており、また周辺では那珂市域に海後遺跡なども所在する。当市域及び周辺は再葬墓の遺跡が密な分布を示す地域であり、再葬墓を有する文化が大きく展開している地域といえる。

当遺跡は、そうした時期と地域の中で営まれた再葬墓群に強く特色づけられる。その上、一次葬の土壇墓群を伴っており、当時の墓制の実相を示唆している。ただ、再葬墓群や関連する遺構の範囲については、平成18年の調査が部分的なものであり、現在のところ不明である。また、生活の拠点としての集落遺跡や生業の場としての水田等の遺跡の所在も不明である。

（中略）当遺跡は再葬墓の遺跡として、縄文時代から弥生時代への転換期における当地域の文化の様相を象徴的に示している可能性がある。一方で遺跡の範囲や年代、性格等は不明の部分が多く、遺跡の全体像は捉えられていない。（中略）今後、調査を実施して明らかにしていく必要がある。

3 泉坂下遺跡の重要性

（中略）きわめて遺存状況がよいことである。再葬墓遺跡が少ない上に多くは遺存状況が悪く、調査研究に支障を来しており、遺存状況が良好な当遺跡の今後の調査によっては、弥生時代墓制の解明、ひいては弥生時代の社会や文化の解明が大きく進展する可能性がある。さらに言えば、前回調査で出土したような遺構・遺物が周辺に埋没している可能性があり、そうした状況が明らかになれば弥生時代の解明に計り知れない意義がある。当遺跡の持つ学術上の、また教育上の意義がさらに増大する可能性があるのである。

4 国史跡指定と整備の基本理念

以上に述べた重要性に鑑み、今後さらに遺跡の性格等の把握に努め、当市として保存・整備・活用を推進していく。これを適切かつ円滑に推進するためにも、国史跡指定を受け、国の史跡として整備することを目指す。（中略）

泉坂下遺跡は、耕作等による遺構の破壊が軽微であり、保存状況がきわめて良好である。当遺跡を特色づける再葬墓群の他に縄文晩期・奈良・平安時代の遺構も存在し、各時代の土地利用がそのまま保たれている可能性がある。しかし表土層が薄く、従って深耕の影響をうけやすく、このまま放置しておけば湮滅の恐れもある。当遺跡全体をできるだけ現状のまま保存することを念頭に整備を進める。また、周辺には歴史的環境が自然景観を含めて良く残されている。

台地上には前小屋城跡があり、一帯には縄文時代以来の自然景観が広く保たれている。これらが一体となってこの地域の歴史的環境を形成しているのである。こうした歴史的環境をできるだけ保全しつつ整備を進める。（以下略）

「国指定史跡 泉坂下遺跡第5次調査について（抜粋）」

1 調査の目的・内容

保存活用計画及び整備基本計画を作成していくにあたり、再葬墓遺跡の形成に縄文時代晩期の集落がどのように係わり、景観を形成していったのか、再葬墓遺構の外から発見される同時代の土器がどのような意味を持つのかを調べるため、確認調査を行なう。

2 調査対象区域

- (1) 調査範囲 常陸大宮市泉字坂下896番地ほか5筆
 (2) 調査対象面積 1,500㎡（うち320㎡を調査予定）

3 日程・工程

- (1) 全体計画 平成30年度発掘、平成31年度発掘調査報告書発行予定。ただし調査に不足が生じた場合は、次年度も発掘を行なう。
 (2) 調査期間 平成30年9月1日～（土日祝日を除く）

4 調査体制

- (1) 調査主体 常陸大宮市教育委員会
 (2) 指導体制 保存委員会による指導（期間中、日時未定。その他随時）
 文化庁・県文化課の指導（期間中、日時未定）
 (3) 調査体制 調査員：市教育委員会 中林香澄主幹、萩野谷悟嘱託職員
 作業員：5名程度

*一部区域については、明治大学が考古学実習を実施。日時未定。

5 調査方法

- (1) 掘り込み 再葬墓集中区域の西側に調査区を設定し、第12トレンチと第13トレンチの間に新たなトレンチを設定し、遺構・遺物の分布を確認する。また、第12号住居跡と第26号住居跡の規模や遺物の出土状況を確認する。ただしトレンチ設定場所は保存委員会の協議により、調査予定範囲内での変更の可能性がある。原則として確認面でとどめ、掘り込みは行なわない。判断が困難な場合のみ保存委員会と協議の上、サブトレンチ及びグリッドを設置し、確認を行なう。
 (2) 人力による掘削
 (3) 遺物の取り扱い 遺物は、原則、取り上げる。史跡の保存・活用の観点から現状保存が必要と判断されたら、現状保存する。

(4) 記録

- ①実測 縮尺：遺構は原則1/20、必要に応じ1/10等も。
 原地形は1/100でコンター測量。
 調査用方眼により実施。世界測地系（新・平面直角座標系）に変換可能とする。
 ②写真撮影 デジタルカメラ
 ③空中写真 業務委託。ラジコンヘリ等を使用。デジタルカメラ

- (5) 埋め戻し 人力により実施

6 報告書の作成

- (1) 刊行計画 平成30年度で調査が終了した場合は平成31年度に刊行。次年度に持ち越した場合は、調査2回分を合わせて平成32年度に刊行。

(以下略。なお、項目は一部整理した)

第3節 調査経過

調査期間は、平成30年9月1日から10月末日までとした。8月31日に器材の搬入等、調査準備を行ない、9月3日に掘削(第1層除去)を開始し、予定より遅れて11月22日に現地での調査を終了した。整理作業は11月26日から開始したが、令和元年度に第6次調査を行なったことから、その期間は中断した。その後は第6次調査の整理作業と並行しての作業となり、当初2次分を合わせた報告書を作成することになっていたが、諸般の事情から別個に作成することになり、さらに第6次調査の報告書を先行して刊行することになったこともあって、計画より大幅に遅れる結果となった。令和4年11月30日に報告書刊行をもって終了した。

以下、現地での調査について、調査日誌から抄録する。

【調査日誌抄録】

- 9月3日(月) 小雨。トレンチを3本設定。第2次調査の調査区、第12トレンチ(以下「12トレ」)。ほかも同様。それぞれの詳細は各項を参照されたい)の南側を2m南に拡張して旧の12トレ南端部5m分と合わせて調査することとし、これはそのまま「12トレ」と呼ぶことにした。次に12トレと直交するトレンチを設定した。12トレから西1mまでと東2mまでのトレンチである。これらは第2次調査で確認した第12号住居跡の規模を確認するためのトレンチで、28トレと称した。3本目は27トレに直交するトレンチで、29トレと称した。第4次調査で27トレにおいて確認した第26号住居跡の東西の規模を確認する目的で設定したものである。12トレの埋土除去(再発掘)と南側拡張区のI層、28トレ東区のI層を掘削し、I B層を途中まで掘削。
- 9月4日(火) 雨。現地作業中止。旧大場小学校(整理作業場)で遺物水洗。
- 9月5日(水) 晴。12トレ埋土除去完了。南側拡張区I B層掘削完了。晩期土器片多数出土。28トレ東区I B層掘削完了。西区I層掘削完了、I B層掘削開始。晩期の大型破片が多く出土。
- 9月6日(木) 晴。12トレ南側拡張区II層掘削。28トレ東区II層掘削。遺物出土少量。西区I B層掘削。大型打製石斧出土。12トレで確認されている第9・10号住居跡の規模等の確認のため、第9・10号住居跡に掛けて12トレに直交するように(東西に)30トレを、同様に第11号住居跡の規模等の確認のため、第11号住居跡に掛けて12トレに直交するように(東西に)31トレを設定。II層以下については遺構内の可能性のある土壌は採取することとした。その際、小グリッド内を1m四方に分け、北西→北東→南西→南東の順にア・イ・ウ・エとして小グリッド名の後に付すことにした。
- 9月7日(金) 曇。12トレ南側拡張区II層を確認面まで掘削完了。遺物・礫確認。遺構か後日精査の必要。28トレ東区II層を遺構確認面まで掘削完了。条線土器が目立つが、土師器も混じるため古代の遺構の可能性が考えられる。西区I B層掘削は完了。
- 9月10日(月) 曇時々雨。28トレ西区II層掘り下げ。縄土器の大型破片など遺物集中。緑色の小玉片出土。ヒスイカ。29トレ表土除去完了、I B層掘り下げ開始。菊池芳文氏来跡。12トレ南拡張区で出土している変わった形の砂岩礫について「タマネギ状剥離」との御教示を受ける。
- 9月11日(火) 曇のち晴。昨日から今朝の前線通過に伴う雨により、昨日までと打って変わって涼しくなる。午後は北風で寒いほどであった。12トレ・28トレ西区II層掘り込み完了。S I 12のプランを確認しようとするが、遺物を取り上げてから改めて確認することとし、出土

- 状況写真撮影，遺物取り上げ。29トレ I B層掘り下げ。
- 9月12日(水) 曇時々晴。12トレ・28トレで S I 12のプラン確認作業をするが，明確なプランを捉えることはできなかった。S I 12周辺で縄文晩期土器片が集中して出土。28トレ東区で弥生土器片出土。
- 9月13日(木) 晴のち曇。S I 12の確認作業難航。28トレは東側に3m延長し，表土・I B層の掘り下げ完了。S I 26のプラン確認のため東西に29トレを設定し，西側から掘り下げ。焼土が混じる。竈か。
- 9月14日(金) 曇のち雨。28トレ東拡張区 I B層掘り下げ完了。II層を掘り下げ。竈材と焼土・管状土錘が出土し，床面と思しき硬化面も確認された。住居跡としたが，プランは確認できなかった。29トレは西側から I B層を掘り下げる。竈跡確認。雨のため，一時作業中断。
- 9月18日(火) 曇時々雨。28トレ東区拡張区の住居跡の精査。29トレ I B層掘り下げ。焼土塊を確認。住居跡と見てプラン確認作業。
- 9月19日(水) 晴。28トレでは S I 27のプラン確認作業。プランは確認できず，結局床の硬化面を図化。S I 12の遺物取り上げ。29トレ II層を10cm掘り下げ住居跡のプラン確認。30トレ表土除去開始。茨城ビデオバック来跡，ビデオ撮影。
- 9月20日(木) 曇のち雨。28トレでは S I 27写真撮影。S I 12のプラン確認，写真撮影。29トレの竈を持つ住居跡のプラン確認。
- 9月21日(金) 雨のち曇。現場作業中止。歴史民俗資料館にて遺物水洗。
- 9月25日(火) 雨のち曇。29トレ II層掘り下げ。東部で縄文晩期の遺物出土が多い。S I 26の遺構内の可能性。午後から雨が強まり，現場中止し，遺物水洗。
- 9月26日(水) 曇。29トレ II層と27トレとの交差部分の埋土掘り下げ。30トレ表土除去。泉坂下遺跡保存委員会委員，委員会に出席した文化庁文化財部美術学芸課原田昌幸主任文化財調査官，県教育庁文化課齋藤和浩文化財保護主事視察（市教委文化スポーツ課石井同行）。
- 9月27日(木) 雨。現場作業中止。歴史民俗資料館にて遺物水洗。
- 9月28日(金) 晴。29トレ遺物出土状況写真撮影，遺物取り上げ。S I 26と竈を持つ住居跡のプランがおぼろげながら見えてくる。30トレ表土除去完了，I B層掘り下げ開始。遺物出土多量。特に D 5 b0区で縄文土器集中出土。
- 10月1日(月) 晴。前日深夜に台風24号通過。豪雨によりトレンチが冠水。30トレの水を汲み出して I B層掘り下げ。28トレ・29トレは手付かず。
- 10月2日(火) 晴。12トレ・28トレ水が汲み出し。29トレ水が引いたため泥を除去し，プラン確認。S I 28は攪乱が多く確認作業難航。30トレ I B層掘り下げは完了。
- 10月3日(水) 晴。12トレ・28トレ北壁際にサブトレを設置し，掘り込み開始。S I 12内の土壌は水洗選別のため採取。29トレで S I 28のプラン確認。30トレ I B層掘り下げ完了。遺物出土状況写真撮影。D 5 b0区で人面付土器の人面部や同一個体と思われる破片が多数出土。プランは未確定。
- 10月4日(木) 曇。28トレサブトレ掘削。29トレ遺構確認，写真撮影，実測。30トレ人面付土器出土地点付近の遺物出土状況写真撮影・実測。31トレ表土除去。茨城ビデオバック来跡，撮影。午前中，村田小学校児童27名・引率教員3名，午後，上野小学校児童32名・引率教員3名それぞれ見学及び31トレで発掘体験。茨城新聞社，上野小学校の見学を取材。
- 10月5日(金) 曇。28トレサブトレ掘削完了。30トレ遺物取り上げ完了。31トレ表土掘削。

- 10月9日(火) 晴時々曇。30トレⅡ層掘り下げ。D5e0区で焼土と硬化面を検出。土師器片も多く出土することから平安時代の竪穴住居跡の可能性が高い。31トレ表土除去完了。空撮準備。
- 10月10日(水) 晴。30トレⅡ層掘り下げ。D5f0区で、D5e0区の硬化面に連続する焼土と土師器大型破片の集中を確認。12トレ・28トレサブトレのセクション検討。併せてS I 27のプラン確定。
- 10月11日(木) 曇時々雨。12トレ西壁に沿ってサブトレ設定。30トレⅡ層掘り下げ1回目完了。31トレⅠB層掘り下げ開始。第2次調査の際に引いたS I 9・10のプランが残る。
- 10月12日(金) 雨のち曇。12トレサブトレ掘削開始。S I 12内は土壤サンプル採取。31トレⅠB層掘削。明日の現地説明会のため掃除。
- 10月13日(土) 曇。午前10時から11時まで現地説明会。参加者53名。午後から作業。12トレサブトレ掘削。30トレ東部の精査。中・近世の土坑が多い。31トレⅠB層掘削。
- 10月15日(月) 曇。12トレサブトレ掘削。ローム面まで。30トレプラン確認、明日の写真撮影の準備。31トレⅠB層掘削。東部はⅠB層が厚く、Ⅱ層が確認できない。
- 10月16日(火) 曇。12トレサブトレのセクション検討。底面はロームを明確には掘り込んでいないので慎重な検討が必要だが、第2次調査の際の平面プランに適合か。30トレ遺物出土状況写真撮影、遺物取り上げ。31トレ遺物出土状況写真撮影、サブトレ設置・掘削。
- 10月17日(水) 曇時々晴。12・28トレセクション検討。30トレ遺物取り上げ。31トレサブトレ掘削。客土層が厚い。
- 10月18日(木) 晴。12・28トレ遺構プラン最終確認。30トレ遺構プラン確認。31トレサブトレ掘削ほぼ完了。客土層が厚いのは、陸田化の際に原地形の傾斜を客土で水平化したため。
- 10月19日(金) 雨のち晴。資料館にて遺物水洗。
- 10月22日(月) 晴。29トレセクション実測。30トレ縄文時代の住居跡が想定される区域にサブトレ設定・掘削。31トレ客土層除去。
- 10月23日(火) 曇時々晴。12・28トレサブトレの遺物上げ、写真撮影。29トレセクション写真撮影。30トレサブトレ掘削。31トレ引き続き客土層の除去。
- 10月24日(水) 晴。12・28トレ完掘状況写真撮影、セクション実測。30トレサブトレ掘削。
- 10月25日(木) 晴。12・28トレセクション実測完了。29トレS I 26西端の壁の立ち上がりを確認のためサブトレ掘削。30トレ人面付土器の破片を求めて一部南側に拡張。サブトレ掘削。31トレⅠ層(客土)除去。
- 10月26日(金) 晴のち曇り。29トレサブトレ掘削。遺物が多い。30トレサブトレ掘削。第2次調査でS I 11とした遺構は土層で確認できなかった。31トレⅠ層(客土)除去完了。
- 10月29日(月) 晴。29トレサブトレ掘削完了。遺物出土状況写真撮影、取り上げ。S I 26の壁の立ち上がりが明確に捉えられた。30トレサブトレ・南側拡張区掘削。31トレ遺物出土状況・全景写真撮影。
- 10月30日(火) 晴。12・28トレ埋戻し開始。29トレサブトレセクション実測、完掘状況写真撮影。S I 26プラン確定。30トレサブトレ・南側拡張区掘削。サブトレではS I 31の床の硬化面検出。31トレ遺物取り上げ。
- 10月31日(水) 晴。12・28トレ埋戻し完了。29トレサブトレセクション実測。30トレサブトレ底面でS I 30のプラン確認、写真撮影。31トレ遺物取り上げ完了。遺構確認作業。
- 11月1日(木) 晴。29トレサブトレセクション実測完了。30トレ南側拡張区遺物取り上げ。31ト

- レ遺構確認、サブトレ西側に延長。S I 9・10が確認できない。
- 11月2日(金) 晴。30トレ東部サブトレ内遺構確認。31トレ遺構確認。東部の確認面(Ⅱ層上面)でキャタピラの痕跡を検出。厚い客土層が現代のもので、この付近では原地形は東に向かって傾斜していることをはっきりと確認した。S I 9・10はサブトレでそれを横切るプランを確認。第2次調査のプランの見直しが必要となった。明治大学考古学専攻卒業生合同同期会約20名見学。
- 11月5日(月) 晴。29トレ埋戻し開始。31トレ遺構確認。S I 9・10は抹消し、新たにS I 34・35を設定。その他、中・近世の土坑・溝などを確認。
- 11月6日(火) 曇のち雨。31トレ及びS I 33遺物出土状況写真撮影。午後、資料館にて遺物水洗。
- 11月7日(水) 晴のち曇。29トレ埋戻し。30トレセクション検討。31トレ及びS I 33遺物取り上げ。
- 11月8日(木) 晴。30トレセクション実測。31トレ遺構プラン確認、写真撮影。
- 11月9日(金) 雨。現場を養生したのち、資料館にて遺物水洗。
- 11月12日(月) 曇。30トレ遺構確認状況写真撮影、実測。31トレ遺構確認状況等写真撮影。
- 11月13日(火) 曇。30・31トレ遺構確認状況及びセクション実測。
- 11月14日(水) 晴。30トレ遺物取り上げ、遺構確認状況及びセクション実測。31トレ遺構確認状況実測。
- 11月15日(木) 晴。30トレ遺物取り上げ、拡張区セクション実測。31トレセクション実測。
- 11月16日(金) 晴。30トレ図面点検。31トレセクション実測。撤収準備。
- 11月19日(月) 曇。30トレセクション土層解説、記録類点検整備。
- 11月20日(火) 晴。30トレ埋戻し。31トレセクション確認終了。
- 11月21日(水) 晴。31トレ記録類点検整備、埋戻し。一部機材撤収。
- 11月22日(木) 曇。31トレ埋戻し。機材撤収。現場作業終了。資料館にて遺物水洗。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境（第1図）

泉坂下遺跡（1＝第1表中の番号で、第1図中の位置を示す。本章において以下同じ）は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在する。

常陸大宮市は茨城県北西部に位置し、西は栃木県と境を接する。市域の多くは八溝山地の一部である鷲子山塊及びその周縁の台地または低地である。市域のほぼ東端を久慈川が南流し、南端付近を那珂川が南東に流れている。久慈川は市域南東端で支流である玉川と合流するが、当遺跡はこの合流点から北西約3kmに所在する。

当遺跡は、鷲子山塊に連続する那珂台地から東に下った久慈川右岸の低位段丘上に立地している。久慈川の現在の河道からの距離は700～800mの位置にある。河道近くには自然堤防が形成され、北側の自然堤防上には宇留野塚の集落が立地している。自然堤防との間は氾濫原（後背湿地）で、現在は水田になっている。当遺跡の立地する低位段丘は標高20mほどで、東側の水田面からの比高差は2mほどである。この低位段丘は、台地からの湧水によって切断されながら、玉川との合流点まで南東に大きく展開しており、ここには根本の集落、さらに南東に上岩瀬・下岩瀬の集落が立地している。当遺跡西側の那珂台地上とは比高差30mほどあり、その斜面には水戸藩三大江堰の一つ岩崎江堰用水路が南流し、これに伴う地形の改変が見られる。

第2節 歴史的環境（第1図、第1表）

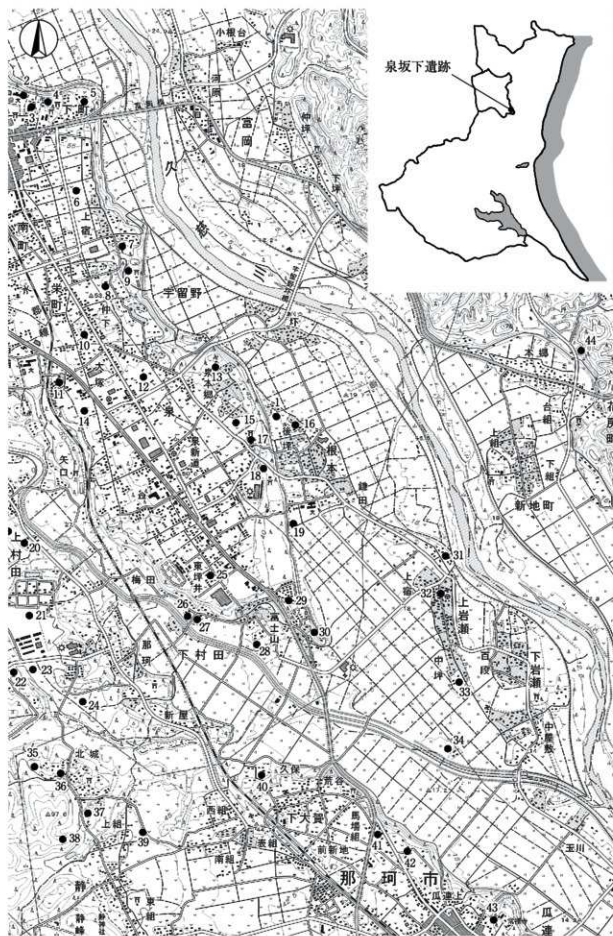
常陸大宮市で周知されている遺跡の多くは久慈川・那珂川の両水系によって形成された河岸段丘から低地にかけて分布し、山間地への分布は比較的少ない。旧石器から近世に至る多様な遺跡が所在しており、以下各時代の主な遺跡をもって概要を説明する。

まず、旧石器時代の遺跡であるが、泉坂下遺跡から北約10kmの久慈川右岸に立地する山方遺跡では、昭和39（1964）年に茨城県内初となる旧石器が発見され〔飯村他1965〕、その後昭和50（1975）年には茨城県歴史館による発掘調査がなされた〔佐藤1976〕。これらの調査で出土した石核や礫器などの石器は約30,000～28,000年前のものとして、現時点においても市内最古の遺物である。また、西約7kmの那珂川左岸段丘上に立地する赤岩遺跡では、礫群3基と石器・剥片集中地点3か所が確認されており、礫群はいずれも大型で、中でも1号礫群は礫数197点、総重量で43kgを超え、高萩市赤浜遺跡を上回る県内最大の事例となった〔高野浩他2013〕。北北西5.5kmの久慈川右岸段丘上の梶巾遺跡では、旧石器時代終末に近い時期の尖頭器が出土している〔阿久津1976〕。

縄文時代の遺跡は市内に多く所在し、調査例も比較的多い。草創期では、那珂川左岸段丘上の滝ノ上遺跡で爪形文土器が、破片1片であるが出土しており、草創期の陥し穴も確認されている〔青池他2016〕。また、近接する中崎遺跡でも陥し穴が確認されている〔平石2017、高野浩他2018〕。早期では、那珂川支流緒川右岸の岡原遺跡で中葉・田戸下層式期の竅穴住居跡が1軒確認されている〔海原他2011〕。中崎遺跡では中葉・三戸式期の住居跡が1軒確認された〔平石2017〕。前期は、徐々に集落形成が進む時期である。中崎遺跡で中葉・黒浜式期の住居跡4軒が確認された〔平石2017〕。赤岩遺跡でも黒浜式期の竅穴住居跡が1軒確認されている〔三輪2012〕。中期になると集落

形成が進む。集落数が増加するほか、集落内で確認される住居跡の軒数も急増するのである。大規模集落の中には環状集落も確認されるようになる。泉坂下遺跡から北北西約5kmの久慈川右岸段丘上には諏訪台遺跡が立地しており、前葉・阿玉台式期住居跡1軒と袋状土坑13基などが確認された〔諏訪台遺跡発掘調査会1991〕。那珂川左岸段丘上に立地する西塙遺跡では阿玉台式期の有段堅穴建物4軒・土坑378基等〔小川他2009, 辻他2009〕、赤岩遺跡・三美中道遺跡で堅穴遺構4軒、土坑125基等〔高野浩他2013, 青池他2015〕、滝ノ上遺跡で堅穴建物跡71軒・土坑687基等〔高橋他2014, 青池他2015・2016, 田中他2016〕、高ノ倉遺跡で土坑223基等〔常陸大宮市教委他2005〕が確認されるなど、那珂川左岸段丘上に大規模集落が立地していたことを示す調査事例が近年累積している。このほか特筆されるのは、久慈川と支流玉川の合流地点近くの玉川左岸段丘上に広がる坪井上遺跡(25)である。泉坂下遺跡の南方約1.2kmに位置する坪井上遺跡は、2度の調査により堅穴住居跡19軒、袋状土坑75基が確認された中期の集落跡〔千種1999〕であり、1遺跡から8個の硬玉製大珠が出土していることで特に知られている。これらは新潟県糸魚川市の姫川流域で産出されるヒスイ製であり、この集落は中期における茨城県北部地域の一大交流拠点であったと考えられている。後期になると、中崎遺跡で前葉に属する称名寺式・堀之内式期の住居跡が5軒確認されている〔平石2017〕。後期は集落の確認数が減少傾向に転じる時期である。晩期はさらに減少し、泉坂下遺跡以外では市域では小野天神前遺跡のみになる。小野天神前遺跡は那珂川左岸台地上に立地しており、後述する再葬墓の調査で住居跡が1軒確認されているだけである〔茨城県歴史館1978〕が、表採されている遺物の質・量は膨大なものがあり、晩期の拠点的大集落の可能性があり〔大宮町史編さん委1977, 横倉2011, 萩野谷2018〕。

弥生時代の遺跡としては、まず特筆すべきは中期前半の再葬墓遺跡、小野天神前遺跡であろう。昭和51(1976)年に茨城県歴史館によって学術調査され、16m四方ほどの調査区から20基の土坑が確認されて〔茨城県歴史館1978, 阿久津1979・1980〕、茨城県北部の再葬墓研究に大きく寄与した。一般に人面付壺形土器は再葬墓遺跡1遺跡から1点しか出土しないといわれているが、小野天神前遺跡では1遺跡から3点が出土している特異な事例である。これらを含む出土土器19点は茨城県有形文化財に指定され、現在茨城県立歴史館に所蔵されている。那珂川沿いの小野天神前遺跡は、今回調査された久慈川沿いの泉坂下遺跡と並び称される遺跡である。このほか市内の再葬墓遺跡としては、令和元(2019)年に調査された宿尻遺跡がある。宿尻遺跡は泉坂下遺跡から西方約12.6kmの那珂川左岸段丘斜面に立地し、再葬墓1基が調査された。大型の土坑に少なくとも15個の壺形土器が埋納されており、土坑内からは破碎された碧玉製と流紋岩製の管玉が散布されたような状態で検出されている〔鈴木他2022〕。さらに、かつて弥生中期の壺形土器がまとまって出土したという、久慈川の約8.8km上流、右岸の中台遺跡(台ノ内, 旧・山方宿遺跡)も再葬墓遺跡と考えられていた〔山方町誌編さん委1977〕が、本年の調査で再葬墓が確認された(未報告)。従って、市内には泉坂下遺跡を含め計4か所の弥生再葬墓遺跡が存在することになる。周辺市町の再葬墓にも目を向けると、那珂市海後遺跡がある。泉坂下遺跡からは11kmほど離れた、久慈川下流の右岸台地上に立地する遺跡で、昭和42(1967)年に、耕作中に人面付壺形土器が出土した〔川崎他1970〕。弥生再葬墓は東日本に広く分布するが、久慈川・那珂川流域を中心とした茨城県北部地域では特に分布密度が高い。泉坂下遺跡の再葬墓群はそのような環境の中で形成されたのである。再葬墓以外では、泉坂下遺跡の南方約1.5kmの上岩瀬富士山遺跡(29)や久慈川右岸段丘上の梶巾遺跡、那珂川支流緒川右岸の山根遺跡などで後期後半・十王台式期の集落跡が確認されている〔渡邊2006, 梶巾遺跡発掘調査会1985, 三輪他2014〕。そのほか、調査はされていないが十王台式



第1図 泉坂下遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院1:25,000地形図「常陸大宮」)

第1表 泉坂下遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	近世	番号	遺跡名	種類	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	近世	
第1区										第1区										
1	泉坂下遺跡	集落跡	○	○		○	○	○		23	堂山B遺跡	集落跡								
2	部重城跡	城館跡						○		24	堂山A遺跡	集落跡		○	○	○				
3	松吟寺遺跡	集落跡		○						25	坪井上遺跡	集落跡		○	○	○				
4	松吟寺古墳群	古墳群			○					26	念仏塚 経塚									○
5	宮中遺跡	集落跡		○		○				27	念仏塚遺跡	集落跡					○			
6	上ノ宿遺跡	集落跡			○	○	○			28	西坪井遺跡	集落跡		○	○	○				
7	上宿上坪遺跡	集落跡		○		○	○			29	上岩瀬富士山遺跡	集落跡			○	○				
8	仲下遺跡	集落跡		○		○				30	富士山古墳群	古墳群								
9	宇留野城跡	城館跡						○		31	川岸遺跡	集落跡								○
10	大塚遺跡	集落跡		○			○			32	岩瀬城跡	城館跡		○			○			
11	六丁遺跡	集落跡								33	上岩瀬中坪遺跡	集落跡			○	○				
12	駄木所遺跡	集落跡					○			34	本宮遺跡	集落跡		○	○	○				
13	前小屋館跡	城館跡					○	○		35	溜前遺跡	集落跡								
14	上高坪遺跡	集落跡		○						36	上坪遺跡	集落跡								○
15	春日神社前遺跡	集落跡				○	○			37	滝前遺跡	集落跡		○						
16	根本後坪遺跡	集落跡					○			38	城菩提城跡	城館跡								
17	根本遺跡	集落跡						○		39	新宿古墳群	古墳群					○			
18	根本古墳群	古墳群					○			40	久保遺跡	集落跡						○	○	
19	根本向井坪遺跡	集落跡				○	○	○		41	下大賀遺跡	集落跡		○	○	○				
20	北村田B遺跡	集落跡					○	○		42	十林寺古墳群	古墳群						○		
21	一騎山古墳群	古墳群					○	○		43	瓜達遺跡	集落跡		○	○	○				
22	高野A遺跡	集落跡					○			44	寺山寺院跡	寺院跡								○

の土器片が採集されている遺跡は多くあり、調査された遺跡も含めて、いずれも低地を後背地としてもっている。この時期の水田耕作は当地では具体的に立証できていないものの、水稲農耕の普及・定着を背景に集落の形成がなされたものと推測される。

古墳時代の遺跡としては、梶巾遺跡で前期から中期の集落跡〔梶巾遺跡発掘調査会1985〕、久慈川右岸低位段丘上の北原遺跡で後期の集落跡〔宮田他2014、高野恒他2016〕、玉川下流域左岸の低位段丘上の西坪井遺跡（旧・下村田遺跡）で中期から後期の集落跡〔荒井1996〕が確認されている。令和2（2020）年に調査された野口地区の内原遺跡は前期の集落跡で、S字状口縁台付甕が多く出土した〔杉原他2021〕。周辺には前期古墳は認められておらず、調査結果の分析はこれからであるが、古墳文化の波及の具体相を知るうえできわめて注目される遺跡である。古墳群は、久慈川右岸、玉川流域、緒川下流域、那珂川左岸に立地している。泉坂下遺跡の南方約1.5kmに所在する富士山古墳群（30）にある富士山4号墳は前期の前方後方墳で、茨城県内でも最も古い古墳の一つと考えられている〔村田1995〕。同じく、富士山古墳群の一段低位にある全長60mの五所神社裏古墳は前方後円墳で、その形状等から前期に属するものと考えられている〔井2015〕。中期古墳としては、五所神社裏古墳の下位の低位段丘に立地する丸山古墳がおそらく該当する〔萩野谷2020〕。また、梶巾遺跡の約1km南の久慈川右岸段丘上には、糠塚古墳群中の全長約70mの前方後円墳、糠塚古墳が所在しており、周溝底出土の土師器からやはり中期の古墳と考えられる〔萩野谷他2021〕。後期古墳としては、一騎山古墳群（21）が知られ、中でも4号墳は6世紀前半の小規模な前方後円墳で、人物・動物等の形象埴輪や円筒埴輪が出土している〔高根1974〕。このほか岩崎古墳群、鷹巣古墳群、糠塚古墳群、富士山古墳群などがあり、これら古墳は概ね久慈川右岸またはその支流玉川兩岸の段丘上に立地するが、その例外として、岩崎古墳群及び富士山古墳群の丸山古墳は、久慈川の低位段丘面に立地する。また玉川左岸には、雷神山横穴墓群と岩穴横穴墓群といった横穴墓も所在している〔大宮町歴史1995〕。

奈良・平安時代の遺跡は、時代別としては最も多く市内に所在し、調査例も多い。県内有数の

大規模集落として知られるのは、久慈川右岸の段丘上、標高55mに立地する上ノ宿遺跡（6）である。5次までの調査でこの時期の竪穴住居跡は計151軒が確認され、風字硯や耳皿2点、多数の墨書土器などが出土しており、この地域の拠点集落であったと考えられている[小川他2008・2009・2013・2014、早川他2016]。同様に久慈川右岸の低位段丘上に所在する北原遺跡では、平成25・27（2013・2015）年の調査で計108軒の竪穴住居跡が確認されている[宮田他2014、高野恒他2016]。どちらの集落も9世紀代に最盛期を迎え、10世紀に入ると衰退しているなど類似点が多く、久慈川流域の歴史の推移を検証していくうえで貴重な資料である。このほか、久慈川右岸段丘上の鷹巣遺跡は2度にわたる調査で32軒の住居跡などが確認されている。付近には鷹巣瓦窯跡があり、瓦が再利用されるなどして出土しているほか、墨書土器も多数出土している。なお、ここで生産された瓦は久慈郡衛・郡寺へ供給されていたことも判明している。緒川右岸段丘上の岡原遺跡では多文字・人面墨書土器や朱墨書土器が出土しており[湯原他2011]、那珂川左岸台地上の源氏平遺跡では底面に「土垣倉」と墨書され内側に「解」と記された漆紙文書が附着した土師器片が出土している[外山1985]。また、「丈」の烙印が出土した上村田小中遺跡[大宮町教委1988]や、茨城県指定有形文化財「丈永私印」の銅印が出土した小野中道遺跡[大宮町歴史1995]など、丈部氏関連と考えられる遺跡も確認されている。

中世の遺跡としては、久慈川右岸の部垂城跡（2）、宇留野城跡（9）、前小屋館跡（13）、その支流玉川左岸の東野城跡、那珂川左岸の長倉城跡、野口城跡、小場城跡、その支流緒川左岸の高部館跡などに代表される城館跡が市内各地に点在しており[大宮町史編さん委1977]、そのほとんどが何らかの形で佐竹氏の影響を受けたものである。とりわけ前小屋館跡は、本郭が泉坂下遺跡の北西約500m、宿は泉坂下遺跡の西約100mという至近距離に所在しており、これまでの泉坂下遺跡確認調査では、前小屋館が当遺跡に与えた影響について想起させる成果が得られている。

主要参考文献

- 青池紀子他2015『三美中道遺跡Ⅱ 滝ノ上遺跡Ⅱ』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第22集
 青池紀子他2016『滝ノ上遺跡Ⅲ』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第29集
 阿久津久1976『茨城県大宮町幌巾遺跡の調査』『考古学ジャーナル』№122、pp.10-13
 阿久津久1979『大宮町小野天神前遺跡の分析』『茨城県歴史館報』6、pp.26-54
 阿久津久1980『大宮町小野天神前遺跡の分析（2）』『茨城県歴史館報』7、pp.1-20
 荒井保雄1996『一級河川玉川改修工事地内埋蔵文化財調査報告書 下村田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告書第110集
 井博幸2015『久慈川中流域の首長墓Ⅰ（補遺）—道場塚古墳・星神社古墳・五所皇神社裏古墳—』『婆良岐考古』第37号、婆良岐考古同人会、pp.37-51
 飯村潔・井尻正二・大森昌衛・郷原保真1965『茨城県山方遺跡から発見された石器について（予報）』『地球科学』第80号、pp.12-15
 井上義安1979『富士山遺跡調査報告書Ⅰ』大宮町教育委員会・茨城県労働者住宅生活協同組合（井上は、同年、一部補足して『茨城県富士山遺跡Ⅰ』として刊行している。）
 茨城県教育庁文化課（編）2001『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会
 茨城県歴史館（編集・発行）1978『茨城県大宮町小野天神前遺跡（資料編）』（学術調査報告書1）
 茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会（編）1979『茨城県史料』考古資料編先土器・縄文時代、茨城県大宮町史編さん委員会（編）1977『大宮町史』大宮町役場
 大宮町教育委員会（編集・発行）1988『上村田小中遺跡』
 大宮町歴史民俗資料館（編）1995『大宮の考古遺物』大宮町教育委員会

- 小川和博・大河淳志2008「上ノ宿遺跡発掘調査報告書」常陸大宮市教育委員会
- 小川和博・大河淳志・遠藤啓子2009「上ノ宿遺跡発掘調査報告書 第2次調査Ⅰ・Ⅱ」常陸大宮市教育委員会
- 小川和博・大河淳志2009「西堀遺跡発掘調査報告書」常陸大宮市教育委員会
- 小川和博他2013「上ノ宿遺跡Ⅲ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 小川和博他2014「上ノ宿遺跡Ⅳ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 梶巾遺跡発掘調査会(編)1985『茨城県梶巾遺跡』大宮町教育委員会
- 川崎純徳・川上博義・滝田宏1970「茨城県海後遺跡出土の人面土器」『常総台地』5, 常総台地研究会, pp.20-22
- 後藤俊一他2013「泉坂下遺跡Ⅱ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第16集
- 後藤俊一他2014「泉坂下遺跡Ⅲ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第21集
- 後藤俊一他2015「泉坂下遺跡Ⅳ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第23集
- 後藤俊一他2016「泉坂下遺跡Ⅴ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第26集
- 佐藤達夫1976「茨城県山方遺跡調査略報」『茨城県史研究』34, 茨城県史編さん委員会, pp.55-69
- 杉原宗久他2021「内原遺跡」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第36集
- 鈴木素行(編)2011「泉坂下遺跡の研究」私家版(同年, 常陸大宮市教育委員会から実質同内容で「茨城県常陸大宮市泉坂下遺跡」として刊行されている。)
- 鈴木素行他2022「宿尻遺跡」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第37集
- 諏訪台遺跡発掘調査会(編集・発行)1991「諏訪台遺跡」
- 高根信和(編)1974「常陸一騎山」大宮町教育委員会
- 高野恒一他2016「北原遺跡Ⅱ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 高野浩之他2013「赤岩遺跡Ⅱ・三美中道遺跡Ⅰ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 高野浩之他2018「中崎遺跡Ⅱ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第32集
- 高橋清文他2014「滝ノ上遺跡Ⅰ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第19集
- 田中浩江他2016「滝ノ上遺跡Ⅳ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第30集
- 千種重樹1999「坪井上遺跡」坪井上遺跡発掘調査会・大宮町教育委員会
- 辻弘和・原川雄二2009「西堀遺跡発掘調査報告書」常陸大宮市教育委員会
- 外山泰久1985「常陸瀧氏平」水戸北部中核工業団地内埋蔵文化財発掘調査会
- 萩野谷悟2018「渡邊明氏採集の常陸大宮市内考古資料(予報)」『常陸大宮市史研究』第1号, 常陸大宮市教育委員会, pp.76(1)-67(10)
- 萩野谷悟2020「常陸大宮市域の古墳群」『続 常陸の古墳群』明治大学文学部考古学研究室, pp.33-55
- 萩野谷悟・小澤重雄・稲田健一2021「常陸大宮市鎌塚古墳の墳形確認調査」『第43回茨城県考古学協会研究発表会資料』pp.7-12
- 早川麗司他2016「上ノ宿遺跡Ⅴ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第27集
常陸大宮市教育委員会(編集・発行)2015「茨城県常陸大宮市埋蔵文化財分布地図」
- 常陸大宮市教育委員会・日考研茨城(編)2005「高ノ倉遺跡発掘調査報告書」常陸大宮市教育委員会
- 平石尚和2017「中崎遺跡Ⅰ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第31集
- 宮田和男他2014「北原遺跡Ⅰ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第18集
- 三輪孝幸他2012「赤岩遺跡Ⅰ」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第11集
- 三輪孝幸他2014「山根遺跡」茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 村田健二1995「富士山古墳群」『大宮の考古遺物』大宮町教育委員会, pp.54-57
- 山方町誌編さん委員会(編)1977「山方町誌」上巻, 山方町文化財保存研究会
- 湯原勝美他2011「岡原遺跡」常陸大宮市教育委員会
- 横倉要次2011「常陸大宮市小野天神前遺跡採集の縄文土器と大型石棒」『婆良岐考古』第33号, 婆良岐考古同人会, pp.8-13
- 渡邊浩実2006「上岩瀬富士山遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第260集

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要（第2図、付図、第2表）

泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在し、久慈川右岸の低位段丘上に立地している。標高20～21mで、東側の水田面からの比高は2mほどであり、現況は水田（陸田）、宅地、原野である。遺跡の面積は7,697㎡である。

平成18年に鈴木素行氏によって調査され、弥生時代初頭の再葬墓遺跡であることが確認され、また人面付壺形土器等が出土した。常陸大宮市教育委員会が実施した、再葬墓の分布を確認することを主眼とした第1～4次確認調査では、平成18年調査のトレンチを第1トレンチとして調査区の中心に据え、これを南北に延長し、また東西に直交する形でトレンチを設定し、状況に応じてこれらを補足するトレンチを入れる方針をとった。トレンチ番号は基本的に時計回りで、設定した順に振っている。第4次確認調査までに第27トレンチまで設定して調査を行っており、一部トレンチ間についてはB～D地区として再葬墓の分布を面的に把握する調査を行なっている。調査面積は延べ1,059.75㎡である。

第4次確認調査までに確認された遺構は、『泉坂下遺跡V』（後藤俊一他2016、茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第26集。以下、「報告書V」と略記）によれば、竪穴住居跡26軒（縄文時代5軒、平安時代21軒）、掘立柱建物跡5棟（平安時代1棟、中世3棟、近世1棟）、土坑180基（縄文時代4基、弥生時代46基＝性格不明遺構としていたSX1を含む、平安時代5基、中世14基、近世1基、時期不明110基）、溝跡11条（弥生時代1条、中世6条、時期不明4条）、井戸跡1基（中世）、性格不明遺構4基（時期不明）であった（報告書V、pp.166-169）。

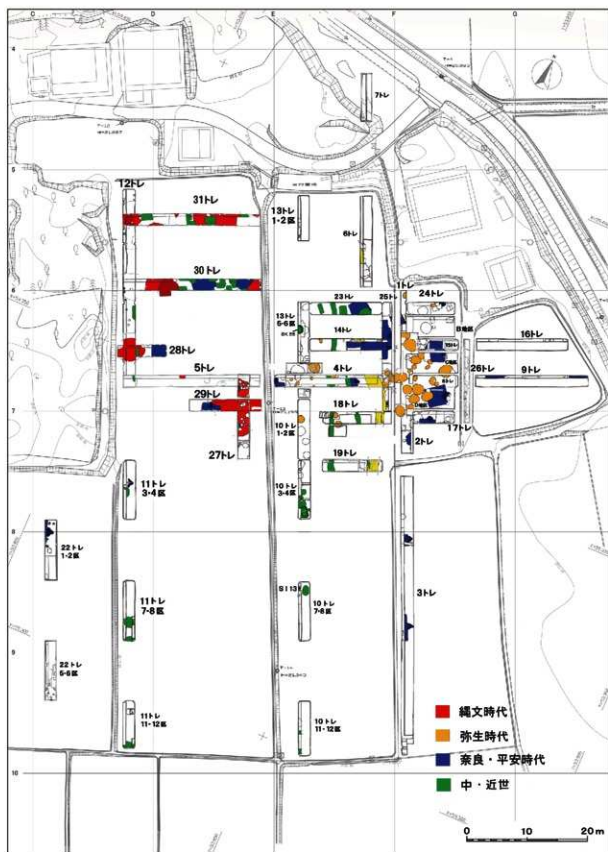
このうち再葬墓は、弥生時代の土坑及び性格不明遺構46基のうちの30基である。再葬墓及び関連遺構については、約30mの範囲内に集中しており、その中でも多数の土器が埋納される大型の再葬墓が密集する地域（東群）と単数土器再葬墓と中規模の再葬墓がまばらに分布する地域（西群）があることが確認できた。確認された再葬墓内の土器は、蓋など骨蔵器以外のものを含め153点にのぼることも判明した（報告書V、p.189）。

第1章で記したとおり、第4次確認調査までの調査成果をまとめ（報告書V）、それをもとに平成29年に国に史跡指定を申請したところ、同年、弥生時代中期初頭の再葬墓遺跡として国の史跡指定を受けることができた。人面付壺形土器をはじめとする再葬墓出土の遺物は、同年相前後して国の重要文化財指定を受けた。

第5次確認調査では、第28～31トレンチを設定して調査を行なった。第28トレンチは第12トレンチ南部で確認された第12号竪穴住居跡（S112）の規模等を把握するため、第29トレンチは第26号竪穴住居跡（S126）の規模等を把握するため第26号竪穴住居跡の中央部を通り第27トレンチに直交するよう、それぞれ設定した。さらに縄文時代晩期の住居跡が遺跡北西部の遺構確認が不十分と思われたため、第12トレンチに直交させて東に第30・31トレンチを設定した。今回の調査のトレンチ5本での総面積は、拡張区を含め144㎡である。

今回の調査で新たに確認した遺構は、竪穴住居跡11軒（縄文時代7軒、平安時代4軒）、土坑29基（縄文時代8基、中・近世19基、時期不明2基）、溝跡2条（中・近世）である。

今回の調査までの総調査面積は1,203.75㎡になる。前回調査までに確認した遺構は上記のとおり



第2図 泉坂下遺跡遺構分布図

りであるが、そのうち今回の調査で保留または抹消した堅穴住居跡が3軒あるので、都合、堅穴住居跡34軒（縄文時代9軒、平安時代25軒）、掘立柱建物跡5棟（平安時代1棟、中世3棟、近世1棟）、土坑209基（縄文時代12基、弥生時代46基、平安時代5基、中・近世34基、時期不明112基）、溝跡13条（弥生時代1条、中・近世8条、時期不明4条）、井戸跡1基（中世）、性格不明遺構4基（時期不明）が今回までの調査で確認されたことになる。

確認された弥生時代の土坑のうち30基は再葬墓であり、同時代のそのほかの土坑も再葬墓関連遺構と考えられる。一方、縄文時代の堅穴住居跡9軒はいずれも晩期のものである。それらの間には空白期間があるようである。また、分布の中心は縄文時代の堅穴住居跡が遺跡の西部、再葬墓及び再葬墓関連遺構は東部にあることが確認されており、区域が若干ずれるものの、縄文晩期の集落が廃絶した跡に、空白期間において弥生時代の再葬墓群が形成されたものと考えられる。縄文晩期の集落跡に弥生時代前・中期の再葬墓群が形成される例は多く、何らかの関係があると考えられている（報告書V, p.237）。

第2表 第5次調査確認遺構一覧表

*位置（グリッド）は調査区内のみ記載

No.	遺構 記番号	掲載 ページ	位置		時期	備考
			トレンチ	グリッド		
1	S I 12	27	28トレ	C 6 h5・h6・i5・i6・j5・j6	縄文晩期	第2次調査12トレ、S K 198・S D13に切られる
2	S I 26	46	29トレ	D 6 d0・g0・h0・i0	縄文晩期	第4次調査27トレ、S I 28に切られる
3	S I 27	34	28トレ	C 6 j5・j6、D 6 a5・a6	平安時代	
4	S I 28	51	29トレ	D 6 e0・f0	平安時代	S I 26を切る
5	S I 29	73	30トレ	D 5 d0・e0・f0	平安時代	SK 199・201・203に切られる
6	S I 30	65	30トレ	D 5 a0・b0、D 6 a1・b1（拡張区）	縄文晩期	人面付土器出土（推定） S I 37・S K 217を切り、 S K 194に切られる
7	S I 31	75	30トレ	D 5 g0・h0・i0	平安時代	S I 32を切る、SK 196・202・204に切られる
8	S I 32	70	30トレ	D 5 h0・i0	縄文晩期	S I 31・S K 204に切られる
9	S I 33	113	31トレ	D 5 d4・d5・e4・e5・f4・f5・g4・g5・h4	縄文晩期	S K 205・206・207・208に切られる
10	S I 34	123	31トレ	C 5 i4・i5・j5	縄文晩期	S I 35・S K 211に切られる
11	S I 35	124	31トレ	C 5 h4・h5・i4・i5	縄文晩期	S I 34を切る
12	S I 36	124	31トレ	C 5 j5、D 5 a5	縄文晩期	S K 210に切られる
13	S I 37	71	30トレ	C 5 j0、D 5 a0	縄文晩期	S I 30・S K 217・218に切られる
14	S K 194	77	30トレ	D 5 e0	中・近世	
15	S K 195	78	30トレ	D 5 g0	中・近世	
16	S K 196	79	30トレ	D 5 g0	中・近世	
17	S K 197	21	12トレ	C 6 h7	縄文	南側拡張区
18	S K 198	37	28トレ	C 6 h5	不明	西区。中世以前か
19	S K 199	80	30トレ	D 5 f0	中・近世	S I 29を切り、S K 200に切られる
20	S K 200	80	30トレ	D 5 f0	中・近世	S K 199を切る

No.	遺構 記番号	掲載 ページ	位置		時期	備考
			トレンチ	グリッド		
21	S K 201	81	30	D 5 d0	中・近世	S I 29を切り, S K 215に切られる
22	S K 202	81	30	D 5 g0	中・近世	粘土貼り土坑。S I 31を切り, S K 196に切られる
23	S K 203	82	30	D 5 e0・f0	中・近世	S I 29を切る
24	S K 204	83	30	D 5 h0	中・近世	S I 31・32を切る
25	S K 205	128	31	D 5 e4・e5・f4・f5	中・近世	粘土貼り土坑。S I 133・S K 206を切る
26	S K 206	129	31	D 5 e5・f5	中・近世	S I 133を切り, S K 205に切られる
27	S K 207	129	31	D 5 h4	中・近世	粘土貼り土坑。サブトレ内S I 33を切る
28	S K 208	130	31	D 5 d5	中・近世	S I 33を切る, S D 14に切られる
29	S K 209	125	31	D 5 b4・c4	縄文晩期	
30	S K 210	126	31	C 5 j5, D 5 a5	縄文晩期	S I 36を切る
31	S K 211	130	31	C 5 j4	中・近世	S I 34を切る
32	S K 212	127	31	D 5 i4	縄文晩期	S K 214を切る
33	S K 213	127	31	D 5 i4	縄文晩期	
34	S K 214	128	31	D 5 i4	縄文晩期	S K 212に切られる
35	S K 215	83	30	D 5 c0・d0	中・近世	S K 201を切る
36	S K 216	72	30	C 5 j9・j0	縄文晩期	セクションで確認
37	S K 217	72	30	D 5 a9・a0	縄文晩期	セクションで確認
38	S K 218	84	30	C 5 j0, D 5 a0	不明	S I 37を切る
39	S K 219	130	31	D 5 c4・d4	中・近世	粘土貼り土坑。セクションで確認。S D 14・S K 236を切る
40	S K 236	131	31	D 5 d4	中・近世	S K 219・237に切られる。S D 14との新旧不明
41	S K 237	131	31	D 5 d4	中・近世	S K 236・S D 14を切り, S K 238に切られる
42	S K 238	132	31	D 5 d4・d5	中・近世	S K 237・S D 14を切る
43	S D 13	36	28	C 6 i5・i6	中・近世	S I 12を切る
44	S D 14	132	31	D 5 e4・c5・d4・d5	中・近世	S K 208を切り, S K 219・237・238に切られる

第2節 基本層序 (第3表)

1 上位層

調査区における土層については、鈴木2011に倣い、整地・耕作により攪乱された層を第Ⅰ層、ローム層を第Ⅲ層 (第2次確認調査でのテストピットでは第Ⅲ～Ⅳ層)、その中間層を第Ⅱ層と大きく分類し (大分類)、そこからアルファベットを付して分層し (中分類)、さらに細分する場合はアラビア数字を付して表記する (小分類) こととした。それぞれの層については第3表のとおりである。

遺構覆土など基本土層に分類できない層については、適宜アラビア数字での層位名を付け、土層解説を行なった。

2 下位層

今次調査では、下位層 (Ⅲ層、ローム層) についてテストピット等で確認することはしていない。また、Ⅲ層については、調査で掘り込むことはしていない。ただ、Ⅲ層最上部で確認される日光・男体山由来の今市スコリア (Nt-I)、七本桜パミス (Nt-S) の粒子は、遺構の覆土等で確認されることがある。特に七本桜パミスは灰白色の粒子であることから目立ちやすいこともあり、遺構の覆土等で確認されることが多い。

なお、第2次確認調査でテストピットを掘削してローム層の堆積状況を観察しており、その成果は報告書Ⅲに記載している。そこでは第Ⅲ層の下位に第Ⅳ層を設定し、さらにA～Fに分層している (報告書Ⅲ, p.21) が、他地域との対比はできていない。そのため旧石器時代のどの段階からかは不明であるが、当遺跡では旧石器時代において人類の生活の舞台となる地学的な条件は整っていたと言える。ただ、当遺跡では旧石器時代に遡る遺構・遺物はこれまで確認されていない。

第3表 基本土層分類及び土層解説

大分類	中分類	小分類	土層解説
第Ⅰ層	第Ⅰ層	—	現在の耕作土。灰褐色、締まり弱
	第ⅠB層	第ⅠB1層	水田耕作の床土。暗褐色、締まり極強
		第ⅠB2層	水田耕作の床土。暗褐色、締まり極強。第ⅠB1層と比べると黒味がやや強く、締まりはやや弱い
第ⅠC層	—	第11トレンチの11・12区にのみ見られた層。水田耕作の床土であるが、黄褐色粒子を含有する。暗褐色、締まり強	
第Ⅱ層	第Ⅱ層	第Ⅱ1層	遺物包含層。褐色、締まり強、粘性中。この層が失われているトレンチも多い
		第Ⅱ2層	遺物包含層。暗褐色、締まり強、粘性中
	第Ⅱ3層	遺物包含層。暗褐色、締まり強、粘性中。第Ⅱ2層と比べると黒味がやや強く、粘性はやや弱い	
第ⅡB層	第ⅡB1～3層	第Ⅲ層への漸移層。暗褐色土と黄褐色ローム土の混合層で、ローム粒子が不均一に混じる。締まり中。ロームの含有量の微妙な違いにより1(小)～3(多)の小分類を用いた場合もある。	
第Ⅲ層	—	—	橙色ローム層。締まり強。最上面に今市スコリア (Nt-I) と考えられる橙色の火山礫を混入する。なお、Nt-Iの上位にはほぼ同一時期に降灰した七本桜パミス (Nt-S) と呼ばれる白色火山灰が堆積しているはずであるが、上層に取り込まれたためか、層としては認められなかった。

第3節 遺構と遺物

本節においては、今回の調査で確認された遺構と遺物をトレンチごとにまとめて解説し、所見を付す。トレンチと遺構の対応は第1節の表(第2表)で示したとおりであるが、それぞれのトレンチの冒頭で調査概要を示す中で改めて時代ごとに示す。1つの遺構が交差する複数のトレンチで調査されることがあるが、基本的には新たに設定したトレンチが、今次確認調査で規模等を確定するために意図的に設定されているので、新たなトレンチで扱うこととする。

以下、トレンチ番号順に記載する。

1 第12トレンチ

(1) 調査概要(第3図, 第4表, 図版4)

第2次確認調査で、遺跡北西部に南北に設定したトレンチである。縄文時代の竪穴住居跡4軒(第9～12号竪穴住居跡)、中世の土坑2基、近世の掘立柱建物跡1軒、時期不明の土坑1基が確認されている。第9～12号竪穴住居跡について具体的な様相を把握すべく、それぞれの住居跡の位置で第12トレンチに直交するように第28・30・31トレンチを設定した。これらの遺構は上述したように新たに設定したトレンチで扱うこととし、本項では第12トレンチで新たに確認された土坑と新たに出土した遺物について報告する。

本トレンチでは、第12号竪穴住居跡(S I 12)のプランを確認する一環として、南に2m拡張した。南側に近接する第5トレンチで遺物の集中が見られたことから、S I 12の南部が従来の第12トレンチ南端より南に延びていることも想定し、念のため拡張したものである。その後、トレンチ西壁に沿ってサブトレを入れた。結果としてS I 12のプランを確定することとなったほか、第197号土坑(S K 197)を確認した。本トレンチで扱う遺構は、下表のとおり、このS K 197のみである。

第4表 第12トレンチ確認遺構総括表

時期\遺構の種類	竪穴住居跡	土坑	その他
縄文時代		SK197	
奈良・平安時代			
中・近世			
その他・時期不明			

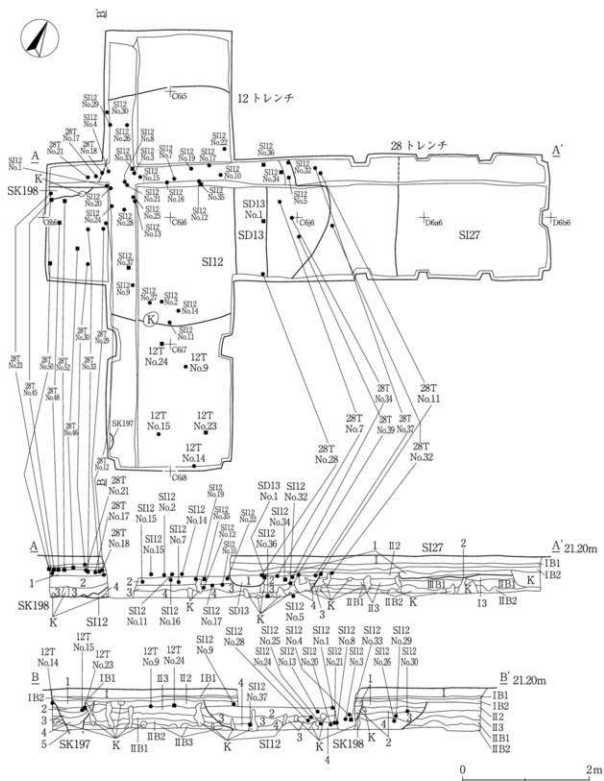
(2) 遺構と遺物

① 縄文時代

第197号土坑(S K 197)(第3図, 図版4)

位置 C 6 h 7区サブトレ内に所在する。西壁南端部で土層観察して存在に気が付いた。一部セクションの先にも延びる。

規模と形状 サブトレのセクションで立ち上がり認められたことから、サブトレ底面も精査し、セクションにかかる半円形(半円に満たない)の落ち込みが認められ、遺構と認定した。50cm幅のサブトレの東壁では認められない。セクションでは上幅68cmを測る。径はセクションでの



第3図 第12・28トレンチ実測図

幅よりは大きくなるものと思われ、径100cm弱程度の円形と推定される。サブトレ底面で確認したのは土坑底部に近い部分と思われる。深さは(47)cm以上で、立ち上がりは外傾し、深鉢状を呈する。

重複関係 なし。

土層 覆土は概してⅡ層に類似しており、古そうな様相を呈している。レンズ状堆積をしており、現状で5層に分層できた。自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 (10Y R 3/2) ローム粒子少量, Nt-S 微量, 締り中, 粘性やや弱
- 2 黒褐色 (10Y R 2/2) ローム粒子少量, Nt-S 微量, 締り中, 粘性弱
- 3 黒褐色 (10Y R 2/3) ローム粒子少量, Nt-S 微量, 締り中, 粘性弱
- 4 黒褐色 (10Y R 3/2) ロームブロック微量, ローム粒子中量, Nt-S 少量, 締りやや弱, 粘性やや弱
- 5 暗褐色 (10Y R 3/2) ロームブロック微量, ローム粒子中量, Nt-S 少量, 締りやや弱, 粘性やや弱

遺物 出土していない。

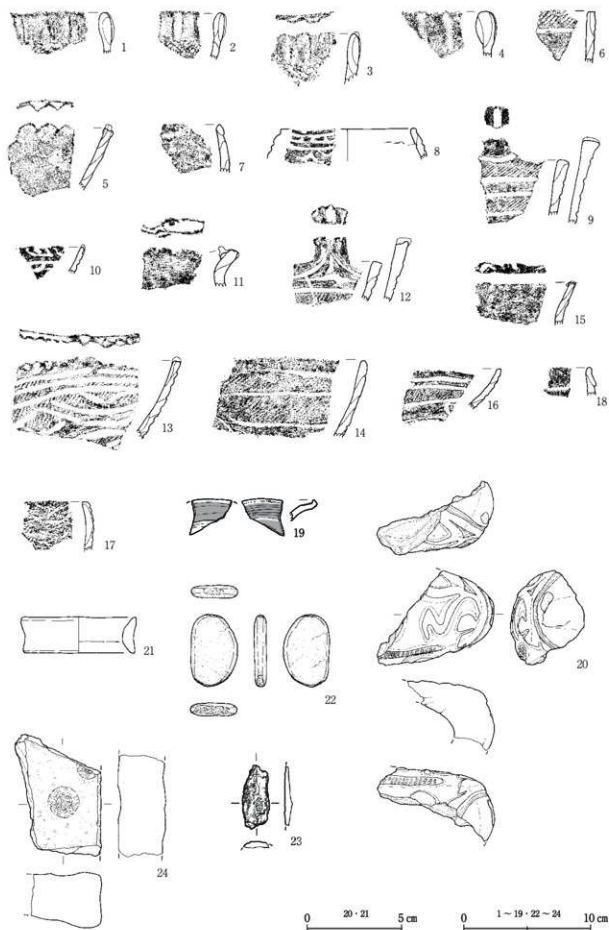
所見 形状・覆土から縄文時代の土坑の可能性が高いと考えられる。性格は不明である。

②遺構外出土遺物 (第4図, 第5表, 図版15)

遺構外からは土器・土製品等604点, 石器・石製品・剥片等99点が出土している。うち, 土器等19点, 土製品2点, 石器・石製品3点を掲載する。

(3) 所見

本トレンチでは, 第12号竪穴住居跡 (S I 12) の南北について第2次確認調査の結果を追認する結果となったほか, 新たに縄文時代の土坑と考えられる第197号土坑 (S K 197) を確認した。第2次確認調査時の所見のとおり, 本トレンチ南部付近が縄文時代晩期の遺構が分布する区域であることが改めて確認できた。



第4図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図

第5表 第12トレンチ遺構外出土遺物観察表

探頭 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	粘土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第4区												
1	189	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに内縁。口縁部を肥厚させ、外側に指頭圧痕(2)圧痕。胴部外面には縄文施文か。詳細不明。内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・雲母粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	外面にふい黄褐色。内面にふい橙色。内部灰褐色	南側拡張区I B層一括	—	国版15後期粗製土器
2	189	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに外縁。口縁部を肥厚させ、外側に指頭圧痕。胴部外面単節縄文LR。内面ナデ	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好、堅緻	外面にふい赤褐色。内面にふい赤褐色。内面にふい黄褐色。内部灰褐色	南側拡張区I B層一括	—	国版15後期粗製土器
3	189	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに外縁。口縁部を肥厚させ、外側に指頭圧痕。胴部外面単節縄文LR。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	内外面灰黄褐色。内部灰褐色	南側拡張区I B層一括	—	国版15後期粗製土器。外面わずかに炭化物付着
4	189	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内唇。内縁気味。口縁部内側に粘土を2度補足して肥厚させ、外側に指頭圧痕。胴部外面縄文施文か。内面ナデか。器底充れて不明。	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	やや不良	外面橙褐色。内面にふい黄褐色。褐色。内部灰褐色	南側拡張区I B層一括	—	国版15後期粗製土器。外面わずかに炭化物付着
5	189	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	薄手。わずかに内唇。外縁。口縁部外側連続する指頭圧痕。それにより端部に突起を作る。突起間にはへう状施文具で調整。外面ナデ。粘土積層上げ痕の一部残す。内面粗いミガキ	やや精良。メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	内外面暗赤褐色。内部灰褐色	南側拡張区I B層一括	—	国版15後期粗製土器
6	239	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	直線的。ほぼ直立。角縁。外面単節縄文LR。その下位横走流線1条。その下位ミガキ(磨り消しか)。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	外面にふい赤褐色。内面にふい橙色。器表下橙褐色。内部灰褐色	排土中	—	国版15晩期前葉・大洞B式
7	188	縄文 土器	深鉢	口縁部・ 胴部, 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに内縁。組合口縁。内外面ナデ。胴部外面には粘土積層上げ痕を残す。横上げ痕は右下がり基調で抜輪な痕を示す	やや粗悪。メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・輝石粒微量	普通	外面にふい黄褐色。内面にふい橙褐色。内部灰褐色	埋土一括	—	国版15晩期粗製土器
8	239	縄文 土器	注口 土器	口縁部, 5%以下	[10.6] [25]	わずかに内唇。内縁。薄手。外面半面状文。その下位弧状流線文。内面ナデ。一部粘土積層上げ痕を残す	メノウ粒少量、石英粒・石英礫・雲母細粒微量	良好、堅緻	外面黒褐色。内面にふい黄褐色。内部黒褐色	排土中	—	国版15晩期前葉・大洞BC式
9	210	縄文 土器	深鉢	口縁部・ 胴部, 5%以下	—	直線的。外縁。角縁。端部に突起を付け、頂部を修状施文具で凹ませる。胴部単節縄文LRを施文し、突起基部に弧状流線5。その下位に4条の横走流線を引き、1～2、3～4条間を磨り消し。2～3条間に貼り輪1対。内面丁寧なミガキ	メノウ粒・凝灰岩粒少量、石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好、堅緻	外面にふい黄褐色。内面に灰黄褐色。内部灰褐色	南側拡張区C 617, 20.85 m	—	国版15晩期前葉か
10	188	縄文 土器	小型 鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内唇。外縁。外面半面状文。文様により口縁端部に突起。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・雲母細粒	普通	内外面黒褐色。内部灰褐色	埋土一括	—	国版15晩期前葉・大洞BC式
11	189	縄文 土器	甕	口縁部, 5%以下	—	内縁から外反して外唇する口縁部。端部に樽状の文様を付す。外縁に磨り消し。のち一部ミガキ。内面ナズリ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	外面黒褐色。内面暗赤褐色。器表下褐色。内部灰褐色	南側拡張区I B層一括	—	国版15晩期・中期。大洞C1-C2式
12	189	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内唇気味。外縁。角縁。板状の突起を付け頂部にキザミ。外面突起から左右に弧状の流線を下ろし。下位に流線による三叉文。その下位に単節縄文LRを施文し、横走流線2条で区画。口縁部外面から胴部内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・褐色砂粒微量	良好、堅緻	外面灰褐色。内面暗赤褐色。器表下橙褐色。内部灰褐色	南側拡張区I B層一括	—	国版15晩期中葉
13	189	縄文 土器	浅鉢	口縁部・ 胴部, 5%	—	内唇。大きく外縁。端部にB突起。突起以外の部分に外側角にへう先状の施文具で連続斜突。外面単節縄文LRを施文し、流線による文様。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好、2次焼成	外部灰黄褐色。黒褐色。内面灰褐色・褐色。一部にふい黄褐色。内部灰褐色	南側拡張区I B層一括	—	国版15晩期中葉・大洞C1式。内面一部に炭化物付着

第3章 第3節 遺構と遺物

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第4区	14	215	縄文土器	鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内壁、外縁。湾手。外面単節縄文LRを地文に横走沈線3条。最上段と3条目以下磨り消し。現状左下に右下がりな弧状沈線。器表花れ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒微量	二次焼成	外面にふい黄色・黒褐色。内面褐色。にふい黄色。内面灰褐色。	南側拡張区、C 6 i7、20.88 m	—	国版15 晚期
	15	224	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	外反、外縁。湾手。口縁端部に粘土を補足し内側に突出させる。端部にB突起。内側の突起にもB突起。内外面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好、堅緻	外面 灰黄褐色。内・内面に褐色。	南側拡張区、C 6 h7、20.77 m	—	国版15 晩期中葉・大割 C 1 C2式
	16	188	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%	—	内壁、大きく外傾。口縁端部は平出だが、外側をわずかに波打たせる。外面単節縄文LRを地文に4条の横走沈線を施し、2～3段間を縄文を残し他は磨り消し。3～4段間には弧状の沈線による文様。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい赤褐色。器表下褐色。内面褐色。	埋土一括	—	国版15 晩期中葉・大割 C 1 C2式
	17	237	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内壁、外縁から内傾へ。湾手。外面粗い網目状赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・黒色砂粒微量	良好、堅緻	外面にふい褐色。内面にふい黄色。内面褐色。	C 6 i4-5、確認面一括	—	国版15 晩期粗製土器
	18	188	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	口縁部でわずかに外反、やや内傾か。複合口縁。内外面ナデ	やや粗悪。メノウ粒中量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄色。内面褐色。	埋土一括	—	国版15 晩期粗製土器
	19	185	瀬戸・美濃系陶器	織部折縁皿	口縁部、5%以下	—	外反、大きく外傾。口縁端部は内側に屈曲させ三角形状に作る。口縁部内面、段状部に横走目。口縁部内外面顔緑地	精良な陶土	良好、堅緻	器胎：灰白色 釉：緑色	埋土一括	—	国版15 17世紀前期・平置き実測

検出番号	台帳番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第4区	20	188	土偶	縦(3.9)	横(6.2)	—	中空で、正面とした面の調整がやや丁寧なため透光器土偶の左臂と推定。胷下部の円形(一部残存)は乳房の表現か。肩部には沈線と彫去により入組文と三叉文を施文。正面胷下には単節縄文LRを地文に周周を磨り消した横位の直線状文様。内面を見ても、粘土を濃き足しながらの成形。胷先は円柱状の粘土塊で覆蓋か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面にふい黄色・黒褐色。内面褐色。内面黒褐色。	埋土一括	—	国版15 晚期	
	21	189	耳飾	径(5.8)	高1.9	内径(4.8)	(3.5)	環状で中央部がわずかに絞れる。裝飾なし。内外面ナデ	やや粗悪。メノウ粒中量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通、二次焼成	内面褐色。一部黄色。	南側拡張区、I B層一括	—	国版15

検出番号	台帳番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第4区	22	189	磁石	5.7	3.7	1.0	36.6	砂岩	扁平で不整形円形の礫を利用。小型。両端に使用痕。上下運動による敲打	南側拡張区、I B層一括	—	国版15 完存
	23	214	石鉢	(5.0)	(2.1)	(0.6)	(6.2)	粘板岩	断面形はほぼ円形と推定。表面には敲打による整形痕が顕著に残る。整形段階の小破片	C 6 i7、20.81 m	—	国版15 一部残存
	24	200	凹石	(9.7)	(6.8)	4.4	(3)9.5	砂岩	板状の素材を利用し、3方を折断して不整形方形に成形。中央の凹みは円形で径2.5cm前後。深さ約2mmと広く浅い。折断面に割かるもう1か所の凹みを認める。上面は平滑で図左に向かって凹みを減ずる。石皿の再利用か	C 6 h7、20.83 m	—	国版15 凹石としては完存

2 第28トレンチ

(1) 調査概要 (第3図, 第6表, 図版4・5)

第2次確認調査で設定・調査した第12トレンチでは、その南端近くで第12号竪穴住居跡(SI12)が確認されていた。今次調査ではその具体的な様相を把握するため、SI12の中心部を通り第12トレンチに直交するトレンチを設定し、第28トレンチとした。当初SI12の規模を把握することを目的としたため東側2mとし、また西側は調査対象区域の境界に近接するため1m、第12トレンチの幅を入れても5mと短かったが、のちにプランの確認のため東側に2m延長した。なお、第12トレンチの西側部分を西区、東側部分を東区と呼んだ。東区では新たに第27号竪穴住居跡(SI27)が確認された。そのほか土坑と溝が確認されている。

第6表 第28トレンチ確認遺構総括表

時期\遺構の種類	竪穴住居跡	土坑	その他
縄文時代	SI12		
奈良・平安時代	SI27		
中・近世			SD13
その他・時期不明		SK198	

(2) 遺構と遺物

① 縄文時代

第12号竪穴住居跡(SI12) (第3・5～7図, 第7表, 図版5・6・16・17)

位置 C6h5-h6区, C6i5-i6区, C6j5-j6区に所在する。

規模と形状 不整円形で、南北は今回改めて確認したが、第2次調査で確認されたとおり3.80mである。東西は今回新たに東区でプランが確認できた。しかし、西区では第28トレンチ北壁際にサブトレを入れて立面での形状確認を試みたが、壁の立ち上がりが捉えられず、一方で第198号土坑(SK198)の下層に本跡の覆土が連続しているのが確認され、トレンチ西端より外側で立ち上がるものと考えられた。現状で東西の規模は4.38mである。床は一部ロームを掘り込んで造られている。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

重複関係 中央やや東寄りの中・近世の第13号溝跡(SD13)に、西部を時期不明のSK198に掘り込まれている。

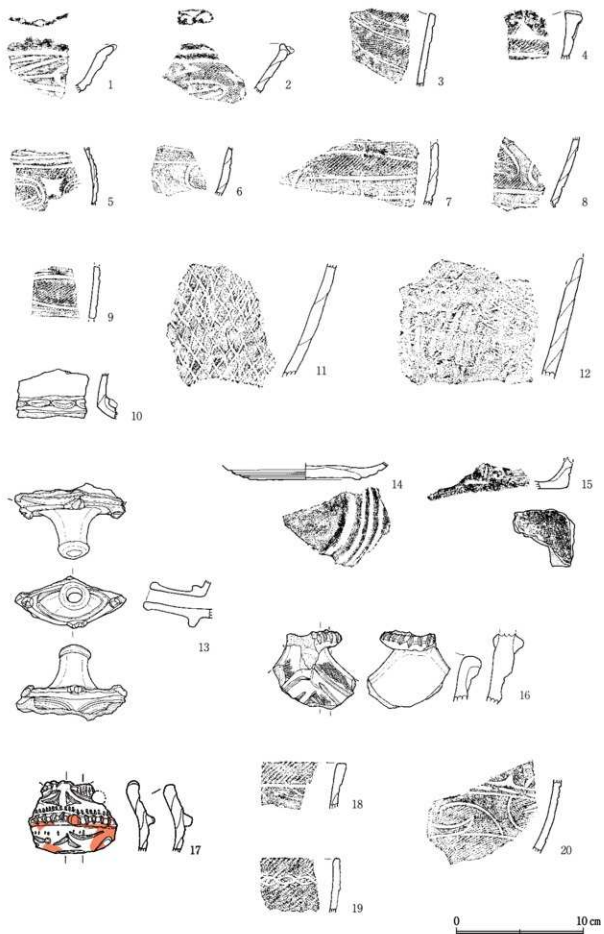
土層 4層確認された。土層の状況からは自然堆積と思われる。

土層解説

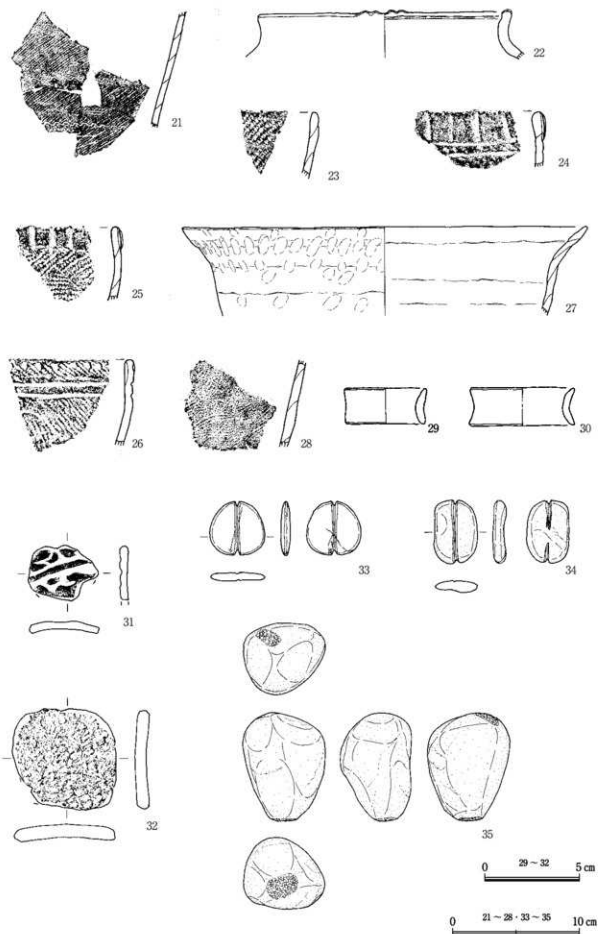
- 1 黒褐色(10YR3/2) ローム小ブロック微量、ローム粒子中量、Nt-S微量、締りやや弱、粘性やや弱、土器片・礫を含む
- 2 黒褐色(10YR2/2) ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、締りやや弱、粘性弱
- 3 暗褐色(10YR3/3) ローム小ブロック少量、ローム粒子中量、Nt-S少量、締り弱、粘性弱
- 4 褐色(10YR4/4) ローム小ブロック中量、ローム粒子多量、Nt-S中量、締り弱、粘性中

遺物 土器片・土製品490点、石器・石製品・剥片等69点、骨片3点、合計562点が出土している。うち、土器片28点、土製品4点、石器6点を掲載する。

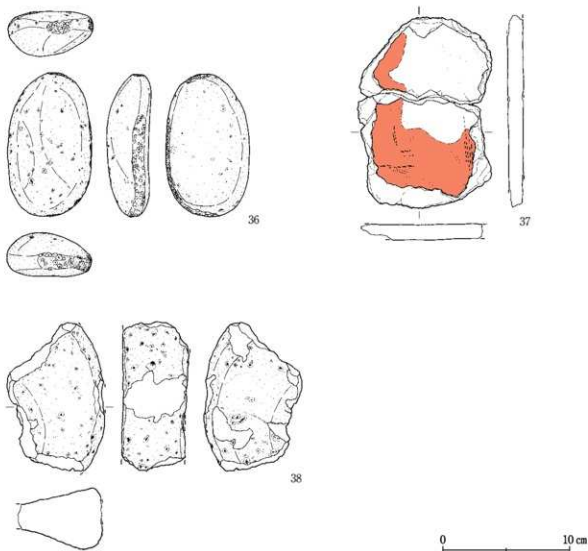
所見 遺構の形状、重複関係、土器の年代観から、縄文時代晩期中葉の住居跡と考えられる。



第5図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)



第6図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)



第7図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(3)

第7表 第12号竪穴住居跡出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第5図 1	101	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	—	内湾しつつ大きく外傾する胴部 から内側に横をもつて屈曲して 開く口縁部。胴部にB突起。外 面胴部下に横走沈線。以下沈線 による三叉文。ミガキ。内面ミ ガキ	やや精良。メ ノウ粒少量。 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	外面灰黄褐色 (暗)。内面灰 黄褐色(明)。 口縁端部付近 に薄い橙色。 内部黒褐色	C 6 h5, 20.81 m	—	図版 16 晩期中葉・ 大割 C 1・ C 2式
2	89	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	大きく外傾して直線的に広がる 口縁部。粘土を補足して肥厚を せた胴部には外面側にB突起を 付し、端面にも突起と連動した 渦巻状文。外面細かい単節縄文 LRを施文に磨消縄文手法で 雲彩文を表す。磨消部は彫去。 内面ミガキ	やや精良。メ ノウ粒少量。 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒 ・黒色砂粒微量	良好	外面灰黄褐色。 内面・内 部褐色	C 6 b6, 20.81 m	—	図版 16 晩期中葉・ 大割 C 1 式
3	194	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	外反気味。外傾。波状口縁。角 縁。外面細かい単節縄文LRを 施文に波頂部から延びる弧状沈 線で区画し、2・4段を磨り消 し。下層に横位の沈線か。内面 ミガキ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	内外面・内部 とも黒褐色	C 6 h5 東 四 中 20.63 m	接合 しない 一断 一断 作 2片	図版 16 晩期中葉・ 大割 C 2 式

探区番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第5区												
4	113	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内脣、わずかに外脣。波状口縁。波頂部は口縁端部を肥厚させ、へら状掘文具でキザミ。外面無節縄文を地文に波頂部下に三叉文を刷み、縄文帯を帯いて下位に横走沈線1条。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・灰色砂粒微量	普通	内外面・内部 褐色	C6h5 サブトレ、II層 確認 底面 ~15cm、 20.69m	—	図版16 晩期中葉・ 大洞C2 式か
5	174	縄文土器	小型壺	胴部、5%以下	—	内脣、わずかに内脣。上脣は外反する唇形。薄手。外面無節縄文LRを地文に横走沈線、連続する短沈線。2条の沈線による楕円文。楕円文の間に小さき突起とその上下に台形状の磨り消し。彫法は深い。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色、 一部褐色。内 部褐色	C6f5 東西サ ブトレ、 20.48m	—	図版16 晩期中葉・ 大洞C1 式か
6	111	縄文土器	小型鉢	胴部、5%	—	わずかに内脣、外脣。外面細かな単節縄文LRを地文に横走沈線と弧状の沈線で区画、磨り消し。内面ナデ、頸部内面ミガキ。全体に丁寧な調整	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色、 内面黒色。内 部褐色	C6f5 ウサ ブトレ、II層 確認 面 ~15cm一 括	—	図版16 晩期中葉 か
7	128	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内脣、わずかに外脣。外面単節縄文LRを地文に、弧線と横走沈線により区画し、I区画を磨り消し。磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面褐色・ 灰褐色。内面 褐色	C6f5 サブトレ、II層 確認 面 ~15cm、 20.71m	3片	図版16 晩期中葉・ 大洞C2 式。外 面赤色顔 料付着か
8	196	縄文土器	小型鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内脣、外脣。薄手。外面単節縄文LRを地文に磨り消しと沈線による区画、横走沈線。内面ミガキ	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒微量	良好、 堅緻	サンドイッチ 状。内外面 褐色。内部に ふい褐色	C6h5 東西サ ブトレ、 20.59m	—	図版16 晩期中葉・ 大洞C1・ C2式
9	199	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内脣気味、ほぼ直立か。外面細かな単節縄文LRを地文に弧状沈線で楕円形(?)に区画し、区画外を磨り消し。区画上と下層にも沈線。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好、 堅緻	内外面黒褐 色。内部にふ い赤褐色	C6b6 南北サ ブトレ、 20.60m	接合しない 同一個体 2片	図版16 晩期中葉・ 大洞C2 式
10	139	縄文土器	壺	胴部、5%以下	—	内脣・内脣する胴部から内面に横を持って屈曲し、わずかに外脣。ほぼ直線的に立ち上がる口縁部。胴部外面に縦線状浮文。その他内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート礫・チャート粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面 褐色。内部褐色	C6f5 サブトレ、II層 確認 面 ~15cm、 20.66m	—	図版16 晩期中葉・ 大洞C2 式
11	87	縄文土器	深鉢	胴部下半、5%	—	わずかに内脣、外脣。外面粗い網目状撫余文。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒微量	良好	外面褐色。内 面上半にふい 褐色・下半に ふい褐色(炭 化物付着か)。 内部褐色・ 灰褐色	C6c6、 20.82m	—	図版16 晩期粗製 土器
12	182	縄文土器	深鉢	胴部、5%	—	内脣気味、外脣。外面網目状撫余文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好、 下半 二次 焼成	内外面にお い褐色。内部 褐色	C6f5 東西サ ブトレ、 20.63m	—	図版16 晩期中葉・ 大洞C2式。 粗製土器。 外面上半 炭化物付 着
13	161	縄文土器	注口土器	注口部、5%	—	群盤玉形の薄い胴部の屈曲部からやや上を向いて突出する注口部。長楕円形の基部の周辺には隆線を廻し、上下左右にはキザミを入れた突起を付す。注口下部の胴部には左右対称に弧状の隆線。外面ミガキ。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面 褐色。内部に ふい褐色	C6h5 エ サブトレ、 20.77m	—	図版16 晩期中葉・ 大洞C2式
14	86	縄文土器	浅鉢	底部、15%	(13) [88]	若干上げ底の底部から胴部が夫々大きく外傾して立ち上がる様相。底部から胴部外面3条の横走沈線。その上位細かな単節縄文LR。底面・内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面灰黄褐 色。内面灰黄 褐色・黒色。 内部灰白色	C6c6、 20.83m	—	図版16 晩期中葉

第3章 第3節 遺構と遺物

神国 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高底 径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第5国	15	117	縄文 土器	鉢 (瓶形 土器)	胴部、 5%以 下	—	平底から外傾する胴部。底面は 方形の一隅、ナデているが、一 部割代痕が残る。胴部は単節縄 文LRを地文に、横位の流い沈 線を施しその上位を磨り消す。 内面ナデ	やや精良。メ ノウ粒少量。 石英粒・雲母 繊維・凝灰岩 粒微量	普通。 正立で 焼成	外面にふい 橙色。底面、 内面黒褐色。 内部黒褐色	C6h5 サブレ Ⅱ層 確認面 15 cm 20.71 m	—	国版16 晩期か
	16	103	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以 下	—	内彎気味にはけ直立する波状口 縁の胴部。頂部縮み、その下位 左右に粘土帯を回しへら状施文 具によるキザミ(左は欠失)。 頂部下には縦位の捻り付け(剥 落)。再編部分は肥厚させ、外 面単節縄文LR。頂部下には沈 線で三角の区画を作る。口縁端 部～内面ミガキ	石英粒・長石 粒・雲母繊維・ 凝灰岩粒・赤 褐色砂粒微量	良好	内外面灰黄褐 色。にふい黄 褐色。内部褐 灰色	C6h5、 20.77 m	2片	国版16 晩期前葉・ 安行3a式 。平置き実測
	17	136	縄文 土器	鉢	口縁部、 5%以 下	—	内彎、内傾。波状口縁の谷部に 突起を付けキザミ。胴部直下は 弧状沈線で区画し中に長い列突 の連続。焼成前穿孔貫通。突起 の下位には2個の三叉文。その 下位に連続列突。下位に陸帯刺 り付けキザミ。突起の下は幅広 のキザミ。その下位弧状沈線文。 内面上半ナデ。下半ミガキ	やや精良。メ ノウ粒少量。 石英粒・雲母 繊維・凝灰岩 粒微量	良好	外面にふい 赤褐色。一部 褐色。淡褐色。 内面黒褐色。 内部にふい 橙褐色	C6h5 サブレ Ⅱ層 確認面 15 cm 20.65 m	—	国版16 晩期前葉・ 安行3a式 か。外 面部分的 に赤色顔 料付着
	18	111	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以 下	—	わずかに外反。わずかに外傾。 角縁。口縁部平端に横走沈線に よる区画。その上位外面節縄 文LR。下位ナデ。内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 繊維・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好。 焼け むら	外面にふい 橙褐色。内部 にふい 褐色。内部 褐色	C6h5 サブレ Ⅱ層 確認面 15 cm 一括	—	国版16 晩期中葉・ 安行3c式
	19	130	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以 下	—	わずかに内彎。わずかに外傾。 角縁。外面節縄文。内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 繊維・黒色砂 粒微量	普通	内外面・内部 とも黒褐色	C6h5 サブレ Ⅱ層 確認面 15 cm 20.75 m	—	国版16 晩期前葉。 内外面炭 化物付着
	20	207	縄文 土器	鉢	胴部、 5%	—	内彎、外傾。外面単節縄文LR を地文に三叉文・短沈線。横走 沈線による上下区画と弧状沈線 文による入組み文を施し、磨り 消し。内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・石 英粒・雲母 繊維・凝灰岩 粒・海綠針 微量	良好。 下手 二次 焼成	外面・内部 灰褐色。内 面黒色。内 部灰褐色。 二次焼成 部分表裏に ふい橙褐色	C6h5 南北サ ブレ、 20.53 m	—	国版16 晩期前葉。 安行Ⅲa 式か
第6国	21	197	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%	—	内彎気味、外傾。薄手。外面節 縄文。内面粗いミガキ	やや精良。メ ノウ粒少量。 石英粒・雲母 繊維・赤褐色 砂粒・凝灰岩 粒・海綠針 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面 灰褐色。器 表下に ふい橙褐色。 内部褐色	C6h5 東西サ ブレ、 20.59 m	4片	国版17 晩期前葉・ 大洞BC式
	22	72	縄文 土器	壺	口縁～ 胴部、 15%	20.0 (3.7)	内傾する胴部から緩やかに屈曲 してわずかに外傾して立ち上る 短い口縁。胴部には突起。小 片からの復元のため継ぎは 明。口縁部内面に横走沈線1条。 内外面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・褐色砂粒 微量	やや 甘い	外面 灰黄褐 色。内面に ふい黄褐色。 内部灰白色	C6h5、 20.76 m	—	国版17 晩期後葉
	23	111	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以 下	—	わずかに内彎。わずかに外傾。 外面単節縄文LR。内面ナデ。	メノウ粒少量。 石英粒・チャ ー石粒・雲母 繊維・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	外面橙褐色。内 面・内部に ふい赤褐色	C6h5 サブレ Ⅱ層 確認面 15 cm 一括	—	国版17 時期不明。 外面炭化 物付着
	24	166	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以 下	—	わずかに内彎。わずかに内傾。 複合口縁。肥厚する外面に棒状 施文具による任意。胴部外面 節縄文LRを地文に横走沈線2 条。内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 繊維・凝灰岩 粒・褐色砂粒 ・黒色砂粒 微量	やや 甘い。 器 荒れ	サンドイッチ 状。内外面 にふい黄褐色。 一部にふい 赤褐色。内 面灰褐色	C6h5 南北サ ブレ、 20.68 m	—	国版17 後期粗製 土器。 内面わず かに炭化 物付着
	25	206	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以 下	—	内彎、外傾。口縁端部付近内傾。 複合口縁。肥厚する外面に棒状 施文具による任意。胴部外面 節縄文LR。内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 繊維・凝灰岩 粒・褐色砂粒 ・黒色砂粒 微量	普通	外面黒褐色。 灰褐色。内 面にふい 橙褐色。内 部褐色	C6h5 南北サ ブレ、 20.53 m	—	国版17 後期粗製 土器

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第6区	26	縄文 土器	小型 深鉢	口径～ 胴部、 5%	— — —	内彎、外傾。外面単筋縄文RLを地文に口縁端部付近棒状地文具による連続刺突。その下位横走沈線2条を施し、付近は磨り消し。内面ナデ、口縁部内面ミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色、内面黒褐色にふい褐色、内部褐色	C6h5 南北サ ブトレ、 20.57m	3片	国版17 後期か
27	91	縄文 土器	鉢	口径～ 胴部、 5%	320 (7.0)	外傾する胴部から緩やかに屈曲して開く口縁部。無文。内外面ナデ。調整細線。外面は指頭圧痕を残す。内外面、特に内面に粘土層積上げ痕を残す	やや粗悪。メノウ粒中量、メノウ礫・石英粒・チャート・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・灰色砂粒・黒色砂粒微量	普通	内外面にふい黄褐色。内部褐灰色	C6h5、 20.83m	接合しない 一 個体 1片	国版17 時期不明 (後期か)
28	164	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— —	直線的、わずかに外傾。外面緩やかな波状の条線文。内面ナデ	メノウ粒・褐色砂粒少量、 石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面浅黄褐色。内面にふい褐色、内部褐灰色	C6h5 南北サ ブトレ、 20.72m	—	国版17 後期粗製 土器

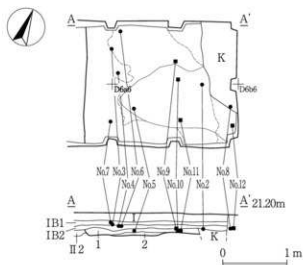
検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第6区	29	土製 耳飾	1.9	径 [4.4]	—	(3.0)	短い円筒状で、上下にわずかに外反。無文。ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石英粒・チャート・雲母細粒微量	普通	表面にふい褐色。内部黒色	C6h5、 20.67m	—	国版17 一部残存
30	210	土製 耳飾	2.0	径 [5.4]	—	(1.8)	短い円筒状で、上下に外反。無文。ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通	表面黒褐色、内部褐灰色	C6h5、 20.74m	—	国版17 一部残存
31	111	土器 片円盤	2.8	3.6	—	(4.9)	一部欠損しているが、楕円形の土器片円盤。土器としては小型浅鉢の口径部で、外面半筒状文を施し、内外面ともミガキ調整をする精製土器	やや精良。メノウ粒少量、 石英粒・雲母細粒微量	良好	正面黒色。裏に黒褐色。内面にふい黄褐色	C6h5 ウサブレ、 II層 確認面 ～15cm 一括	—	国版17 晩期前葉、 大洞DC式
32	143	土器 片円盤	5.3	5.4	—	(26.1)	隅丸方形だが土器片円盤と同類と判断。土器片円盤を研磨か、土器としての外面は粗い単筋縄文RL。内面粗いミガキ	メノウ粒中量、 石英粒・雲母片・雲母細粒・凝灰岩粒微量	普通	正面・裏面にふい赤褐色、内部にふい褐色	C6h5 サブレ、 II層 確認面 ～15cm、 20.69m	—	国版17 一部欠損

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第6区	33	石鎌	4.3	4.4	0.7	18.5	粘板岩	有溝石鎌。扁平で不整形円形の自然礫を利用	C6h6東 西サブレ、 20.59m	—	国版17 完存	
34	142	石鎌	5.0	3.4	1.0	20.4	砂岩?	有溝石鎌。扁平で不整形円形の自然礫を利用。両端に切目を入れ、正面は切目が連続し溝となっている	C6h15 ウサブレ、 II層 確認面 ～15cm、 20.74m	—	国版17 完存	
35	134	敲石	8.5	6.5	5.6	370.5	砂岩	扁平で不整形円形の自然礫を利用。長軸の一端を主に使用し、他端もわずかに使用。上下運動による敲打に使用	C6h15 サブレ、 II層 確認面 ～15cm、 20.76m	—	国版17 完存	
第7区	36	176	敲石	11.2	6.6	3.5	372.5	多孔質 安山岩	不整形円形の自然礫を利用。主に片側の側縁を使用し、両端も使用。それぞれ回転・上下運動による敲打に使用	C6h15東 西サブレ、 20.50m	—	国版17 完存
37	200	砥石	(15.1)	(10.6)	1.3	(29.5)	砂岩	板状の軟砂岩を利用。全形不明。砥面は1面。砥面に使用。砥面に薄く赤色顔料付着。赤色顔料製造に使用か	C6h6南 西サブレ、 20.55m	3片	国版17 一部残存	
38	111	石皿	(11.7)	(7.7)	5.3	(413.0)	多孔質 安山岩	円形または楕円形をなすと思われる。円形であれば径20cm程度に復元されよう。表面とも磨り面として使用され、緩やかに凹む	C6h15ウ サブレ、 II層 確認面 ～15cm	—	国版17 一部残存	

②平安時代

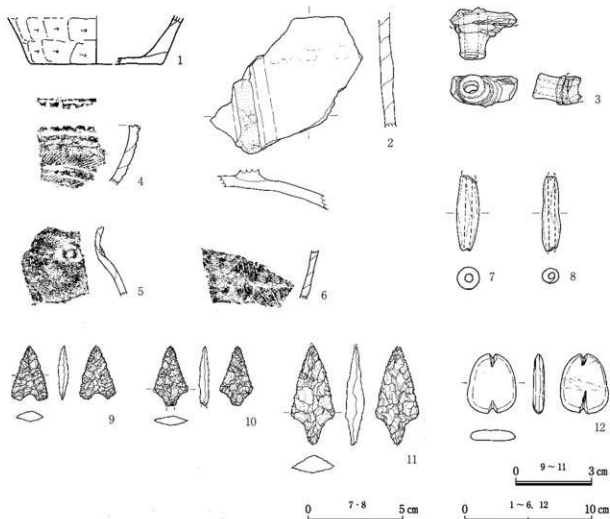
第27号竪穴住居跡 (S 127) (第3・8・9図, 第8表, 図版6・18)

位置 第28トレンチ東端, C 6 j 5・j 6区, D 6 a 5・a 6区に所在する。トレンチ内でプランが確認されない南・北・東はトレンチ外に延びている。



第8図 第27号竪穴住居跡実測図

規模と形状 プランを確認できないまま床面と思われる硬化面を検出し、その後硬化面の西側にかろうじてプランの西壁を検出することができた。現状で東西2.42m, 南北1.90mを測る。床面上には竈材と思われる砂質粘土や炭化材の散布が認められたが、竈そのものは確認されなかった。竈材の散布が東に寄っていることから、おそらく東側トレンチ外に存在するものと考えられる。東竈の正方形に近いプランが考えられる。なお、東部は大きく攪乱されている。重複関係 なし。



第9図 第27号竪穴住居跡出土遺物実測図

土層 トレンチ北壁際に入れたサブトレで若干の覆土と硬化した床面の層が確認できた。西壁際の壁溝は平面的には捉えられなかったが、セクションではそれらしい凹みが第1層の下の線で見えてとれた。掘り方は認められなかった。

土層解説

- 1 黒褐色(10Y R 3/1) ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、黄褐色粘土ブロック中量、焼土中量、Nt-S微量、締り中、粘性やや強、土器細片多い
- 2 黒褐色(10Y R 3/2) ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、黄褐色粘土ブロック中量、Nt-S微量、締り強、粘性強、硬化した床面

遺物 土器片・土製品81点、石器・石製品・剥片等22点、合計103点が出土している。出土遺物のうち本跡に伴う遺物は土師器・管状土錘である。ほかは縄文時代の遺物で、混入である。混入品を含め、土器片6点、土製品2点、石器4点を掲載する。

所見 遺構・遺物から、本跡は平安時代(9~10世紀ごろ)の住居跡と考えられる。

第8表 第27号竪穴住居跡出土遺物観察表

探洞番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第9区	1	38	土師器	甕	体~底部、5%以下	(38)	薄い平底から体部が外反気味に外傾して立ち上がる。底面ナデ、体部外面ヘラケズリ。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・凝灰岩粒微量	良好、堅硬	外面にふい赤褐色・黒褐色、内面褐色。内部にふい褐色	D 6 a5、a6、確認面一括	2片	国版 18 9-10世紀、外面葉付着
	2	31	土師器	置き甕	釜口~胴部、5%以下	—	直縁状、内傾気味、釜口右側付足。粘土紐織上げ成形。腹の直縁状の突起貼り付け。突起はわずかに左に傾く。外面ヘラナデ、突起・内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・褐色砂粒微量	良好	内外面・内部にふい褐色。釜口付近灰褐色	D 6 a6、20.84 m	接合しない、1個、体2片	国版 18 平安時代、釜口一突起わずかに葉付着。平置き実測
	3	8	縄文土器	注口土器	注口部、5%以下	—	算盤玉状の胴部の屈曲部から斜め上方に向かう短い注口部。筒状の注口を胴部の孔にソケット状に差し込み固定。周囲を粘土紐で補強し、2段の装飾とする。外面ミガキ、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	普通	外面灰黄褐色・黒褐色、内面・内部黒褐色	D 6 a5、20.90 m	—	国版 18 混入
	4	13	縄文土器	鉢	口縁~胴部、5%以下	—	内壁、外傾。口縁部内側寄りに細い沈線を描し、外側にキズミ。外面口縁直下に太沈線。胴部は細かい半節縄文Lを地文に複雑な横走沈線立案。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通	外面灰褐色・黒褐色、内面にふい褐色。器表下浅黄褐色。内部褐色	D 6 a5、20.86 m	—	国版 18 混入
	5	36	縄文土器	小型甕	口縁~胴部、5%以下	—	内壁・内傾する胴部から屈曲して外反・外傾する口縁部。胴部外面に円形浮文。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	内外面黒褐色・灰黄褐色、内部灰褐色	D 6 a6、20.80 m	接合しない、1個、体2片	国版 18 内面炭化物付着。葉付着。混入
	6	12	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内壁気味、外傾。外面粗い燃糸文。粘土紐織上げ表を残す。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・凝灰岩粒微量	普通	外面灰褐色、黒褐色、内面灰黄褐色。内部黒褐色	D 6 a5、20.87 m	—	国版 18 混入

探洞番号	台帳番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第9区	7	18	管状土錘	(4.0)	1.2	0.4	(5.1)	細長い紡錘形。中央付式に最大径。軸線を円孔が貫通	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒微量	良好	にふい黄褐色・灰黄褐色	D 6 a6、20.91 m	—	国版 18 一部欠損、平安時代
	8	33	管状土錘	(4.1)	0.9	0.3	(3.6)	細長いヘチマ形。最大径が一端に寄る。軸線を円孔が貫通	メノウ粒・石英粒・黒色砂粒微量	良好	褐色・灰黄褐色	D 6 a6、20.84 m	—	国版 18 一部欠損、平安時代

採回 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第9回 9	27	石鏃	21	1.5	0.4	0.8	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。凹基無茎、脚部端と側縁は直線的。側縁は均一な距離が連続する丁寧な調整	D 6 a5, 2084 m	—	図版 18 完存。 混入
10	28	石鏃 (24)	14	0.4	(0.9)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。凸基有茎、丁寧な調整だが、側縁の調整距離はやや不揃い	D 6 a5, 2081 m	—	図版 18 一部欠損。 混入	
11	29	石鏃 (39)	17	0.8	(3.0)	チャート	凸基有茎。形は整っているが、側縁の調整距離はやや不揃い。先端の欠損は使用の際の衝撃距離か	D 6 a6, 2080 m	—	図版 18 一部欠損。 混入	
12	34	石鏃	4.8	3.8	0.9	26.4	ホルン フェルス	扁平で不整形円形の礫を利用。両端に切目	D 6 a6, 2085 m	—	図版 18 完存。 混入

③中・近世

第13号溝跡 (SD13) (第3・10回, 第9表, 図版5・6・18)

位置 第28号トレンチ東区, C 6 i 5 i 6 区に所在する。S I 12の遺構確認中に確認した。

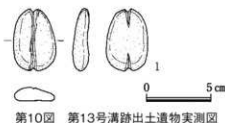
規模と形状 第28トレンチを南北に横切る形でトレンチ外に延び、プランが確定できないが、東西の外形線が直線的で平行し、収束する様相が見えないため、土坑ではなく溝と判断した。確認面での幅は48～50cmである。トレンチ北壁際にサブトレンチを掘り、形状や覆土の状態を確認したが、深さは掘り込み面から18cmで、底面はSI12の覆土中にあり、断面は浅いU字形を呈している。

重複関係 S I 12を掘り込んでいる。

土層 覆土は単一層で、褐色がかかった粘土質の土である。土器細片や礫をやや多く含む。レンズ状堆積ではなく、人為的に埋め戻された可能性が高い。

土層解説

- 1 灰黄褐色 (10YR 4/2) ローム粒子少量、締りやや弱、粘性中、土器細片・小礫少量を含む



第10回 第13号溝跡出土遺物実測図

遺物 確認面やサブトレで掘り込んだ覆土中からは土器片19点、石器・剥片等2点が出土している。うち、確認面で出土した石鏃1点を掲載する。形状からは縄文時代のものと思われる混入品である。

所見 覆土の状態とその類例から、中・近世の遺構と考えられる。

第9表 第13号溝跡出土遺物観察表

採回 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第10回 1	1	石鏃	4.9	3.3	1.3	23.4	砂岩	扁平で不整形円形の礫を利用。両端に切目。正面は切目が連続して溝状	C 6 i 6, 20.76 m	—	図版 18 完存。 混入

④時期不明

第198号土坑 (SK198) (第3図, 図版5)

位置 C6h5区に位置する。第28トレンチ西部のサブトレのセクションを検討していて、II B層が確認できないことから存在に気が付いた。サブトレ北壁のほか、サブトレの南側でS I 12と重複する形で遺構確認面でも確認された。

規模と形状 セクション面の南側で平面形の1/4ほどが検出された状況である。そこからは不整形楕円形または隅丸長方形が想定できる。現状で東西93cm, 南北36cm, 深さは44cmである。

重複関係 S I 12を掘り込んでいる。

土層 S I 12の覆土よりロームや土器片の交じりが少ない。3層に分層でき、レンズ状をなすことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 (10Y R 3/2) ロームブロック微量, ローム粒子少量, Nt-S微量, 締りやや弱, 粘性やや弱
- 2 暗褐色 (10Y R 3/3) ロームブロック微量, ローム粒子少量, Nt-S微量, 締りやや弱, 粘性やや弱
- 3 暗褐色 (10Y R 3/4) ロームブロック少量, ローム粒子中量, Nt-S微量, 締りやや弱, 粘性やや弱

遺物 上層には縄文土器片が含まれるが細片のみで、下層にはほとんど含まれない。出土状況も本跡に伴う状況ではなかった。図化に基えるものはない。

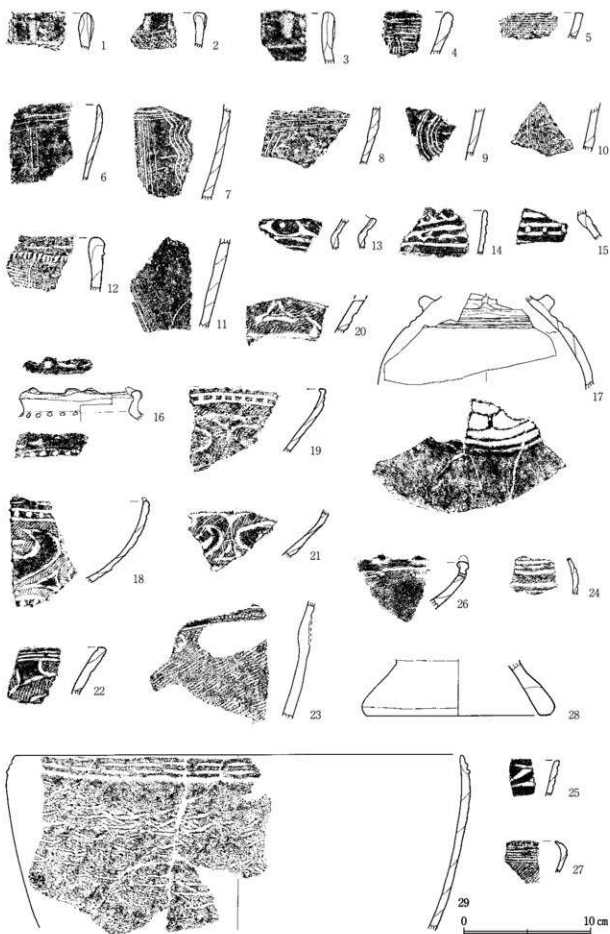
所見 S I 12を掘り込んでいるが、覆土が中世の土坑のような土質でもなく、むしろS I 12に類似することから、縄文時代以降、中世以前といった漠然とした時期の想定しかできない。時期決定できるような遺物の出土もない。時期不明としておく。性格も不明である。

⑤遺構外出土遺物 (第11～13図, 第10表, 図版18～20)

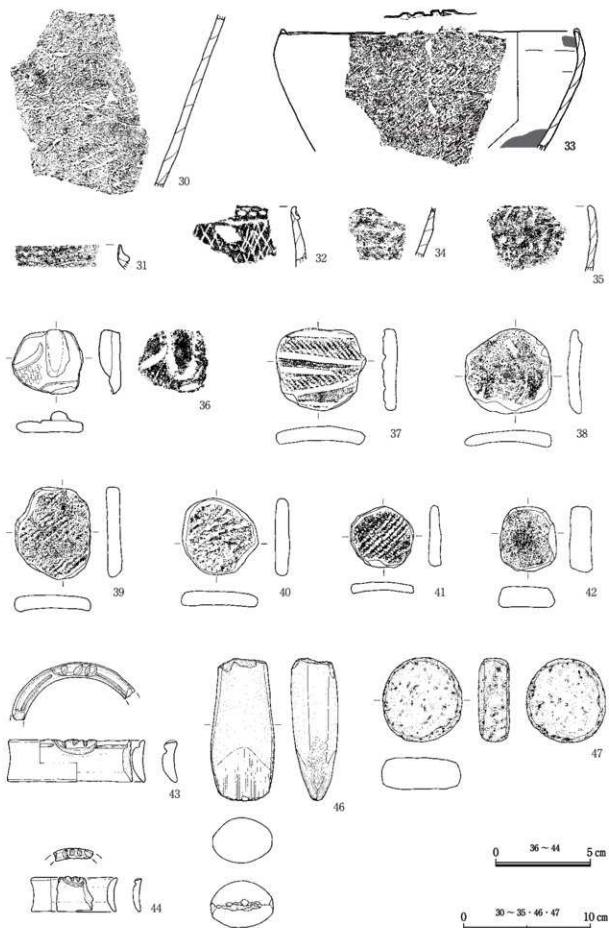
第28トレンチでは土器片・土製品等1,413点, 石器・石製品・剥片等364点, 合計1,777点が出土した。うち、縄文土器片35点, 土製品9点, 石器・石製品8点を掲載する。

(3) 所見

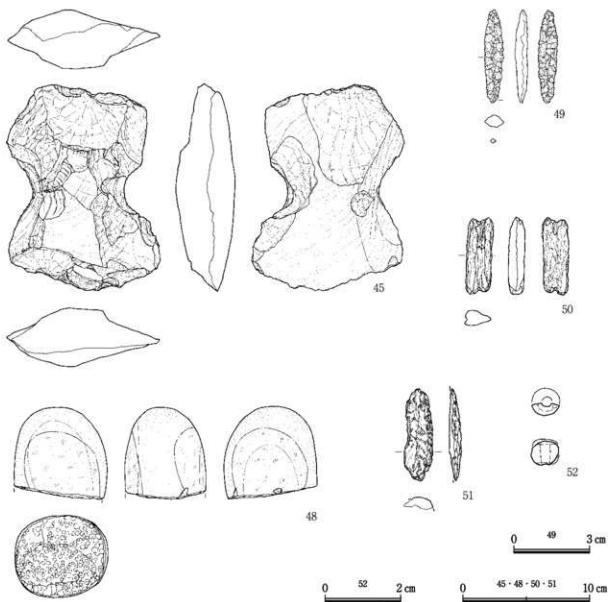
本トレンチ設定の主な目的は、S I 12の東西方向の規模を確定することであった。S I 12の西側は調査区外に延びていて確認できなかったが、東側は確認できた。径3.8～4.5m程度の不整形円形の堅穴住居跡と考えられた。また、S I 12の東側に平安時代の堅穴住居跡S I 27が確認された。第4次確認調査で当遺跡南西部に設定した第22トレンチで平安時代の堅穴住居跡(S I 25)が確認されているが、今回、北西部でも堅穴住居跡が確認されたことにより、当遺跡の立地する低位段丘のほぼ全面にわたり、同時代の集落が展開することが確認された。



第11図 第28トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第12図 第28トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)



第13図 第28トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)

第10表 第28トレンチ遺構外出土遺物観察表

神国番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第11国	1	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内傾。口縁部内外面から粘土を補足して肥厚させ、外面ナデのち連続する指頭圧痕。内面ミガキ。投絞する胴部内面はナデ。粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内部陶灰色	C6j59、一括	—	国版18後期粗製土器
2	12	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内傾。外傾気味。口縁部は粘土を補足して肥厚させ、外面にヘウまたは棒状施工具による圧痕の連続。胴部外面単節縄文RL。施文類は縄文→圧痕内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・灰色砂粒微量	普通	外面にふい褐色。内面黒褐色。内部陶灰色	西区C6b7C II層一括	—	国版18後期粗製土器
3	12	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに外反。内傾気味。口縁部は粘土を補足して肥厚させ、外面に指頭圧痕の連続。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・黒色砂粒微量	普通	内外面にふい褐色。内部陶灰色	西区C6b7C II層一括	—	国版18後期粗製土器

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第11区												
4	130	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内壁気味、外傾。口縁部外面横 文。その下位縦位の条線文。施 文類の一部は横→縦、最後は横 →縦。ただし引き直しがあまり 不明。条線の単位は1部は2 条、その他複数の施文具あり。 内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・チャート 粒・凝灰岩粒・ 黒色砂粒微量	普通	外面灰黄褐色、内面淡黄 褐色、にぶい 黄褐色。内部 褐色	C6j5a、 一括	—	国版18 後期粗製 土器。外 面炭化物 付着
5	3	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内壁・外傾。角縁。外 面施文類に縦位波状・横位・横 位波状の条線文。口縁部外面の 主文様は横位の条線文。条線の 単位は7条。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・褐色砂 粒・海綿骨針 微量	普通	サンドイッチ 状。外面にぶ い褐色。内面 にぶい黄褐色 褐色。内部褐色	東区、 I B層 一括	—	国版18 後期粗製 土器
6	8	縄文 土器	深鉢	口縁部 ～胴部, 5%以下	—	胴部わずかに外反から口縁部わ ずかに内壁、外傾、薄手。口縁 部外面横位の条線文。胴部縦位 の条線文。施文類は横→縦。条 線の単位は横3条、縦2条。内 面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・褐色砂 粒・海綿骨針 微量	普通、 焼け むら	外面にぶい黄 褐色。内面淡 黄褐色、一部 黒褐色(黒 土)。内部褐色	西区、 I B層 一括	—	国版18 後期粗製 土器。外 面一部炭 化物付着
7	88	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	わずかに内壁、外傾。外面上位 に横位の条線文。その下位に 一部重複して縦位直線と縦位波状 の条線文。施文類は直線どうし 横→縦、縦と波状は横→波状 波状→横が混在。条線の単位は 5条以上。施文具は複数の。内 面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・灰色砂 粒・海綿骨針 微量	良好	外面にぶい黄 褐色。内面淡 白色。内部褐 灰色	C 6 f5、 20.78 m	—	国版18 後期粗製 土器。外 面一部(覆 土)に帰属 の可能性
8	6	縄文 土器	深鉢	胴部 (口縁部 下)、5 %以下	—	わずかに内壁、外傾。外面横位 の条線文。その下位縦位のおそ らく波状の条線文。条線の単位 は4条。内面ナデ	やや粗悪。メ ノウ粒中量。 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 黒色砂粒・海 綿骨針微量	良好	外面にぶい赤 褐色。内面・ 内部にぶい黄 褐色	C6f5、 II層、 I B層 一括	—	国版18 後期粗製 土器
9	105	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	内壁気味、外傾。外面斜位と弧 状(おそろ波状の一部)の条 線文。条線の単位は5条。内面 ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・チャート 粒微量	良好	外面にぶい橙 褐色(暗)。内 面にぶい橙褐 色(明)。内部 にぶい黄褐色	東区 孤 張区 D D 6 a5ウ a67、 I B層 一括	—	国版18 後期粗製 土器
10	3	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	内壁気味、外傾。外面縦位の波 状条線文。条線の単位は9条。 内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・褐色砂 粒微量	普通	外面にぶい褐 色。内面にぶ い黄褐色。内 部にぶい橙褐色	東区 C 6 f5、 I B層 一括	—	国版18 後期粗製 土器
11	93	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	直線的、外傾。外面斜位と弧状 (波状の一部)の条線文。条 線の単位は斜位が5条以上。弧 状が3条以上。施文具は複数の。 内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒微量	普通	外面にぶい橙 色・黒褐色に ぶい褐色。内 面にぶい橙褐 色・内面褐色。 内部褐色	C 6 f5、 20.81 m	—	国版18 後期粗製 土器
12	42	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内壁気味、わずかに内傾。口縁 部に内側から粘土を補足し肥厚 させる。外面へう状施文具の角 で右下がりの連続突起。その下 位横→縦の細い沈線。内面ナデ。 内外面熱然により器表荒れ	やや粗悪。メ ノウ粒中量。 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 褐色砂粒微量	二次 焼成	外面橙褐色、 にぶい褐色。内 面にぶい橙褐 色・淡黄褐色。 内部褐色	西区 C 6 b6、 C 20.81 m	—	国版18 後期?
13	6	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内傾から屈曲して外傾。精製土 器。波状口縁。頂部(欠損)下 位に孔を穿ち、左右対称向す る三文文。孔は径が4mmで貫通 せず。深さ2mm。その下位横走 波状2条。内外面ミガキ。胴部内 面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・海綿骨 針微量	良好、 堅固	サンドイッチ 状。内外面に ぶい赤褐色。 内部灰褐色	C6f5、 II層、 I B層 一括	—	国版18 晩期前葉 ・実行系
14	10	縄文 土器	小型 深鉢	口縁部, 5%	—	わずかに内壁、わずかに外傾。 外面羊歯状文。口縁部は羊歯 状文の一部が突起を作る。下位 に横走沈線2条。内面ナデ。一 部ミガキ状。周縁は破断面滑ら か。何かに再利用か	やや精良。メ ノウ粒・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒 微量	普通	内外面にぶい 褐色。外面に 一部黒色。内 部にぶい黄褐色	西区、 I B層 一括	—	国版18 晩期前葉 ・大洞 C 式
15	110	縄文 土器	壺	胴部～胴 部、5% 以下	—	内壁・内傾する胴部から屈曲して 上方に向かう頸部。頸部に横 走沈線1条。胴部に現状で3条 の横走沈線。1～2条間を先端 の丸い棒状施文具でキザミ(2 溝間の数珠)。外面ミガキ。頸 部内面ミガキ。胴部内面ナデ。 一部粗いミガキ	やや精良。メ ノウ粒・石 英粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒・ 海綿骨針微量	良好、 堅固	外面にぶい褐 色・黒褐色。内 面に褐色。器 表下にぶい黄 褐色。内部 灰褐色	D6a5エ ・a6f、 I B層 一括	—	国版18 晩期前葉 か

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第11区												
16	103	縄文 土器	壺	口縁～ 頸部、 5%以下	19.2 (2.7)	内傾する胴部から屈曲して外傾する口縁部。肩部は再度屈曲して内傾。肩部には2個1単位突起を付ける。単位は不明。突起の左右は口縁がやや張り出し、上面は多角形状。胴部・面先の丸い棒状粘土具で連続削突。内外面ミガキ。	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・凝灰岩針微量	良好	外面にふい褐色・褐色色、内面灰褐色、内部褐色色。	東区 拡張区C6 J5・J6・ D6 a5・ a6、I B層一括	—	国版19 晩期前葉か
17	31	縄文 土器	壺	肩～胴 部、10%	(7.5)	内側、内傾。球形の胴部から肩部で外反に移行。横割。肩部外面中央に突起をもつ幅広い眼輪状文、その下に横走沈線3条。肩部外面丁寧なミガキ。胴部外面ミガキ。内面ナデ。	メノウ粒少量、メノウ粒・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	外面 灰青褐色・黒褐色、内面・内部褐色色。	西区 C6 h5、 20.85 m	5片	国版19 晩期後葉
18	33	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 10%	—	薄手、精巧。内側、大きく外傾。口縁端部に突起。外面横走沈線2条。間に先の丸い棒状粘土具で連続削突。胴部外面単節縄文LRを地文に磨り消し技法によりメ字状の文様を表現。形去はやや深い。その下に口縁部同様の横走沈線と削突。内面丁寧なミガキ。	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。器表下内面褐色色。	西区 C6 h5、 20.88 m	—	国版19 晩期中葉・ 大淵C1式
19	8	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	—	わずかに内側、大きく外傾。口縁端部は内側に突出。口縁部外面横走沈線2条と2箇間の縦眼輪状文。胴部外面単節縄文LRを地文に磨り消し技法によりメ字状文を表現。形去あり。器表荒れ。内面ナデか。	やや粗悪。メノウ粒少量、メノウ粒・石英粒・石英鱗・雲母細粒微量	二次 焼成	外面にふい黄褐色。内面・内部黒色。	西区、 I B層一括	—	国版19 晩期中葉・ 大淵C1-2式
20	108	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%以下	—	内側、内傾。大きく外傾。外面単節縄文LRを地文に横走沈線の下に三叉状文、その下に弧状ないし三叉状の磨り消しを施し、雲形文状の文様を描出。形去はやや深い。内面ミガキ。	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面にふい褐色・赤褐色色、内面灰褐色、一部浅黄褐色。内部褐色色。	C6 j 5 E、I B層一括	—	国版19 晩期中葉・ 大淵C1式
21	29	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%	—	内側、大きく外傾。単節縄文LRを地文に磨り消し技法によりメ字状の文様を表現。形去はやや深い。内面ナデ。一部ケズり状。	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・雲母細粒微量	良好	外面黒色、一部にふい黄褐色。内面黒褐色。内部褐色色。	西区 C6 h5、 20.87 m	3片	国版19 晩期中葉・ 大淵C1式
22	110	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	外反・外傾。口縁部外面側に横走沈線3条。その下に単節縄文LRを地文に磨り消し技法により雲形状の文様を描出。形去は浅い。内面ミガキ。	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面にふい黄褐色。内面・内部褐色色。	D6 a5 E、a6 一括	—	国版19 晩期中葉・ 大淵C2式
23	20	縄文 土器	深鉢	頸～胴 部、5% 以下	—	内側・外傾する胴部から緩やかに屈曲して外反する頸部。頸部外面に細い棒状粘土具による連続削突。上下に横走沈線。胴部単節縄文LRを粗く施文。内面ナデ。	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・黒色砂粒微量	やや不良、 焼き甘い。 二次 焼成	外面灰褐色、外面器表下褐色色。内面・内部灰黄色。	西区 C6 h5、 20.85 m	—	国版19
24	13	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	—	内側、わずかに内傾。肩部をわずかに欠損。肩部に小突起か。外面部表荒れ。縄文(詳細不明)を地文に横走沈線・短沈線を施文。内面ナデ。	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	やや不良	外面灰褐色色、内面黒褐色色。内部褐色色。	C6 h5 U、一括	—	国版19 晩期中葉か
25	130	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	—	外反気味。外傾。薄手。角縁。外面ナデにより無文のところに太い沈線で三叉状・弧状の文様を描く。内面ナデ。	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒微量	良好	内外面 灰褐色・にふい褐色色。内部褐色色。	C6 j 5 U、一括	—	国版19 晩期
26	3	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内側、外傾。口縁端部を内側に屈曲させ、突起を付す。外面横走沈線1条、部分削こ2条。突起下に径2mmの焼成前草孔。環状で2か所。外面粗いミガキ。内面ナデ。	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒微量	普通	外面 灰青褐色色。内面黒褐色色。器表下浅黄褐色。内部黒色。	東区、I B層一括	—	国版19 晩期
27	3	縄文 土器	小型 鉢	口縁～ 胴部、 5%	—	わずかに内側・外傾する胴部から強く内傾して内傾する口縁部。薄手。口縁端部にわずかに深いキザミと浅いキザミを交互に入れ、深いキザミ間は2個1単位突起状。外面に細い横走沈線7条を施し、1～2条間、4～5条間に細かいキザミ。胴部外面細かな単節縄文LR。内面ミガキ・黒色処理。	やや精良。メノウ粒少量、石英細粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	胴部外面黒褐色。口縁部外面・内面・内部黒色。	東区、I B層一括	—	国版19 晩期

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第11区												
28	56	縄文土器	台鉢	脚台部、5%以下	— (4.4)	内壁欠味、内傾。分厚い。現存上端は鉢部に移行する様相。内外面ナデ	やや粗悪。メノウ粒少量、石英粒・石灰質・凝灰岩質・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通	外面灰白色、内面灰黄色、内部黒褐色	東区 C 616、20.85 m	—	国版19時期不明
29	41	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、10%	[35.4] (13.7)	内壁外傾する胴部からわずかに内傾する口縁部。複合口縁。外面に2条1組の横位の短沈線。胴部外面粗い網目状凹凸器文が寛れ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面褐色、にぶい黄褐色、浅黄褐色、黒褐色、内面にぶい黄褐色、内部褐色	西区 C 616、20.86 m	8片	国版19晩期粗製土器
第12区												
30	24	縄文土器	深鉢	胴下半部、10%	— — —	内壁欠味、外傾。外面網目状凹凸文、内面ナデ。下約1/3は熱によるスス切れ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・凝灰岩質・チャート粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	やや不発ぎ甘い、二次焼成	外面黒褐色、下位1/3浅黄褐色・褐色、内面にぶい褐色。下位1/3浅黄褐色。内部褐色	西区 C 616、20.91 m	5片	国版19晩期粗製土器
31	5	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	内傾。複合口縁。内面に粘土補足。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面黄褐色、内部褐色	西区、IB層一括	—	国版19晩期粗製土器。内外面一部炭化物付着
32	82	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	— —	わずかに内壁、わずかに内傾。複合口縁。口縁部外面棒状沈線。具による連続刺突。胴部外面網目状凹凸文。内面ナデ、一部マガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒微量	良好	内外面黒褐色、内部褐色	C 616、20.86 m	—	国版19晩期粗製土器
33	37	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、20%	[23.4] (9.6)	わずかに内壁・外傾。縦やかに屈曲して口縁部で内傾。口縁部B突起現状2個1単位。外面縄文(単節縄文LRか)。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	外面灰褐色、黒褐色、内面、内部黒褐色	西区 C 616、20.87 m	4片、124同一個体12片断片多数	国版19晩期粗製土器。内外面一部炭化物付着
34	71	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	— —	内壁欠味、外傾。外面成形のための指痕圧痕。外面粘土組織上げ痕を残す。一部粘土線をリング状にする接合痕も残る。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面にぶい褐色。外面部表下・内面褐色、内部浅黄褐色	C 616、20.77 m	—	国版19晩期粗製土器。S112(覆土)に腐層の可能性
35	3	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	内壁、外傾から口縁部で内傾。角縁。無文。内外面ナデ。粘土組織上げ痕を残す	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒微量	普通	外面にぶい赤褐色。表面にぶい黄褐色。内部褐色	東区、IB層一括	—	国版19粗製土器。外面上げ痕付着

検出番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第12区													
36	104	土器片円盤	3.4	3.7	—	11.6	隆帯の付いた土器片を利用。周縁の一部を研磨して不整形円形に調整。厚さ1.1cm	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩質・海綿骨針微量	良好	正面にぶい赤褐色。表面黄褐色。器表下明赤褐色。内部灰赤色	東区 拡張区 C 615エ・16イ、I B層一括	—	国版20完存
37	92	土器片円盤	4.3	4.7	—	16.8	土器片の周縁を折断して成形。一部研磨調整。不整形円形。土器は単節縄文RLを地文に横走沈線と斜位の突起沈線で区画。一部磨り消し。晩期前葉(安房型a式)	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩質・海綿骨針微量	良好	正面にぶい黄褐色。表面黄褐色。内部褐色	C 616、20.79 m	—	国版20完存
38	106	土器片円盤	4.5	4.6	—	14.6	無文の土器片を利用。周縁を研磨して不整形円形に調整。厚さ0.9cm	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩質・凝灰岩質・黒色砂粒微量	普通	正面にぶい赤褐色・黒褐色。表面、内部褐色	東区 拡張区 C 615エ・a 6イ、I B層一括	—	国版20完存
39	68	土器片円盤	4.9	4.0	—	17.5	縄文(器面荒れで詳細不明)を施した土器片の周縁を折断して成形。一部研磨調整。不整形円形	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒・凝灰岩質・海綿骨針微量	やや不良	正面にぶい赤褐色。内部褐色	東区 C 616、20.80 m	—	国版20完存。S112(覆土)に腐層の可能性

第3章 第3節 遺構と遺物

神国 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第12区	40	土器 片円盤	41	4.0	—	140	縄文(器面荒れて詳細不明)を施した土器片の周縁を折断して成形。全周研削調整。不整形円形。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	やや良。焼き甘い。	正面・裏面・内部とも深い黄褐色。	西区 C6167、I層一括	—	国版20 完存
	41	土器 片円盤	32	3.4	—	7.4	単筋縄文LRを施した土器片を折断して成形し、一部研削調整。不整形円形。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通	正面・内部灰褐色。表面に深い褐色。	東区、I層一括	—	国版20 完存
	42	土器 片円盤	35	3.0	—	150	厚手で無文の土器片を利用。周縁を折断して成形し、ほぼ全周を研削調整。不整形円形。	メノウ粒中量、石英粒・黒色砂粒・灰色砂粒微量	普通	正面褐色。裏面黒褐色。内部部明赤褐色。	東区、I層一括	—	国版20 完存。 裏面炭化物 付着
	43	耳飾	外径 [7.4]		内径 [5.8]	(143)	腕状で断面が反った、いわゆる滑車形(鼓形)耳飾。大型。内面の外側にキギミを入れた突起状の装飾を付け、装飾の間は細い沈線で繋ぐ。破断面付近で沈線が切れることからその先に同様の装飾が付く、その間隔から4単位の間隔が付くものと推定される。	やや精製。メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	内外面灰褐色。に深い褐色。内部褐色。	東区 拡張区 C615-j6、D6 a5-a6、I層一括	2片	国版20 一部残存
	44	耳飾	外径 [4.6]		内径 [3.6]	(15)	腕状で断面が反った、いわゆる滑車形(鼓形)耳飾。中型。内面の外側にキギミを入れた突起状の装飾を付ける。単位は不明	やや精製。メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	内外面に深い赤褐色。内部灰赤色。	C615エ、I層一括	—	国版20 一部残存

神国 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第13区	45	打製 石斧	16.2	12.0	4.7	813.5	ホルンフェルス	分銅形。大型の割片状礫を利用。主に正面側に大きな割縁を入れ成形。さらに挟り部と刃部にやや小さな割縁を入れて調整。両面、特に裏面に自然面をこす	西区 C615、20.89m	—	国版20 完存
第12区	46	磨製 石斧	(11.2)	5.0	3.7	(330.0)	砂岩	両方(船方)で断面角形のいわゆる乳棒状石斧。基部欠失。折断面分は角を取るように割縁と研削。刃部と刃部両側縁には最打痕。最石に転用	西区 C616、20.93m	—	国版20 一部欠損
	47	磨石	6.6	6.3	2.5	157.0	多孔質安山岩	扁平な礫を利用。周縁を磨って円盤状に整形。表面及び周縁を使用	東区、I層一括	—	国版20 完存
第13区	48	磨石	(7.2)	7.4	6.5	(497.0)	砂岩	硬砂岩の礫を利用。正面と裏面に広い磨面。磨面は平滑で光沢をもつ。中央付近で折断。破断面周縁は研削によりわずかながら角が取れ、破断面の一部突出部は摩耗。破断面も若干使用か	西区 C616、20.88m	—	国版20 一部欠損
	49	石鎌	3.7	0.8	0.5	1.3	黒色頁岩	無頭。割片を利用し、両側縁から丁寧な調整磨削。表面の中央部に素材時の割断面が残る。胴部、刃部とも断面はほぼ変形。刃部先端使用痕(摩耗)顕著	東区 拡張区 C615エ-j6、I層一括	—	国版20 完存
	50	石鎌	6.1	2.1	1.3	25.5	珪化木	厚板状の礫を利用。両端に磨りによる切目を入れる	西区 C616、20.92m	—	国版20 完存
	51	石剣 未成品	(7.2)	(2.3)	(1.0)	(136)	粘板岩	敲打調整段階の未成品。断面が扁平になる様相から石剣と推定	東区、I層一括	—	国版20 一部残存
	52	小玉	(0.6)	径0.7	—	(0.1)	ヒスイ	丸玉。緑色。中央に貫通孔。孔径2.5mm。片面からの穿孔	西区 C615、20.88m	—	国版20 一部残存

3 第29トレンチ

(1) 調査概要 (第14図)

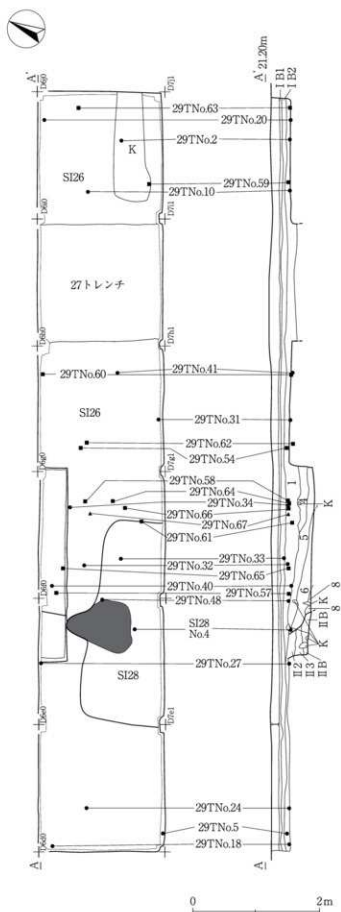
第11表、図版6・7)

第29トレンチは、第4次確認調査で設置した第27トレンチにおいて確認された第26号堅穴住居跡 (S I 26) の形状・規模等を確認するため、第27トレンチに直交させて設定した。第27トレンチは南北方向、第29トレンチは東西方向のトレンチである。調査の結果、S I 26の西側プランを確認し、その付近で第28号堅穴住居跡 (S I 28) を新たに検出した。遺構の内訳は第11表のとおりである。なお、第29トレンチの、第27トレンチを挟んで西側を西区、東側を東区と称している。

土層の堆積状況は基本的に他のトレンチと変わりはないが、図中、S I 26を覆うように堆積する第1層は基本土層に含まれない土層であるので、これについて解説しておく。第4次確認調査の第27トレンチで見られた層であり、報告書Vで第1層とした層の連続であるので、名称もこれを踏襲する。

土層解説

- 1 灰褐色 (7.5YR 4/2)
 ローム小ブロック少量、
 ローム粒子少量、締まり
 中、粘性中



第14図 第29トレンチ実測図

第11表 第29トレンチ確認遺構総括表

時期\遺構の種類	竪穴住居跡	土坑	その他
縄文時代	SI26		
奈良・平安時代	SI28		
中・近世			
その他・時期不明			

(2) 遺構と遺物

① 縄文時代

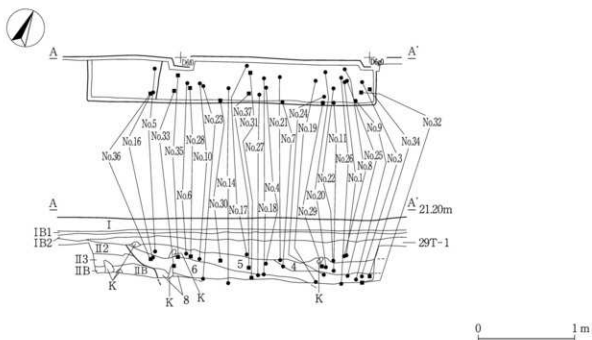
第26号竪穴住居跡 (S I 26) (第14～17図, 第12表, 図版7・21・22)

位置 D610区からD610区にかけて位置する。

規模と形状 第4次調査で第27トレンチにおいて南北9.6mと確認され、10m前後の円形と推定されている。今回の調査では、西壁がサブトレンチ内で立ち上がることが確認された。東側はトレンチを地境近くまで設定していたが、農業用水のパイプが埋設されていることもありトレンチを延長することができず、外形線はトレンチ内では捉えられなかった。結果、東西8.46m以上であることが判明した。平面形は確認していないが、第4次確認調査での円形との推定に変更はない。

重複関係 西部をS I 28に掘り込まれている。

土層 今回の調査ではトレンチ北壁に沿ってサブトレを入れている。サブトレではS I 26の覆土が確認された。調査区が第4次確認調査時の調査区と連続している訳ではないが、覆土は連続している可能性が高く、報告書Vでの名称を踏襲し、第4～6・8層とした。



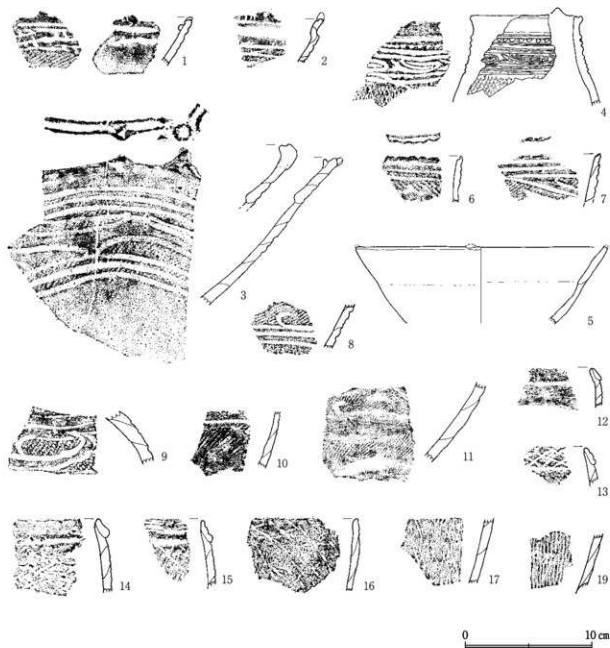
第15図 第26号竪穴住居跡遺物出土状況図(西区サブトレ内)

土層解説

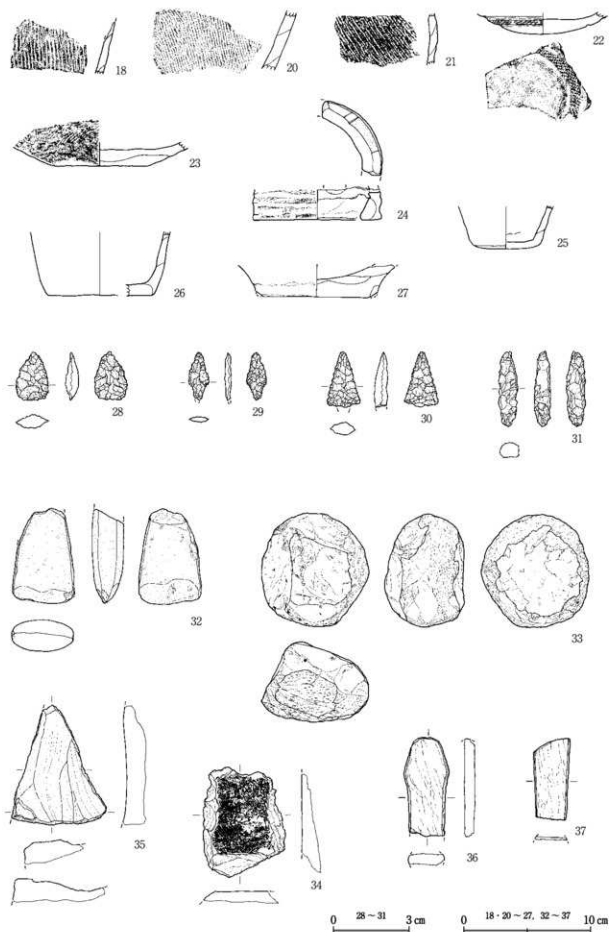
- 4 暗褐色 (7.5YR3/4) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 小礫少量, 骨片少量, 締まり中, 粘性中
 5 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 締まりやや強, 粘性中
 6 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, Nt-S微量, 締まりやや強, 粘性中
 8 褐色 (7.5YR4/3) ローム小ブロック少量, ローム粒子多量, Nt-S微量, 締まりやや強, 粘性中

遺物 土器片558点, 石器・石製品・剥片等100点, 骨片18点, 合計676点が出土している。うち, 縄文土器片27点, 石器・石製品10点を掲載する。多くはサブトレの中からの出土である。

所見 第4次調査で径10m前後と大型であることが推測できたが, 今回の調査でさらに東西の規模が8.46m以上と判明し, 大規模な住居跡であることがより確実となった。時期については, 第4次調査で大型破片が床面直上から出土しこれにより縄文時代晩期前葉と考えたが, 今回の調査でこれに変更はない。



第16図 第26号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)



第17図 第26号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)

第12表 第26号竈穴住居跡出土土物観察表

神国 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第16区												
1	503	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内側気味、外傾。口縁端部にB突起(半分欠失)。内面端部に隆線。外面単節縄文LRを地文に口縁部下半周状文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒・黒色砂粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通	外面浅黄褐色。内面にふい黄褐色。内部明褐色。	D6 f0 サブトレ下部, 20.73m	—	図版21 晩期中葉・大洞C2式
2	508	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内側・外傾する胴部から屈曲して外反・外傾する口縁部。内面に段を持つ肩部にB突起を付ける。胴部外面ミガキ。胴部外面単節縄文LR(?)を地文に横走沈線2条とその下位斜位の沈線1条。外面器表荒れにより詳細不明。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・凝灰岩粒・暗赤褐色顔料・暗赤褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘い	外面淡褐色・黒褐色。内面灰褐色・黒褐色	サブトレ下部一括	—	図版21 晩期。わずかに炭化物付着
3	560	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部, 20%	—	内側、大きく外傾。口縁部内面に隆線を作り肩部に沈線。内形突起とA突起を付す。現状各1か所。外面単節縄文LRを地文に上下を各3条の横走沈線で区別し、その間に弧状沈線を施す。半月状部分や一部沈線間が残し磨り消し。器表荒れにより詳細不明。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・チャート粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘い	外面にふい黄褐色・黒褐色。内面・内部褐色	D6 f0 サブトレ下部, 20.51m	5片	図版21 晩期中葉・大洞C1-2式
4	504	縄文 土器	壺	口縁～ 胴部, 15%	[8.8] (7.1)	内側気味で内傾する胴部から緩やかに外反する頸部。口縁部、口縁部付近は直立。口縁端部には沈線を施し、A突起(欠失)を付ける。内外面ミガキ。胴部外面横走沈線に連続刺突その下位入組み文、三叉文。胴部外面割目状熟赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・チャート粒・砂岩微塵	普通	内外面黒褐色。内部褐色	D6 f0 サブトレ, 20.64m	2片	図版21 晩期中葉・大洞C2式。第4次調査で同一個体1片(報告V p.95, 第81図46)
5	482	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	[19.6] (6.0)	わずかに内側、大きく外傾する胴部から大きく外傾して直線的に立ち上る口縁部。肩部に小さな突起の割痕あり。突起の個数は不明。口縁部外面ヘラナデ一部ミガキ状。胴部外面ナデ。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・凝灰岩粒微量	普通	内外面灰黄褐色。内部褐色	D6 e0 サブトレ, 20.76m	—	図版21 内外面わずかに炭化物付着
6	489	縄文 土器	小型 鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	—	わずかに外反、わずかに外傾。口縁端部近くで外側に屈曲させ、内側には段。上段は外傾からの連続刺突により小波状。外面縄文(単節縄文LR)を地文にして上部に横走沈線2条。下部は磨消線か。器表荒れで詳細不明。内面ナデか	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	激しい2次焼成	内外面・内部にふい黄褐色。内面一部黒色	D6 f0 サブトレ, 20.75m	—	図版21 晩期
7	531	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	—	内側気味、外傾。口縁端部は内傾ミガキに外傾からの連続刺突により小波状。外面単節縄文LRを地文に横走沈線3条。磨り消し技法による入組み文。内面丁寧ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒微量	普通	外面明褐色。内面淡褐色。内外面一部と内部褐色	D6 f0 サブトレ下部, 20.60m	—	図版21 晩期中葉・大洞C1-2式
8	502	縄文 土器	鉢	胴部, 5%以下	—	内側気味、外傾。外面単節縄文LRを地文に横走沈線3条とそこから上方に弧状沈線2条。器表荒れ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒・黒色砂粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	やや不良、焼き甘い	外面浅黄褐色。内面にふい黄褐色。内部明褐色。	D6 f0 サブトレ, 20.72m	—	図版21 晩期中葉・大洞C2式
9	558	縄文 土器	壺	胴部, 5%	—	内側、内傾。外面単節縄文LRを地文に横走沈線2条。胴部外面に区画。楕円形区画などを残し磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	内外面にふい黄褐色。内部明褐色	D6 f0 サブトレ下部, 20.47m	—	図版21 時期不明
10	491	縄文 土器	小型 鉢	胴部下 手, 5%以下	—	わずかに内側、外傾。単節縄文LRを地文に横走沈線2条(現存上端の1条は分りづら)。器表荒れで詳細不明。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒微量	激しい2次焼成	内外面明褐色。内部淡黄褐色	D6 f0 サブトレ, 20.69m	2片	図版21 晩期
11	546	縄文 土器	浅鉢	胴部, 5%以下	—	わずかに内側、大きく外傾。外面単節縄文LRを地文に磨り消し技法で内傾円状の文線を描き、十字状の磨り消しを派生させる。形跡はほとんど見られない。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・雲母細粒・チャート粒・凝灰岩粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面淡黄褐色。内部褐色	D6 f0 サブトレ下部, 20.56m	—	図版21 晩期中葉・大洞C2式

第3章 第3節 遺構と遺物

探検番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第16図	12	508	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内壁、内傾。複合口縁。外面無文(ナデ)。粘土層積上げ痕を残す。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・薄緑骨針微量	普通	外面灰褐色、黒褐色。内面にふい、褐色。内部褐色	サブトレ下一括	—	図版21 晩期粗製土器
13	565	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内壁気味、わずかに内傾。複合口縁。口縁部と胴部外面に刷目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒・メノウ礫少量、石英粒・凝灰岩粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面にふい、黄褐色。内部褐色	サブトレ下部一括	—	図版21 晩期粗製土器	
14	515	縄文土器	深鉢	口縁・胴部、5%以下	—	内壁、内傾。複合口縁。口縁部外面指頭圧痕。胴部外面刷目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・薄緑骨針微量	やや不良、焼き甘い	外面黒褐色にふい、褐色。内面にふい、褐色。内部灰褐色	D6f0サブトレ下部、20.44m	—	図版21 晩期粗製土器	
15	565	縄文土器	深鉢	口縁・胴部、5%以下	—	わずかに内壁、わずかに内傾。口縁部でわずかに外反。複合口縁。外面2条ずつの短沈線文。胴部外面刷目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・薄緑骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面にふい、褐色。内部褐色	サブトレ下一括	—	図版21 晩期粗製土器	
16	484	縄文土器	深鉢	口縁・胴部、5%以下	—	わずかに内壁、わずかに外傾。外面粗い刷目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・灰色砂粒・凝灰岩粒微量	普通	外面灰褐色。内面にふい、褐色。内部灰褐色	D6f0サブトレ下部、20.70m	—	図版21 晩期粗製土器	
17	506	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内壁気味、外傾。外面刷目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	普通	外面灰褐色。内面にふい、褐色。内部黒褐色	D6f0サブトレ下部、20.73m	—	図版21 晩期中量・大割C2式。外面炭化物付着	
第17図	18	520	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内壁気味、外傾。外面燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・薄緑骨針微量	やや不良、焼き甘い	外面灰黄褐色。内面浅黄褐色	D6f0サブトレ下部、20.53m	—	図版21 晩期。№19と同一個体か
第16図	19	549	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内壁気味、外傾。外面燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・薄緑骨針微量	やや不良、焼き甘い	外面灰黄褐色。内面浅黄褐色	D6f0サブトレ下部、20.43m	—	図版21 晩期。№18と同一個体か
第17図	20	543	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内壁気味、外傾。外面燃赤文。内面丁寧なナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒微量	良好、一部焼けむら	外面黄褐色。一部褐色。内面にふい、黄褐色	D6f0サブトレ下部、20.59m	—	図版21 晩期
21	497	縄文土器	鉢	胴部(胴部下)、5%以下	—	内壁、わずかに外傾。外面粗い燃赤文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・凝灰岩粒・薄緑骨針微量	良好	内外面・内部とも黒褐色	D6f0サブトレ下部、20.68m	—	図版21 晩期	
22	501	縄文土器	浅鉢	底部、20%	(1.7) [8.0]	丸底から胴部が内壁しつつき外傾して立ち上がる様相。外面単節縄文LRを地文に現存し部に磨り出し(文母不明)。底部磨り出し。彫去・ミガキによる胴部との間に段。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・凝灰岩粒微量	良好	内外面・内部とも灰白色	D6f0サブトレ下部、20.67m	—	図版21 晩期	
23	512	縄文土器	浅鉢	底部、5%以下	(1.9) [7.0]	平底から胴部が大きく外傾して立ち上がる。底は粘土板2~3枚貼り合わせ。内外面ナデ。底面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒中量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	二次焼成	外面灰黄褐色。内面にふい、黄褐色。底部黒褐色。内部黒褐色	D6f0サブトレ下部、20.48m	—	図版21 時期不明	
24	547	縄文土器	台付鉢	脚台部、5%以下	(2.4) [10.0]	わずかに内壁。ほぼ直立する様相。透孔が現状で2か所。外面単節縄文LRを地文に横走比喩2条で区画し。最下部は磨り消し。彫去はほとんど見られない。底面に植物の茎状の圧痕。内面ナデ。粘土層積上げ痕を残す	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	普通、焼けむら	外面にふい、黄褐色。内面にふい、褐色。内部褐色	D6f0サブトレ下部、20.51m	—	図版21 晩期	
25	555	縄文土器	小型深鉢	胴・底部、10%	(3.4) [5.2]	丸底気味の底部から外反気味に外傾して立ち上がる胴部。内外面・底部ともナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面黒褐色。内面黒褐色。内部灰褐色	D6f0サブトレ下部、20.52m	—	図版21 晩期中量・大割C1C2式	

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第17区												
26	563	縄文土器	小型深鉢	胴～底部, 10%	— (5.0) [8.2]	平底から外傾して胴部が立ち上がる。内外面・底面ナデ	メノウ粒少量、メノウ塵・石英粒・凝灰岩粒微量	二次焼成	外面にぶい赤褐色、にぶいオレンジ色、内面にぶい橙色、黒褐色、内部黒褐色	D6f0 サブトレ下部, 30.42 m	3片、ほか同一体1片	図版22 時期不明、内面にわずかに炭化物付着
27	528	縄文土器	深鉢	底部, 5%以下	— (2.6) [9.2]	平底から胴部が大きく外傾して立ち上がる。底は粘土板2～3枚貼り合わせ、外側に粘土補足。外面無赤土、内面ナデ。底面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒中量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	二次焼成	外面灰黄褐色、内面にぶい赤褐色、底内面黒灰色、内面黒褐色	D6f0 サブトレ下部, 20.52 m	—	図版22 時期不明

検出番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第17区											
28	490	石鏃	19	1.3	0.5	1.2	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。平基無茎、丁寧な調整をするも一部に厚みが残る	D6f0 サブトレ, 20.72 m	—	図版22 完存
29	545	石鏃	(19)	0.8	0.3	(0.3)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。凸基有茎、小型。	D6f0 サブトレ下部, 20.60 m	—	図版22 一部欠損
30	513	石鏃	(22)	1.4	0.5	(1.1)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。平基有茎、丁寧な調整。縦線は顕著な縦曲線	D6f0 サブトレ下部, 20.67 m	—	図版22 一部欠損
31	518	石鏃	3.0	0.7	0.8	1.7	メノウ	自然面と風化した古い剥離面をもつことから剥片石器を再利用した可能性。断面不整形。先端に使用痕	D6f0 サブトレ下部, 20.48 m	—	図版22 完存
32	564	磨製石斧	(7.5)	4.9	2.5	(147.0)	砂岩	頭部欠損。定角式。頭部から刃部に向かって幅を増す。全面研磨調整。両刃。刃部は丁寧な研磨	D6f0 サブトレ下部, 20.42 m	—	図版22 一部欠損、著しく被熱
33	488	砥石	9.0	8.5	6.3	602	片麻岩か	やや扁平で不整形の自然礫を利用。周囲の片麻岩(図裏面側)に寄った部分を一周するように使用。円運動による使用	D6e0 サブトレ, 20.62 m	—	図版22 完形
34	561	砥石	(8.6)	(6.6)	(1.5)	(82.6)	重曹石ホルンフェルス	棒状結晶が顕著なホルンフェルスを利用。片理面を砥面として使用。全体形状不明	D6g0 サブトレ下部, 20.50 m	—	図版22 一部残存
35	487	砥石	(9.4)	(7.5)	(1.8)	(90.8)	砂岩	層状の軟砂岩を利用。表面は泥岩層で、そこで剥離。砥面は正面の4面。うち3面は弧状の溝砥面。玉砥石か	D6e0 サブトレ, 20.72 m	—	図版22 一部残存
36	485	石棒類	(7.8)	3.5	(0.9)	(33.3)	緑色片岩	潤離が激しく残存状態がきわめて悪い。断面積円形か。頭部から緩やかに括れて胴部に接続	D6e0 サブトレ, 20.69 m	—	PL22 一部残存
37	517	石棒類	(6.4)	(2.8)	(0.3)	(6.8)	粘板岩	潤離が激しく、残存状態がきわめて悪い。断面は円形か。一端に向かって幅を減らす。先端部付近か	D6f0 サブトレ下部, 20.60 m	—	図版22 一部残存、著しく被熱で赤変

②平安時代

第28号竪穴住居跡 (S128) (第14・18図, 第13表, 図版7・8・22)

位置 第29トレンチ西端近く、D6e0-f0区に位置する。

規模と形状 北辺は3.2mで、西辺は調査区外に伸びているが、現状で1.30mある。平面形は方形に近いと推定される。主軸方位はN-17°-Wを示す。

竈 確認面で北壁中央付近に砂質粘土ブロックと焼土ブロックが認められ、炭化材小ブロックもわずかながら認められた。南北105cm、東西75cmの三角形形状を呈し、竈と考えられる。煙道部分は北壁外へ38cmほど突出している。

重複関係 北東部で第26号住居跡の西部を掘り込んでいる。

土層 掘り込んでの調査はしていないが、トレンチ南壁に覆土の一部が現れている。確認面付

近の1層だけであり、堆積状況は不明である。Ⅱ層に比してわずかに粘土質で褐色がかり、焼土・砂質粘土小ブロック・土器細片などを含んでいた。土層図は掲載していないが、解説をしておく。

土層解説

- 1 暗褐色(10Y R 3/3) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S微量、砂質粘土小ブロック少量、焼土粒子微量、締まり中、粘性中

遺物 確認面から土器等67点、剥片等4点、合計71点が出土している。土師器・須恵器の小片が竈周辺を中心に出土しているが、図化に堪えるものはない。混入した遺物ではあるが、縄文土器片1点を掲載する。



第18図 第28号竈穴住居跡出土遺物実測図

所見 竈を有する竈穴住居跡である。時期は、土師器・須恵器から平安時代と推定される。

第13表 第28号竈穴住居跡出土遺物観察表

種別 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第18図 1	4	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%	— — —	胴部から屈曲して直線的に外 傾。口縁端部にB突角。外面横 走沈線1条の下に半歯状文。胴 部に磨状の貼り付け。内面ナデ。 一筋ミガキ。薄手	メノウ粒少量、 石葉粒・燧灰 岩粒・雲母類 粒微量	良好	外面にふい黄 褐色。内面に ふい褐色。内 部陶灰色	D 6.0、 20.79 m	—	図版 22 晩期前葉・ 大洲 B C 式。 混入

③遺構外出土遺物(第19～21図、第14表、図版22～25)

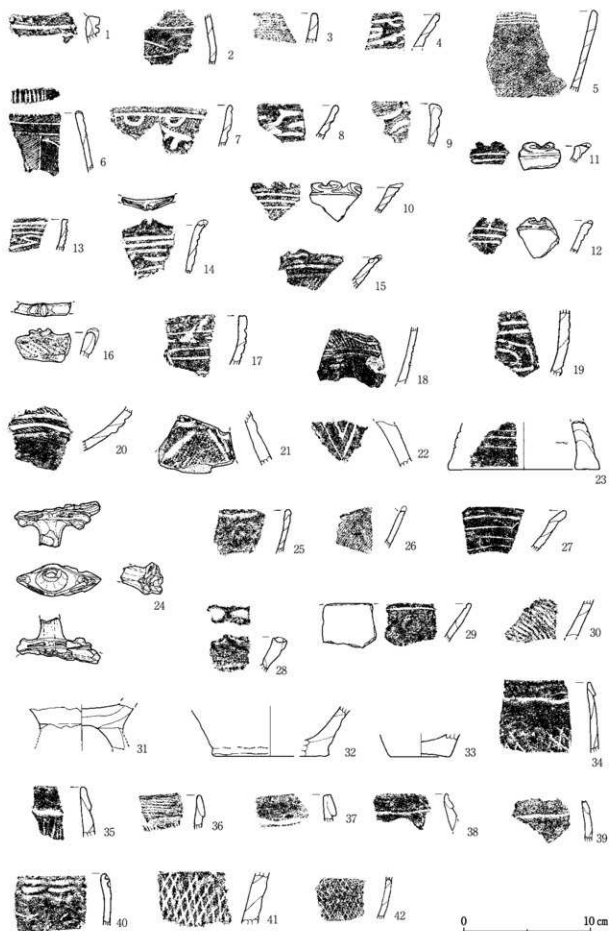
遺構外からは、土器片・土製品等1,880点、石器・石製品・剥片等1,057点、骨片21点、その他5点(鉄滓、ビー玉)、合計2,963点が出土した。うち、土器片等52点、土製品1点、石器・石製品13点、その他2点(鉄滓、切削痕のある動物骨片)、合計68点を掲載する。付章で、バリノ・サーヴェイ株式会社により「加工された痕跡がみられる」とされた資料番号(台帳番号)136(のひとつ)のニホンジカの角については、確かに切削痕が認められるものの、同時性や意図が不明であったため、掲載を見送った。

なお、第27トレンチとの交差部分を再発掘していた際に埋土中から土器細片等81点、剥片等9点、合計90点が出土した。本来第27トレンチ所属の遺物であり、取り上げ等では第27トレンチの遺物として扱っている。しかし、このトレンチは今回の調査対象ではないため、うち陶器1点を便宜的にここで扱う。

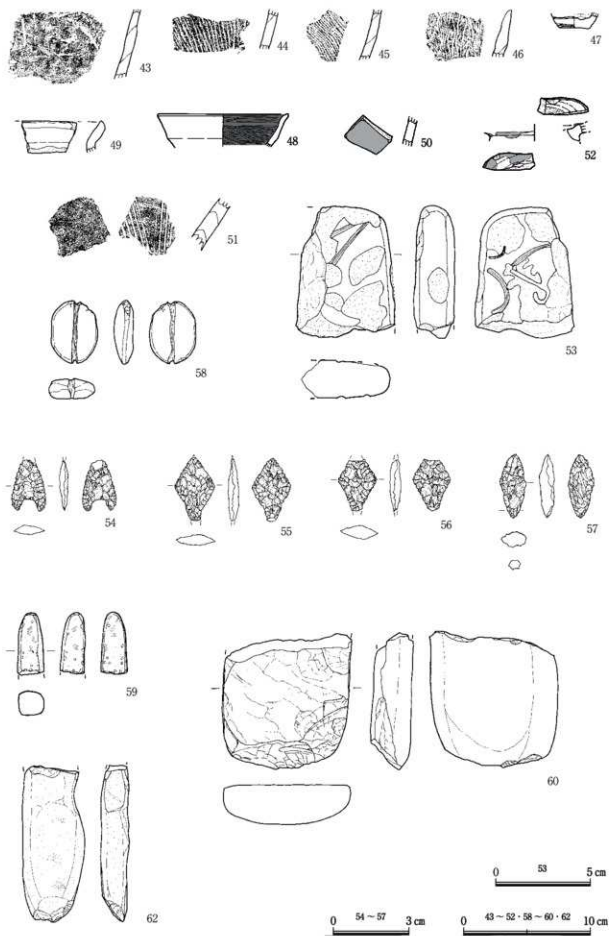
(3) 所見

第29トレンチ設置の主目的は、第4次確認調査で確認された第26号竈穴住居跡(SI26)の東西方向の規模を確認することであった。調査の結果、SI26の西側外形線は確認できたものの、東側は確認できなかった。しかし、東西は現状で8.46mあり、径10m前後の円形という第4次調査での所見を補強する形となった。

また、平安時代の竈穴住居跡1軒(SI28)を新たに検出した。これまで遺跡中・西部での平安時代住居跡の検出は少なかったが、第28トレンチでのSI27の検出を含めて、平安時代集落の遺跡中・西部への分布を物語るデータが増えてきた。



第19図 第29トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第20図 第29 トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)



第21図 第29トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)

第14表 第29トレンチ遺構外出土遺物観察表

採回 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第19区												
1	7	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	波状口縁。分厚い。やや外側ま たの角縁。外面口縁端部に沿っ た2条の結節沈線。施文は左か ら右へ。2条で結節が隔わず。 1条ずつの施文。内外面ナデ	やや粗悪。メ ノウ粒少量。 石英粒・雲母 粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 ・灰 砂粒微量	普通	内外面におい 赤褐色。内面 灰褐色	D6d0。 I B層一 括	—	国版22 中期中葉・ 阿玉台式
2	105	縄文 土器	小型 深鉢	胴部, 5%以下	—	内脣、上位(頸部)で直線的。 わずかに内傾。外面単節横走 LR(竹)を地文に施し沈線には なる張線連結文と横走沈線を施 き。弧線外側を磨り消し。内面 ナデ。頸部内面丁寧なナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	普通	内外面・内面 黒褐色。内面 一部灰褐色	D6f0。 II層。 208lm	—	国版22 後期末葉・ 安行2式
3	32	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内脣。わずかに外傾。 角縁。外面縦位波状のち横位の 糸線文。糸線の単位は5条。内 面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 ・海綿骨針微量	普通	外面におい 赤褐色。内面 おい褐色・灰 褐色	D6g0。 遺構横 断面一 括	—	国版22 後期粗製 土器
4	119	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	外反気味。大きく外傾。口縁端 部に緩やかなB突起。外面半環 状文。内面ミガキ。最下位は外 側にやや屈曲して胴部へ移行す る線相	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	外面におい 赤褐色。内面 黒褐色。内面 灰褐色。内部 灰褐色	D6e0。 II層一 括	—	国版22 晩期中葉・ 大割B C 式
5	35	縄文 土器	小型 深鉢	口縁部・ 胴部, 5%以下	—	わずかに内脣。外傾。薄手。口 縁端部直下外面に細い横走沈線 3条。以下結節を持つ細かい半 節横LR文を施文。一部輪積み 痕が残る。内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	普通	外面におい 黄褐色。内面 内面浅黄色。 内部灰褐色 におい黄褐色	D6d0。 II層。 2090m	—	国版22 晩期前葉・ 大割B C 式か
6	134	縄文 土器	深鉢	口縁部・ 胴部, 5%以下	—	内脣気味。内傾。薄手。口縁端 部の一部にキザミ。外面細密沈 線を地文に横走沈線2条とその 下に縦位・斜位・縦位弧状の 沈線を施し一部を磨り消し。沈 線はいずれも細い。2段目の横 走沈線の一部に細かい連続刺 突。内面ナデ。一部ミガキ	やや精良。メ ノウ粒・石英 粒・凝灰岩粒 微量	良好	外面灰褐色。 内面灰褐色。 内部灰褐色	D6f0。 北側サ ブトレ 一括	—	国版22 晩期前葉・ 安行3b 式
7	24	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内脣。大きく外傾。外面単節横 走LRを地文に横走沈線。半円形 弧状の太い沈線で区画。一部を 磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量。 石英粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒微量	普通	内外面におい 赤褐色。一部 暗赤褐色。内 部褐色	D6f0。 II層一 括	2片	国版22 晩期中葉 か
8	27	縄文 土器	浅鉢	口縁部・ 胴部, 5%以下	—	内脣。大きく外傾。薄手。外面 沈線による人組三叉文状の施 文。内面ナデ	やや精良。メ ノウ粒・石英 粒・凝灰岩粒 ・海綿骨針微量	普通	外面におい 黄褐色。内面 におい褐色。内 部灰褐色	D6g0。 II層一 括	—	国版22 晩期中葉・ 大割C1・ C2式か
9	16	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内脣。わずかに外傾。口縁端部 に粘土を補足しやや角縁風につ くる。外面単節横走LRを地文 に太い沈線と上向き、下向き の弧状文を施出。内面ナデ。一部 ミガキ状	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 ・海綿骨針微量	普通	内外面・内部 灰褐色。内面 黄褐色。内面 黒褐色	D6f0。 I B層一 括	—	国版22 晩期中葉・ 大割C1・ C2式か
10	100	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内脣気味。大きく外傾。口縁端 部内面に肥厚させ。内面ギタに 作り。内面をC字状に作る突起 を付ける。外面横走沈線3条。 内面粗いミガキ	メノウ粒少量。 石英粒・黒色 砂粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	普通	外面におい 褐色。内面黒 褐色。内面灰 褐色	D6f0。 II層。 208lm	—	国版22 晩期中葉・ 大割C2式 か。%11-12と 同一個体の 可能性。 平置き実測
11	21	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内脣気味。大きく外傾。口縁端 部に雲形文状の突起。外面横走 沈線現状で2条。内外面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・黒色 砂粒・凝灰岩 粒微量	普通	外面におい 褐色。内面内 面黄褐色。内 部灰褐色	D6e0。 I B層一 括	—	国版22 晩期中葉・ 大割C2式 か。%10-12と 同一個体の 可能性。 平置き実測
12	12	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内脣気味。大きく外傾。口縁端 部に雲形文状の突起。外面横走 沈線3条。内外面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・黒色 砂粒・凝灰岩 粒・赤褐色砂 粒微量	普通	外面におい 褐色。内面内 面黄褐色。内 部灰褐色	D6e0。 I B層一 括	—	国版22 晩期中葉・ 大割C2式 か。%10-11と 同一個体の 可能性。 平置き実測
13	27	縄文 土器	小型 鉢	口縁部・ 胴部, 5%	—	内脣。外傾。角縁。薄手。精製 外面横走沈線3条。その下に 沈線による人組文。内外面ミガキ	精良。メノウ 粒少量。石英 粒・凝灰岩粒 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面 におい黄褐色。 内部褐色	D6g0。 II層一 括	—	国版23 晩期中葉・ 大割C2式

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第19区												
14	24	縄文土器	小型深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	外反、外傾。口縁部は波状に作り、波頂部へへらによるキザミ。端部には波頂部を除き細い沈線を通らす。外面横走沈線。その下位に先の尖った施文具による連続的沈線。その下位に波状の沈線。一部に縄文のように見える部分があるも不明。内面ナデキ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒、黒色砂粒微量	普通	外面黒褐色、内面・内部灰褐色	D 6 ㎉、II層一括	—	図版23 晩期中葉・大割C2式か。内面一部炭化物付着
15	27	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内彎気味、大きく外傾。口縁部で外反。口縁部内面に細い粘土粒を貼って突出させ、端部に目突起。外面単節縄文LRを地文に浅く太い沈線2条で上部を区画。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐色	D 6 g0、II層一括	—	図版23 晩期中葉・大割C2式か
16	27	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内彎気味、外傾。口縁部を肥厚させ、端部におそらく2個1組の突起を付け、頂部には丸棒状の施文具でいわゆる秩森状のキザミ。口縁部外面単節縄文LRを施文し、下端を横走沈線で区画。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒微量	普通	外面にふい褐色。内面黒褐色。内部褐色	D 6 g0、II層一括	—	図版23 晩期、変行系か。平置き実測
17	20	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	内彎、外傾。角縁。外面横走沈線現状で4条。1～2条間には細い施文具による連続的沈線。3～4条間には地文の縄文(単節縄文LRか、詳細不明)。2～4条付近の現状左端には斜位の沈線。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面灰褐色。内部黒色	D 6 d 0、一括	—	図版23 晩期、変行系か。内面炭化物付着
18	34	縄文土器	小型深鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内彎、外傾。薄手。外面上位単節縄文LRを地文に弧状沈線と横走沈線2条で区画。一部磨り消し。下位ナデ。一部ミガキ状。内面ナデ。外面欠損	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒、黒色砂粒、褐色砂粒微量	良好・二次焼成	外面灰褐色・黒褐色。内面にふい褐色。灰褐色。内部褐色。内部にふい褐色	D 6 d0、II層、30.86m	—	図版23 晩期中葉・大割C2式か
19	27	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。外面横走沈線2条。その下位に沈線による長方形・楕円形の区画文。内面ナデ	精良。メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	内外面にふい黄褐色。内部にふい黄褐色	D 6 g0、II層一括	—	図版23 晩期中葉・大割C2式か
20	111	縄文土器	浅鉢	胴～底部、5%以下	—	内彎、大きく外傾。外面単節縄文LRを地文に上向きに連続的沈線4条を施文し、最下位の沈線内部はミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・凝灰岩礫・黒色砂粒微量	良好、堅緻	外面灰黄褐色。内面黒褐色。内部褐色	D 6 i 0、II層、20.78m	—	図版23 晩期・中期・大割C1-C2式か。S 1 26に帰属(覆土)の可能性
21	17	縄文土器	台付鉢	脚台部、5%以下	—	外反気味、内傾。現状左右に透孔。細いへら状の施文具で切り明け。外面単節縄文LRを地文に、横位・斜位の太い沈線で区画。一部磨り消し。内面ナデ	メノウ粒・褐色砂粒少量、石英粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒微量	二次焼成	外面にふい褐色・灰白色。内部褐色。内部褐色	D 6 g 0、I B層一括	—	図版23 晩期中葉か
22	134	縄文土器	台付鉢	脚台部、5%以下	—	器体直下部分、ハの字状に開く。外面細い沈線による2重のV字状文。現存両側に透孔。孔の形状は正立の三角形か。内面ナデ。一部ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒微量	良好	外面灰黄褐色。内面・内部黒褐色	D 6 f 0、北側サトレ一括	—	図版23 晩期か
23	27	縄文土器	台付鉢	脚台部、5%以下	(37)	内彎、内傾。厚手。外面細い横走沈線3条。現存上端はへら状施文具による透孔。形状不明。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒微量	良好	外面にふい黄褐色。内面褐色	D 6 g 0、II層一括	—	図版23 晩期中葉・大割C2式か
24	42	縄文土器	注口土器	注口部、5%以下	[120]	算盤玉形の器体の後の部分に孔を開け、斜め上方を向く注口部を付ける。その基部を上下から粘土粒を忠実に成形の台座状に作り、両端に突起。側面に沈線を通らす。器体から剥離した部分に上下の粘土粒の合わせ目も認められる。器体下部に彫るを伴う文様が認められるが詳細不明。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	外面灰白色、にふい黄褐色。内面褐色(暗)。内部褐色(明)	D 6 d 0、II層、30.84m	—	図版23 晩期中葉・大割C2式か
25	16	縄文土器	小型深鉢	口縁部、5%以下	—	内彎、外傾。薄手。粘土粒仕上げの最後に端部を外側に折る。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・石英礫・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい赤褐色・黒褐色。内面黄褐色。内部褐色	D 6 f 0、I B層一括	—	図版23 晩期か

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第19区												
26	134	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内唇、外縁。器厚薄い。流注口縁。外面細かな半筋織LRか。外面器表荒れにより詳細不明。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒微量	普通	外面黒褐色、内面灰黄褐色。内部黒褐色	D6 f.0、北側サトレ一括	—	国版23 晩期か
27	49	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内唇、外縁。内面に検をもって屈曲し胴部から口縁部に移行。外面屈曲部と胴部に無い横走流注線4条。内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面に褐色・黒褐色。器表下・ふい褐色。内部褐色	D6 e.0、II層	—	国版23 晩期か
28	26	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇気味、外縁。口縁端部を厚めに作り小波状とし、液面両側を押し広げて凹ませる。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐色	D6 i.0、II層一括	—	国版23 晩期
29	133	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇気味、大きく外縁。口縁端部直下内面に細い横走流注線1条。内外面器表荒れにより調整不明	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒微量	不良 (二次焼成か)	内外面灰白色。内外面に灰白色に灰褐色	D6 e.0、北側サトレ一括	—	国版23 晩期か、 平置き実測
30	133	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内唇気味、外縁。外面無筋織文R。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒微量	普通	内外面・内部黒褐色。外面一部にふい黄褐色	D6 e.0、北側サトレ一括	—	国版23 晩期か
31	74	縄文 土器	台付 鉢	底～脚 台部、 5%以下	(3.6) 鉢底部 {6.5}	鉢底と脚台の接合部。底部から胴部が外縁して立ち上がる。脚台部内唇・内縁。底部内面・脚台部内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・石英礫・チャート礫・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面・脚台内面にふい黄褐色。器表下褐色。内部褐色	D6 g.0、II層、20.85m	—	国版23 時期不明、 S I 26に 毎属(覆土)の可能性
32	59	縄文 土器	深鉢	胴～底 部、 5%以下	(4.0) {9.2}	平底から胴部が内唇気味で厚縁して立ち上がる。内面ナデ。器表荒れで外面・底面調整不明	粗悪。メノウ粒少量、メノウ礫少量、石英粒・凝灰岩粒・凝灰岩礫・黒色砂粒微量	二次 焼成 顕著	外面にふい褐色・褐色。内面褐色、浅黄褐色。底面・内部褐色	D6 f.0、II層、20.86m	2片	国版23 時期不明、 S I 26に 毎属(覆土)の可能性
33	56	縄文 土器	小型 深鉢	底部、 5%以下	(1.8) 4.8	わずかに上げ底気味。内外面・底面ナデ	やや粗悪。メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面にふい褐色。内面灰黄褐色。内部黒褐色	D6 f.0、II層、20.80m	—	国版23 時期不明、 外面一部 灰化物付着
34	74	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	わずかに内唇、わずかに内縁、薄手。角縁。複合口縁。胴部外面網目状燃糸文。一部輪様のみ残る。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・灰色砂粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通	内外面・内部ともにふい黄褐色	D6 f.0、II層、20.85m	—	国版23 晩期粗製 土器
35	24	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇気味、わずかに内縁。複合口縁。角縁。口縁部外面ナデ。胴部外面縦位の燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。器表下・ふい褐色。内部褐色	D6 f.0、II層一括	—	国版23 晩期粗製 土器
36	18	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	外反気味、わずかに外縁。複合口縁。外面にはほば縦位の燃糸文。胴部にはほば縦位の燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部黒色	D6 i.0、I B層一括	—	国版23 晩期粗製 土器
37	24	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内唇。複合口縁。角縁。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	内外面浅黄褐色。内部褐色	D6 f.0、II層一括	—	国版23 晩期粗製 土器
38	134	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇気味、外縁。複合口縁。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通	内外面・内部黒褐色。外面一部にふい黄褐色	D6 f.0、北側サトレ一括	—	国版23 晩期か
39	12	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇、わずかに内縁。複合口縁。内外面ナデ。外面一部粘土結核上げ痕を残す	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通	内外面にふい褐色。内部褐色	D6 e.0、I B層一括	—	国版23 晩期粗製 土器

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第19区												
40	123	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内壁、わずかに外傾。複合口縁、 口縁部外面に横の平行短沈線。 胴部外面粗い網目状燃糸文。内 面ナデ。最下位は外側にやや屈 曲して胴部へ移行する條相。	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 海綿骨針微量	良好	外面橙色。内 面にふい橙色。 内部褐色	D6 f.0 20.81m	—	国版23 晩期粗製 土器
41	93	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内壁気味・外傾。厚手。外面網 目状燃糸文。内面ナデ。	やや砂質。メ ノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・石英礫・ チャート礫・ 凝灰岩粒・黒 色砂粒微量	普通	外面にふい黄 褐色。内面浅 黄褐色。内部 褐色	D6 g.0 II層、 20.78m	—	国版23 晩期粗製 土器-S1 26に属 (覆土)の 可能性
42	15	縄文 土器	小型 深鉢	胴部、 5%以下	—	内壁、外傾。外面細かい網目状 燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・黒色砂 粒・凝灰岩粒 微量	普通	内外面・内部 とも黒褐色	D6 f.0 I B層 一括	—	国版23 晩期粗製 土器
第20区												
43	137	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内壁、外傾。外面網目 状燃糸文。無文部(ナデ)には 一部に粘土様積上げ痕が残る。 内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量。木葉含 む(破断面に 木ガ)	普通	外面にふい橙 色。内面灰褐 色。内部褐色	排土中	—	国版23 晩期粗製 土器
44	24	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内壁、外傾。外面縦位 の燃糸文。内面ナデ	やや精良。メ ノウ粒少量、 石英粒・黒色 砂粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	良好	外面黒褐色。 内面黒褐色。 にふい褐色。 内部灰褐色	D6 f.0 II層一 括	—	国版23 晩期
45	134	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内壁、外傾。外面燃糸文。内面 ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	外面暗赤褐色。 内面にふい 褐色。内部 褐色	D6 f.0 北側サ ブレ一 括	—	国版23 晩期。外 面灰化物 付着
46	134	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内壁、外傾。外面粗い 燃糸文。内面ナデ。上端の破断 面は摩耗しており、縦口縁の可 能性	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	外面灰褐色。 黒褐色。内面 にふい褐色。 内部灰褐色	D6 f.0 北側サ ブレ一 括	—	国版23 晩期
47	26	縄文 土器	ミニ チュア 器(鉢)	底部、 30%	(1.3) 2.4	小さな平底から内壁気味の胴部 が外傾して立ち上がる。手捏ね 成形。胴部外面中段と下位に細 い横走沈線。外面一部に縄文に 見える部分があるも器表割れに より不明。内面ナデ(手捏ね痕 顕著)	メノウ粒少量、 石英粒・褐色 砂粒微量	やや良 く焼け てら	外面にふい橙 色・褐色。 内面灰白色。 内部褐色	D6 i.0 II層一 括	—	国版23 晩期か
48	54	土師器	坏	口縁～ 体部、 5%	[0.4] (2.7)	内壁・外傾する体部から外反す る口縁部。やや小型。ロクロ成 形。外面ロクロナデ。内面ミオ キ。黒色処理。	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 褐色砂粒微量	普通	外面・内部に ふい赤褐色。 内面黒色	D6 e.0 II層。 20.85m	—	国版24 9～10世 紀前半。S 128に 燃灰の可 能性
49	21	土師器	甕	口縁部、 5%以下	—	屈曲する胴部から外傾する口縁 部。胴部はわずかに積み上げる 條相。内外面横ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・黒色砂 粒・凝灰岩粒 微量	普通	外面にふい黄 褐色。内部 にふい褐色	D6 e.0 一括	—	国版24。 平安時代。 平置き実測
50	21	灰輪陶 器	瓶か	体部、 5%以下	—	ロクロ成形。現状上端内面は内 壁する條相。外面灰輪は均一に 施輪。内面ロクロナデ	陶土。石英粒・ 浅黄色礫微量	窯焼 成。 良好	輪：灰オリー ブ色。器体灰 白色	D6 e.0 一括	—	国版24 平安時代・ 9世紀ごろ か。 平置き実測
51	15	陶器	深鉢	体部、 5%以下	—	直線的。外傾。輪組み成形(内 面に痕跡である凹凸が残る)。 外面ヘラケズリ。のち鉄輪施輪。 内面縦位と斜位目を付け 鉄輪施輪。振り目の単位は6葉 以上	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・黒色砂 粒・凝灰岩粒 微量	窯焼 成。 良好	輪：暗赤褐色。 器胎：にふい 褐色	D6 f.0 I B層 一括	—	国版24 瀬戸・美濃 系・17世紀
52	13	青白磁	碗	底部、 5%以下	(1.9) [7.0]	ろくろ成形。削り出し高台。内 面施輪。見込みで碗の目状輪脚 高台付き。砂目。体部外面施輪。高台 付近にも輪垂れ	精良な磁器胎 土	窯焼 成。 良好	輪：緑灰色。 器胎：灰白色	D6 f.0 I B層 一括	—	国版24 肥前系か。 17世紀

第3章 第3節 遺構と遺物

検出番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第20図							不整形長方形と想定される土版の一端部分。厚さ(2)cm。正面に直線と縦やかな弧状。裏面に弧状の浅く細い沈線文。一部は対向弧線文か。器表が磨かれているが裏面には溝状に器表が残る部分があり。沈線文の残存か。							
53	18	土版	(7.0)	(5.2)	—	(83.1)		メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒・黒色砂粒微量	やや不良	器表にふい黄褐色。内部陶灰色	D6 i0 I B 層一括	—	図版 24 一部残存。中期	

検出番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第20図	54	石版	(20)	1.4	0.3	(0.8)	メノウ	透明感のある薄い割片を素材とし、両側縁から比較的安定した調整割縁を加え、最後に長い割縁により抉りを入れる。先端の破損は衝撃割縁	D 6 g0 II 層。20.84m	—	図版 24 一部欠損
	55	石版	(25)	1.6	0.4	(1.3)	オパール	凸基有蓋。割片を素材として両側縁から調整割縁。裏品が陥所に入り、石器素材としてはやや質が悪い。割縁角は小さく器体は薄く仕上げられている	D 6 d0 I 一括	—	図版 24 一部欠損
	56	石版	(21)	1.5	0.4	(1.2)	黒曜石	凸基有蓋。薄い割片を素材として両側縁から調整割縁。割縁はやや不安定	D 6 e0 I 一括	—	図版 24 一部欠損
	57	石版	25	1.0	0.6	1.5	メノウ	棒状。割片を素材とし、両側縁から割縁角の大きな調整を加える。素材時の割縁面が表面に、自然面が側面に残る。断面は全体として杏仁形に近いが先端は多角形。使用痕は先端2mm程度	D 6 f0 II 層。20.84m	—	図版 24 完存
	58	石錘	4.9	3.7	1.5	400	ホルンフェルス	扁平な不整形の礫を利用。磨りによる溝が長軸方向に表裏を一貫する有溝石錘。下端の切目は溝が表裏やや不一致。切目を伸ばして溝にのびていく。表裏の溝が合致して切目できると想定される	D 6 f0 II 層。20.86m	—	図版 24 完存。S1 26に帰属(覆土)の可能性
	59	小型磨製石斧	(4.9)	(2.1)	(2.0)	(36.7)	砂岩	頭部が細い。断面はほぼ四角形の柱状。方部欠損。表面不明瞭だが、一部に敲打痕と磨痕	D 6 i0 II 層。20.82m	—	図版 24 一部残存。S1 26に帰属(覆土)の可能性
	60	礫器	(10.7)	10.1	3.3	(516.5)	砂岩	層理に沿って割れた礫を利用(破断面での風化の観察から)。一端の片側から剥離し方部(片方)を作出	D 6 g0 II 層。20.79m	—	図版 24 一部欠損。S1 26に帰属(覆土)の可能性
第21図	61	礫器	8.9	9.0	4.9	438.0	ホルンフェルス	礫の片側を大きさと厚みを減じようとして剥離し、下側縁から大きく剥離して方部(片方)を作出。裏面は大きく自然面を残す	D 6 f0 II 層。20.77m	—	図版 24 完存。S1 26に帰属(覆土)の可能性
第20図	62	礫器	(12.3)	4.9	2.3	(178.5)	砂岩	扁平で縦長いへつ状の礫を利用。一端の片側から剥離し方部(片方)を作出。上端の破損は意図的の可能性を残る	D 6 g0 II 層。20.75m	—	図版 24 一部欠損。S1 26に帰属(覆土)の可能性
第21図	63	敲石	6.0	6.1	4.0	(177.1)	安山岩	角礫を利用し剥離により整形。大きさは3面に自然面が残る。一端を中心に使用。上下運動による使用	D 6 i0 II 層。20.79m	—	図版 24 一部欠損(ギョウ)。S1 26に帰属(覆土)の可能性
	64	敲石	11.6	6.5	4.4	509.0	砂岩	不整形長楕円形の礫を利用。一端(国上位)を上下運動。円運動の敲打で、他端の破断面(意図的かは不明)の周縁部を上下運動の敲打で使用	D 6 f0 II 層。20.84m	—	図版 25 完存。S1 26に帰属(覆土)の可能性
	65	凹石・敲石	(7.0)	6.6	4.9	(264.0)	砂岩	厚みのある礫を利用。国上面は破断。正面・裏面は破断するも稜線と自然面に敲石としての使用痕。下端にも弱い敲打によるわずかな使用痕。正面中央付近の凹み穴は強い連続敲打による。上面破断後の敲石を転用と判断	D 6 f0 II 層。20.84m	—	図版 25 一部欠損。S1 26に帰属(覆土)の可能性
	66	砥石	(13.1)	(10.2)	(2.3)	(339.5)	砂岩	層理に沿って割れた軟質の板状礫を利用。1面を砥面として使用。砥面の残存は少ない	D 6 f0 II 層。20.85m	—	図版 25 一部残存。S1 26に帰属(覆土)の可能性

検出番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第21図	67	鉄片	(4.5)	(6.4)	(4.3)	(134.2)	鉄	下部が縦やかな球面をなす輪状。輪状部分の径は7cm前後。形状からすると上下2段に形成された可能性	D 6 f0 20.85 m	—	図版 25 中・近世

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第21区 68	136	切削痕のある動物骨片	(3.3)	1.8	1.3	(3.3)	イノシシ第2/5中手骨/中足骨	焼骨片。軸線に直交方向の細く浅い刻線7条。最長11mm、最短4mm、最大幅0.2mm程度、深さ計測不能。1条の中に複数回の切削痕を認める例3条。加工痕ではなく皮または腱の切断などの痕跡の可能性	排土中	—	国版25 付表参照

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第21区 27T1	1381	灰釉陶器	折縁菊皿	口縁～ 体底 5%以 下	10.4 (2.0) —	内側・外側する体部から屈曲して大きく広がり肩部で上方に屈曲する口縁部。下部は底部に移行する様相。ロクロ成形。体部内面丸のみによる菊花状の刺ぎ。現在内外面全面に灰釉	精良。長石粒 微量	窯 良好	器胎:灰白色。 釉:灰オリーブ色	D 6 h0 埋土一 括	—	国版25 瀬戸・美濃 系。16世紀 後半

4 第30トレンチ

(1) 調査概要 (第22図, 第15表, 図版8・9)

第2次確認調査で第12トレンチにおいて確認されている第11号竪穴住居跡 (S I 11) の具体相を知り、併せて第12トレンチと第13トレンチの間の区域における遺構分布を知るため、第12トレンチに直交して東に延びるトレンチを設定し、これを第30トレンチとした。

調査ではS I 11は結局確認できなかった。S I 11は、上述したとおり、第12トレンチ内で一部が確認され、南北4.5mほどの円形プランをもつ住居跡と推定されていた。今回、東西トレンチで全体形状を明らかにするため第30トレンチを設定し精査したものの、遺構の外形線が確認できなかった。第2次確認調査では、第12トレンチにおいて遺物の集中と若干の土質の違いにより外形線を認められたが、今次調査では遺物の集中もなく、土質の違いも認められなかったのである。住居跡の存在については、懐疑的にならざるを得ない状況である。

一方、新たに第29～32・37号竪穴住居跡 (S I 29～32・37)、土坑13基を確認した。

なお、後述するように第30号竪穴住居跡 (S I 30) の範囲内で人面付土器が出土し、主にこの連続を求めて、トレンチ南側 (D 6 a 1・b 1区のそれぞれ一部) の東西2m、南北1mの範囲を拡張している (南側拡張区)。

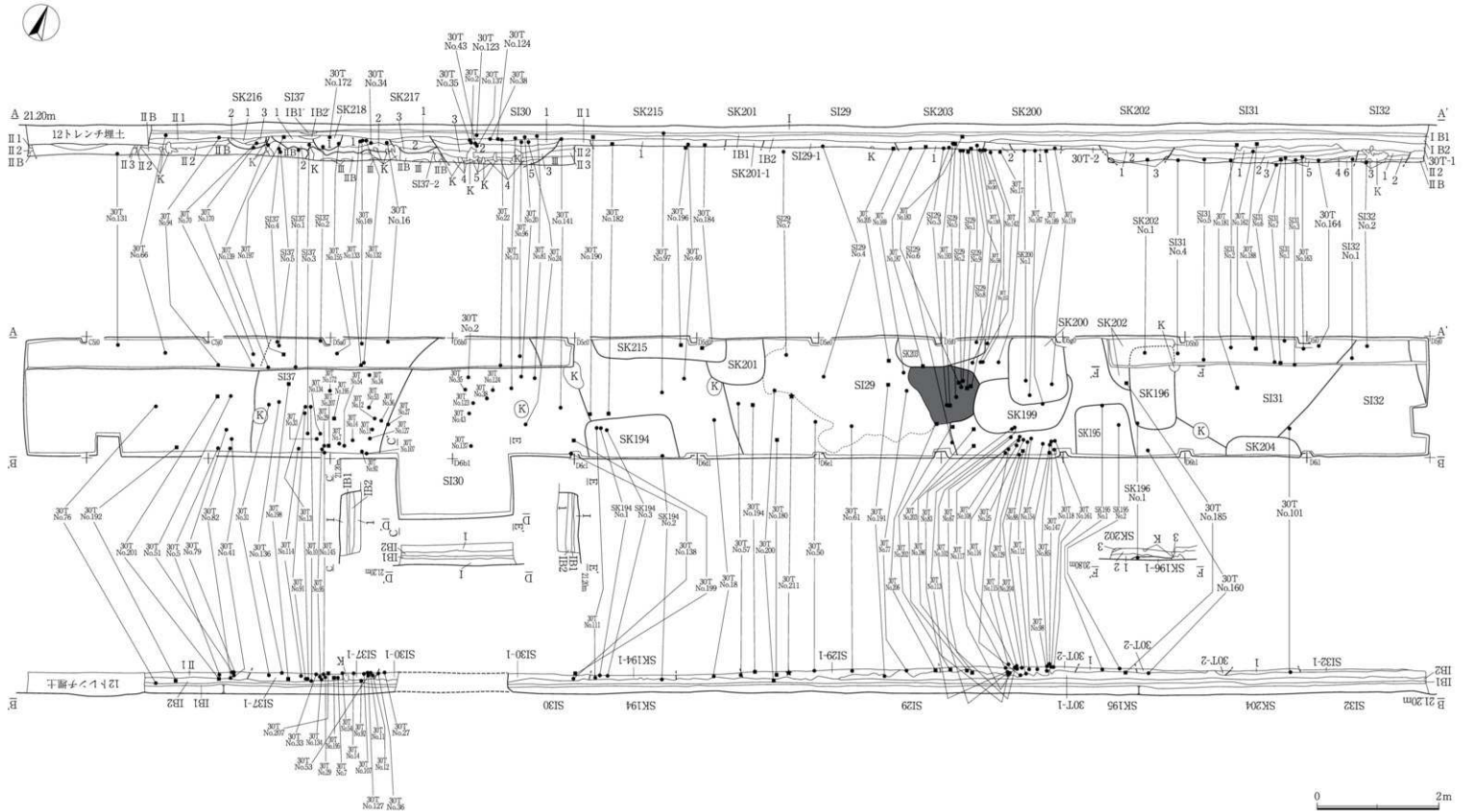
トレンチ土層図のうち基本土層にない土層について解説しておく。

土層解説

- 1 暗褐色 (10YR 3/3) ローム小ブロック微量、ローム粒子中量、Nt-S微量、土器細片・陶磁器細片・小礫微量、織まりやや強、粘性弱。遺構の掘り込み面はすべてこの層の下。客土の可能性。
- 2 黒褐色 (10YR 3/1) ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、焼土小ブロック微量、土器片多量、礫少量、織まりやや強、粘性弱。II層に近いが、遺物を多く含み、遺構覆土の可能性あり。

第15表 第30トレンチ確認遺構総括表

時期 \ 遺構の種類	竪穴住居跡	土坑	その他
縄文時代	SI30, SI32, SI37	SK216, SK217	
奈良・平安時代	SI29, SI31		
中・近世		SK194, SK195, SK196, SK199, SK200, SK201, SK202, SK203, SK204, SK215	
その他・時期不明		SK218	



第22図 第30トレンチ実測図

(2) 遺構と遺物

① 縄文時代

第30号竪穴住居跡 (S I 30) (第22～25図, 第16表, 図版9・10・25・26)

位置 D5a0・b0区を中心に確認された。南側拡張区 (D6a1・b1区) は遺構内である。

規模と形状 トレンチ底面での平面的な確認と一部サブトレによる確認である。トレンチ南北にも広がっている。当初、平面では明確に捉えられなかったが、トレンチ北側に入れたサブトレのセクションで住居跡の壁の立ち上がりが確認でき、それをもとに外形線を引いた次第である。計測値は、現状で東西3.48m、南北2.87mで、東西の外形線が弧状を呈し、平面形は円形をなすものと考えられる。中心はトレンチ南側にある可能性が高い。

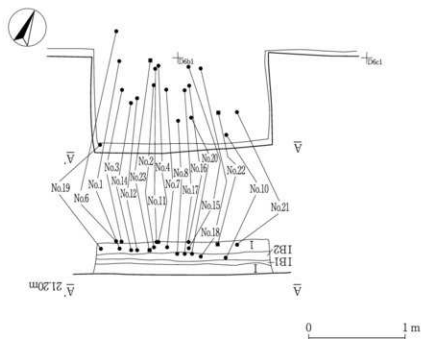
重複関係 西側の第37号竪穴住居跡を大きく掘り込んでいる。北側セクションではSK217を掘り込んでいるのが認められた。また、東部をSK194に掘り込まれている。

土層 トレンチ北側に入れたサブトレで住居跡の覆土が確認できた。5層に分層され、レンズ状堆積であることから自然堆積と考えられる。また、SI37・SK217を掘り込んでいるのが確認された。南側の土層セクションではSK194に掘り込まれているのが確認された。

土層解説

- 1 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子少量, Nt-S微量, 埴土粒子微量, 土器片多量, 締まり中, 粘性やや弱
- 2 黒褐色 (10YR 3/1) ローム粒子少量, Nt-S微量, 締まり中, 粘性やや弱
- 3 黒褐色 (10YR 3/2) ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, Nt-S微量, Nt-I微量, 締まり中, 粘性中
- 4 暗褐色 (10YR 3/3) ローム小ブロック微量, ローム粒子中量, Nt-S微量, Nt-I微量, 締まりやや弱, 粘性中
- 5 暗褐色 (10YR 3/4) ローム粒子多量, Nt-S微量, Nt-I微量, 締まりやや弱, 粘性やや強

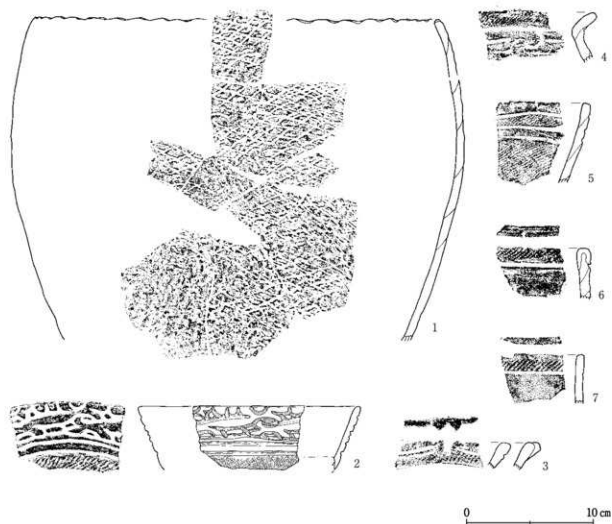
遺物 土器片・土製品等130点, 石器・剥片等13点が出土している。うち, 土器片20点, 土製品1点, 石器2点を掲載する。土器は晩期前葉のものが多く, 一部後期から晩期初頭のものが含まれる。サブトレ以外は掘り込んでいないが, 確認面直上のIB2層を中心に土器片等が多く出土



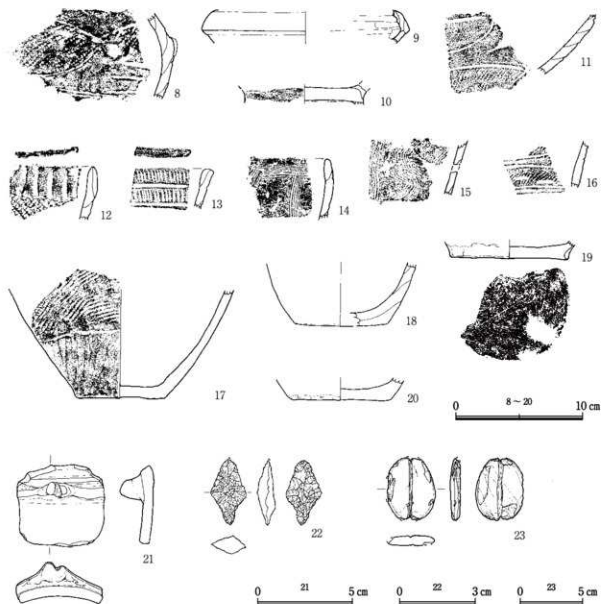
第23図 第30号竪穴住居跡遺物出土状況図 (南側拡張区)

している。I B層・I B2層は陸田の床土であるが、主に直下の本跡覆土に由来する層と考えられ、これらの層からの出土遺物は本跡出土遺物の可能性が高い。遺構外出土扱いになっている人面付土器（遺構外出土遺物No38）も、遺構の認定ができない段階で出土したため遺構外出土としているが、位置的には本跡の中央部を中心に集中して出土しており、本跡に属する可能性が極めて高い。ただ、本来本跡に伴うものかどうかは不明で、出土レベルが高く、土圧で潰れたような状態ではなく欠損部分も多いことなどからは、むしろ廃棄等により本跡覆土中に含まれることとなった可能性が高いと考えられる。時期的には晩期前葉・大洞BC式に属する。同様の出土状態で遺構外出土扱いになっている遺物については、本跡に属する可能性の高い旨、観察表の備考欄に記した。なお、人面付土器等の遺物の集中する付近の南側を、主に人面付土器の破片の収集のため拡張したが、この拡張区は本跡の範囲内であり、本跡の出土遺物として取り上げている。

所見 今回新たに確認された遺構である。出土遺物やその出土状況から、晩期前葉・大洞BC期の竪穴住居跡と考えられる。ただ、確認面ではプランの一部を捉えたに過ぎず、サブトレも一部を掘り込んだだけであるので、詳細は不明である。



第24図 第30号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)



第25図 第30号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)

第16表 第30号竪穴住居跡出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
1	4	縄文 土器	深鉢	口縁~ 胴部, 10%	[32.0] (25.6) —	内壁・外傾して立ち上がり、口 縁部から11.5cm付近で最大径を もち、徐々に内傾、口縁端部押 圧により小波状。外面粗い網目 状撫糸文。内面斜位のナデ	メノウ粒少量、 メノウ塵、石 英粒・石英塵、 凝灰岩粒・雲 母細粒・海綿 骨針微量	良好	外面にふい・橙 色・灰褐色。 内面にふい・橙 色。最大径以 下現存下縁近 くまでにふい 褐色に変色。 内部にふい・黄 褐色	D 6 a1, 20.81 m	10片、 ほか に4 片一 個 体か	図版25 晩期粗製 土器
2	9	縄文 土器	浅鉢	口縁~ 胴部, 20%	[17.6] (5.0) —	内壁・外傾する胴部から内面に 稜を持ち屈曲して、内壁灰味。 外傾して立ち上がる口縁部。口 縁部外面半圓状文。胴部部に稜 走沈線2条。胴部外面半圓状文 L形。内面エガキ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	良好	内外面灰黄褐 色・褐色。 内部褐色。	D 6 a1, 20.80 m	接合 しな い同 一 体 3 片	図版25 晩期前葉・ 大割B C 式

第3章 第3節 遺構と遺物

探洞番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第24区	3	38	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	外傾する口縁部。外面単節縄文LRを施文し、肩部下に横走沈線1条。途切れた部分に口縁部から突起2個附け。現状下部に横走沈線1条。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、雲母細粒、凝灰岩粒、褐色砂粒、海綿骨針微量	良好	外面にふい赤褐色。内面にふい褐色	D 6al、20.74m	—	図版25 晩期前葉・安行3aか
							内傾する胴部から屈曲して外反・外傾する口縁部。口縁部に面線か、再彫刻文1段。胴部近く細く鋭い横走沈線。胴部から単節縄文LRを施文し一部磨り消し。入組み三叉文を施文。口縁部内面ミガキ。胴部内面ナデ	やや粗直。メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、チャート粒、凝灰岩粒、雲母細粒微量	やや不良	外面にふい黄褐色・黄褐色。口縁部内面黒色。胴部内面浅黄色。内部褐色	D 6al、20.75m	—	図版25 晩期前葉・大淵B式
							わずかに内彎。外傾。角縁。穏やかな波状口縁。外面やや細かな単節縄文LRを施文し横位の沈線3条。1・2条目の間の横文を残しその上下を磨り消し。下位は結節縄文。口縁部内面ミガキ	やや精良。メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、雲母細粒、海綿骨針微量	良好、焼けむら	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。口縁付近黒直。器表下にふい褐色。内部褐色	D 6bl、20.78m	—	図版25 晩期前葉・安行3b式か。海綿骨針顕著
							内彎気味。わずかに内傾する口縁部。肩部は粘土板で覆むよよにして肥厚させる。肩部下位に面線か、再彫刻文1段を施文し横走沈線。肩部外面単節縄文LR。口縁部内面・外面無文部ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、凝灰岩粒、雲母細粒、赤褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内部黒褐色	D 5a0、20.73m	—	図版25 晩期
							わずかに外反しほぼ直立する口縁部。角縁。外面は肩部から5mmほど無文部を残し単節縄文LRを施文。その下位に横走沈線1条。以下ナデ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒、雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色・浅黄色。内部黒褐色	D 6al、20.80m	—	図版25 晩期前葉・安行3aか
							内彎。下半外傾。緩やかに屈曲して上半内傾。屈曲外面に楕円形の浮文を貼付し。中央部を凹ませる。それを起点に単節縄文LRを施文し沈線に楕円形に区画。外側を磨り消す。下位に横走沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、凝灰岩粒、褐色砂粒微量	普通。二次焼成	外面灰黄褐色。にふい黄褐色。器表に褐色。内面灰褐色。内部褐色	D 6bl、20.87m	—	図版25 晩期前葉・安行3a式
第25区	9	58	縄文土器	注口土器	胴(肩)部、5%以下	(27)	胴下部は大きく外傾して立ち上がり。にふい稜をもつて屈曲して内傾し。現状最上部でさらに強く内傾。復元最大径166mm。外面ミガキ。器に上半部から粘付着丁寧なミガキ。内面強いナデ。胴部上半部体厚い。	メノウ粒少量、メノウ礫・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色。内面にふい黄褐色。器表に赤褐色。内部褐色	一括	—	図版26 晩期前葉・大淵B式
							内傾する脚台部の上に凹盤状の粘土を載せ器を作り。その外周から鉢部を立ち上げる(現状では脱落)。脚台部外面単節縄文LR。底面ナデ。鉢底部内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、雲母細粒、凝灰岩粒、黒色砂粒、赤褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面黄褐色。底面黄褐色。鉢底部内面灰黄褐色。内部褐色	D 6bl、20.91m	—	図版26 晩期前葉
							わずかに内彎し大きく外傾する口縁部。上端はやや強く内彎し。口縁部下に移行する條状。外面単節縄文LRを施文し横走沈線は孤線で区画し。磨り消し。胴部分に三叉文を施す。頸部に口縁部で収束する部分肥厚。何らかの裝飾付加か。内面ミガキ	メノウ粒中量、メノウ礫・石英粒、凝灰岩粒、雲母細粒、海綿骨針微量	やや不良。一部焼けむら	外面褐色・褐色。内面にふい褐色。内部にふい褐色。	D 6al、20.74m	—	図版26 後期後葉・安行1式
							わずかに内彎。わずかに外傾。口縁部外面に粘土板を貼り付けて肥厚させ。へら状指文をよよから下へ引いて連続圧痕状の文様を施文。胴部外面単節縄文LR。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒、雲母細粒、褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色。内面にふい褐色。内部褐色	D 6al、20.83m	—	図版26 後期前葉土器
							外反気味。外傾。角縁。外面へう状施文器具による右からの連続的突起を2段に行ない。各段の下位に横走沈線。口縁部内面ミガキ	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒、凝灰岩粒、海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色。器表下にふい黄褐色。内部褐色	D 6al、20.94m	—	PL26。 後期東北系粘土土器
							—	—	—	—	—	—	—

第32号竪穴住居跡 (S I 32) (第22・26図, 第17表, 図版9・10・26)

位置 D5h0区からD5i0区にかけて所在する。トレンチ南北にも広がっている。

規模と形状 D5i0区確認面とサブトレ底面で外形線が確認されているが、西部でS I 31とS K 204に掘り込まれており、形状・規模とも不明である。現状で確認できるのは、南北のトレンチ幅(実寸1.88m)である。東西はS I 31・S K 204まで2.40mが確認されるが、それ以上は確認できなかった。規模を考えればS I 31の西側にも延びると思われるが、確認面での観察ではS I 32の覆土の特定と他(トレンチセクション第2層)との分別ができず、したがって西側外形線を検出することができなかったためである。深さは20cm以上ある。北側セクションで見られる壁の立ち上がりは外傾している。

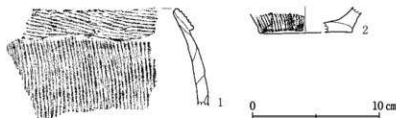
重複関係 中央部を平安時代のSI31に掘り込まれており、SI31を掘り込む中・近世の土坑SK196・202・204にも掘り込まれている。さらに同じく中・近世のSK195にも掘り込まれている。
土層 3層に分層できる。レンズ状堆積の様相を見せることから、自然堆積と考えられる。サブトレでの壁の立ち上がりは、内側が焼土・土器片・礫を含むのに対し、外側はほとんど含まない、という違いにより比較的明瞭に認められた。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR 3/3) ローム小ブロック微量、ローム粒子中量、Nt-S微量、焼土粒子微量、礫少量、締まり強、粘性やや弱
- 2 黒褐色(10YR 2/2) ローム粒子少量、Nt-S微量、炭化物粒子微量、礫少量、締まり強、粘性やや弱
- 3 黒褐色(10YR 2/3) ローム粒子少量、Nt-S微量、焼土粒子微量、締まり強、粘性やや強

遺物 サブトレ内では複合口縁深鉢の大型破片(第26図1)がかるうじてS I 31に掘り込まれずに残っていた。これを含め、土器片21点、剥片等2点、合計23点が出土した。うち、土器片2点を掲載する。

所見 プランの一部が確認されているだけで、ほとんどがトレンチ外に伸び、または他の遺構に



掘り込まれていて、形状・規模は不明である。時期は、出土した土器大型破片から縄文晩期と考えられる。

第26図 第32号竪穴住居跡出土遺物実測図

第17表 第32号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号	挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第26図	1	縄文土器	深鉢	口縁~胴部, 5%	—	内野、内傾。複合口縁外面に横位に近い斜位の燃糸文。胴部外面縦位の燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒、雲母細粒微量	普通	外面にふい褐色・黒褐色、内面灰黄褐色・黒褐色、内部褐色	D 5.0, 20.52 m	接合しない同一個体3片	図版26 晩期粗製土器
	2	縄文土器	深鉢	胴~底部, 5%以下	(20) [74]	平底から外傾する胴部が立ち上がる。胴部外面燃糸文、底面ナデ、植物繊維圧痕。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒、凝灰岩粒、チャート粒、黒色砂粒微量	良好	外面褐色、にふい黄褐色、底面明赤褐色、内面灰黄褐色、器表下部赤色、内面黒色	D 5.0, 20.47 m	—	図版26 晩期

第37号竪穴住居跡 (S I 37) (第22・27図, 第18表, 図版9・26・27)

位置 C5j0・D5a0区で確認された。

規模と形状 当初第30号竪穴住居跡と分離できなかったが、トレンチ北壁際に入れたサブトレで重複が判明した。東部を第30号竪穴住居に大きく掘り込まれているため、全体が確認できない。西部の外郭線の様相からは円形プランの住居跡になると考えられる。現状で確認できる規模は南北がトレンチ幅(実寸1.88m)、東西は2.85mである。

重複関係 東部を第30号竪穴住居に大きく掘り込まれている。その他、SK217・218に掘り込まれているのが北壁セクションで確認された。

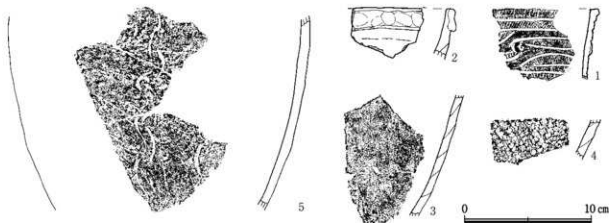
土層 2層に分層され、自然堆積の様相を示している。土器細片・焼土・骨片を含んでいる。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR 3/3) ローム粒子中量, Nt-S微量, 焼土粒子微量, 礫少量, 焼骨細片微量, 締まり中, 粘性やや弱
- 2 暗褐色(10YR 3/4) ローム粒子中量, Nt-S微量, 締まりやや弱, 粘性中

遺物 サブトレンチでの出土が中心で、量的には少ない。土器片33点, 剥片等3点が出土した。うち、土器片5点を掲載する。一部が後期であるが、主体は晩期土器片である。

所見 主体となるのは晩期の土器片であり、また晩期前葉の第30号竪穴住居跡に掘り込まれていることから、本跡は晩期前葉の時期の住居跡と考えられる。後期の遺物は混入したものである。



第27図 第37号竪穴住居跡出土遺物実測図

第18表 第37号竪穴住居跡出土遺物観察表

採回番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第27図	10	縄文土器	小型鉢	口縁~胴部, 10%	—	わずかに外反, 外傾。角縁。外面ヘラ状施文具の押し文を地文に。横走沈線・人組弧線文・対弧文・瘤を施文し。一部磨り滑し。内面ミガキ。薄手, 精製	やや精良。メノウ粒・石英粒・凝灰岩粒混量	良好, 堅緻	内外面黒褐色, 内部褐色	C 5j0, 20.67 m	—	図版26 晩期前葉
2	9	縄文土器	深鉢	口縁~胴部, 5%以下	—	わずかに内傾, 外傾。複合口縁角縁。外面ナデ。口縁部外面には指頭圧痕。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・シャモット微量	良好, 堅緻	内外面・内部とも褐色	C 5j0, 20.91 m	—	図版26 晩期粗製土器。平置き実測

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第27図 3	3	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%	— —	内脣・外脣。外面無文。内外面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒中量、 メノウ礫・石英 粒・雲母細 粒・凝灰岩粒 微量	普通。 二次 焼成	外面灰褐色・ 黒褐色。内面 灰黄褐色。内 部陶灰色。に ぶい橙色	C 5 Ⅷ 20.75 m	2片	図版27 時期不明。 内面現状 上・中位 炭化物付 着
4	4	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以 下	—	内脣欠味。外脣。外面半筋縄文 RL。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 黒色砂粒微量	普通	外面黒褐色。 内面・内部陶 灰色	C 5 Ⅷ 20.68 m	—	図版27 晩期か
5	5	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以 下	(15.2) —	内脣・外脣。外面ケズリ。のち 縦行条線文を垂下。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒微量	普通	外面灰黄褐 色。内面浅黄 橙色。内部陶 灰色	C 5 Ⅷ 20.63 m	3片	図版27 後期粗製 土器。 混入

第216号土坑（SK216）（第22図）

位置 北壁セクションで確認された。セクション面を挟んで南北（C5j9・j0区）に所在することになる。北側はトレンチ外である。

規模と形状 サブトレ南側では認められず、恐らくサブトレ内で収束する。平面的には確認していないが、小規模な円形土坑の可能性が高い。掘り込み面はI B2層下で、浅い椀状の断面を呈している。セクション面で確認された幅は63cm、深さは19.5cmである。

重複関係 なし。

土層 覆土は3層に分層される。レンズ状堆積をしており、自然堆積と考えられる。多くの中・近世土壌墓のように粘土質・褐色でなく、全体としてII層に近い。

土層解説

- 1 黒褐色（10YR 2/2）ローム粒子少量、Nt-S微量、焼骨細片微量、締まり中、粘性やや弱
- 2 暗褐色（10YR 3/3）ローム粒子中量、Nt-S微量、土器細片・礫少量、締まり中、粘性中
- 3 黒褐色（10YR 2/3）ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、礫少量、締まり中、粘性中

遺物 出土していない。

所見 後述するように、SK217が同様の状態で確認され、断面形状や覆土も類似しているが、これはSI37を掘り込み、同じく晩期のSI30に掘り込まれている。こうしたことを勘案すると、本跡はSK217とともに縄文晩期の集落に伴い、住居跡とも前後する時期の所産と考えることができよう。性格は不明である。

第217号土坑（SK217）（第22図）

位置 北壁セクションで確認された。セクション面を挟んで南北（D5a9・a0区）に所在することになる。北側はトレンチ外である。

規模と形状 サブトレ南側では認められず、恐らくサブトレ内で収束する。平面的には確認していないが、小規模な円形土坑の可能性が高い。掘り込み面はI B2層下で、浅い椀状の断面を呈している。セクション面で確認された幅は79cm、深さは27.5cmである。

重複関係 縄文時代晩期に位置付けられるSI37を掘り込み、同じく晩期のSI30に掘り込まれている。

土層 覆土は3層に分層される。土器細片・礫などの混入物も少なく、レンズ状堆積をしていることから自然堆積と考えられる。全体としてⅡ層に近い。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR2/2) ローム粒子中量, Nt-S微量, 焼骨細片微量, 締まり中, 粘性弱
- 2 黒褐色(10YR3/2) ローム中ブロック微量, ローム粒子少量, Nt-S微量, 焼骨細片微量, 締まり中, 粘性やや弱
- 3 黒褐色(10YR2/2) ローム粒子少量, Nt-I・Nt-S微量, 焼骨細片微量, 締まり中, 粘性中

遺物 出土していない。

所見 遺物の出土はないが、重複関係から、縄文時代晩期の集落に伴い、S I 37やS I 30に相前後する時期の所産と考えられる。性格は不明である。

②平安時代

第29号竪穴住居跡(S I 29) (第22・28図, 第19表, 図版10・27)

位置 D5d0区からD5f0区に位置し、トレンチ外にも広がっている。

規模と形状 トレンチ幅から北部と南部が突出しており、詳細は不明と言わざるを得ないが、方形かそれに近い形状を示すものと推測される。後述するように北東壁に竈を有している。主軸方位はN-51°-Eを指す。主軸方向の長さは3.35m、竈を含めて4.03mである。確認面において床面と思われる硬化面が確認された。床面は極度に硬化してはいないが、ピンボールを刺すにも難渋する程度の硬さはある。なお、ボーリングの結果ではその下位に硬化面はないようであり、硬化面が床面であることはおそらく間違いない。硬化面は竈前から北西側を中心に不整形に広がっている。また、床面の周囲に壁溝が巡っていないか確認しようとしたが、確認できなかった。存在しないようである。

竈 北東壁の外形線が現状で幅94cmにわたり約70cm突出していて、ブロック状の砂質粘土塊と焼土が集中しており、竈と考えられた。土師器片等の遺物も集中して出土している。上述したように確認面で床面が露出している状況であり、竈の最下部のみが残存しているものと思われる。

重複関係 北西部をS K 201に、北部をS K 203に、竈先端部をS K 199に掘り込まれている。

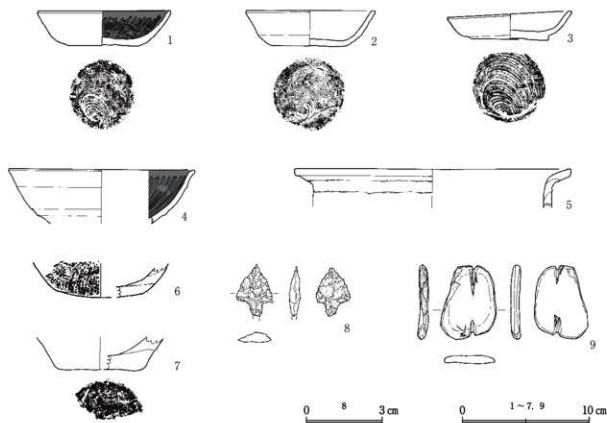
土層 南・北のセクションでは覆土1層が認められた。自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色(10YR3/1) ローム小ブロック微量, ローム粒子少量, Nt-S微量, 竈材中ブロック微量, 竈材小ブロック少量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量, 糞・土器細片少量, 炭化物粒子微量, 骨粉微量, 締まり中, 粘性やや弱

遺物 竈内の土師器片等の遺物は比較的纏まって出土している。うち、完形とほぼ完形の小型坏3個(第28図1~3)は正立して出土した。そのほか塊・甕の破片(同4・5)も出土している。なお、縄文土器片や切目石鎌など縄文時代の遺物も混入している。土器片66点, 石器・石製品・剥片等10点, 合計76点が出土した。うち、土器片7点, 石器2点を掲載する。

所見 北東壁に竈を持つ竪穴住居跡である。竈内の土師器から平安時代(10世紀)の住居跡と考えられる。



第28図 第29号竪穴住居跡出土遺物実測図

第19表 第29号竪穴住居跡出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第28図 1	3	土師器	坏	口縁～ 底部 95%	10.4 2.8 5.4	平底から内嚢・外傾する体部が 立ち上がる。小型。ロクロ整形。 底部回転糸切り。外面ロクロナ デ。内面ミガキ、黒色処理	メノウ粒少量、 メノウ礫、石 英粒、凝灰岩 粒、雲母細粒、 黒色砂粒、海 綿骨針微量	良好。 一部 二次 焼成	外面・内部に ぶい黄褐色。 内面黒色。一 部焼熱により にぶい褐色	D 5 帛 20.64 m	—	図版27 一部欠損。 10世紀初 頭
2	4	土師器	坏	完形	10.1 2.8 5.8	平底から内嚢・外傾する体部が 立ち上がる。小型。ロクロ整形。 底部回転糸切り。内外面ロクロ ナデ	メノウ粒少量、 石英粒、凝灰 岩粒、雲母細 粒微量	普通	外面にぶい黄 褐色。一部に ぶい褐色。内 面にぶい赤褐 色。一部にぶ い黄褐色	D 5 帛 20.67 m	3片	図版27 10世紀
3	11	土師器	坏	口縁～ 底部 90%	9.7 2.3 5.8	平底から外傾する体部が短く立 ち上がる。小型。全体に傾く。 ロクロ整形。回転糸切り。内外 面ロクロナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫、石 英粒、泥岩粒、 雲母細粒、黒 色砂粒微量	良好	内外面・内部 にぶい黄褐 色。にぶい褐 色	D 5 帛 20.69 m	6片	図版27 10世紀。体 部内面に長 14.5cm。幅 3.5mmの圧 痕。種実粒 か
4	18	土師器	碗	口縁～ 体部 10%	(14.6) (4.3) —	内嚢・外傾する体部からわずかに 外反する口縁部。ロクロ整形。 舞手。外面ロクロナデ。内面軽 い放射状のミガキ、黒色処理	精良。メノウ 粒少量、石英 粒、凝灰岩粒、 チャート粒、 雲母細粒、海 綿骨針・褐色 砂粒微量	良好	外面淡黄色。 浅黄褐色。内 面から一部外 面黒色。内部 灰白色、浅黄 褐色	D 5 e0。 20.73 m	—	図版27 10世紀初 頭。体部外 面に有機物 圧痕
5	9	土師器	甕	口縁部 5%	(21.8) (3.1) —	頸部から大きく外反・外傾する 口縁部。肩部はわずかにつまみ 上げる縁用。粘土磨き上げ。 痕跡が外面に残る。内外面ナ デ	メノウ粒少量、 メノウ礫、石 英粒、凝灰岩 粒、雲母細粒、 黒色砂粒微量	良好	内外面灰黄褐 色。内面一部 にぶい赤褐 色。内部褐色	D 5 帛 20.71 m	—	図版27 10世紀

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 径径 (cm)	形態・技法	粘土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第28図 6	12	縄文 土器	甕か	底部、 5%?	— (27) [6.6]	丸底に近い平底から内野・外縁する胴部が立ち上がる。外面彫刻縄文L R。内面粗いケズリ	粗悪。メノウ粒少量。凝灰岩粒少量。メノウ礫・凝灰岩礫・褐色礫・石英粒・雲母細粒微量	普通	外面浅黄褐色。内面褐色。内面器表下にぶい褐色。内部褐色	D 5 畝、 20.70 m	—	図版 27 混入
7	20	縄文 土器	深鉢	底部、 5% 以下	— (26) [6.4]	厚い平底から胴部が外傾して立ち上がる。内外面ナデ。底面不明(木葉痕か)	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩礫・凝灰岩粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい褐色。内面褐色。内部黒褐色	D 5 畝、 20.73 m	—	図版 27 混入

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第28図 8	23	石鏃	(20)	(1.4)	0.5	(0.9)	メノウ	平基有茎。ほぼ左右対称。調整溝は不安定で剥離角も大小あり	D 5 畝、 20.70 m	—	図版 27 一部欠損。 混入
9	7	石鏃	5.9	4.2	0.8	26.5	粘板岩	扁平な鏃を利用。正面左側面のほとんどと左下隅を研磨整形。両端に切目	D 5 畝、 20.66 m	—	図版 27 完存。 混入

第31号竪穴住居跡 (S I 31) (第22・29図, 第20表, 図版9・10・27・28)

位置 D 5 g 0区からD 5 i 0区にかけて所在する。トレンチには南東コーナー部付近がかかっており、想定されるプランの半分がそれ以上がトレンチ北側に広がっていることは確定である。

規模と形状 トレンチ内を東壁と南壁がほぼ直角(わずかに鈍角)に曲がるように走り、南東コーナー付近が調査区にかかっているだけであるが、全体形状は方形かそれに近いものと推定される。規模は、現状で南北が2.65mあり、それ以上の規模となる。後述のように北壁に竈が敷設されているとすると、主軸方位はN-19°-Eである。サブトレ内では床の硬化面が確認された。

竈 東壁・南壁のトレンチ内部分には付設されていない。トレンチ北壁に沿って入れたサブトレで東側から流れたような甕材や焼土・炭化物を含む層が認められ、竈の近在が推定された。北壁か北東コーナー部に付設されている可能性が高い。

重複関係 全体でS I 32を掘り込み、西部をS K 196とS K 202に、南東コーナー部をS K 204に掘り込まれている。

土層 土層は6層に分層され、レンズ状堆積をしていることから自然堆積と考えられる。セクション東半部では、上述したように東側から流れたような甕材や焼土・炭化物を含む層(第4～6層)が認められ、竈の近在が推定された。

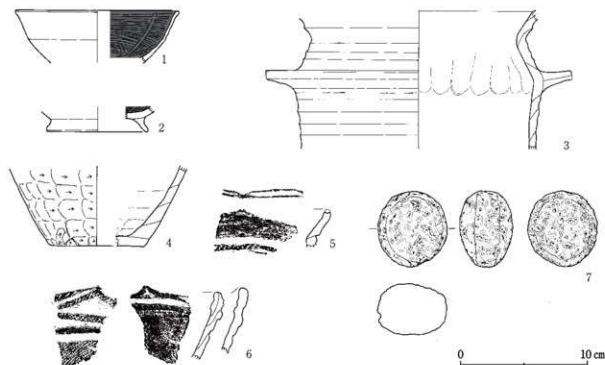
土層解説

- 1 暗褐色(10Y R 3/4) ローム小ブロック少量、ローム粒子中量、Nt-S微量、礫微量、炭化物粒子微量、締まり強、粘性やや弱
- 2 暗褐色(10Y R 3/3) ローム小ブロック少量、ローム粒子中量、Nt-S微量、焼土粒子微量、締まり強、粘性やや弱
- 3 黒褐色(10Y R 3/2) ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、焼土小ブロック少量、焼土粒子微量、締まり強、粘性やや弱
- 4 灰黄褐色(10Y R 4/2) ローム小ブロック少量、ローム粒子中量、粘土小ブロック中量、粘土粒子中量、締まりやや弱、粘性やや強
- 5 黒色(10Y R 2/1) ローム粒子少量、炭化物粒子中量、焼土粒子微量、締まりやや弱、粘性やや強
- 6 暗褐色(10Y R 3/4) ローム小ブロック少量、ローム粒子中量、Nt-S微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量、締まりやや弱、粘性やや強

遺物 北壁際に入れたサブトレにおいて、土師器坏・高台付坏・甕・羽釜等が出土しており(第29図1～4)、内黒の坏を含む。これらを含め、土器片64点、石器・石製品・剥片等10点、骨片1点、

合計75点出土している。うち、土器片6点、石器1点を掲載する。石器は、混入した縄文時代の遺物と考えられる。

所見 トレンチ内の状況からは、北壁に竈を持つ方形に近い形の竪穴住居跡と考えられる。時期的には、土師器から平安時代、10世紀と考えられる。



第29図 第31号竪穴住居跡出土遺物実測図

第20表 第31号竪穴住居跡出土遺物観察表

種別 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第29図	1	15	土師器	口縁～ 体部、 10%	[128] (4.1)	内彎気味で大きく外傾する体部からわずかに屈曲して外反する口縁部。おそらく高台付、ロクロ成形。内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	外面にふい黄褐色・黒褐色。内面黒色	D 5 h0, 20.51 m	—	国版 27 平安時代
	2	10	土師器	底部～ 高台部、 5%	— (2.0)	平底から緩やかに立ち上がる体部。平底の下貼り付け高台・外面丸くろナデ。内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒微量	普通。一部二次焼	外面にふい黄褐色。内面黒色・灰白色。内部黒色・浅黄褐色	D 5 h0, 20.50 m	—	国版 28 平安時代
	3	14	土師器	口縁～ 体部、 5%	— (109)	外反気味・わずかに外傾する体部から屈曲して内傾し、さらに屈曲して外傾する口縁部。口縁部外面有段状。体部屈曲部外面に磨貼り付け。最大径径で[24]2cm。粘土種横上げ成形。外面ロクロナデ。内面ナデ。口縁部付近ロクロナデ。屈曲部に指頭圧痕を残す	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	良好。一部二次焼	外面磨以下にふい褐色。以上灰褐色。内面・内反灰黄褐色	D 5 h0, 20.51 m	3片	国版 27 平安時代
	4	6	土師器	体～底 部、5% 以下	— (6.4)	平底から内彎気味に外傾して立ち上がる。外面ヘラケズリ。内面・底面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	良好	外面にふい褐色。底面黒褐色。内面にふい黄褐色。内部褐色・明褐色	D 5 g0, 20.49 m	—	国版 28 平安時代
	5	8	縄文 土器	口縁部、 5% 以 下	— (7.2)	胴部から内彎気味で外傾する口縁部。端部に沈澱を認め、現状1個の突起。口縁部外面ミガキ。胴部単節縄文LRを地文に上位（屈曲部）と下位に沈澱。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・石英礫・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰褐色。器表下褐色。内部黒灰色	D 5 h0, 20.51 m	—	国版 27 晩期。 混入

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第29図 6	12	縄文 土器	深鉢	口径～ 胴部、 5%以 下	— — —	内彎気味で外頰する胴部から 内彎する口径部。肩部の突起 の下位に単筋縄文LRを施し た隆線により三角形区画。そ の下位に無文帯を挟んで太い 横走沈線と単筋縄文LR（1段 3条）。内面口径部下部に太い 横走沈線。段をもって胴部に 移行。内面ナデ	メノウ粒中量、 メノウ礫・石 英粒・雲母粒・ 凝灰岩粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 白色。内部褐色 灰色。独特な 色調	D 5 h0、 20.43 m	—	図版28 晩期中葉・ 前期式。地 域からの 搬入品 か。 混入

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第29図 7	13	磨石	6.0	5.5	4.1	166.4	多孔質 安山岩	やや扁平な不整形円形の礫を利用。表裏と周囲を	D 5 h0、 20.51 m	—	図版28 完存。 裏面に横 付着か。 混入

③中・近世

第194号土坑（SK194）（第22・30図，第21表，図版9・10・28）

位置 D5c0区に所在する。トレンチ南壁際で確認され、一部トレンチ外（D6c1区）に延びている。

規模と形状 長軸をN-60°-Eにおく隅丸長方形を呈する。長軸135cm，短軸（65）cmである。

重複関係 SI30の東部を掘り込んでいる。

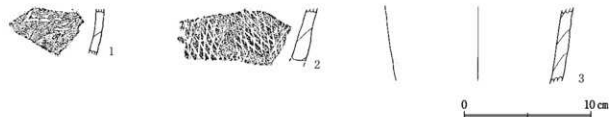
土層 掘り込んでの調査をしていないが、トレンチ南側セクション面で覆土の一部が捉えられている。それによれば、覆土は周囲のII層に対して粘土質で褐色がかり、縄文土器細片・小礫などを比較的多く含む。人為的堆積と思われる。

土層解説

- 黒褐色（10YR3/2）ローム小ブロック微量，ローム粒子少量，Nt-I・Nt-S微量，土器細片・礫少量，焼骨細片微量，締まりやや弱，粘性中

遺物 確認面で縄文土器片等7点が出土している。いずれも混入と考えられるが、うち3点を掲載する。

所見 形状・覆土等の類似から中・近世の土壌墓と考えられる。



第30図 第194号土坑出土遺物実測図

第21表 第194号土坑出土遺物観察表

採回 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	粘土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第30区												
1	1	縄文 土器	深鉢	胴部、 5% 以下	— — —	わずかに内唇、わずかに外縁、 外面粗い網目状燃糸文、内面ナデ。 薄手	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。外面にふ い褐色。内面 にふい黄褐色。 内部褐色。	D 5 c0、 20.81 m	—	図版28 晩期粗製 土器。 混入
2	4	縄文 土器	深鉢	胴部、 5% 以下	— — —	直線的、外縁。外面細かめの網 目状燃糸文、内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・メノ ウ礫・チャエ ト粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	外面褐色。内 面灰褐色。内 部に褐色。	D 5 c0、 20.87 m	—	図版28 晩期粗製 土器。 混入
3	2	土器部	甕	体部、 5% 以下	(5.9)	内埋気味。外縁。残存部での径 [12.9～14.8]cm。内外面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・チャエ ト粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 海綿骨針微量	良好	外面褐色。内 面灰褐色。内 部にふい褐色	D 5 c0、 20.81 m	—	図版28 内面炭化 物付着。 混入

第195号土坑 (SK195) (第22・31図, 第22表, 図版10・11・28)

位置 D5g0区に所在する。トレンチ南壁際で確認され、一部はトレンチ外(D6g1区)に連続している。

規模と形状 長軸(90)cm, 短軸90cmの隅丸長方形を呈する。長軸をN-31°-Wにおく。

重複関係 なし。付近には同様の土坑SK196やSK204, 粘土貼り土坑SK202が確認されている。

土層 掘り込んでの調査をしていないが、確認面及びセクションでの観察によれば、覆土は周囲のII層に対して粘土質で褐色がかり、縄文土器細片・小礫などを比較的多く含む。人為的堆積の可能性が高いと思われる。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/3)ローム粒子少量、Nt-S微量、土器細片微量、礫・焼礫少量、焼土小ブロック微量、
焼土粒子微量、骨粉微量、締まり中、粘性中

遺物 土器片24点、剥片1点、合計25点が出土している。いずれも混入品と思われるが、うち2点を掲載する。

所見 形状・覆土等の類例から、中・近世の土壌墓と考えられる。



第31図 第195号土坑出土遺物実測図

第22表 第195号土坑出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第31図	1	縄文 土器	甕	口縁部, 5%以下	— — —	ほぼ垂直に立ち上がる頸部から 屈曲して内彎・大きく外傾する 口縁部。端部外面に粘土紐を貼り 付けて張り出させ、端部は半 円状。部分的に突起をつくる。 内外面ナデ	メノウ粒・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 褐色砂粒・海 綿骨針微量	普通。 やや甘 いか	サンドイッチ 状。内外面褐 灰色。器表下 浅黄褐色。内 部褐色	D 5g0 20.70 m	—	図版28 晩期粗製 土器。 混入。 平置き実測
	2	土師器	環	体一底 部 20%	— (2.2) 14.0	平底から内彎・大きく外傾する 体部。ろくろ成形。底部へう切 りまたはヘラケズリ。外面ろく ろ目。内面ミガキ。器壁薄い	メノウ粒少量。 メノウ粒・石 英粒・雲母細 粒・黒色砂粒・ 海綿骨針微量	良好。 堅緻	外面にふい 黄褐色。内面 褐色	D 5g0 20.67 m	—	図版28 9世紀。 混入

第196号土坑 (SK196) (第22・32図, 図版11・28)

位置 D 5 g 0区に所在する。付近には同様の土坑SK195やSK204が確認されている。

規模と形状 長軸130cm, 短軸70cmの隅丸長方形を呈する。主軸をN-27°-Wにおく。なお、北
端部は、調査の都合上サブトレで掘り込んでいるので図上では破線表示しているが、確認面
でプランを確認している。現状での深さは、サブトレ南壁での所見では、確認面から6cmである。

重複関係 北部で粘土貼り土坑SK202の南東部を、東部でSI31の西部を掘り込む。

土層 覆土はSI31の覆土等と比べると粘土質で褐色がかっており、礫を比較的多く含む。

土層解説

- 1 灰黄褐色(10YR 4/2) ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、土器細片微量、礫・焼礫中量、
焼土小ブロック微量、焼土粒子微量、骨粉微量、締まり中、粘性やや弱

遺物 土器片103点, 剥片等11点, 骨片1点, 合計115点が出土している。多くは細片で混入品で
あるが、うち2点を掲載する。

所見 形状・覆土等から中・近世の土壌墓と考えられる。



第32図 第196号土坑出土遺物実測図

第23表 第196号土坑出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第32図	1	縄文 土器	鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎、外傾。口縁端部付近でわ ずかに内傾。端部を山形に作り、 外面単節縄文LRを施文。山形 の頂部から沈線垂下し、下位 に横走沈線2条。内面ナデ。一 部ミガキ状	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・赤褐色砂 粒微量	良好	外面灰黄褐 色。内面にふ い黄褐色。内 部褐色	D 5g0 20.69 m	—	図版28 混入
	2	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内彎。わずかに外傾。 接合口縁。内外面ナデ。内面一 部ミガキ状	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	普通	内外面灰黄褐 色・黒褐色。 内部灰褐色	D 5g0 サブト レー括	—	図版28 晩期粗製 土器。 混入

第199号土坑 (SK199) (第22・33図, 図版11・28)

位置 D5f0区に所在する。付近には粘土貼り土坑を含め、同様の遺構が多く分布する。

規模と形状 長軸157cm, 短軸88cmの不整隅丸長方形で、軸線はN-64°-Eを示す。

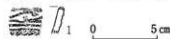
重複関係 西端部で平安時代の住居跡S I 29の竈先端部を掘り込み、北東部を中・近世のSK 200に掘り込まれている。

土層 掘り込んでの調査はしていないので詳細は不明であるが、確認面での所見を示す。竈材と見られる砂質粘土はS I 29の竈を掘り込んでいるためと思われる。

土層解説

- 1 黒褐色(7.5YR2/2) ローム粒子少量, Nt-S微量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 土器細片微量, 黄褐色砂質粘土小ブロック少量, 礫少量, 炭骨細片微量, 締まり中, 粘性中

遺物 確認面で土器片9点が出土している。いずれも混入品であるが、うち1点を掲載する。



第33図 第199号土坑
出土遺物実測図

所見 S I 29の竈を掘り込んでおり、時期は平安時代以降である。類例からは中・近世の土墳墓と考えられる。SK 200に掘り込まれており、新旧はあるもののほぼ同時代の遺構であろう。

第24表 第199号土坑出土遺物観察表

採回番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第33図	1	4	縄文土器 小型鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎気味、外傾。口縁端部小さな突起。外面細かな車指縄文L長を地文に端部付近に入組三文字とその下位に横走沈線2条。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面暗赤褐色, 内面褐色, 内部灰褐色	確認面一拵	—	図版28 晩期中葉・大前C1-C2式。 海綿骨針顕著。 混入

第200号土坑 (SK200) (第22・34図, 第25表, 図版11・28)

位置 D5f0区に所在する。一部がトレンチ北側に延びる。

規模と形状 長軸(110)cm, 短軸91cmの隅丸長方形で、主軸はN-24°-Wを指す。西辺が北端部で屈曲する様相を示していることから、長軸は現存長からさほど長くないものと思われる。同種の土坑の中では長軸の比率が小さい。

重複関係 南部でSK199の中央部を掘り込んでいる。

土層 掘り込んでの調査は行っていないため、確認面での観察結果を記す。II層より粘土質で褐色がかっている。わずかに焼土粒子が混入するが、S I 29の竈をSK199が掘り込み、SK199を本跡が掘り込んでいるためか。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/4) ローム粒子中量, Nt-S微量, 焼土粒子微量, 礫少量, 骨片・骨粉少量, 締まり中, 粘性やや弱

遺物 土器片3点, 剥片1点, 合計4点が出土した。混入品であるが、うち1点を掲載する。



第34図 第200号土坑出土遺物実測図

所見 重複関係から平安時代以降の土坑であり、類例から中・近世の土墳墓と考えられる。

第25表 第200号土坑出土遺物観察表

神国 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第34区	1	2	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以 下	— — —	内艶灰味、外類。外面粗い熱水 文。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒、 灰色砂粒・赤 褐色砂粒・海 綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。外面暗赤 褐色。内面に ふい・橙色・灰 褐色。内部褐 灰色	D 5口、 20.67m	—	図版28 晩期粗製 土器。 混入

第201号土坑（SK201）（第22図，図版10・11）

位置 D5d0区に所在し、トレンチ北側に延びる。

規模と形状 北半がトレンチ外に延びているが、類例からは隅丸長方形を呈するものと推定される。推定長軸(75)cm、短軸95cm、主軸はN-28°-Wを指す。

重複関係 東部でSI29の西部を掘り込み、西部をSK215に掘り込まれている。

土層 掘り込んでの調査はしていないが、セクションに一部土層が現れている。状況からは人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/3)ローム粒子中量、Nt-S微量、焼土小ブロック少量、焼土粒子微量、土器細片少量、礫少量、炭化粒子微量、締まり中、粘性中

遺物 土器片1点、剥片等2点、合計3点出土したが、いずれも混入品である。

所見 覆土・形状の類例からは中・近世の土墳墓と考えられる。

第202号土坑（SK202）（第22・35図，第26表，図版11・28）

位置 D5g0区に所在するが、北半はトレンチ外に延びている。

規模と形状 隅丸方形または隅丸長方形と推定される。底面と立ち上がり面に粘土が薄く貼られており、いわゆる粘土貼り土坑である。東西123cm、南北は現状で(82)cm、深さ28cmを測る。底面は西に向かってわずかに傾斜している。

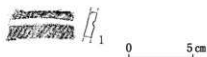
重複関係 ほぼ全体でSI31を掘り込む。南半部はSK196に掘り込まれるが、これはサブトレ南壁で明瞭に捉えられた(北壁セクションには現れていない)。

土層 覆土は上下2層に分層できる(第1・2層)。水平堆積しており、人為的堆積と思われる。一部立ち上がりに貼られた粘土を掘り込んだため、図にはその層も現れている(第3層)。底面は掘り込んでいないが、第3層よりも純層に近い粘土が貼られている。厚さなどは不明である。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/3)ローム小ブロック微量、ローム粒子中量、粘土小ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量、土器細片少量、締まり中、粘性やや弱
- 2 黒褐色(10YR2/3)ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、粘土中ブロック少量、粘土小ブロック少量、焼土小ブロック微量、焼土粒子量、炭化物粒子微量、締まり中、粘性やや弱
- 3 褐灰色(10YR4/1)粘土中ブロック多量、粘土小ブロック多量、黒土少量、締まり強、粘性強

遺物 東端部で土師器高台付坏片が出土しているが、重複しているSI31に由来する可能性が高い。縄文土器小型深鉢片が出土している。これらを含め土器片8点が出土しているが、いずれも混入と見られる。うち、1点を掲載する。



第35図 第202号土坑出土遺物実測図

所見 粘土貼り土坑である。時期決定できる遺物の出土はないが、粘土貼り土坑であることや重複関係から中・近世と考えられる。

第26表 第202号土坑出土遺物観察表

採回番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第35図	1	2	縄文土器	小型深鉢	胴部、5%以下	— — —	直線的、外規。粘土粘積み上げ成形の粘土継1段分。外面単筋縄文1段を地文に深くし、しっかりした横走沈線1条。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート塵・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状、外面赤色、内面赤褐色、浅黄褐色、内部黒色	D 5 g0, 20.52 m	—	図版 28 記入

第203号土坑 (SK203) (第22・36図, 第27表, 図版10・11・28)

位置 D5e0・D5f0区に所在し、遺構の約半分はトレンチ北側に延びる。

規模と形状 北半がトレンチ外に延び詳細は不明である。南辺が直線的でなく弧状であるが、東西に主軸を置く隅丸長方形になるものと思われる。長軸145cm, 短軸(50)cmで、主軸はおおむねN-64°Eを指す。

重複関係 西部でS I 29の東壁を掘り込む。

土層 掘り込んでの調査はしていないがセクションに覆土の一部が現れている。人為的堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/4) ローム小ブロック微量、ローム粒子中量、Ni-S微量、焼土粒子微量、礫少量、骨粉微量、綿まり中、粘性やや弱

遺物 土器片1点が出土している。混入品であるが、その1点を掲載する。



第36図 第203号土坑出土遺物実測図

所見 平安時代の住居跡S I 29を掘り込んでおり、平安時代以降の土坑である。類例からは中・近世の土坑墓と考えられる。

第27表 第203号土坑出土遺物観察表

採回番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第36図	1	1	縄文土器	小型深鉢	胴部、5%以下	— — —	わずかに内規、わずかに外規。外面細かい単筋縄文1段を地文に2条の横走沈線とその間に沈線よる楕円形を表現。内面ナデ	メノウ粒・シャモット少量、メノウ塵・石英粒・石英塵・雲母細粒微量	普通	内外面・内部ともにふい黄褐色	確認面一括	—	図版 28 記入

第204号土坑 (SK204) (第22・37図, 図版10・11・28)

位置 D5h0区のトレンチ南壁際に所在する。南半部はトレンチ外南方に広がる。

規模と形状 トレンチ内で捉えられているのは北半部であるが、長軸122cm, 短軸(30)cmで主軸をN-67°-Eに置く隅丸長方形の土坑と推定される。

重複関係 北辺でS I 31の南東コーナー部を、北東コーナー付近でS I 32を掘り込んでいる。

土層 掘り込んでの調査はしていないが、覆土はやや粘土質で褐色がかっている。人為的堆積と思われる。

土層解説

- 1 灰黄褐色(10YR 4/2) ローム粒子中量, Nt-S微量, 砂質粘土中ブロック少量, 焼土小ブロック微量, 焼土粒子微量, 礫少量, 締まり中, 粘性やや弱

遺物 土器片1点が出土している。混入品であるが、その1点を掲載する。



所見 形状や覆土の類似から、中・近世の土壇墓と推定される。

第37図 第204号土坑
出土遺物実測図

第28表 第204号土坑出土遺物観察表

採回番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第37図	1	縄文土器	小型鉢	口縁部, 5%以下	— —	下半でわずかに外反, 上半で内彎気味, 全体外傾, 口縁端部にキザミ。外面太く浅い横走沈線3条, その間の隆線のうち下段に細かい連続刺突, 内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状, 内外面に白い褐色, 内面黒色	確認面一括	—	図版28混入

第215号土坑 (SK215) (第22図, 図版11)

位置 D5c0区からD5d0区のトレンチ北壁際で確認された。北半部はトレンチ外に延びている。

規模と形状 現状ではトレンチ北壁際でおそらく長辺(南辺)付近が確認されるだけであるが、長軸223cm, 短軸(35)cmで、N-70°-Eに主軸を置く隅丸長方形になる可能性が高い。類例は長軸1.4~1.5mであるのに対し、本跡は長軸が長い。

重複関係 東端部でSK201を掘り込んでいる。SK201は平安時代の住居跡S I 29の西辺を掘り込む。

土層 掘り込んでの調査はしていないが、トレンチ北壁セクションで見える限りでは単一層で、混入物がやや多く、人為的堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色(10YR 3/2) ローム粒子少量, Nt-S微量, 焼土粒子微量, 炭化物中ブロック微量, 炭化物粒子微量, 焼骨細片微量, 礫少量, 土器細片少量, 締まり中, 粘性中

遺物 出土していない。

所見 間接的にS I 29を掘り込んでおり平安時代以降の土坑である。類例や覆土の状況からは中・近世の土壇墓と推定される。

④時期不明

第218号土坑（SK218）（第22図，図版11）

位置 C5j0区からD5a0区にかけてトレンチ北壁のセクションで確認した。グリッド杭の土柱の西側で一部立ち上がりが確認されていたが、土柱を削ったところ浅い椀状のセクションが現れ、土坑と捉えた。セクション面の北側に残存部が延びている。

規模と形状 上述のとおりセクション面で確認しており、平面では確認していない。セクション面における幅は45cm、深さ24cmである。サブトレ南側では確認できず、サブトレの幅の中で収束する小規模な土坑である可能性が高い。断面形は椀形を呈する。

重複関係 SI37の覆土を掘り込んでいる。

土層 覆土は単一層で、礫を混入し、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色（10YR3/2）ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S微量、焼骨細片微量、礫少量、炭化物粒子微量、織り中、粘性やや弱

遺物 出土していない。

所見 縄文時代の住居跡SI37を掘り込んでいることから、それよりは新しいが、それ以上は不明である。周囲に多い中・近世の土壌墓とは覆土が明らかに異なる。断面形状からはSK216・217と類似するので縄文晩期と推定することも可能であるが、ここでは時期不明の遺構としておく。

⑤遺構外出土遺物（第38～46図，第29表，図版28～38）

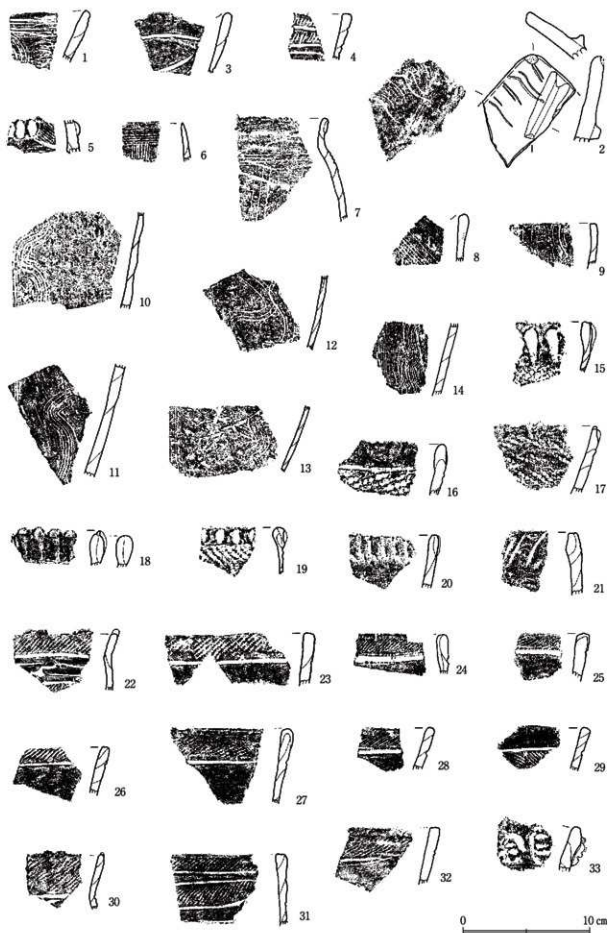
遺構外からは土器片6,739点、石器・石製品・剥片等1,245点、骨片27点、その他7点、合計8,018点と大量の遺物が出土している。うち、土器片等175点、土製品4点、石器・石製品28点、その他4点（不明鉄製品、鉄滓、髪針、桃核）、合計211点を掲載する。一部は遺構に伴うと推測される遺物もあるが、そうした遺物についてはその旨観察表の備考欄に記した。大量に遺物が出土し遺構確認ができないため、遺構外遺物として取り上げてから遺構確認をした場合があり、その後遺構との関連を想定することとなった遺物である。

（3）所見

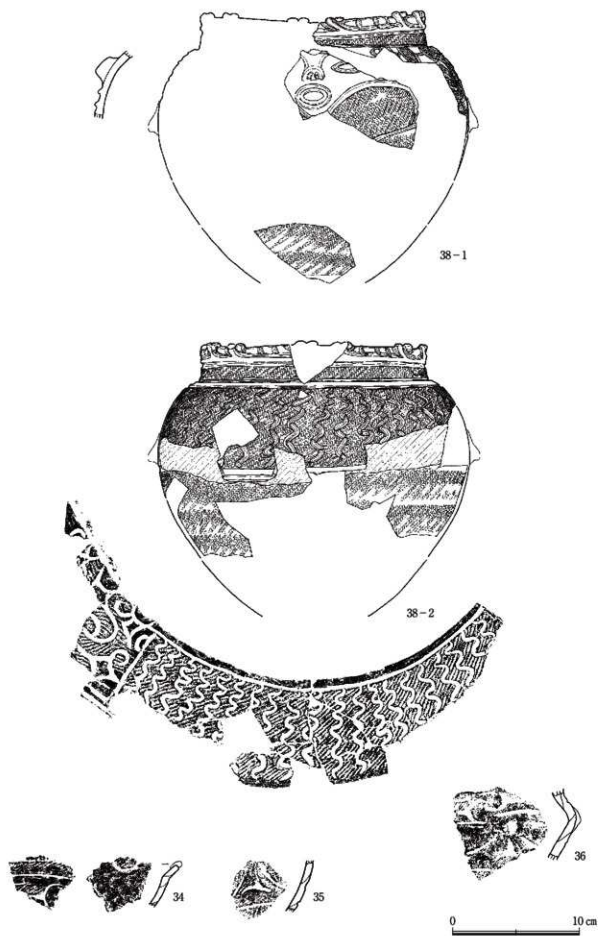
本トレンチは、第2次確認調査で第12トレンチにおいて確認されている第11号堅穴住居跡（SI11）の具体相を知り、併せて第12トレンチと第13トレンチの間の区域における遺構分布を知るため設定したものである。

調査ではSI11は結局確認できなかった。第2次確認調査では遺物の集中と若干の土質の違いにより外形線を認めたが、今次調査では遺物の集中もなく、土質の違いも認められず、外形線が検出できなかったのである。本跡の存在については、否定的にならざるを得ない状況である。

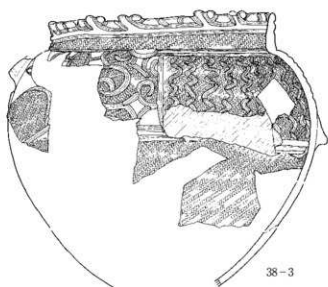
一方、新たに第29～32・37号堅穴住居跡（SI29～32・37）と土坑13基を確認した。SI30・32・37は縄文時代晩期の住居跡、SI29・31は平安時代の住居跡である。第28・29トレンチでの調査成果も考え合わせると、遺跡中央部から北西部にかけての縄文晩期と平安時代の集落の展開が想定される。土坑の多くは中・近世の墓塚と見られる。



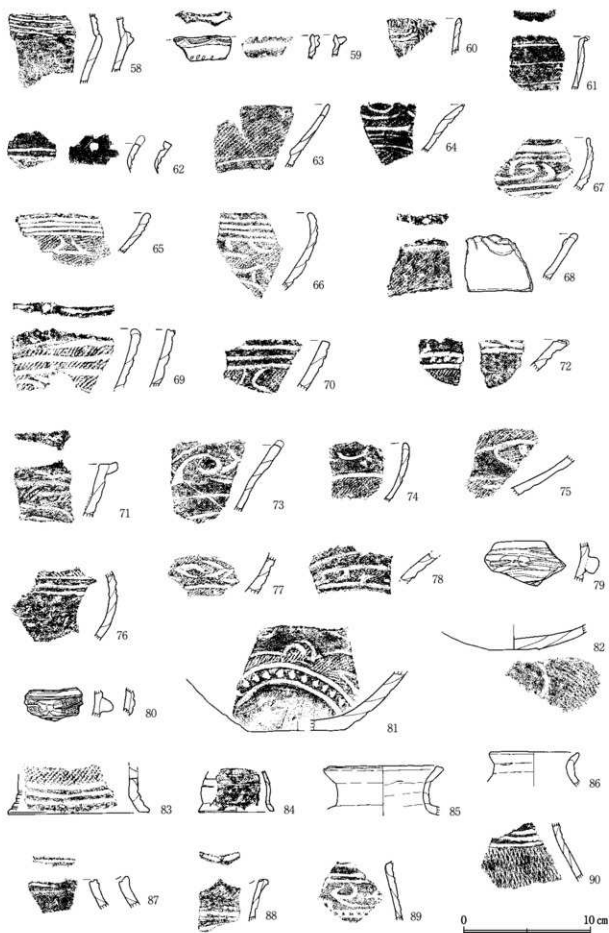
第38図 第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



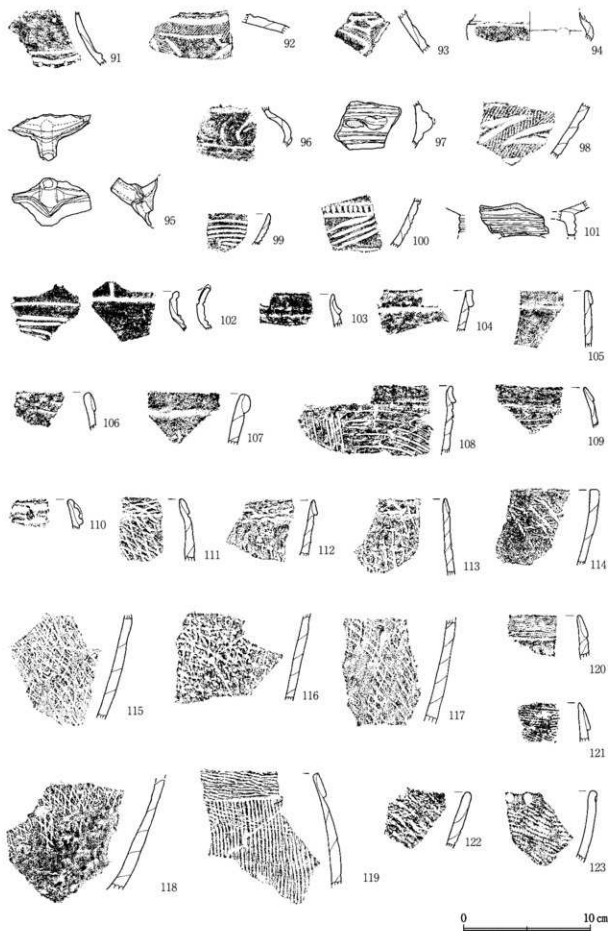
第39図 第30 トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)



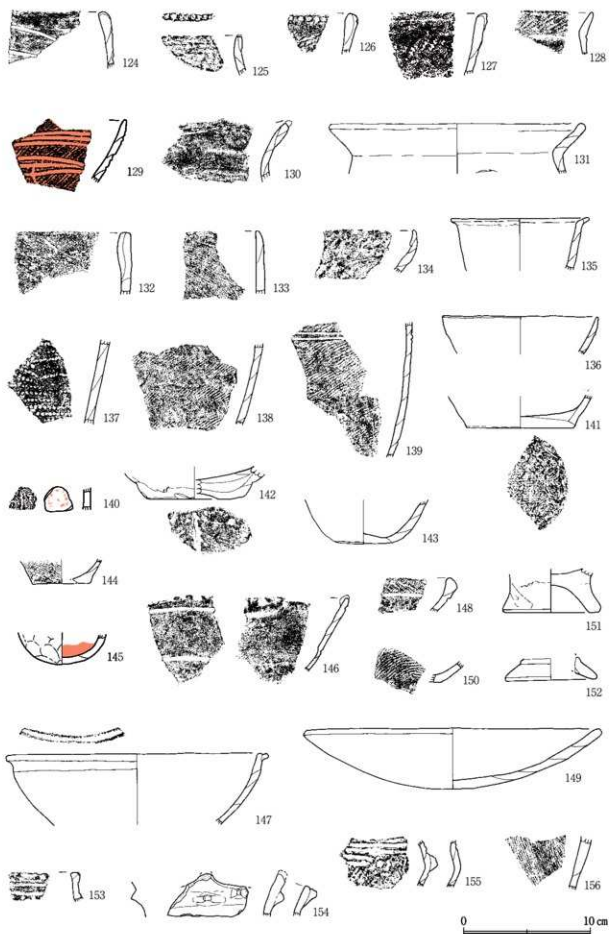
第40図 第30トレンチ遺構外出土物実測図(3)



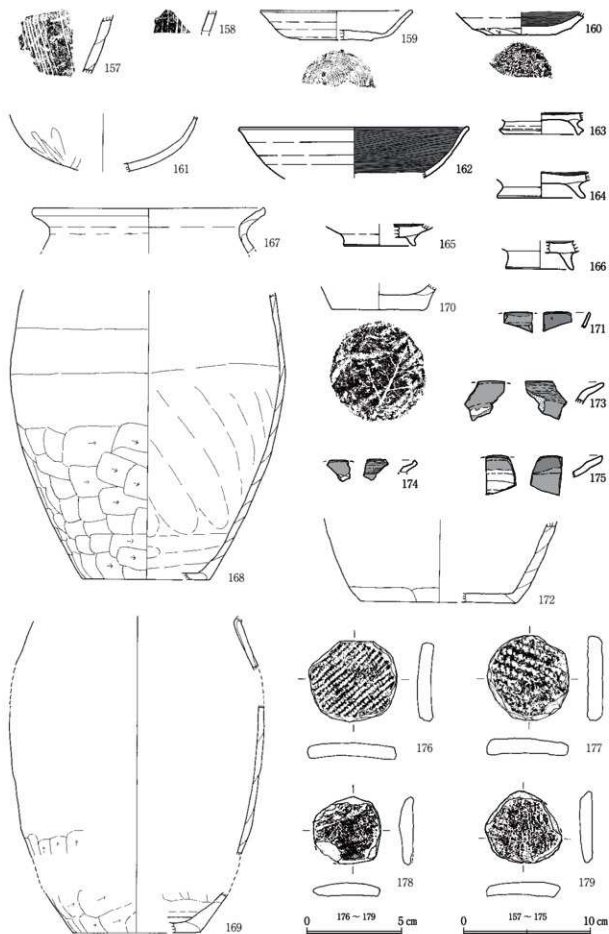
第41図 第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(4)



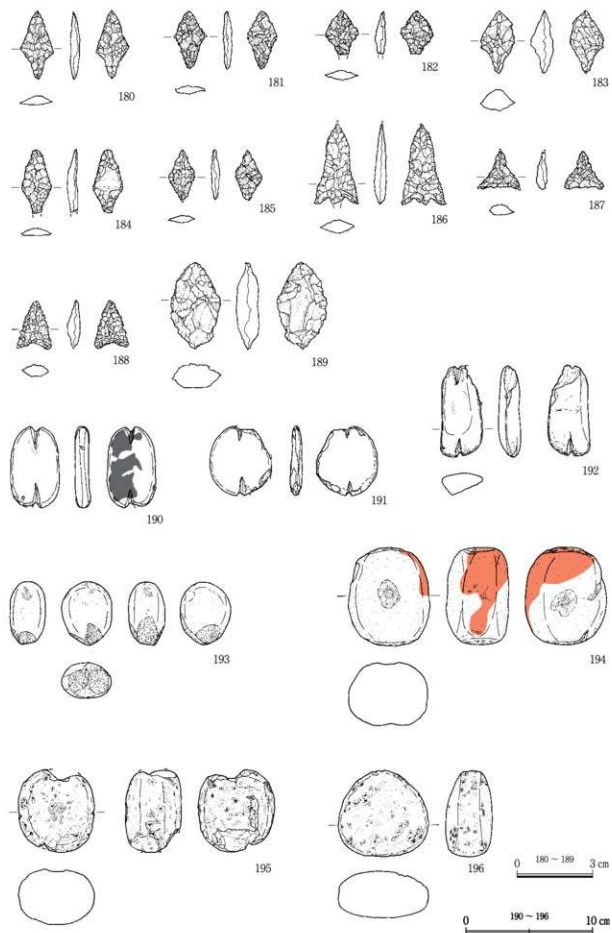
第42図 第30トレンチ遺構外出土物実測図(5)



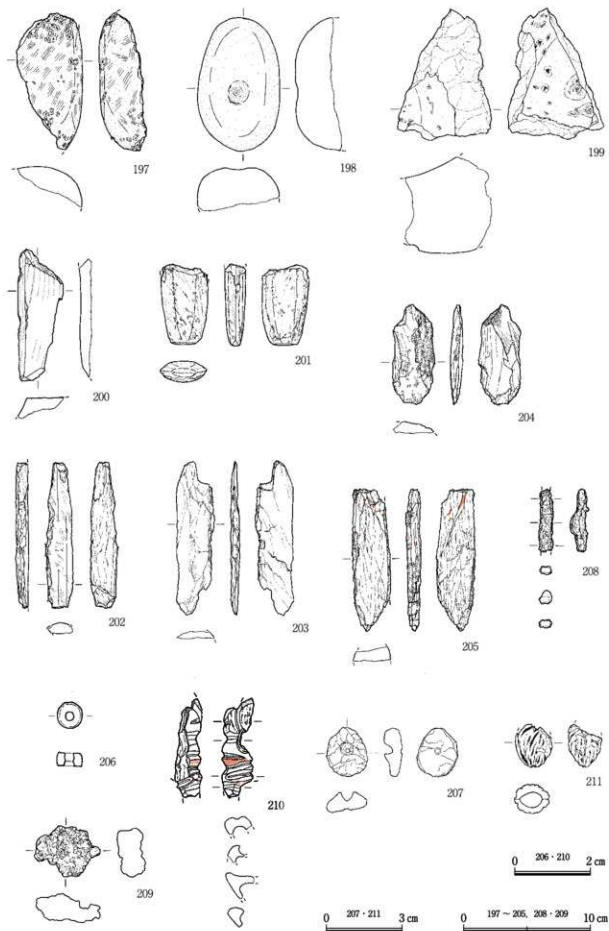
第43図 第30 トレンチ遺構外出土遺物実測図(6)



第44図 第30トレンチ遺構外出土遺物実測図(7)



第45図 第30 トレンチ遺構外出土遺物実測図(8)



第46図 第30トレンチ遺構外出土物実測図(9)

第29表 第30トレンチ遺構外出土遺物観察表

採回番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第38回												
1	277	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内響気味・外傾。外面横位のち弧状の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好、堅靱	内外面黒褐色。一部灰黄褐色	C5a0、II層一括	—	図版28後期・堀之内1式か
2	422	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内響・外傾する波状口縁。波頂部。外面斜に突帯を付し、一部突帯にかかるように波状の条線を施す。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・灰色砂粒微量	普通	外面にふい黄褐色。内面黄褐色。内部灰黄褐色	D5b0、20.80m	—	図版28後中期。平置き実測
3	20	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内響。外傾。波状口縁の波頂部。外面弧状波線で区画し間隔は、ミガキとナデで裝飾効果。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・海綿骨針・赤褐色砂粒微量	普通	内外面・内部褐色。器表下にふい褐色	D5c0、I B層一括	—	図版28後期中葉・加賀利B2式
4	271	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内響気味・外傾。口縁部角縁。外面ヘラ(?)による斜位の連続押捺2段。のち横走沈線を1条。下位に2条。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・チャート粒、雲母細粒、凝灰岩粒、黒色砂粒微量	やや不良、焼き甘い	内外面灰白色。一部黒色	D5d0、I B層一括	—	図版28後期中葉・加賀利B式か
5	333	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内響気味。わずかに内傾。下層で外側に屈曲する唇相。豚鼻状突起を貼り付け、それを起点に突起沈線を引き、単節縄文L形を充填。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色。器表下にふい赤褐色。内部褐色	C5d0、20.81m	—	図版28後期中葉・前期前葉・安行2~3a式
6	294	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内響気味でわずかに内傾する口縁部。外面横位の、のち縦位の条線文。条線の単位は4条か。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ粒・石英粒・雲母細粒・黒色砂粒微量	普通	内外面にふい黄褐色。内面一部褐色。内部褐色・黒色	C5d0、II層一括	—	図版28後期粗製土器
7	255	縄文土器	深鉢	口縁部・胴部、5%以下	—	内響・内傾する胴部から縦やかに屈曲し外傾する口縁部。複合口縁。内外面ナデ。胴部外面上位に3~4条の直線沈線。下位に3条単位・縦位の直線状条線文	メノウ粒中量、メノウ粒・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不良	外面にふい褐色。内面にふい黄褐色	D5d0、I B層、20.86m	3片	図版28後期粗製土器・堀之内2式か。S137(覆土)に帰属の可能性
8	298	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	外気味。外傾。波状口縁。外面斜位の条線文。その下位に縦位の条線文。条線の単位7条。一部平截竹管施文か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面・内部とも褐色。一部褐色・にふい黄褐色	D5d0、II層一括	—	図版29後期粗製土器
9	330	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内響。わずかに外傾。口縁部角縁。外面横位の直線と連弧状の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面灰褐色・褐色。内面にふい赤褐色。内部灰褐色	C5d0、II層一括	—	図版29後期粗製土器・S137(覆土)に帰属の可能性
10	90	縄文土器	深鉢	胴部、5%	—	わずかに内響気味。わずかに外傾。内外面ナデ。外面縦位の直線状条線文。のち縦位の波状条線文4条。薄手	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒微量	普通	外面褐色。内面褐色。内部にふい黄褐色	C5d0、I B層、20.90m	2片	図版29後期粗製土器。外面炭化物付着。S137(覆土)に帰属の可能性
11	400	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内響気味。外傾。外面縦位の直線・曲線の条線文。条線の単位は6条。内面ナデ。一部ミガキ状	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	良好、堅靱	サンドイッチ状。外面及び内外面器表下にふい黄褐色。内部褐色	D5a0、20.78m	—	図版29後期粗製土器・S137(覆土)に帰属の可能性
12	405	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内響。わずかに外傾。外面斜行条線文の直線。条線の単位は3条。内面ナデ。器壁薄	メノウ粒中量、凝灰岩粒・褐色砂粒少量、メノウ粒・黒色砂粒微量	普通	外面黒色・褐色。内面にふい黄褐色。内部褐色	D5a0、20.81m	—	図版29後期粗製土器・S137(覆土)に帰属の可能性

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第38区												
13	254	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内甕、外傾。粗い網目状熟赤土。 その後3条単位の縦位波状・直線 状の赤直文。内面ナデ。器壁 薄い。(3-4mm)	メノウ粒中 量、メノウ礫・ チャート礫・ 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 海綿骨針微量	やや 不良・ 二次 焼成	内外面浅黄緑 色・にぶい黄 褐色	C 5 Ⅱ B Ⅱ層、 20.87 m	3片	図版29 後期粗製 土器。外 部一部灰 化層付着。 S137(覆土) に帰属の 可能性
14	573	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	直線的。外傾。外面縦位と波状 の赤直文。施文類は縦位一 波状一縦位。条線の単位は8条。た だし明瞭さを欠く。中央付の 点と短い弧線は波状文の転回に かかわるものか。内面ナデ。洗 手	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・黒色砂 粒微量	普通	外面黒褐色。 内面にふい 黄褐色。内 部に ふい褐色	D 5 aⅡ、 20.79 m	—	図版29 後期粗製 土器。S1 37(覆土) に帰属の 可能性
15	319	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内甕、内傾気味。口縁部内側に 粘土を貼り付けて肥厚させ。外 面指張圧痕。胴部外面単筋縄文 R.L。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英細粒・雲 母細粒・黒色 砂粒・海綿骨 針微量	普通。 焼け むら	外面にふい 褐色・黒色。 内面にふい 黄褐色。内 部灰褐色	D 5 aⅡ、 Ⅱ層一 括	—	図版29 後期粗製 土器
16	409	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内甕・外傾する口縁部。 口縁部を肥厚させ。外面に指張 圧痕。胴部外面太く単筋縄文 R.L。その後口縁部と胴部の境界 を横走沈線で区画。内面ナデ	メノウ粒中量、 メノウ礫少量、 石英粒・雲母 細粒微量	良好	外面褐色・黒 褐色。内面 褐色。内灰 褐色	D 5 aⅡ、 20.83 m	—	図版29 後期粗製 土器。S1 37(覆土) に帰属の 可能性
17	668	縄文 土器	深鉢	口縁部・ 胴部、 5%以下	—	わずかに内甕、外傾。口縁部 に連続して指張圧痕。胴部粗 い単筋縄文R.L。内面ナデ	メノウ粒・白 色細砂粒少量 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒褐色砂 粒微量	普通	外面にふい 黄褐色。内 面にふい 褐色。内 部黒褐色	D 5 Ⅱ、 20.68 m	—	図版29 後期粗製 土器
18	445	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	ほぼ直立。粘土帯の貼り付け により肥厚させた複合口縁に連続 する指張圧痕。押し上げが顕著 で粘土が端部に突出。指張は斜 めに残りがわれ、一部に爪の痕跡 が残る。内面ナデ	メノウ粒中量、 メノウ礫少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 海綿骨針微量	良好。 堅固	内外面・内部 ともにふい 黄褐色。外 面一部 暗灰黄色	D 5 Ⅱ、 20.84 m	—	図版29 後期粗製 土器
19	277	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内甕気味。わずかに内傾。口縁 部を肥厚させ。胴部外面単 筋縄文R.L施文。のち口縁部外面 に棟状施文先端でギザギ。内 面ナデ。胴部器壁薄。	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面 にふい黄褐 色。内部 黒色	C 5 aⅡ、 Ⅱ層一 括	—	図版29 後期粗製 土器。外 面赤褐色 物質付着
20	201	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内甕、わずかに外傾。肥厚 させた口縁に、指張または棟状 施文具で上から下に引く連続ギ ザギ。内外面ナデ。口縁部器壁 逆粗いミガキ	メノウ粒少量、 石英礫・チャ ート礫・雲母 細粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	外面にふい 黄褐色。内 面にふい 赤褐色。内 部に ふい褐色	D 5 bⅡ、 Ⅱ層、 20.90 m	—	図版29 後期中一 後期粗製 土器
21	14	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内甕・わずかに内傾。 口縁部角縁。口縁部下内面を 肥厚させ接を持つ。口縁部外面 に斜位の弧状沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英礫・金雲 母・海綿骨針 微量	普通	サンドイッチ 状。外面に ふい褐色。内 面にふい 褐色。内 部灰黄褐色	D 5 bⅡ、 Ⅱ層一 括	—	図版29 後期
22	157	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内甕・内傾の胴部から屈曲して ほぼ直線的に短く開く口縁部。 端部にB突起。口縁部外面単 筋縄文L.R。胴部は単筋縄文L.R を施文に、水平区画して磨消し。 沈線で入組み三又文。内面ナデ。 一部ミガキ	やや精良。メ ノウ粒少量。 メノウ礫・雲 母細粒・凝灰 岩粒微量	良好	外面黒色。内 部内黒褐色	D 5 bⅡ、 Ⅱ層、 20.87 m	—	図版29 晩期前葉・ 大割B2 式
23	278	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内甕気味。外傾。口縁部外面 単筋縄文L.R。の横走沈線で下 部を区画。その下位ミガキ。口 縁部外面一面上部ミガキ。以下 ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ チャート粒・ 海綿骨針微量	普通。 焼け むら	サンドイッチ 状。外面黒 褐色。一部灰 黄褐色。内面 暗灰黄色。内 部 黒色	D 5 bⅡ、 Ⅱ層一 括	2片	図版29 晩期前葉・ 大割B1 式
24	431	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%	—	ほぼ直立する口縁部。外側から 粘土帯貼り付けにより肥厚。口 縁部外面細かな単筋縄文L.R。 胴部外面ナデ。境界を沈線により 区画。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・凝灰岩粒・ 黒色砂粒微量	普通	内外面暗赤 褐色。器表下 部赤褐色。内 部 灰赤色	D 5 bⅡ、 20.83 m	—	図版29 晩期前葉・ 大割B1 式か
25	521	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内甕気味。わずかに外傾。外面 単筋縄文L.R.か(施文浅く不明 確)。下位を横走沈線で区画し、 以下ミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫・雲 母細粒・黒色 砂粒・褐色砂 粒・海綿骨針 微量	普通	外面 灰黄褐 色。内面に ふい黄褐色。 内部灰褐色	D 5 Ⅱ、 20.81 m	—	図版29 晩期前葉・ 大割B1 式

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第38区												
26	376	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	外反気味・外傾。口縁部外面単節縄文LR, のち横走沈線で下端を区画, その下位粗いミガキ。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量, メノウ礫・石英 粒・雲母細 粒・凝灰岩粒, 黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面黒褐色・ 内面暗赤褐色。表面 明赤褐色。内面 にふい黄褐色	C 5 Ⅱ 層一 括	—	図版 29 晩期前葉・ 大割B式 か。外面 灰化物付 着
27	402	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内彎気味・外傾。口縁部厚し端部丸縁。口縁部外面単節縄文LR, 横走沈線で区画しその下位ミガキ。内面ミガキ	やや精良。メ ノウ粒少量, メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒 微量	良好, 堅 緻。焼け むら顕 著	外面暗灰黄色・ 黄灰褐色。内 面にふい黄褐色	D 5 a0, 20.77 m	—	図版 29 晩期前葉・ S 1 37(覆 土)に帰属 の可能性
28	281	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内彎気味・外傾。口縁部外面単節縄文LR (3条か), のち横走沈線で下端を区画, その下位ミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 黒色砂粒・海 綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。外面黒褐色・ 内面暗赤褐色。表面 明赤褐色。内 部にふい黄褐色	D 5 e0, Ⅱ層一 括	—	図版 29 晩期前葉・ 大割B式 か
29	376	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	外傾し直線的に立ち上がる口縁部。口縁部外面無文(ナデ), その下位単節縄文LR。その境目に横走沈線1条。内面口縁部付足ミガキ・ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャ ャー礫・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・黒色砂粒 微量	良好	サンドイッチ 状。外面にふい 褐色。内面暗 赤褐色。内 部褐灰色	C 5 Ⅱ, 20.79 m	—	図版 29 晩期前葉・ S 1 37(覆 土)に帰属 の可能性
30	265	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内彎気味・内傾する胴部から屈曲してわずかに内彎気味で外傾する口縁部。端部に凸突起。口縁部外面単節縄文LR。屈曲部外面横走沈線。胴部にも沈線。内面丁寧ナデ	精良。メノウ 粒・メノウ礫・ 雲母細粒・黒 色砂粒・海綿 骨針微量	良好	外面黒褐色。内 部褐灰色	D 5 a0, ⅠB層一 括	—	図版 29 晩期前葉 後半
31	358	縄文 土器	深鉢	口縁部・ 胴部, 5%以下	—	わずかに内傾して直線的に立ち上がる。口縁部角縁。外面単節縄文LRを地文に。上位から横走2条, 弧状, 横走の沈線各1条。横走沈線2条間と弧状と横走沈線間磨り消し。内面ナデ	メノウ粒・石 英粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	普通	外面灰黄褐色・ 内面黒褐色・ 灰褐色。褐 灰色	C 5 Ⅱ, 20.81 m	—	図版 29 晩期前葉・ S 1 37(覆 土)に帰属 の可能性
32	14	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	直線的・外傾。口縁部角縁。口縁部外面単節縄文LR。その下位を沈線で区画。その下と内面ミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・泥 岩粒・石英粒 微量	普通	サンドイッチ 状。内外面褐 灰色。器表下 部褐灰色。内 部灰色	D 5 b0, ⅠB層一 括	—	図版 29 晩期前葉・ 大割B式 か
33	572	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	外反から緩く屈曲して内彎気味, わずかに外傾。波状口縁。端部付足外面単節縄文LR。波状口縁部外面を挟った中(三角区)に区画か。の環状浮文にへうによる連続明突で菊花状浮文。波状底面外面には横位のキザミ3条を入れた縦長の横文。内面ナデ	メノウ粒中量, 凝灰岩粒・雲 母細粒・黒色 砂粒・海綿骨 針微量	普通	サンドイッチ 状。内外面明 赤褐色。一部 にふい褐色。 内部黒褐色	C 5 Ⅱ, 20.80 m	—	図版 30 晩期前葉・ 安行 3 a 式。S 1 37 (覆土)に帰 属の可能性
第39区												
34	386	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内彎・外傾する胴部から屈曲して大きく外傾する口縁部。端部にB突起彫り付け。外面単節縄文LRを地文に。屈曲部に横走沈線1条。胴部は一部縄文を残して磨り消し。入組三叉文を施す。内面ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・凝灰 岩粒・チャ ャー粒・海綿 骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。器表 下黄褐色。内 部褐灰色	D 5 a0, 20.79 m	—	図版 30 晩期前葉・ S 1 37(覆 土)に帰属 の可能性
35	161	縄文 土器	浅鉢	胴部, 5%	—	内彎・外傾。外面単節縄文LR地に磨消。中に三叉文。内面ミガキ	メノウ粒中量, 凝灰岩粒・雲 母細粒・黒色 砂粒・海綿骨 針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面明 赤褐色。一部 にふい褐色。 内部褐灰色	D 5 b0, ⅠB層一 括	—	図版 30 晩期前葉・ 安行 3 a 式
36	574	縄文 土器	壺	胴部・胴 部, 5%	—	外傾する胴部から屈曲して内傾する肩部。さらに屈曲して立ち上がる肩部。胴部から肩部への屈曲部外面に緩やかな双頭の突起。外面は単節縄文LRを地に。肩部に入組三叉文。胴部三角形区画の中に三叉文。内面ナデ	メノウ粒中量, メノウ礫・石 英粒・石英粒・ 黒色砂粒微量	普通	外面褐色・黒 色。内面・内 部にふい黄褐 色・褐灰色	D 5 a0, 20.79 m	—	図版 30 晩期前葉・ 大割B式・ S 1 37(覆 土)に帰属 の可能性
第40区												
37	277	縄文 土器	壺	肩部, 5%以下	—	全体内傾。内彎する胴部から緩やかに外反して肩部に接続。外面入組三叉文。上下を沈線で区画。内面ナデ	メノウ粒中量, メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	普通, 焼け むら	外面黒褐色。内 面灰褐色。内 部灰褐色	C 5 a0, Ⅱ層一 括	—	図版 30 晩期前葉・ 大割B式 か

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第39- 40区													
38	177	縄文 土器	壺	口径～ 胴部, 40%	[17.8] (21.7)	胴部は下半は外傾し上半で丸みを帯びる。最大径244cm。頸部で強く屈曲してわずかに外反、わずかに外傾する頸～口径部に移行。口径部は羊歯状文を施し、2部1単位の変位ら単位を付す。胴部縄文(単節縄文LR、下同じ)上下を横走沈線で区画。正面胴部上半に人面を表現。人面部ミガキ。口は沈線で杏仁形に作る。鼻と眉は粘土貼付により突起。鼻孔は横沈線で表現。口は楕円形の曲い隆線。人面下部に弧状貼付・縄文施文。下を横走沈線で区画。人面脇は縄文を施文に弧状沈線と一部磨消による人組文。正面と表面は縦の沈線で区画。表面は最大径やや下位以下が張り出す幅広い隆帯を貼り付け、頸部から隆帯まで縄文を施文に沈線による縦位の連続屈曲文20条。隆帯の形も含め屈帯の表現から、胴部下位は縄文。口径～胴部内面ミガキ。胴部内面ナデ、上部粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色、灰黄褐色。器表下淡褐色。内面灰黄褐色	D 5 b0, I B層, 20.86 m		主要部分5片、接合しない同一個体の面2片、その他接合しない同一個体12片	図版30・晩期前葉・大割B C式。一部胴部に灰化物付着。S130(覆土)に埋蔵の可能性
第40区													
39	14	縄文 土器	浅鉢	口径～ 胴部, 5%	—	内野し大きく外傾して立ち上がる。口径部外面羊歯状文。胴部結節縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・赤褐色礫・黒色粒微量	普通、焼けむら	サンドイッチ状。外内面褐色。器表下にふい橙褐色。芯部褐灰色	D 5 b0, I B層 一括	—	図版30 晩期前葉・大割B C式	
40	671	縄文 土器	深鉢	口径～ 胴部, 5%以下	—	わずかに内野。内傾気味。角口径部、端部下無文。下位単節縄文LRに結節縄文。その下位無文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母粒・黒褐色砂粒微量	普通、焼けむら	外面灰黄褐色・にふい黄褐色。内面にふい褐色・灰黄褐色。内部黄褐色。内部黄灰色	D 5 c0, 20.77 m	—	図版30 晩期前葉・大割B C式か	
41	337	縄文 土器	深鉢	口径部, 5%以下	—	内野。わずかに外傾。外面単節縄文LR。その下位に結節文を有する縄文施文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母粒・チャート粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面にふい橙褐色。内部褐灰色	C 5 j0, 20.81 m	—	図版30 晩期前葉 土器か	
42	12	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	直線的に外傾。外面結節縄文。上端に横走沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒多量、黒色粒子少量	良好	内外面にふい黄褐色。外面一部褐灰色	C 5 j0, I B層 一括	—	図版31 晩期前葉・大割B C式	
43	425	縄文 土器	深鉢	口径部, 5%以下	—	わずかに内野・外傾する波状口径部。波頂部に内傾から粘土粒を巻き付け。外面山形の沈線2段。円状の沈線。内の中円孔1か所。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母粒・灰色砂粒微量	普通	外面黄褐色、黒褐色。内面黒褐色	D 5 b0, 20.77 m	—	図版31 晩期前葉・安行3 b期	
44	13	縄文 土器	深鉢	口径部, 5%以下	—	わずかに内野気味。わずかに外傾。口径部肥厚。外面口径下へつ状施文の角で連続突起。その下部に弧状文。のち縦位の沈線	メノウ粒、石英粒微量、黒色粒微量	普通	外面橙褐色、にふい赤褐色。内面灰褐色、にふい橙褐色	D 5 a0, I B層 一括	—	図版31 晩期前葉・安行3 b期式	
45	290	縄文 土器	深鉢	口径部, 5%以下	—	内野気味でわずかに外傾する口径部。丸唇。外面へつ状施文による連続突起。下位に横位の沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・黒色礫・海綿骨針微量	良好、焼けむら	内外面にふい橙褐色。一部褐灰色。内部褐灰色	D 5 f0, II層 一括	—	図版31 晩期前葉・安行3 b期式か。海綿骨針顕著	
46	277	縄文 土器	浅鉢	口径部, 5%以下	—	内野する胴部から強く屈曲して内野・外傾する口径部。口径部外面単節縄文LR。横走沈線で下腹を区画。その下位形去により羊歯状文に類する文様。胴部に単節縄文LRを施し上下を横走沈線で区画。内面ミガキ	メノウ粒、石英粒少量、メノウ礫・凝灰岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通、焼けむら	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色・浅黄褐色。内面黒褐色。表面下にふい黄褐色。内部褐灰色	C 5 a0, II層 一括	—	図版31 晩期前葉・大割B C式か	
47	294	縄文 土器	浅鉢	口径～ 胴部, 5%以下	—	わずかに内野。大きく外傾。口径部部にB突起。外面羊歯状文。内面ナデか。器表丸	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒微量	やや不良、焼け甘い	外面浅黄褐色。内面にふい橙褐色・褐灰色。内部灰白色	C 5 j0, II層 一括	—	図版31 晩期前葉・大割B C式	

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第40区												
48	294	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	内湾気味から徐々に外反、大きく外傾。口縁部下面直下内縁には溝間の軌痕、その下位に横走沈線2条。内面ミガキ。丁寧な磨整	やや精良。メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・凝灰岩粒微量	良好、 堅緻	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	C 5 Ⅱ層一拵	—	図版31 晩期前葉・ 大割B C式
49	20	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	内湾・外傾。口縁部下面外湾竹筴状工具による連続刺突。上下を沈線で区画し、下位に横走沈線2条。内面ミガキ	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒微量	普通	内外面褐色。内面黒褐色	D 5 c0。I B層一拵	—	図版31 晩期前葉・ 大割B C式
50	458	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	内湾気味・外傾。波状口縁。外面単節縄文LRを施文に弧状・三叉状の沈線で区画し、一部磨り消し。内面ミガキ	やや精良。メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好、 堅緻	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面黒褐色。器表下にふい黄色。内部褐色	D 5 d0。20.72 m	—	図版31 晩期前葉か
51	673	縄文 土器	鉢	口縁一 割部、 10%	13~14 前後	胴部内湾から屈曲して外反、外傾。口縁部外面連続刺突。その下位上下を沈線で区画し、間に菱形文(三叉文の組合せ)。「フ」字状文。胴部上端に連続刺突。その下位無文。内面口縁部下面に横走沈線。ナデ。一部ミガキ	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・黒褐色砂粒微量	普通。外 面二次 焼成	外面にふい黄褐色・橙褐色。内面にふい黄褐色・黒褐色。内部褐色	C 5 Ⅱ。20.77 m	5片	図版31 晩期前葉か
52	277	縄文 土器	壺	肩部、 5%以下	—	内湾気味に内傾する肩部から緩やかに外反して胴部に移行する様相。外面半歯状文。上下は沈線で区画。内面ナデ。一部ケズリ状	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面黒褐色・褐色	C 5 a0。I B層一拵	—	図版31 晩期前葉・ 大割B C式
53	408	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内湾、わずかに内傾する胴部から屈曲し外反・外傾する口縁部。肩部にB字状の突起2個。口縁部外面単節縄文L R。器底に横走沈線。その下位にも沈線。その間ミガキ。口縁部及び屈曲付近の胴部内面ミガキ。胴部内面ナデ	メノウ粒・凝灰岩粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・黒褐色砂粒微量	良好	外面灰黄褐色・黒褐色。内面にふい黄褐色。器表下にふい黄褐色。内部褐色	D 5 a0。20.78 m	—	図版31 晩期中葉・ 大割C 1式。 S I 37(甌土)に帰属の可能性
54	393	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	ほぼ直立する胴部から屈曲して外傾する口縁部。端部は棒状施文具によるキザミで小波状とし、B突起取り付け。口縁部外面単節縄文L R。器底以下磨り消し。沈線による文様。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒中量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面にふい橙褐色・灰褐色。内面黒色。内部褐色	D 5 a0。20.79 m	—	図版31 晩期中葉か。S I 37(甌土)に帰属の可能性
55	20	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内湾、わずかに外傾。口縁部角縁に近い。外面単節縄文LRを施文に横と弧状の沈線で区画し、一部磨り消し。内面粗いミガキ	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面・内部にふい褐色。内部褐色	D 5 c0。I B層一拵	—	図版31 晩期中葉・ 大割C1 C2式。外面灰化物付着
56	290	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	外反し、内傾からほぼ直立する口縁部。端部外面に薄い粘土層を貼り、わずかに肥厚させる。端部にB突起とヘラ状施文具によるキザミ。内外面ナデ	メノウ粒・凝灰岩粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・チャート礫微量	普通	外面暗赤褐色。内面にふい褐色。内部黒色	D 5 Ⅱ。Ⅱ層一拵	—	図版31 晩期中葉
57	447	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内湾気味・外傾から上端部で屈曲して内傾。屈曲部外面顔状浮文。その下位に貼付した文様が剥離した剥離面。浮文は横長で、長さ(横)5.2cm、幅1.5cm前後。浮文の一部と帽表に擦痕文。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面暗赤黄褐色。内面黄褐色。内部褐色	D 5 d0。20.82 m	—	図版31 晩期中葉・ 大割C 2式。外面の一部に灰化物付着
第41区												
58	242	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	緩やかな外反・外傾から屈曲して外反気味・内傾。外面連続刺突を現状で1個貼り付け、細い施文具で頂部を刺突。種縁上部は同じ施文具で磨り・棒走沈線4条。下半部ケズリ。内面ナデ・ヘラナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面黒色・黒褐色。一部にふい赤褐色。内面黒褐色	D 5 Ⅱ。I B層。20.80 m	—	図版31 後期か
59	282	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	—	内湾気味・外傾。口縁部外面顔状浮文。端部に沈線。浮文上部の形。胴部縄文。口縁部内面横走沈線。その他ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面黒褐色。表面に明赤褐色。内部にふい黄褐色	D 5 Ⅱ。Ⅱ層一拵	—	図版31 晩期中葉・ 大割C 2式。 平置き実測

探洞番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第41区												
60	285	縄文土器	小型深鉢	口径部, 5%以下	—	外反気味。わずかに外傾。肩部外側にへう状施文工具によるキザミ。内面弧状沈線2条とその下に詳細不明の沈線文。内面ミガキ。器壁薄。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、雲母細粒、凝灰岩粒、炭灰岩粒微量	良好堅靱	外面黒褐色・黒色。内面灰褐色。内部褐色	D 5 a0, II層一括	—	図版31 晩期中葉・外面黒化物質付着
61	464	縄文土器	小型鉢	口径部, 5%以下	—	内彎・わずかに外傾する胴部から屈曲して外反する口径部。端部にB突起2条。屈曲部とその下に弧状沈線3条とその下に条間ミガキ(滑消)。下の条間単筋縄文LR(不明瞭)。その下の位不明。内面ナデ。器壁薄。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、雲母細粒、凝灰岩粒、炭灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面陶灰色。内面・内部黒褐色	D 5 e0, 20.74 m	—	図版31 晩期中葉・大洞C1式
62	284	縄文土器	鉢	口径部, 5%以下	—	内傾する胴部から屈曲して外反・外傾する口径部。端部にB突起。その内面へう状施文具突縁で刺突。外面腹位の細かい単筋縄文LR。下縁を2条の沈線で区画。間を磨り消し。内面ミガキ。	メノウ粒少量、石英粒、雲母細粒、凝灰岩粒、海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色。内部陶灰色	C 5 j0, II層一括	—	図版31 晩期中葉
63	19	縄文土器	浅鉢	口径部, 5%	—	胴部から内面に段をもって口径部に移行。わずかに内彎・大きく外傾。外面単筋縄文LR。内面軽いミガキ。	メノウ粒中量、雲母細粒・凝灰岩粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面黒褐色。器底下にふい・褐色。内部陶灰色	D 5 b0, I B層一括	2片	図版31 晩期中葉・大洞C1式か
64	285	縄文土器	浅鉢	口径部, 5%以下	—	内彎・外傾する胴部から屈曲して外反する口径部。端部にB突起。外面単筋縄文LRを地文に横走・弧状の沈線5条。一部磨り消し及び三叉文。内面ミガキ。器壁薄。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、雲母細粒、凝灰岩粒、黒色砂粒、海綿骨針微量	普通、焼付けむら。一部二次焼成	外面にふい・赤褐色・にふい・褐色・黒色。内面灰褐色。内部黒褐色。内部褐色・褐色	D 5 a0, II層一括	—	図版31 晩期中葉
65	13	縄文土器	浅鉢	口径部・胴部, 10%	—	内彎。大きく外傾。口径部外面に4条の横走沈線。その下に縄文と、沈線による弧状・直線文。その内部磨り消し。	メノウ粒中量、石英粒・黒色砂粒少量	やや不良、焼付けむら	にふい・黄褐色。内面黒褐色	D 5 a0, I B層一括	—	図版31 晩期中葉・大洞C2式
66	45	縄文土器	浅鉢	口径部・胴部, 5%以下	—	内彎・外傾。口径部内傾。口径部外面横走沈線3条。その下位単筋縄文LRを地文に沈線で区画し。滑消手法による雲状文。内面ミガキ。	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒、海綿骨針・黒色砂粒、凝灰岩粒微量	普通	外面陶灰色。内面・内部黒褐色	C 5 j0, I B層, 20.93 m	—	図版31 晩期中葉・大洞C1-C2式
67	592	縄文土器	小型深鉢	口径部・胴部, 5%	—	内彎・外傾。外面上下を2条の横走沈線で区画した中に入組直線文。胴部三角形区画の中に三叉文。内面ナデガ。器表荒れ。	メノウ粒・黒色砂粒少量、メノウ礫・石英粒・石英礫・褐色礫微量	二次焼成	外面・内部陶灰色・黒色。一部にふい・黄褐色。内面陶灰色・にふい・黄褐色	D 5 f0, 20.67 m	—	図版31 晩期中葉
68	696	縄文土器	浅鉢	口径部, 5%	—	内彎気味。大きく外傾。下縁は胴部から外反して口径部に移行する様相。口径部部にB突起。外面単筋縄文LRか。下縁に沈線区画か。内面B突起から隆起を弧状に貼り付け裝飾。内面ミガキ。	やや精良。メノウ粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内部陶灰色	溝土中	—	図版31 晩期中葉・大洞C1-C2式。平置き実測
69	284	縄文土器	浅鉢	口径部・胴部, 5%	—	内彎・外傾。口径部部にB突起と突起を起点とする沈線。端部外面側にへう状施文具による押圧とキザミ。外面単筋縄文LRに横走沈線3条。その下に弧状の沈線2条。内面ミガキ。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、雲母細粒、凝灰岩粒、黒色砂粒・褐色微子微量	普通	外面陶灰色。内面・内部陶灰色。内面器表下・にふい・褐色。内部陶灰色	C 5 j0, II層一括	2片	図版32 晩期中葉
70	345	縄文土器	浅鉢	口径部・胴部, 5%以下	—	わずかに内彎・外傾。口径部細線状。外面太い横走沈線3条。その下位単筋縄文LRを地文に、弧状の沈線で区画し間を磨り消し。内面ナデ。	メノウ粒・凝灰岩粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒微量	普通	外面陶灰色。内面・内部陶灰色	C 5 j0, 20.80 m	—	図版32 晩期中葉・大洞C2式
71	651	縄文土器	浅鉢か	口径部, 5%以下	—	内彎・外傾。口径部外面に粘土を足してA字状の突起を付ける。内面直線文を地文に。内面単筋縄文LRを地文に沈線による区画。内面調整不明。	メノウ粒少量、雲母細粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	二次焼成あり	内外面・内部ともふい・褐色。にふい・黄褐色	サブトレ一括	—	図版32 晩期中葉・大洞C2式
72	653	縄文土器	浅鉢	口径部, 5%以下	—	わずかに内彎。大きく外傾。口径部部を外側に屈曲させB突起を付ける。外面横走沈線2条。間に浅い連続刺突。その下単筋縄文LRを地文に下部磨り消し。内面B突起の下位横走沈線1条。ミガキ。	メノウ粒少量、チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好、わずかに焼付けむら	外面にふい・褐色。内面にふい・黄褐色。内部明陶灰色	サブトレ一括	—	図版32 晩期中葉・大洞C2式

第3章 第3節 遺構と遺物

神田番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第41図	73	169	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	外反、大きく外傾。口縁端部B突起。外面ナデ。三叉文焼文のちミガキ。内面ナデ、粗いミガキ。	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・炭灰骨礫・海綿骨針微量	良好	内外面暗赤褐色。表面黒褐色。内部陶灰色。	D 5 b0, I B層, 2091 m	2片	図版 32 晩期中葉、安行 3 d 式
	74	278	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	内彎、外傾。口縁端部にB突起(一部欠損)。突起下外面に弧状の沈線。胴部細い単節縄文LR。その上端を横走沈線で区画し、上位をミガキ。内面ミガキ。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・炭灰骨礫・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面に深い赤褐色。外面内面・内面暗赤褐色。器表下赤色。内部灰褐色。	D 5 b0, II層	接合しない同一体1片	図版 32 晩期中葉、大淵C1-C2式
	75	16	縄文土器	浅鉢	胴部、5%	—	内彎・外傾。外面単節縄文LRを地文に沈線区画と磨消により雲状文。内面ミガキ。	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・海綿骨針微量	普通	外面灰黄褐色・褐色。内面・内部黒褐色。	D 5 i0, I B層一括	—	図版 32 晩期中葉、大淵C1-C2式。外面一部炭化物付着
	76	48	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	—	内彎、外傾から内傾。外面単節縄文LR。その下位。横走沈線3条。施文類は沈線、のち縄文。その下位ナデ。一部ケズリ。内面ナデ。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針・赤褐色砂粒・黒色砂粒・頁岩粒微量	普通	外面黄褐色。内面・内部陶灰色。	C 5 i0, I B層, 2094 m	—	図版 32 晩期中葉、大淵C1-C2式か
	77	475	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内彎・大きく外傾。外面細かい単節縄文LRを地文に弧状を組み合わせた沈線文で池の字状の文様を描き、上下を横走沈線で区画。さらにその下位に横走沈線。内面丁寧なナデ。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート礫・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面淡黄褐色。内面灰黄褐色。内部黒褐色。	D 5 e0, 2073 m	—	図版 32 晩期中葉
	78	16	縄文土器	浅鉢	胴部、5%	—	外反、大きく外傾。外面縄文を地文にした雲状文。内面粗いミガキ。	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・赤褐色礫・海綿骨針微量	普通、焼けむら	外面黒褐色。内面陶灰色。	C 5 i0, I B層一括	—	図版 32 晩期中葉、大淵C1-C2式。外面炭化物付着
	79	571	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。やや強く内彎する部分外面に顔状浮文。上下に横位の沈線。下部にも沈線。内外面ナデ。内面一部ミガキ。	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	普通、焼けむら	外面に深い黄褐色・褐色。内面灰褐色。内部陶灰色。	C 5 j0, C 2078 m	—	図版 32 晩期中葉、大淵C2式、平置き実測
	80	17	縄文土器	深鉢	口縁部付沈、5%以下	—	内彎気味、わずかに外傾。器体に粘土層を貼り付けて突起を作り、上下に横走沈線。突起から左右にも横走沈線。単節縄文LR。	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	普通	内外面淡黄褐色。内部陶灰色。	D 5 j0, I B層一括	—	図版 32 晩期中葉、大淵C2。または下葉、大河A式。平置き実測
	81	202	縄文土器	浅鉢	胴～底部、20%	(44) [7.2]	平底から内彎・大きく外傾して立ち上がる胴部。胴部外面縄文を地文に沈線で区画し磨消して文様を描く。下端近く横走沈線2条。間にへら先端による連続刺突。内面丁寧なミガキ。底面ナデ。	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	やや不貞	外面灰褐色。内面・内部陶灰色。	D 5 b0, I B層, 2094 m	—	図版 32 晩期中葉、大淵C2式。胴～底部外面黒(?)付着
	82	76	縄文土器	浅鉢	底部、5%	(20) [3.8]	わずかに上げ底の底部から内彎・大きく外傾して立ち上がる。底部円形に区画し、凹ませて、ナデ。外面単節縄文LR。内面ナデ。一部ミガキ状。	メノウ粒中量、メノウ礫・チャート礫・石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	やや不貞、焼けむら	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面に深い褐色。内部黒褐色。	C 5 j0, I B層, 2085 m	—	図版 32 晩期中葉、大淵C1-C2式
	83	519	縄文土器	台付鉢	胴台部、5%	(36) [11.0]	内彎気味・内傾する下部から屈曲して立ち上がる上部。逆三角形透かし一部残存。外面上部分節縄文LR。下部横走沈線3条。内面ナデ。	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面に深い黄褐色。内部陶灰色。	D 5 i0, 2078 m	—	図版 32 晩期中葉
	84	306	縄文土器	小型台付鉢	胴台部、10%	(32) [5.8]	外に張った接地部から内彎内傾して立ち上がる胴台部。外面細かな単節縄文LRを施し、上部を横走沈線で区画。中間やや上にも横走沈線。縄文帯の上位はミガキ。内面丁寧なナデ。器壁薄い。	精良。メノウ粒、石英礫・石英粒・黄褐色砂粒微量	良好	内外面黒褐色。内部陶灰色。	D 5 i0, II層一括	—	図版 32 晩期

神岡 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第41区												
85	532	縄文 土器	壺	口縁一 部、5%	[86] (3.9)	強く内傾する胴部から屈曲して立ち上がり、さらに斜く屈曲して外傾する口縁部、肩部に沈線、内外面ナデ。器表欠れ	メノウ粒中量、石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	不良、二次焼成	外面橙色・に ふい赤褐色、 内面・内部黒 褐色・灰褐色	D 5 畝 20.67 m	3片	国版32 晩期中葉か
86	285	縄文 土器	壺か	口縁部、 5%以下	[68] (2.7)	内傾する胴部から頸部で屈曲して外反する口縁部、肩部向縁状、外面無文(ミガキ)、口縁部内面ミガキ、胴部内面ナデ	やや精良。メ ノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。器表 下明褐色、内 内部黒褐色	D 5 畝、 II層一括	—	国版32 晩期中葉か。 口縁部褐色 物質付着
87	289	縄文 土器	壺か	口縁部、 5%以下	—	外反・内傾する口縁部。ゆるやかな波状口縁部に沈線。肩部を肥厚させて低いB突起を貼り付け、それを起点とする沈線を巡らす。内外面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 礫・黒色砂粒 微量	良好	内外面黄褐色 色。内部にふ い橙色	D 5 畝、 II層一括	—	国版32 晩期中葉か。 外面一部黒 色物質付着
88	522	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%	—	外反・内傾。波状口縁。肩部は外傾に反らせ、波頭部を中心とした鋭頭状に作る。口縁部下外面に隆帯を貼り、波頭下には何らかの浮文を貼る(現状沈線)。両側に棒状文具で連続刺突。その下位に沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・雲 母細粒・黒色 砂粒・褐色砂 粒微量。雲母 目立つ	良好、 堅密	外面黒褐色。 内面灰褐色。 内部にふい橙 色	D 5 畝、 20.78 m	—	国版32 晩期中葉・ 大割C2式 か
89	265	縄文 土器	壺	肩部、 5%	—	内傾気味・内傾。上端で屈曲して口縁部に移行。外面磨消し沈線により施文。上位から横走沈線2条。大堀ミカ。下位に半高柱文の一部か。内面ナデ	メノウ粒・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒 ・黒色砂粒・海 綿骨針微量	普通	内外面黒色。 内部灰褐色	D 5 畝、 I層一括	—	国版32 晩期前葉・ 大割B/C式 または中葉・ C1式か
90	489	縄文 土器	壺	肩部、 5%以下	—	内傾気味・内傾する肩部。上部で緩やかに外反し肩部に移行する棒状。外傾横走沈線3条。その下位細かな網目状燃赤文。施文類は燃赤→沈線。内面ケズリを伴うナデ	やや精良。石 英粒・雲母細 粒・黒色砂粒 微量。独特。	良好、 堅密	内外面黒褐色 色。内部灰褐色	D 5 畝、 20.70 m	—	国版32 晩期中葉・ 大割C2式
第42区												
91	91	縄文 土器	小型 壺か	肩部、 5%	—	外反・内傾。胴一頭部横走沈線で区画。胴部外面ミガキ。沈線の下方位帯状部分に連続刺突。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・海綿骨 針・褐色砂粒 ・凝灰岩礫・凝 灰岩粒微量	普通、 焼けむら	外面灰褐色、 内面、内部黒 褐色	C 5 畝、 I B層、 20.88 m	—	国版32 晩期中葉・ 大割C1C2 式。S137 (覆土)に帰属の 可能性
92	133	縄文 土器	壺	肩部、 5%以下	—	内傾気味・大きく内傾。外面細かな単節調文LRを施文に沈線1条。肩部を肥厚する。内面粗いナデ。輪積み痕明瞭	メノウ粒少量、 石英粒・チャ ート粒・雲母 細粒・黒色砂 粒微量	良好、 堅密	外面黒褐色。 内面・内部黒 褐色	D 5 畝、 I B層、 20.91 m	—	国版32 晩期中葉。 S137(覆 土)に帰属の 可能性
93	292	縄文 土器	壺	肩部、 5%以下	—	ほぼ直線状に内傾し、肩部で屈曲する棒状。外面細かな単節調文LRを施文に磨消しにより曲線の文線を施す。形法は浅い。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	普通	外面にふい赤 褐色。内面黒 褐色	D 5 畝、 II層一括	—	国版32 晩期中葉・ 大割C2式か。 海綿骨針顕著
94	61	縄文 土器	小型 壺か	胴一頭部、 10%	(2.3)	胴部強く内傾。胴部で外反して立ち上がる。最大径[10] cm。胴一頭部境界に横走沈線1条。胴部外面単節調文LR。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 礫・黒色砂粒 微量	良好	外面にふい黄 褐色・褐灰色。 内面にふい黄 褐色。内部褐 灰色	C 5 畝、 20.90 m	2片	国版32 晩期中葉・ 大割C1C2 式
95	107	縄文 土器	注口 土器	注口部、 5%以下	—	やや扁平な胴部の注口土器。胴部から肩部への移行部に筒形の注口を付す。注口基部を隆線が左右から上下を廻る。外面ミガキ。内面ナデ	メノウ粒中量、 チャート粒少 量、メノウ礫・ チャート礫・ 石英粒・雲母 細粒・赤褐色 砂粒微量	普通	外面褐灰色。 内面黒褐色。 器表下にふ い黄褐色。内 部灰褐色	C 5 畝、 I B層、 20.89 m	—	国版32 晩期中葉・ 大割C1C2 式。S137 (覆土)に帰属 の可能性
96	429	縄文 土器	壺または 注口 土器	肩部、 5%	—	内傾・内傾する肩部から屈曲して外反する頂部。縄文を施文に浅い横走沈線を連続。最大径付近に横走沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・黒色砂粒 微量	普通	内外面黒褐色 色。器表下に ふい橙色。内 内部灰褐色	D 5 畝、 20.84 m	—	国版33 晩期中葉・ 大割C1・ C2式
97	221	縄文 土器	注口 土器	胴部、 5%以下	—	内傾。外傾から屈曲して内傾。外面横線に連続S字状浮文。上下に横走沈線各2条以上。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 礫・黒色砂粒 微量	普通	外面にふい黄 褐色・黒褐色 色。内面灰黄 褐色。内部黒 褐色	D 5 畝、 20.96 m	—	国版33 晩期中葉か。 平置き実面
98	529	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%	—	わずかに内傾。外傾。外面単節調文LRを施文に。彫刻的手法による太い沈線で上下区画と入組文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 褐色砂粒微量	良好	外面にふい黄 褐色。内面、 内部灰褐色	D 5 畝、 20.75 m	—	国版33 晩期中葉・ 前溝1式

第3章 第3節 遺構と遺物

神図番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第42図												
99	606	縄文土器	小型浅鉢	口縁～胴部, 5%	—	わずかに内唇。外頤。外面4条の平行沈線の下位に曲線と横走の沈線。変形した文の一部か。内面丁寧なナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	二次焼成	サンドイッチ状。内面にふい黄色。内部褐色	D 5 Ⅱ層 Ⅱ部 Ⅱ部	—	図版33 晩期後葉・大割A'式
100	625	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%以下	—	わずかに内唇。外頤。外面沈線に囲まれた中に隆帯を残し連続的突。下位に斜位の平行沈線。その下位に横位の沈線文を付す。内外面丁寧なナデ	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・チャート礫・黒色砂粒微量	良好、焼けむら	外面にふい黄褐色。一部褐色。内面にふい黄色。灰黄褐色。内部褐色	D 5 a1、b1、Ⅱ層一拵	—	図版33 晩期
101	570	縄文土器	台鉢	底～胴部, 25%	(2) 鉢底部 [90]	平底から内唇・大きく外頤する体部が立ち上がる。ろくろ成形。体部外面ろくろナデ。下半ケズリ。底部回転車切り。内面丁寧なミダシ。丁寧な黒色処理。外面器表荒れ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面灰黄褐色。内部黒褐色	D 5 bⅡ, D 5 Ⅱ層 Ⅱ部	—	図版33 晩期後葉
102	518	縄文土器	壺	口縁～胴部, 5%	—	内唇・内頤する胴部から屈曲して立ち上がり。外反・外頤する口縁部。液状口縁。液面部にケズリミ。外面口縁部直下に横走沈線1条。頸部に同じく1条。その下位沈線による文様。内面に頸部をはずみから垂下する沈線と横走沈線1条。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・チャート粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面黒褐色。内面にふい黄褐色。灰黄褐色。内部黒色	D 5 Ⅱ層 Ⅱ部	—	図版33 晩期後葉・大割A'式
103	298	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内唇・内頤する胴部から外反する口縁部。複合口縁。内外面ナデ。口縁部に貼り付けた粘土の下層に細い糸痕。ナデの前の底形・調整に関する工具痕か	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩礫微量	良好	サンドイッチ状。内面にふい黄色。内部黒褐色	D 5 Ⅱ層一拵	—	図版33 晩期粗製土器。破断面に長さ10cm以上の種実(?)の圧痕
104	660	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 5%以下	—	わずかに内唇から口縁部でわずかに外反。外頤。粘土結核み上げにより成形。複合口縁。外面ナデ。粘土結核み上げ痕明瞭。内面ナデ。粘土結核み上げ痕わずかに残る	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面褐色。内部褐色	埴土中	—	図版33 晩期粗製土器
105	19	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに内頤。複合口縁。肩部角縁。胴部外面縦位の細い沈線数条。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・凝灰岩礫・海綿骨針・黒色砂粒微量	普通	内外面灰褐色。内部褐色	D 5 bⅡ, I B層一拵	—	図版33 晩期粗製土器。内面灰化物付着
106	276	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内唇・内頤。複合口縁。外面ナデによる粗いケズリ。内面ナデ	メノウ粒・メノウ礫・チャート粒・黒色砂粒少量。雲母細粒・凝灰岩礫・海綿骨針微量	良好、堅緻	外面にふい褐色。灰褐色。内部褐色	C 5 Ⅱ層一拵	—	図版33 晩期粗製土器
107	395	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	外反気味。わずかに外頤。複合口縁。無文。内外面ナデ	メノウ粒中量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・チャート粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。一部灰黄褐色。内部黒褐色	D 5 aⅡ, D 5 Ⅱ層 Ⅱ部	—	図版33 晩期粗製土器。S137(覆土)に腐食の可能性
108	514	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 5%	—	わずかに内唇。わずかに外頤。複合口縁。胴部外面縦位直線状の糸痕文。のち縦位直線状の糸痕文。糸痕の単位は7条か。内面ナデ。跡手	メノウ粒・メノウ礫少量。雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面にふい黄褐色。内部褐色	D 5 Ⅱ層 Ⅱ部	—	図版33 晩期粗製土器
109	13	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内唇・内頤。複合口縁。輪積み成形。胴部外面細い横走沈線2条	メノウ粒中量。金雲母細粒。海綿骨針微量	普通	外面にふい褐色。内面にふい黄褐色	D 5 aⅡ, I B層一拵	—	図版33 晩期粗製土器
110	277	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内唇5mm。内頤。複合口縁。口縁部外面へう状施道具による2段の橋長連続的突(短沈線)。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・チャート粒・雲母細粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面にふい褐色。内面にふい黄褐色	C 5 aⅡ, I B層一拵	—	図版33 晩期粗製土器
111	217	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 5%以下	—	内唇・内頤。複合口縁。口縁部と胴部外面それぞれ網目状沈線文。内面ナデ	メノウ粒中量。メノウ礫・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	やや不良好、焼けむら	外面浅黄褐色。一部褐色。内面内部褐色	D 5 cⅡ, I B層 Ⅱ部	—	図版33 晩期粗製土器

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第42区												
112	523	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇臭味、わずかに外傾。複合口縁。外面粗い網目状燃赤文。口縁部・胴部別に施文。内面ナデ。一部ミガキ状。薄手	メノウ粒・メノウ礫少量、雲母細粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好、 堅緻	外面にふい赤褐色。内面明赤褐色。内部にふい橙色	D 5.0 D 20.70 m	—	国版33 晩期粗製 土器
113	520	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	直線的、わずかに内傾。複合口縁。外面網目状燃赤文。胴部・口縁部同時施文。内面ナデ。一部ミガキ状。薄手	メノウ粒中量、メノウ礫少量、石英粒・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい赤褐色。内部灰褐色	D 5.0 D 20.78 m	—	国版33 晩期粗製 土器
114	366	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに外傾。外面粗い網目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面黒褐色・黒色。内面にふい黄褐色。内面にふい赤褐色。内部褐灰色	C 5.0 D 20.81 m	—	国版33 晩期粗製 土器。S1 37(覆土)に 相属の 可能性
115	685	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内唇。外傾。外面網目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・石英礫・雲母細粒・チャート粒・黒色砂粒微量	良好	外面灰褐色。内面にふい黄褐色。内部褐灰色	D 5.0 D 20.63 m	2片	国版33 晩期粗製 土器。外 面一部炭 化物付着
116	683	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	直線的。外傾。外面粗雑な網目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	外面灰黄褐色。内面にふい赤褐色。内部褐灰色	D 5.0 D 20.65 m	3片	国版33 晩期粗製 土器。外 面一部炭 化物付着
117	678	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内唇。外傾。外面網目状燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい褐色。内面にふい黄褐色。内面にふい褐色。内部褐灰色	D 5.0 D 20.64 m	—	国版33 晩期粗製 土器
118	533	縄文 土器	深鉢	胴下部、 5%	—	内唇、外傾。外面網目状燃赤文。下半ナデ。内面ナデ(一部ヘラナデ)。下半器壁厚く、上半で薄くなる	メノウ粒中量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・チャート粒・泥岩礫・赤褐色砂粒・シャモット微量	普通、 焼け むら	外面・内部にふい褐色。外面一部褐灰色。内面にふい黄褐色	D 5.0 D 20.67 m	—	国版34 晩期粗製 土器
119	542	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内唇、わずかに内傾。複合口縁。胴部外面に縦位の燃赤文を施文。のち口縁部に粘土帯を貼って外面に横位の燃赤文を施文。一部胴部にもはみ出す。内面ナデ。器壁下半で厚く。口縁部付近は薄くなる	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート礫・凝灰岩礫・黒色砂粒微量	良好、 焼け むら	外面にふい黄褐色・褐色。黒色。内面にふい黄褐色	D 5.0 D 20.72 m	2片	国版34 晩期粗製 土器。内 面の一部 に赤色顔 料付着
120	299	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇、わずかに内傾。複合口縁。口縁部外面横位の燃赤文。胴部縦位の燃赤文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	内外面黒褐色。内部褐灰色	D 5.0 II層一 括	—	国版34 晩期粗製 土器
121	27	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに内傾。複合口縁。胴部・口縁部とも燃赤文。口縁部貼り付けは胴部施文後。内面ナデ	メノウ粒中量、メノウ礫・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針・黒色砂粒微量	普通	外面にふい褐色。内面・内部浅黄褐色	D 5.0 I B層 一括	—	国版34 晩期粗製 土器
122	284	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇臭味。外傾。ゆるやかな湾曲口縁。外面横文(原体不明)。内面ナデ	メノウ粒中量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・赤褐色粒子微量	やや 甘い	外面にふい褐色。灰褐色。内部褐灰色	C 5.0 II層一 括	—	国版34 前期か
123	41	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇、わずかに外傾。口縁部外面に丸いへら状施文具による連続的突。外面単面縄文LR。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒・黒色砂粒微量	普通	外面褐灰色。内部褐褐色	D 5.0 D 20.92 m	—	国版34 晩期か
第43区												
124	168	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇。内傾。平縁。外面ナデ。張り沈掘施文。のちミガキ。内面ナデ。粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。内部褐灰色	D 5.0 I B層 一括	—	国版34 晩期前葉 。安行3a- 3b式

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第43区												
125	322	縄文 土器	壺	口縁部、 5%以下	—	外反、わずかに内傾。口縁端部 へう状施文具によるキズミ。内 外面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒、黒色砂 粒、褐色砂粒 微量	良好、 堅韌	外面灰赤色、 黒褐色。内面 に赤褐色、 黒褐色、 内部赤灰色	D 5 e0、 I B 層一 括	—	国版34 晩期か。口 縁端部付着 五灰化 物付着
126	26	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	ほぼ直立する胴部から肥厚状 の口縁部。口縁部外面細い角棒状 工具による連続刻突。その下位 に施文か（器表裏れにより不詳） 内面ナデ	メノウ粒中量、 メノウ礫・雲 母細粒・凝灰 岩粒、黒色砂 粒微量	やや 甘い	内外面にふい 黄褐色。一部 I B 層一 括	D 5 e0、 I B 層一 括	—	国版34 晩期中葉、 実行3a-3d 式か
127	396	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎気味、わずかに外傾。角縁。 外面単筋縄文LRを疎らに施文。 内面ナデ。器表裏れ	メノウ粒中量、 メノウ礫・石 英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒、チャート 粒、黒色砂粒、 褐色砂粒微量	やや 不良、 焼き 甘い	サンドイッチ 状。外面にふ い褐色。内面 に黄褐色。内 部に黄褐色	D 5 a0、 20.80 m	—	国版34 晩期か。S 137(覆土) に帰属の 可能性
128	14	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	ほぼ直立する胴部から内面に横 をもつて外反する口縁部。口縁 部外面単筋LR縄文。屈曲部に 細い横走沈線1条。他の外面と 内面ナデ	メノウ粒少量、 石英質、石英 粒、海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に 赤褐色。内部 に赤褐色	D 5 b0、 I B 層一 括	—	国版34 晩期
129	517	縄文 土器	鉢	口縁部、 5%	—	わずかに内彎、大きく外傾。胴部 単筋縄文LRを地文に横走沈線 3条。その下位に弧状沈線3条 と屈曲する沈線の組み合わせ。 内面ナデ	やや精良。メ ノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒、黒色砂粒、 褐色砂粒、海 綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色。 内面、内面 に赤褐色	D 5 f0、 20.70 m	—	国版34 晩期後葉 または弥生 前期か。外 面にベント ン。炭 化物付着
130	485	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	外反・わずかに内傾する胴部から 縁やかに屈曲して外反・外傾す る口縁部。液状口縁。角縁。端 部直下外面からの粘土帯追加に よりやや肥厚。内外面ナデ	砂質。メノウ 粒中量、メノ ウ礫・雲母 細粒、石英粒 少量、黒色砂 粒微量	普通	内外面灰黄褐色。 内部褐色	D 5 f0、 20.71 m	—	国版34 晩期
131	674	縄文 土器	深鉢	口縁部、 胴部、 5%以下	[20] — (3.9)	内傾する胴部から屈曲し外傾す る口縁部。外面粗いミガキ。内 面は口縁部ミガキ。胴部ナデ	やや精良。メ ノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒微量	良好	内外面黒褐色。 一部灰黄褐色。 内部黒色	C 5 f0、 20.62 m	—	国版34 晩期か
132	112	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎気味、ほぼ直立。口縁部内 側に粘土板を貼り足して肥厚す せる。外面右下から左上へのケ ズリ。内面ナデ。端部近くミガ キ	メノウ粒中量、 雲母細粒・石 英粒・黒色砂 粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ふい褐色。内 面に赤褐色	D 5 a0、 I B 層一 括	—	国版34 晩期中～ 後葉か。S 137(覆土) に帰属の 可能性
133	113	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎気味、ほぼ直立。単純口縁。 外面右下から左上へのケズリ。 内面ナデ。一部粗いミガキ	メノウ粒中量、 雲母細粒・黒 色砂粒・褐色 砂粒、海綿骨 針微量	普通、 焼け むら	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色。内 部に褐色	D 5 a0、 20.84 m	—	国版34 晩期中～ 後葉か。S 137(覆土) に帰属の 可能性
134	379	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎、外傾。薄手。内面に粘土 板を貼り付けた複合口縁が胴部 から屈曲して立ち上がる。内外 面ナデ。外面に輪積み痕現る。 口縁部平面観は直線的で、角 縁の可能性も考えられる	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒微量	普通	外面にふい褐色。 黒褐色。内 面に赤褐色、 灰黄褐色。 内部褐色	C 5 f0、 20.84 m	—	国版34 晩期、S 137(覆土) に帰属の 可能性
135	12	縄文 土器	小型 深鉢	口縁部、 胴部、 5%以下	[11] — (4.1)	内彎、外傾。胴部わずかに内彎 外傾。口縁部で外反。内外面ナ デ。一部削り	メノウ礫・粒 少量	普通	外面褐色。黒 褐色。内面に ふい赤褐色、 黒褐色	C 5 f0、 I B 層一 括	2片	国版34
136	359	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 胴部、 10%	[12] — (3.0)	内彎、外傾。外面無文（ナデ）。 内面ナデ。粗製	粗悪。メノウ 粒中量。メノ ウ礫・石英粒、 凝灰岩粒、黒 色砂粒、褐色 砂粒、海綿骨 針微量	やや 不良、 焼け むら	外面灰黄色、 黄褐色。内面 に赤褐色、 黒色。内部黄 褐色	C 5 f0、 20.78 m	4片	国版34 晩期か。S 137(覆土) に帰属の 可能性
137	427	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内彎気味、外傾。外面施文縄文 胴体は筋条体か。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・チャート 粒、黒色砂粒、 海綿骨針微量	普通	内外面にふい 褐色。内部褐色	D 5 b0、 20.76 m	—	国版34 時期不明

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第43区												
138	433	縄文土器	深鉢	胴部, 5%	—	わずかに内脣。外脣。外面幅約1cmの単筋縄文LRを1〜1.5cmの間隔をあけて横位で施文。内面ナデ。器壁薄い。	やや精良。メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	やや不良。焼き甘い。	内外面・内部ともにふい黄色。一部灰黄褐色。	D 5 b0, 20.87 m	—	図版 34 後期か
139	350	縄文土器	深鉢	胴部, 5%	—	わずかに内脣。わずかに外脣。外面斜位の横糸文を施文に。現状上位に平行する横走沈線2条。条間磨り消し。内面ナデ。器壁薄い。器底充れで詳細不明。	メノウ粒・石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	やや不良。焼き甘い。	外面にふい黄褐色。内面・内部浅黄褐色。内面にふい黄褐色。にふい褐色。	C 5 b0, 20.77 m	2片	図版 35 晩期。粗製土(S137(覆土))に埋属の可能性
140	298	縄文土器	深鉢か	胴部, 5%以下	—	小片で器表充れのため天地を含め詳細不明。外面縄文圧痕か。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面・内部にふい黄褐色。内面にふい褐色。	D 5 f0, II層一括	—	図版 35 時期不明。内面赤色顔料付着。平置き表面
141	209	縄文土器	深鉢	胴部, 5%	(26) [8.4]	平底からわずかに内脣・外脣して立ち上がる胴部。胴部外面ナデ。底面重複する胴代痕。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通。焼けむら	外面灰褐色。内面にふい黄褐色・灰褐色。内部にふい褐色。一部灰褐色。	D 5 b0, I B層, 20.88 m	—	図版 35 時期不明。内面灰化。釉料付着
142	486	縄文土器	深鉢か	底部, 5%以下	(26) [7.6]	上げ底気味の平底から内脣気味の胴部が大きく外脣して立ち上がる椀形。底部は粘土をうめ状。面によっては収縮りむせ。分厚い。底部木葉痕。外面粗雑なナデ。内面ナデ	メノウ粒中量。メノウ礫・石英粒少量。チャート礫・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	外面にふい褐色。内面黒色。内部褐色。	D 5 f0, 20.67 m	—	図版 35 時期不明
143	618	縄文土器	小型鉢	胴部, 5%	(35) [4.6]	平底から丸みを帯びて屈曲し、わずかに内脣・外脣して立ち上がる胴部。内外面ナデ	メノウ粒・メノウ礫中量。石英粒・チャート礫・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	普通。焼けむら	外面にふい黄褐色。灰黄色。底部外周一部灰褐色。内面褐色。内部褐色。	D 5 a1-b1, I B層一括	2片。ほか同一個体2片	図版 35 時期不明
144	631	縄文土器	小型鉢	胴部, 5%以下	(19) [4.6]	わずかに内脣。外脣。外面細かな単筋縄文LR。内面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・チャート礫・褐色・高部小僧礫微量	普通。焼けむら	外面褐色。一部褐色。内面灰黄色。内部黒色。	D 付 5 e0, I B層, 付 5 中	—	図版 35 晩期か
145	375	縄文土器	小型鉢	胴部, 30%	(25) [—]	丸底から強く内脣・外脣して立ち上がる。外面手控ねのまま無文。内面ナデ	メノウ礫中量。メノウ粒少量。石英粒・チャート礫・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	内外面黒褐色。内部褐色。	C 5 f0, 20.85 m	—	図版 35 時期不明。内面赤色顔料付着。S137(覆土)に埋属の可能性
146	14	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%	—	内脣する胴部から大きく外脣し直線的に立ち上がる口縁部。端部に2個の目突起。口縁部下外面と胴・口縁移行部に横走沈線。内外面ナデ。器壁薄い。	メノウ粒少量。石英粒・石英礫・赤褐色・海綿骨針微量	普通。焼けむら	外面にふい褐色。一部黒褐色。内面灰褐色。	D 5 b0, I B層一括	—	図版 35 晩期
147	691	縄文土器	浅鉢	口縁部, 10%	(20.4) (5.6)	内脣。外脣。口縁端部外面を突出させ。端部に凹線を施す。口縁部外面太い凹線。横をもつて胴部に移行。器底充れ。外面ナデか。内面ミガキか	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・チャート礫・黒色砂粒微量	良好	内外面褐色。内部にふい褐色。	D 5 f0, 20.63 m	2片。ほか同一個体1片	図版 35 晩期か
148	14	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内脣・外脣。口縁端部内側に肥厚。口縁部外面単筋縄文LR。下部を横走沈線で区画し以下無文(ケズリ状)。内面ミガキ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・チャート礫微量	良好	内外面黒褐色。内部にふい褐色。	D 5 b0, I B層一括	—	図版 35 晩期
149	111	縄文土器	浅鉢	口縁部, 25%	[23.0] 4.7	浅い丸底から内脣・大きく外脣して立ち上がる胴部。そのまま口縁部に至る。底部・胴部の成形不明。無文。外面ケズリ。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通。焼けむら	内外面灰黄褐色・褐色。内部黒色。	D 5 a0, I B層, 20.85 m	—	図版 35 晩期。中量。大穴IC2式。S137(覆土)に埋属の可能性
150	13	縄文土器	浅鉢	底部, 5%以下	—	上げ底気味の底部から内脣・大きく外脣して立ち上がる。底面内面ナデ。外面縄文単筋LR	メノウ粒少量。石英粒・赤褐色礫微量	普通	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面にふい褐色。内部褐色。	D 5 a0, I B層一括	—	図版 35 晩期。外面赤色顔料付着

第3章 第3節 遺構と遺物

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第43区												
151	505	縄文土器	台鉢	脚台部、10%	— (3.5) 7.4	外反しながら踏ん張る、低く小さな脚台。器壁は厚い。底部に脚台貼り付け。内外面ナデ、一部外面ケズリ	やや粗悪。メノウ粒中量、メノウ粒少量、石英粒・雲母繊維・凝灰岩粒微量	やや不良。二次焼成	内外面にぶい黄褐色・褐色・黒褐色。内部褐色	D 5 0m 20.70 m	—	国版 35 晩期か
152	13	縄文土器	台鉢	脚台部、5%以下	— (1.7) [7.0]	脚台下端破片。接地面から強く内傾。屈曲して柱状部が立ち上がる様相。屈曲部外面に隆部。内外面ナデ	メノウ粒少量、雲母繊維、黒褐色骨針微量	不良。正で成のため	外面にぶい黄褐色。内面黒褐色。内部褐色	D 5 0m I B 層一拵	—	3片。ほか同層1片
153	14	縄文土器	壺	口縁部、5%以下	—	胴部から屈曲してわずかに内傾して立ち上がる。口縁部内側に粘土を刷りて肥厚させ外縁部に連続突起。胴部との連続部外面にも粘土を貼り足し。隆線状にして連続突起。その間隙は粘土沈殿2条。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、赤褐色骨針・チャート粒微量	良好	外面にぶい褐色。内面にぶい褐色	D 5 60. I B 層一拵	—	国版 35 晩期
154	528	縄文土器	壺	口縁部、5%以下	— (3.2)	外反。外傾。波状口縁。波頂部下外面と口縁部間に突起貼り付け。外面全体ミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、輝石粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好、堅密	内外面・内部にぶい黄褐色。外面一部黒褐色	D 5 0m. 20.71 m	—	国版 35 晩期
155	385	縄文土器	壺	胴部、5%以下	—	外傾する胴部下半から屈曲して内傾する上半。屈曲部外面に突起貼り付け。その上位に横走状線3条。突起を起して左に傾むる沈殿2条。下半に単線縄文 L R。下位の沈殿は縄文施文後	メノウ粒中量、石英粒・凝灰岩粒・チャート粒微量	良好	外面にぶい褐色・黒褐色。内面にぶい赤褐色・褐色。内部褐色	D 5 80. 20.81 m	—	国版 35 晩期中量か。S 137 (厚土)に帰属の可能性
156	27	弥生土器	壺	胴部下半、5%以下	—	外傾。外面条痕文。内面ナデ	やや精良。メノウ粒少量、メノウ粒・黒色砂粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	D 5 0m. I B 層一拵	—	国版 35 中期中頭一前葉
第44区												
157	319	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面は縦位の条痕文。単位は6～7条。内面ナデ	メノウ粒少量、石英繊維・雲母繊維・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色・灰黄褐色。内部褐色	D 5 80. I B 層一拵	—	国版 35 中期中頭一前葉
158	303	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	精良。メノウ繊維・石英繊維微量	良好	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	D 5 0m. I B 層一拵	—	国版 35 中期中頭一前半
159	316	土師器	環	口縁部～底部、30%	[11.8] 2.3	ロクロ成形。厚い平底から外反。外傾して立ち上がり。口縁部は直る。底部回転余切り。帯は口縁ナデ。底部内面ロクロ成形。粗面著	やや精良。メノウ粒・石英繊維・雲母繊維・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	内外面・内部にぶい黄褐色。内外面一部黄褐色	D 5 0m. I B 層一拵	4片	国版 35 9～10世紀
160	562	土師器	環	底部、25%	— (1.8) [5.2]	平底から内彎。大きく外傾する体部が立ち上がる。ロクロ成形。体部外面ロクロナデ。下半ケズリ。底部回転余切り。内面丁寧なミガキ。丁寧な黒色処理。外面器表荒れ	メノウ粒少量、メノウ粒・石英粒・黒色砂粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通。焼き甘い	外面・内部灰黄褐色。内面黄褐色	D 5 0m. 20.75 m	—	国版 35 9世紀
161	531	土師器	埴	体～底部、5%	(4.5)	丸底から内彎・外傾して立ち上がる体部。外面ナデ。底部付近ミガキ状。内面ナデ。器表荒れ	メノウ粒少量、石英粒・雲母繊維・凝灰岩粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	不良。二次焼成	外面褐色・一部黒色。内面明赤褐色。にぶい黄色・褐色。内部褐色・にぶい黄褐色	D 5 0m. 20.66 m	—	国版 35 8世紀ごろか
162	639	土師器	高台付環	環部、15%	[18.2] (4.0)	内彎。外傾。口縁部でわずかに外反。外面ロクロナデ。内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、石英粒・雲母繊維・黒色砂粒・灰色砂粒微量	普通。焼けむら	外面にぶい黄褐色・一部黒褐色。一部黒褐色。内面黒褐色。内部にぶい褐色	D 5 0m サブレ. 20.68 m	2片	国版 35 高台付は確定。9世紀末～10世紀初め。S 131に帰属の可能性
163	646	土師器	高台付環	底部、15%	(1.7) [6.0]	平底から体部が立ち上がる様相。ロクロ成形。底面に貼り出し高台。端部は外側に張り出し様を持つ。外面ロクロナデ。内面はほぼ直線のミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、メノウ粒・石英粒・凝灰岩粒・海綿骨針・黒色砂粒微量	良好。一部焼けむら	外面明黄褐色・にぶい黄褐色・一部黒褐色。内面黒褐色。内部にぶい黄褐色	D 5 0m 20.59 m	2片	国版 35 9世紀末～10世紀初め。S 131に帰属の可能性

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第44区												
164	648	土師器	高台付 杯環	底部、 15%	(20) 6.8	わずかに反った平底から体部が立ち上がる椀相。口ロ口成形。底面に貼り付け高台。高台は楕円に際入る。外面口ロナデ。内面放射状のミガキ、黒色処理	やや精良。メノウ粒・雲母微粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	やや不 焼き 甘い	外面褐色・ 内面黒色。 内部明褐色。 褐色灰 褐色灰	D 5 a0 サブレ 20.53 m	—	国版 35 9世紀末 ～10世紀 初め。S1 31に帰属 の可能性
165	28	土師器	高台付 杯環	底部、 5%以下	(17) [5.6]	口ロ口成形。貼り付け高台。平らな底から体部が立ち上がる椀相。内面ミガキ、黒色処理	やや精良。メノウ粒・石英粒・雲母微粒・褐色砂粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい 褐色。内面 黒色。底 部は内部ま で黒色	D 5 g0 I B層 一括	—	国版 36 9～10世紀
166	281	土師器	高台付 杯環	底部、 5%以下	(22) [5.2]	平底に高台貼り付け。高台高12cm。口ロナデ。内面ミガキ、黒色処理	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・灰色礫微量	良好	外面にふい 黄褐色。内 面黒色	D 5 e0 I B層 一括	—	国版 36 9世紀末 ～10世紀 初葉
167	538	土師器	甕	口縁～ 胴部、 5%以下	[18.2] (3.6)	内壱・内頰する体部から屈曲して外反・外頰する口縁部。端部はわずかに狭み上げる。口縁部内外面口ロナデ。体部内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母微粒・褐色砂粒・チャート粒・泥岩礫・赤褐色砂粒・シヤモット微量	良好、 堅緻	外面・内部に ふい褐色。外 面一部褐色 色。内面にふ い黄褐色	D 5 f0 20.69 m	—	国版 36 9世紀末
168	270	土師器	甕	体～ 底部、 30%	(22.7) [10.0]	平底から内壱・外頰して体部が立ち上がり、上部で内頰。最大径は高さ16cm付近で[21.6] cm。体部外面上半部ナデ。下半クズリ調整。内面指ナデ。のちナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・雲母微粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好、 堅緻	外面にふい 褐色。内面 褐色。灰 褐色色	D 5 f0 I B層 一括	15片	国版 36 9世紀頃か
169	476	土師器	甕	胴・体・ 底部、 10%	胴部ま まで [25.0] [10.0]	平底から内壱・外頰して体部が立ち上がる。連続しないが同一個体と想われる体部。胴部・頸部がある。胴部で屈曲して外頰する口縁部に移行する椀相。外面ナデ。体部下クズリ。内面ナデ。胴部付近内外面・底部内面口ロナデ。器壁薄い	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母微粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好、 堅緻	外面・内部明 赤褐色。一部 赤褐色。内 面にふい赤 褐色	D 5 e0 20.72 m	2片、 ほか同 一甕5 片	国版 36 9～10世 紀。S129 に帰属の 可能性
170	344	土師器	甕	底部、 5%	(21) 7.4	平底。底部木葉2枚を使用した。木葉痕一部クズリ調整。胴部は底部外縁上から外頰して立ち上がる。第1段粘土紐の始点を認める。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母微粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好、 堅緻	外面にふい 褐色。内面 褐色。内 部褐色 褐色	C 5 f0 20.73 m	—	国版 36 平安時代 か
171	289	緑釉 陶器	碗	口縁部 小片、 5%以下	—	内壱気味・外頰。口ロナデ成形。内面と一部外面は緑釉。外面は灰釉。釉2度懸けか(一度灰釉を完全に、次に内面に緑釉を施す。焼成も複数か)	精良な陶土	良好、 堅緻	器胎：灰色。 第1次釉：灰 色。第2次釉： オリーブ灰 色	D 5 a0。 I B層 一括	—	国版 36 9-11世紀 か。 平置き実測
172	87	土師質 土器	内耳 鉢	体～ 底部、 30%	(6.5) [12.4]	平底からわずかに内壱・外頰して立ち上がる体部。内外面ナデ。底部底面ヘラケズリ	やや精良。メノウ粒少量、メノウ礫・黒褐色砂粒・海綿骨針・赤褐色砂粒微量	良好、 堅緻	底部内外面に ふい褐色。体 部内外面黒 褐色。内面に ふい赤褐色	C 5 f0 I B層 20.90 m	5片	国版 36 外面灰化 物付着。 海綿骨針 やや顕著。 S137(覆 土)に帰属 の可能性
173	30	陶器	織部 折縁 皿	口縁部、 5%以下	—	内壱、大きく外頰。口縁部から14cm付近で梗をもって外折。口ロナデ成形。口縁部内面カキメ厚く銅緑釉。見込部に薄く銅緑釉	精良	良好	器胎：浅黄褐色。釉：口縁部濃青緑色。見込部淡青緑色	D 5 f0。 I B層 一括	—	国版 36 17世紀前 葉。 平置き実測
174	30	陶器	織部 折縁 皿	口縁部、 5%以下	—	内壱、大きく外頰。口縁部から11cm付近で梗をもって外折。口ロナデ成形。口縁部内面カキメ厚く銅緑釉。見込部に薄く銅緑釉	精良	良好	器胎：浅黄褐色。釉：口縁部濃青緑色。見込部淡黄褐色	D 5 f0。 I B層 一括	—	国版 36 17世紀前 葉。 平置き実測
175	8	陶器	織部 折縁 皿	口縁部、 5%以下	—	内壱、大きく外頰。口縁部から13cm付近で梗をもって外折。口ロナデ成形。口縁部内面に銅緑釉。見込部に薄く長石釉	精良	良好	器胎：浅黄褐色。釉：口縁部濃青緑色。見込部淡黄褐色	D 5 f0。 I B層 一括	—	国版 36 17世紀前 葉。 平置き実測

第3章 第3節 遺構と遺物

採回番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第44図													
176	34	土器片円盤	4.2	4.7	—	19.4	縄文土器深鉢の口縁部片を利用。周辺を打ち欠き、一部研ぎ調整。円に近い形状。縦横に内罫。土器の外表面粗い単節縄文L.R.、内面粗いミオキ	メノウ粒少量、チャート粒・凝灰岩粒・海綿骨針・黒色砂粒微量	普通、焼けむら	表面にふい、黄褐色・灰黄色。内部黒褐色。	D 5 a0, I B 層 除中	—	図版 36 完存
177	696	土器片円盤	4.5	4.3	—	(18.2)	縄文土器深鉢片を利用。周辺を打ち欠き、一部研ぎ調整。円に近い形状。横に内罫。土器の外表面粗い単節縄文R.L.、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母粒・凝灰岩粒・海綿骨針・黒色砂粒微量	普通	表面にふい、褐色。裏面に灰黄色。裏面表下にはふい、赤褐色。内部黒褐色。	排土中	—	図版 36 ごく一部欠損。海綿骨針顯著
178	278	土器片円盤	3.5	3.6	—	(9.9)	縄文土器片を利用。周辺を打ち欠き、一部研ぎ調整。不整形円形。横に内罫。土器の外表面無文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母粒・凝灰岩粒・海綿骨針・黒色砂粒微量	普通	表面にふい、黄褐色・灰黄色。裏面黒褐色。内部黒褐色。	D 5 b0, II 層 一括	—	図版 36 一部欠損
179	611	土器片円盤	3.8	4.0	—	(11.9)	縄文土器深鉢片を利用。周辺を打ち欠き、一部研ぎ調整。不整形円形。横に内罫。土器の外表面ケズリ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	表面にふい、赤褐色。裏面に灰黄色。内部にふい、黄褐色。	一括	—	図版 36 一部欠損。内面炭化物付着

採回番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第45図											
180	452	石鎌	2.7	1.3	0.4	0.8	メノウ	凸基有茎。わずかに反る。側縁には深めの調整割離を入れるがやや不揃い。	D 5 d0, 20.81 m	—	図版 36 完存
181	568	石鎌	2.3	(1.2)	0.4	(0.8)	メノウ	凸基有茎。茎は幅広く変形に近い。刃部には素材内部の節理面が4か所に残る。割離は不揃い。	D 5 h0, 20.78 m	—	図版 36 一部欠損
182	434	石鎌	(1.7)	1.3	0.4	(0.6)	メノウ	凸基有茎。小型。細かな調整割離により整った形。割離角は小さく、薄く仕上げられ、側縁は鋭利	D 5 c0, 20.78 m	—	図版 36 一部欠損
183	245	石鎌	2.5	1.3	0.9	2.0	チャート	凸基有茎石鎌。左右非対称。側縁の割離は不揃いで割離角が大きく、厚みが残る。	D 5 f0, 20.91 m	—	図版 37 完存
184	439	石鎌	(2.5)	1.2	0.4	(0.9)	チャート	凸基有茎石鎌。裏面には素材割片時の割離面が大きく残り、反りがやや大きい。側縁の割離はまらず整い、割離角は小さく、薄く仕上げられている。	D 5 d0, 20.92 m	—	図版 37 一部欠損
185	557	石鎌	(2.0)	1.1	0.3	(0.5)	メノウ (白濁)	尖基 (変形)。素材が機械により脆いためか、特に肩部は調整割離がきわめて不安定	D 5 g0, 20.75 m	—	図版 37 一部欠損
186	510	石鎌	(3.2)	1.8	0.5	(1.8)	硬質頁岩	凹基有茎。飛行機鎌。両側縁に段をもつ。割離は比較的揃い、割離角も小さく、薄く仕上げられている。	D 5 e0, 20.78 m	—	図版 37 一部欠損
187	480	石鎌	(1.5)	(1.6)	0.5	(0.6)	メノウ	平基無茎。正三角形に作るが、各縁が彎曲。割離はやや不安定	D 5 e0, 20.76 m	—	図版 37 一部欠損
188	252	石鎌	1.9	(1.4)	0.5	(0.8)	メノウ	凹基無茎。丁寧に割離されており整った形。割離がやや不揃い。一部階段状割離。側縁の割離角が大きく厚みが残る。	D 5 h0, 20.80 m	—	図版 37 一部欠損
189	537	石鎌未成品	3.5	2.0	0.9	5.7	チャート	柳葉形石鎌の未成品。表面中央には素材時の割離面を残す。側縁からの割離は不揃いで、割離角はやや大きい。	D 5 f0, 20.70 m	—	図版 37 完存
190	216	石鎌	6.4	3.9	1.3	(45.0)	砂岩	扁平な不整形円形割離を利用。両端に擦りによる切目	D 5 c0, I B 層	—	図版 37 一部被熱による欠損。一部黒色物質付着
191	237	石鎌	5.5	4.9	0.9	(33.6)	結晶片岩	扁平な楕円形割離を利用。両端に擦りによる切目	D 5 e0, I B 層, 20.82 m	—	図版 37 一部欠損
192	56	石鎌	7.2	3.3	1.7	(50.7)	ホルンフェルス	縦長の不整形割離を利用。両端に擦りによる切目	C 5 f0, I B 層, 20.93 m	—	図版 37 一部欠損
193	501	敲石	5.0	4.0	2.9	80.1	硬質砂岩	やや扁平な楕円形割離を利用。小型。円運動による敲きで使用。一端を4方向(主に2方向)で集中的に使用	D 5 f0, 20.77 m	—	図版 37 完存
194	448	磨石・凹石	7.7	6.5	5.0	387.5	花崗閃岩	楕円形割離を利用。両端を磨りに使用。正面と裏面の中央部に最大径 22mm、深さ 2mmの不整形の凹み	D 5 d0, 20.75 m	—	図版 37 完存。一部に赤色顔料付着

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第45区	195	382	磨石	6.5	6.1	4.4	(237.0)	多孔質 安山岩	やや扁平な楕円盤を利用。比較的平らな面を中心に裏面を磨りに使用。正面中央に最大径15mm、深さ2mmの凹み。裏面にも形成初期のわずかな凹み。	D 5 a0, 2086 m	—	図版37 一部欠損。 焼熱により表面赤灰色。S 137(覆土)に帰属の可能性
	196	437	磨石	6.7	7.2	3.7	244.0	多孔質 安山岩	やや扁平な盤を利用。おむすび形。全面を磨りに使用。正面・裏面の使用が顕著	D 5 c0, 2074 m	—	図版37 完存
	第46区	197	83	磨石	(10.8)	(5.3)	(3.7)	(1365)	多孔質 安山岩	楕円盤を利用。縦線を磨りに使用。磨り面は現状2面だが、4面と推定	C 5 j0, 1 B 層, 2090 m	—
198		84	凹石	(10.5)	6.5	(3.4)	(217.0)	凝灰岩	瓜形の溝を利用。正面中央やや下位に径18mm、深さ2mmの円形の凹み	C 5 j0, 1 B 層, 2088 m	—	図版37 70%残存。 S 137(覆土)に帰属の可能性
199	432	石皿・ 凹石	(10.4)	(7.4)	(7.7)	(312.0)	多孔質 安山岩	一部に石皿の磨面が残る。裏面に石皿周縁部に凹みが残る。石皿の凹石への再利用。破断面は人為的な打割調整	D 5 b0, 2079 m	—	図版37 一部残存。	
200	229	砥石	(10.5)	(3.6)	(1.6)	(50.0)	微粒緑色 凝灰岩	砥面(正面)は滑らかで緩やかに波打つ。左側面は平らだが正面ほど滑らかではない。整形時の面か	D 5 d0, 1 B 層, 2092 m	—	図版37 一部残存。 S 129に 帰属の可 能性	
201	341	石剣	(6.4)	(3.7)	(1.7)	(58.2)	点紋緑色片 岩(三波川 変成岩帯産)	幅広い石剣先端部片。断面凸レンズ状で縁辺に稜	C 5 j0, 2086 m	—	図版38 一部欠損	
202	502	石剣	(11.5)	(2.2)	(1.0)	(36.1)	粘板岩	石剣身部片。両側縁の稜は残存しないが後に近い部分が残存。図上部がやや厚みを持ち頭部と推定。表面には軸に対し斜め、一部直交方向の擦痕	D 5 j0, 2072 m	—	図版38 一部残存	
203	512	石棒	(12.2)	(3.1)	(0.7)	(24.5)	粘板岩	表面に敲打痕を残す未成品の破片	D 5 j0, 2073 m	—	図版38 一部残存	
204	516	石棒	(7.9)	(3.3)	(1.0)	(25.3)	粘板岩	表面に敲打痕を残す未成品の破片	D 5 j0, 2070 m	—	図版38 一部残存	
205	478	石棒	(11.2)	(3.1)	(1.1)	(50.4)	粘板岩	表面には顕著な敲打痕を残す未成品の破片。径30～33mm程度の中型品	D 5 e0, 2070 m	—	図版38 一部残存。 破断面の 一部に赤 色顔料付 着	
206	474	白玉	0.7	0.7	0.4	0.2	緑色凝灰岩	円形で均等な厚さを持つ小玉。側面は彫らむ。中央に径2.4mmの円形の貫通孔。両面穿孔で孔内面に鈍い稜を持つ	D 5 e0, 2073 m	—	図版38 完存	
207	377	玉未 成品	2.0	1.6	0.7	2.9	滑石	不整形円形の素材で、ほぼ未調整。両面から穿孔するも貫通せず。正面の穿孔径は径5.0mmの円形で、底面は半球状(穿孔孔の先端が丸い)	C 5 j0, 2077 m	—	図版38 一部欠損。 S 137(覆土)に帰属の可能性	

検出 番号	台帳 番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第46区	208	不明鉄 製品	(5.0)	(1.0)	(1.5)	(6.8)	鉄	両端折損。幅8～9mm、厚さ3～4mm程度の、長い板状製品の一部。中央部分で鋭く彎曲	D 5 e0, 1 B 層 一括	—	図版38 一部残存
	209	266	鉄滓	5.3	4.0	2.3	45.5	鉄	不整形で板状。表面はコークス状の発泡顕著	D 5 b0, 1 B 層 一括	—
210	613	骨角器 製針	(2.6)	(0.8)	(0.8)	(1.1)	ニホンジカ? 角?	製針頭部破片。現存中央部やや上に円孔を穿ち、その上には縦に、脇から下には横に5段の凹線を刻む。軸部への移行部は裏側も調整されており、透孔が穿たれていた可能性	D 5 i0 一括	—	図版38 一部残存。 一部に赤 色顔料付 着。付帯 参照
211	456	桃核	(1.7)	1.5	1.3	(1.0)	炭化物	小型の桃核。表面には桃核特有の凹凸	D 5 d0, 2076m	—	図版38 一部欠損。 S 129に 帰属の可 能性

5 第31トレンチ

(1) 調査概要 (第47図, 第30表, 図版11～13)

第2次確認調査で第12トレンチにおいて確認されている縄文時代晩期の竪穴住居跡、第9号竪穴住居跡と第10号竪穴住居跡の具体相を知り、併せて第12トレンチと第13トレンチの間の区域における遺構分布に関するデータを得るため、第9・10号竪穴住居跡の位置に第12トレンチに直交して東に延びるトレンチを設定し、これを第31トレンチとした。

調査では第9・10号竪穴住居跡が確認できず、ほぼその位置に別なプランを有する住居跡2軒(第34・35号竪穴住居跡)を新たに確認したため、第9・10号竪穴住居跡を抹消することとした。その他、新たな住居跡2軒を確認した。土坑は14基(縄文時代5基、中・近世9基)、中・近世の溝1条を確認した。

東端部付近では陸田の床土層であるIB1・2層の下に本トレンチ独特の土層(第1層)が見られた。その直下はS I33やSK207・212などの覆土になっており、上面は東端に向かって傾斜していた。久慈川の低地から延びる小支谷に向かう緩斜面である。また、SK207の上面ではキャタピラ痕が認められた。おそらく陸田を造成するに際して重機で一度掘削のうえ客土し、平らに整地して水田面を広く確保しようとしたものと思われる。第1層はその際の客土の層と考えられ、第30トレンチ第1層に対応する土層の可能性がある。その上面の一部に硬化面が認められた(第2層)。作業面または一時的な道路面であった可能性がある。以下に基本土層にない土層について解説しておく。

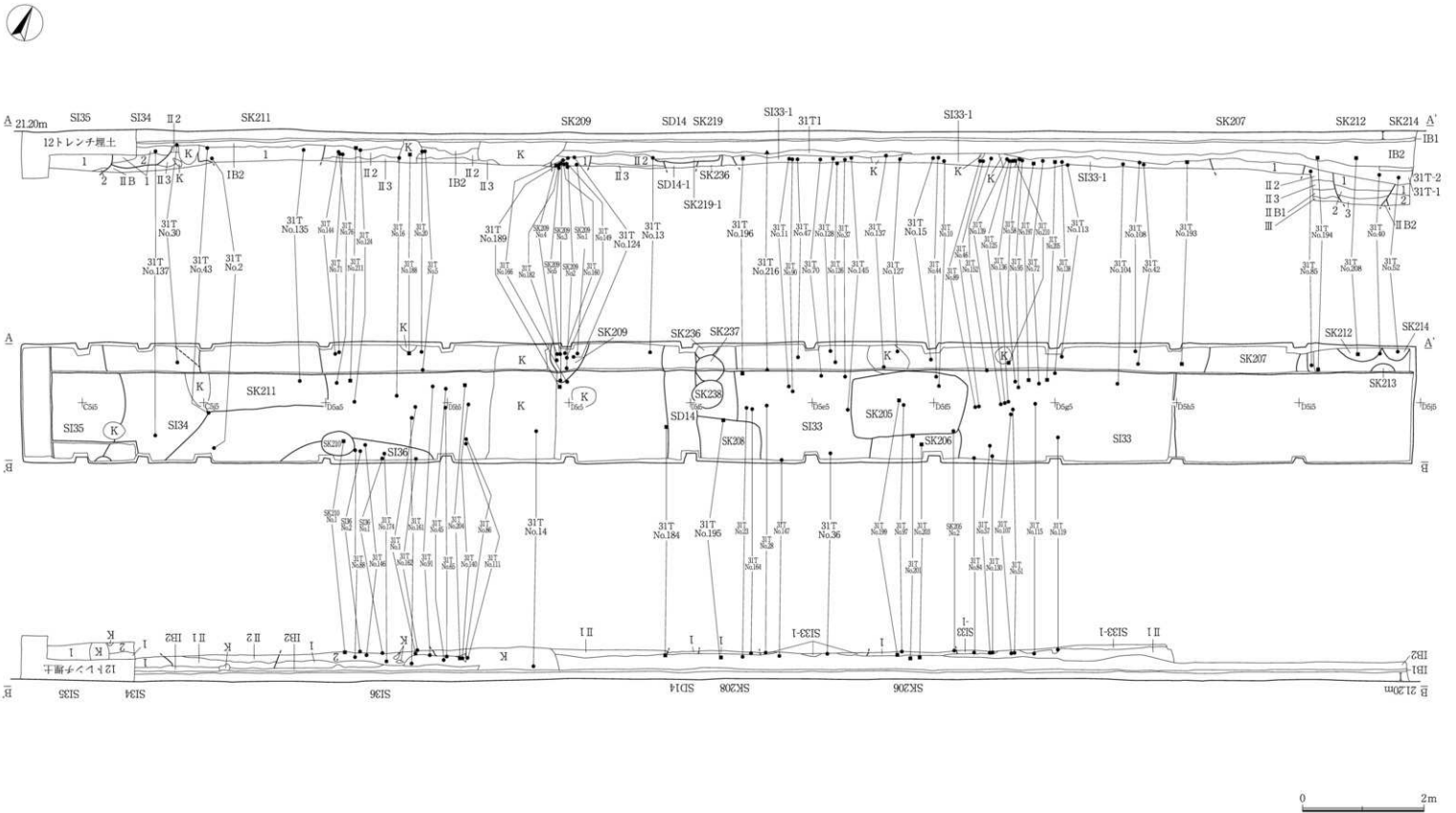
土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/3) ローム粒子少量、Nt-S微量、締まりやや強、粘性やや弱
- 2 灰黄褐色(10YR4/2) ローム粒子中量、灰白色粘土粒子少量、締まり強、粘性やや強

なお、調査の趣旨からすれば第1層を除去して遺構確認をすべきところであったが、調査期間等の問題もあり、トレンチ東端部小グリッド2個分についてはサブトレで調査しただけで、第1層を除去しての調査は行っていない。

第30表 第31トレンチ確認遺構総括表

時期\遺構の種類	竪穴住居跡	土坑	その他
縄文時代	SI33, SI34, SI35, SI36	SK209, SK210, SK212, SK213, SK214	
奈良・平安時代			
中・近世		SK205, SK206, SK207, SK208, SK211, SK219, SK236, SK237, SK238	SD14
その他・時期不明			



第47図 第31トレンチ実測図

(2) 遺構と遺物

① 縄文時代

第33号竪穴住居跡 (S I 33) (第47～52図, 第31表, 図版13・38～42)

位置 D5d4・d5, D5e4・e5, D5f4・f5, D5g4・g5, D5h4に所在する。

規模と形状 トレンチ内で確認できるのは全体のごく一部で、大部分はトレンチ南北に伸びているものと思われる。トレンチ内では、西側は外形線が捕捉できたが、東側は他の遺構に掘り込まれており確認できなかった。現状で確認できたのは、南北はトレンチ幅(実寸1.88m)、東西はセクションで確認できた8.04mである。形状は不明である。西側外形線は直線的であるが、これで全形を推定することはできない。

重複関係 南西側をSK208に、中央部をSK205・206に、北東部をSK207に掘り込まれている。掘り込んでいる土坑はいずれも中・近世のものである。

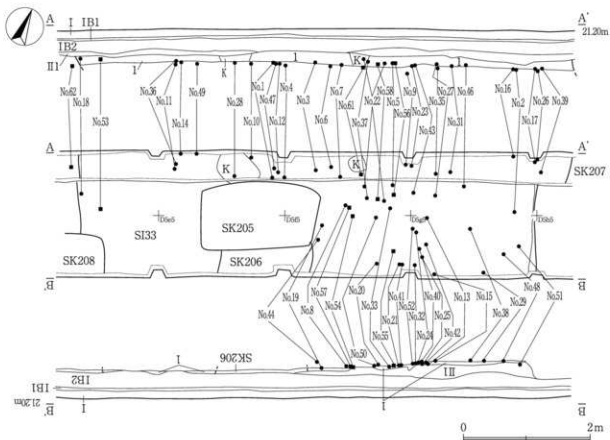
土層 トレンチ北壁際にサブトレンチを入れて確認しているが、サブトレンチ発掘底面は床面まで達していない。認められたのは覆土1層である。自然堆積と思われる。

土層解説

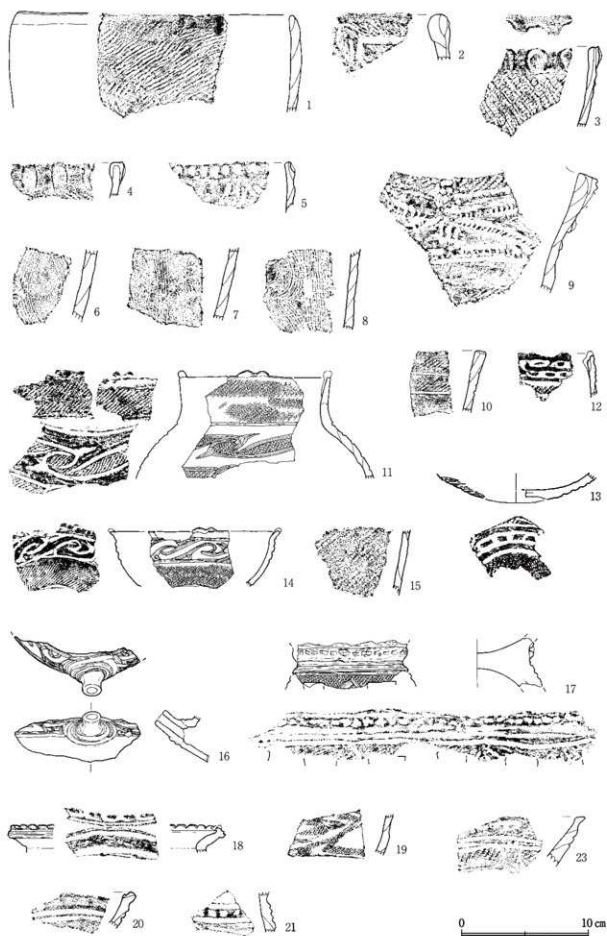
- 1 黒色(10YR2/1)ロームブロック微量、ローム粒子微量、Nt-S微量、炭化物微量、焼土微量、焼骨細片微量、縛まり中、粘性やや弱

遺物 土器片・土製品等181点、石器・石製品・剥片等49点、骨片7点、その他2点、合計239点が出土した。うち、土器片48点、土製品4点、石器・石製品11点、合計63点を掲載する。

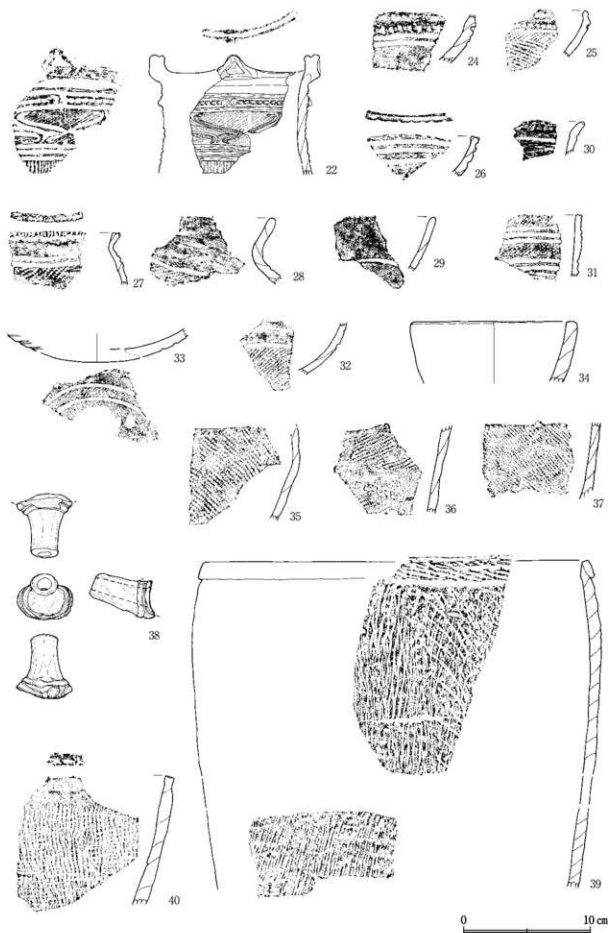
所見 大規模な住居跡であることは確実であるが、形状と規模が不明である。時期は比較的多い出土遺物から縄文時代晩期中葉頃かと思われるが、住居に伴うような覆土下層からの出土状態ではなく、また時期的なばらつきがあるため確定的なことは言えない。



第48図 第33号竪穴住居跡実測図



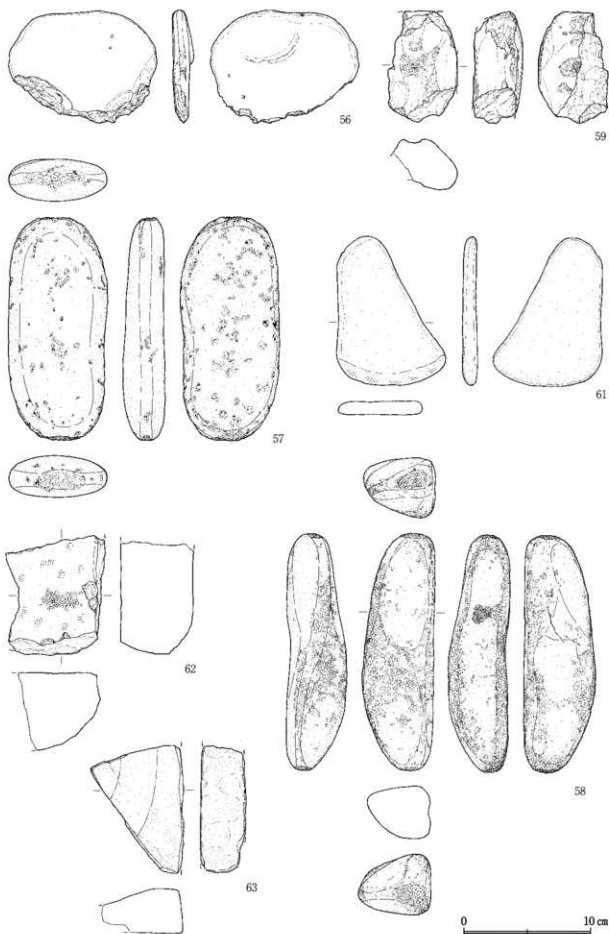
第49図 第33号竪穴住居跡出土遺物実測図(1)



第50図 第33号竖穴住居跡出土遺物実測図(2)



第51図 第33号竪穴住居跡出土遺物実測図(3)



第 52 図 第 33 号竪穴住居跡出土遺物実測図 (4)

第31表 第33号竈穴住居跡出土土物観察表

神国 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第49国												
1	29	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%	[21.6] (7.6)	わずかに内脣。わずかに外傾する胴部。口縁部付近でわずかに内傾。肩部外側き状。外面ミガキ。胴部外面無節縄文LR。内面ナデ	やや精良。メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好、堅密	外面灰褐色。内部褐色	D 5 e4, 20.59m	—	国版38 中期初期か
2	105	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内傾。丸縁。口縁部を内外に肥厚させ、外面単節縄文RLを施文に覆うの縁の隆起を付し、脇はナデなうえ沈線で長方形(楕円形?)の区画。内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒少量。メノウ礫少量。石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい赤褐色。内面黒褐色。内部にふい橙色	D 5 g4, 20.50m	—	国版38 中期後葉
3	30	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	わずかに内脣。わずかに外傾。口縁部を外側に肥厚させ指頭による押圧。胴部外面単節縄文RL。内面ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面黒褐色。内部褐色	D 5 f4, 20.61m	—	国版38 後期粗製土器
4	115	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内外に肥厚させた口縁部。内脣わずかに外傾。角縁。外面に連続する指頭圧痕。胴部単節縄文RL。内面ナデ	メノウ粒少量。雲母細粒・褐色砂粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面灰青褐色。内面淡黄褐色・褐色。内部褐色	D 5 f4, 20.53m	—	国版38 後期粗製土器
5	124	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	わずかに内脣。内傾気味。複合口縁に竹管状の施文具で連続突起。突起は左から。胴部外面へウ状施文具による左下がりの条。右下がりの条の斜線。その周辺不明だが縄文施文か。内面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	内外面にふい褐色。内部褐色	D 5 f4, 20.58m	—	国版38 後期粗製土器
6	31	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内脣。わずかに外傾。外面縦位の弧状条線文。条線の単位は7条以上。内面ナデ。一部ナデ	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	普通	外面にふい褐色。内面・内部黒色	D 5 f4, 20.54m	—	国版38 後期粗製土器
7	33	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内脣。わずかに外傾。外面縦位の条線文。条線の単位は5条。別に1条あり。内面ナデ	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・褐色砂粒微量	普通	外面にふい褐色。内面にふい褐色。内部褐色	D 5 f4, 20.57m	—	国版38 後期粗製土器
8	46	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	外反気味。外傾。外面縦位のコンパス文と直線の条痕文。施文直線が浅。施文具の条は平なもの11条。内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	やや不良	外面・内部にふい褐色。内面灰褐色	D 5 f4, 20.59m	5片	国版38 後期粗製土器
9	92	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%	—	外反。外傾。波状口縁の谷部。角縁。肩部外面を肥厚させ縦位の楕に横位のキザミ。その下で交差する縦楕にキザミ。交差の下横位の楕に横位のキザミ。その下位横位の隆線にキザミ。その下位無文帯(ミガキ)を置いて単節縄文LRか。内面に上着いミガキ。下位ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。器表下淡赤褐色。内部褐色	D 5 g4, 20.42m	2片	国版39 後期末葉 一晩期初期 ・安行 型または 3式
10	21	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	外反気味。わずかに外傾。角縁。外面単節縄文LRを施文に横走沈線2条その下脣り消し。沈線間に細く浅い沈線が弧状に付されるが文様かは不明。内面ナデ。口縁部付近一帯部ミガキ	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面暗赤褐色。内外面にふい褐色。内部灰褐色・褐色	D 5 e4, 20.57m	—	国版38 晩期前葉・ 大淵B式
11	13	縄文 土器	壺	口縁～ 胴部、 15%	[11.9] (8.6)	内脣・内傾する胴部から屈曲して外反気味にわずかに外傾して立ち上がる口縁部。平縁にB突起(現状2個残存)。口縁部を外面単節縄文LR。胴部に比線を施す。胴部単節縄文LRを施文に三叉入組み文。下位にも文様帯。口縁部内面ミガキ。胴部ナデ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・赤褐色砂粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい褐色・黒褐色。器表下褐色。内部褐色	D 5 e4, 20.57m	4片。ほかには 組み合わせ しない同一 個体 4片	国版39 晩期前葉
12	27	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内脣。外傾。肩部付近を肥厚させ、外面縦位のB突起。外面半面状文。その下に単節縄文LR。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内部褐色	D 5 e4, 20.59m	—	国版39 晩期前葉・ 大淵B C式。外面 一部灰化 物付着

探検 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第49区												
13	86	縄文 土器	浅鉢	胴～底 部, 10%	(21) [7.2]	内脣, 大きく外傾。胴部外面上位に単節縄文LRを地文に斜位の細い沈線。その下位横走比線4条を隔て、2条と3条の間に沈線で数断し珠文を作る。表面単節縄文LR。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	外面褐灰色、内面灰褐色。器表下浅黄褐色。内部褐灰色	D 5g ₅ 20.56m	—	図版39 晩期前葉・大割BC式か
14	15	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	(13.3) (4.6)	内脣・外傾する胴部から屈曲して外反する口縁部。平縁にB突起。胴部上半外面入組み文。下半単節縄文LR。底部との境界に沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい褐色・褐灰色・黒色。内面にふい褐色。内部褐灰色	D 5e4 20.58m	—	図版39 晩期前葉・口縁部一部内面炭化物付着
15	74	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	内脣外傾。外傾。外面結節ある単節縄文LR。内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・灰色砂粒微量	普通	外面にふい褐色・一部褐灰色。内面黒褐色。一部にふい褐色。内部浅黄褐色	D 5g ₅ 20.51m	—	図版39 晩期前葉・大割BC式
16	106	縄文 土器	注口 土器	胴～注 口部, 5%	—	算盤玉形の胴部に斜め上方を向く短い注口が付く。胴部径14.6cm。現存高4.0cm。胴部上半外面半面伏文。注口は胴部の孔に差し込み、接合部周辺に粘土を充填し2段に作る。胴部内面には注口を差し込む際に注口部を支えた棒状工具の跡。右回転しながら押し込んでいる。注口内面には引き抜く際の直線状の擦痕。内面ナデ	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内部褐灰色	D 5g4 20.49m	—	図版39 晩期前葉・大割BC式
17	107	縄文 土器	台鉢	底～脚 部, 10%	(3.8) [18.3]	鉢底部内面は丸く彎曲。外縁にハに字状に開く脚台が付く。接合部径8.5cm。接合部に細い隆帯を巡らせ連続刺突。刺突は石からで、一部刺突には緩い浅い窪みが重複。隆帯下には2条の横走沈線。脚台には5か所の透孔。透孔は方形または長方形。内外面単節縄文LR(施文は透孔の後、横走沈線の前)を地文に透孔間に沈線による山形文。器体・脚台とも内面ナデ。鉢部破断面研削調整	やや粗悪。メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒微量	普通	外面灰黄褐色。鉢内面にふい黄褐色。脚台内面黒褐色。器表下浅黄褐色。内部褐灰色	D 5b4 20.50m	—	図版39 晩期前葉か
18	5	縄文 土器	壺	口縁部, 5%以下	(16.6) (2.2)	内脣する頸部から屈曲して大きく外反・外傾する口縁部。端部には裝飾的なキザミ。その下位には肥厚させ外面に細い沈線を巡らす。外面ナデ。一部ミガキ状。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・石英礫・雲母細粒・凝灰岩粒微量	良好	外面褐灰色・内面褐灰色。器表下浅黄褐色。内部褐灰色	D 5d4 20.63 m	—	図版39 晩期中葉・大割C1式か
19	35	縄文 土器	鉢	胴部, 5%以下	—	内脣。外傾。外面単節縄文LRを地文に磨り消し。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・雲母細粒微量	良好	内外面黒褐色。内部にふい黄褐色	D 5f ₅ 20.62m	—	図版39 晩期中葉・大割C1-C2式
20	133	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	—	内脣。大きく外傾。端部は内傾に粘土を充填し、沈線を巡らす。外面単節縄文LR(ノ)を地文にその上位横走沈線2条。内面ナデ。器表荒れ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	激しい二次焼成	内外面にふい褐色・褐灰色。内部褐灰色	D 5f ₅ 20.60m	—	図版39 晩期中葉か
21	70	縄文 土器	長脚 壺	胴部, 5%以下	—	わずかに外反。わずかに内傾。上端は肥厚する口縁部か。横走沈線2条とその間の連続刺突。その下位沈線による文様帯。内面上位ミガキ。下位ナデ	メノウ粒少量、石英粒・石英礫・石英粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい赤褐色。内面黒褐色。内部灰褐色	D 5f ₅ 20.58m	—	図版39 晩期中葉・大割C2式
第50区												
22	57	縄文 土器	長脚 壺	口縁～ 胴部, 10%	(12.8) (9.4)	わずかに外反。ほぼ直立する胴部から屈曲し肥厚する口縁部。口縁端部に山形突起を付け、突起も含めて端部に沈線を巡らす。突起外面三角形の彫形。その下横走比線2条とその間の連続刺突。突起下には之割1単位の小突起。その下面部転の単節縄文Rを地文に沈線による入組み文。その下位横走比線3条。その下腹位の燃糸文。内面ナデ	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒微量	良好	外面黒褐色。内面灰褐色。内部灰褐色	D 5f4 20.66m	3片	図版39 晩期中葉・大割C2式。外面炭化物付着

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第49図	23	93	縄文 土器	浅鉢 口縁～ 胴部、 5%	—	内甕、大きく外傾。厚手。胴部 外面に単節縄文LRを地文に沈 彫による積形区画文を施し、 区画外縁を磨り消し。上位に横走沈 線2条、うち下位の横走沈線は 積形区画の一部に重複。内面 ミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫、石 英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・輝石粒 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部黒褐色。	D 5 g4, 20.56m	—	図版 39 晩期中葉・ 大淵 C 2 式か
第50図	24	78	縄文 土器	浅鉢 口縁～ 胴部、 5%	—	内甕、大きく外傾。口縁端部尖 失。外面連続刺突。その下位横 走沈線2条、ほか無文(ミガキ)。 内面ミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫、石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 褐色砂粒・海 綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に 黄褐色。器表 下淡赤褐色。 内部褐色。	D 5 g5, 20.57m	—	図版 39 晩期中葉か
25	75	縄文 土器	浅鉢 口縁～ 胴部、 5%	—	内甕気味、大きく外傾。口縁は 屈曲して内傾。屈曲下連続刺突 と横走沈線、その下位斜行沈線。 内面ミガキか。器表荒れで詳細 不明	メノウ粒少量、 メノウ礫少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒微量	激し 二次 焼成	内外面・内部 とも褐色・褐 灰色	D 5 g5, 20.56m	—	図版 39 晩期後葉・ 大淵 A 式	
26	121	縄文 土器	浅鉢 口縁～ 胴部、 5%以下	—	内甕・外傾。径28cm前後か、 口縁端部内側に細い粘土紐を施 して突出させ、外側にキナミ、 外面横走沈線4条、内面ナデか。 器表荒れ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・黒色砂 粒微量	普通、 焼きや や甘い	外面にぶい黄 褐色・灰褐色。 内外面褐色。 一部器表下淡 黄褐色。内部 褐色	D 5 h4, 20.46m	—	図版 39 晩期後葉・ 大淵 A 式	
27	89	縄文 土器	深鉢 口縁～ 胴部、 5%	—	内甕・内傾する胴部から屈曲し て外傾する口縁部。薄手。口縁 端部を外側に肥厚させ細かいキ ナミ。胴部外面無文。肩部に横 走沈線2条。胴部単節縄文LR。 内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒微量	良好	内外面・内部 とも黒褐色	D 5 g4, 20.58m	2片	図版 40 晩期か	
28	123	縄文 土器	壺 口縁～ 胴部、 5%以下	—	内甕・内傾する胴部から屈曲し て外傾する口縁部。角縁状。口 縁部外面ナデ。肩部外面単節 縄文LRを地文に横走沈線2条。 内面ナデ。口縁部内面ミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・黒色砂粒・ 褐色砂粒・海 綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。外面灰赤 色。内面褐色。 器表下褐色。 内部褐色	D 5 e4, 20.57m	—	図版 40 晩期	
29	102	縄文 土器	浅鉢 口縁～ 胴部、 5%以下	—	内甕、大きく外傾。薄手。内面 から口縁部外面ミガキ。胴部 単節縄文LRを地文に横走沈線。 現存下位ミガキ状	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・チヤート 粒・黒色砂粒 微量	良好	サンドイッチ 状。外面灰黄 褐色。内面に ぶい褐色。内 面内面黄褐色。 器表下褐色。 内部褐色	D 5 g5, 20.53m	—	図版 40 晩期	
30	3	縄文 土器	小型 鉢 口縁部、 5%以下	—	外反。外傾する口縁部。端部に 瘤状施文具による連続刺突。外 面横走沈線。細い弧状沈線。内 面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・チヤート 粒・黒色砂粒 微量	普通、 焼け けむら	外面黒褐色。 内面にぶい褐色。 内部褐色	D 5 g4, 20.51m	一括	—	図版 40 晩期か
31	97	縄文 土器	小型 鉢 口縁～ 胴部、 5%	—	わずかに内甕。外傾。角縁。外 面単節縄文LRを地文に横走沈 線3条を2段に施文。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒・ 海綿骨針微量	良好	外面暗褐色。 内面にぶい褐色。 内部灰褐色	D 5 g4, 20.55m	—	図版 40 晩期。外 面灰化物 付着	
32	71	縄文 土器	浅鉢 胴部、 5%以下	—	内甕、大きく外傾。薄手。外面 単節縄文LRを地文に上位横走 沈線2条と磨り消し。内面ミガ キ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	外面黒色。一 部にぶい黄褐 色。内面黒褐色。 内部灰褐色・ 黒色	D 5 g5, 20.56m	—	図版 40 晩期	
33	59	縄文 土器	浅鉢 胴～底 部、15%	(2.2) [10.2]	—	丸底から胴部が内甕し大きく外 傾して立ち上がる。胴部外面に 現状で横走沈線3条。単節縄文 LRを地文に下位2条間を残し、 磨り消し。底面ミガキか。内面 粗いミガキ。黒色処理	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	やや 不良	外面・底面灰 黄褐色。内面 黒色。内部褐色	D 5 f4, 20.61m	—	図版 40 晩期。底 面一部火 ハ。外 面一部赤 色顔料付 着
34	67	縄文 土器	鉢 口縁～ 胴部、 5%以下	(4.8)	[12.8]	わずかに内甕。外傾。端部角縁 状。厚手。無文。内外面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 黄色。内部褐色	D 5 缶, 20.58m	—	図版 40 時期不明。 内面わず かに赤色 顔料付着
35	95	縄文 土器	深鉢 胴部、 5%以下	—	—	内甕。外傾。胴部外面単節縄文 LR。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・海綿骨 針微量	普通	外面暗褐色・ 暗赤褐色・黒 色。内面褐色。 内部灰褐色	D 5 g4, 20.53m	—	図版 40 時期不明。 内面灰 化物付着

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第50図												
36	14	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	外反気味、わずかに外傾。外巻単純縄文LRを地文に現状し字形にナデ消し、結節を排除。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色・灰黄褐色。内面灰黄褐色。内面黒色	D 5 e4, 20.60 m	—	図版40 時期不明
37	50	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	内巻気味。外傾。外面斜位の擦糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面にふい褐色。内面にふい褐色・灰褐色。内面褐色	D 5 f4, 20.61 m	—	図版40 晩期
38	100	縄文土器	注口土器	注口部, 5%以下	— — —	扁平な胴部の最大径部分に付く注口部。元が太い筒形で、胴部から約4cm突出し、注ぎ口は斜め上方を向く。接合は胴部の孔に注口部を差し込み、接合部外周に粘土を付加して沈着を巡らせ、隆帯2条のように作る。表面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面にふい褐色。内面・内器部褐色。器部下浅黄褐色	D 5 g5, 20.53 m	—	図版40 晩期
39	108	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 10%	30.4 (25.8)	内巻。外傾から上部で内傾。最大径は口縁端部から下6～7cm付近で32.4cm。複合口縁で外面に斜位の擦糸文。角縁。胴部外面縦位の擦糸文と縦目状擦糸文并用。地文類は擦糸文→縦目状擦糸文。擦糸文は原体が粗粒。表面は、縦目状擦糸文は縦2マズ(3.1cm前後)で原体が1回転。原体は径1.2cm程度と推定(焼成による土器の縮小率80%として)。外面一部粘土結核上げ痕を残す。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面・内器部褐色	D 5 b4, 20.52 m	2片。接合しない同一個体1片	図版40 晩期粗製土器。外面灰化付着
40	76	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 5%	— — —	内巻。外傾。厚手。口縁は角縁につくり、端部に連続押圧。外面口縁部無文。胴部横位の条線文に縦位の擦糸文。内面ナデ。一部粘土結核上げ痕を残す	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好、堅緻	外面黒褐色・灰褐色。内面にふい黄褐色。内面褐色	D 5 g5, 20.56 m	—	図版40 晩期中葉か
第51図												
41	70	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	わずかに内巻。外傾。外面縦目状擦糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	普通	外面灰黄褐色。内器部灰褐色。内面明灰褐色。内面褐色	D 5 f5, 20.58 m	—	図版40 晩期粗製土器
42	117	縄文土器	鉢	胴部, 5%以下	(7.7)	内巻。外傾。肩部内傾。最大径16.8cm。胴部外面に横走沈線。以下擦糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通、焼きや甘い	外面浅黄褐色・にふい黄褐色。内面にふい褐色・灰褐色。内面にふい黄褐色	D 5 g5, 20.54 m	—	図版40 晩期粗製土器
43	90	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 5%	32.0 (7.9)	内巻。外傾する胴部から内傾する口縁部。複合口縁。角縁。口縁部外面に連続する指面圧痕。胴部外面ナデ。一部に縦縄文(原体オオコバカ)を残す。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	外面にふい褐色。内面灰褐色。内面褐色。内面にふい黄褐色	D 5 g4, 20.56 m	2片	図版41 晩期粗製土器
44	37	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内巻。外傾。口縁部でわずかに内傾。複合口縁。角縁。胴部外面縦位の横走沈線2条。内面ナデ	メノウ粒・石英粒少量。雲母細粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面灰白色・にふい黄褐色。内面褐色	D 5 f5, 20.62 m	2片	図版41 晩期粗製土器
45	2	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内巻。内傾。粗製。単純口縁で、端部に指面圧痕。内外面ナデ粘土結核上げ痕を残す	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	内外面黒褐色・内面褐色	D 5 f4-5, 一括	—	図版41 晩期粗製土器
46	99	縄文土器	ミニチュア土器(鉢)	胴～底部, 80%	(3.1)	丸底から胴部が外傾して立ち上がる。底部厚手。胴部厚手。胴部外面擦糸文。底面・内面ナデ	やや粗造。メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒微量	良好	内外面黒褐色・黒色。内面褐色	D 5 g4, 20.57 m	—	図版41 晩期。内面土からのメノウのオパール2点検出

第3章 第3節 遺構と遺物

神図番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第51図	47	25	縄文土器	深鉢	底部、5%以下	(3.3) [9.4]	平底から胴部が外傾して立ち上がり、内外面・底面ともミカキ。底面には一部網代模が残る	メノウ粒少量、石英粒・雲母繊維、凝灰岩粒、黒色砂粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色、内面灰黄褐色。器表下褐色。内部褐色	D 5 e4, 20.58m	—	図版41 時期不明
48	103	縄文土器	鉢	底部、5%以下	(2.8) [9.6]	平底から胴部が大きく外傾して立ち上がる種相。胴部、分厚い。底面は押し広げた粘土塊に粘土を纏いつくする。内外面・底面ともナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母繊維・チャート粒・凝灰岩粒、黒色砂粒、褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面に、ぶい黄褐色。ぶい褐色。内部褐色	D 5 g5, 20.50m	2片	図版41 時期不明	

神図番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第51図	49	17	土偶	(5.7)	(4.4)	—	(105.7)	臀部、わずかに膨らむ足先の縦線を指の表現と見て前後を判断し、側面のうち平坦な方を腹の内側と見て右とを判断。中央で太い。内股面以外の3面には乳頸の残い施文具による2段の連続刺突と細い橋本沈線2条。粘土塊を塗るように接合しながら成形。外面ナデ。器表荒れ	やや粗悪。メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒、黒色砂粒、褐色砂粒微量	二次焼成	外面橙色。内部にぶい黄褐色	D 5 e4, 20.57 m	—	図版41 一部残存。山形土偶か
50	51	土版	(4.0)	(5.8)	—	(35.7)	全体形状は楕円形と推定。粘土板を貼り合わせて成形。わずかに正面側に反る。正面には沈線により渦巻文。周縁から側面にかけて細かな連続刺突。裏面は弧状の沈線による入組み文。全体ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母繊維・チャート粒・凝灰岩粒微量	普通	外面黒褐色・ぶい黄褐色。内部黒褐色	D 5 f5, 20.60 m	—	図版41 一部残存	
51	104	土器片円盤	4.3	4.2	—	12.4	土器片の周囲を折断して成形し、外縁の一部を研磨により調整するも、不整形。元の土器は晩期前葉の遺具か。細かな半部網文LRを施文した沈線2条と三又文。内面ナデ	やや精良。メノウ粒少量、石英粒・雲母繊維・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	正面・裏面黒褐色。内部にぶい赤褐色	D 5 g5, 20.48 m	—	図版41 完存。正面一部異文化物付着	
52	116	土器片円盤	3.1	3.7	—	11.0	土器片の外縁を研磨して成形。不整形円形。元の土器は外面太めの単部縄文LR。内面ナデ。時期不明	メノウ粒少量、石英粒・雲母繊維・チャート粒・黒色砂粒微量	良好	正面にぶい褐色。裏面灰褐色。内部明褐色	D 5 g5, 20.56 m	—	図版41 完存	

神図番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第51図	53	9	石鏡	2.2	1.3	0.6	1.4	メノウ	凸基有基。石材が均質でなく、剥離が不安定。左石非対称で、厚みも残る	D 5 d4, 20.65 m	—	図版41 完存
54	131	石鏡	(2.4)	1.3	0.4	(0.8)	メノウ	凸基有基。側面から比較的安定した剥離を連続的に。剥離角は小さく、扁平な仕上げ	D 5 f5, 20.62 m	—	図版41 一部欠損	
55	68	石鏡	4.5	2.9	0.8	(13.3)	砂岩	不整形円形の扁平な礫を利用。両端を磨り、切目を入れる	D 5 f5, 20.61 m	—	図版41 一部欠損	
第52図	56	63	礫器	8.9	11.7	1.7	229.5	ホルンフェルス	薄い不整形円形の礫を利用。長辺を片側から粗く剥離し、片刃とする	D 5 f4, 20.59 m	—	図版41 完存
57	45	敲石・凹石	17.6	7.8	3.3	625.5	多孔質安山岩	扁平な不整形長円形の礫を利用。両端を使用	D 5 f4, 20.58 m	—	図版41 完存	
58	52	敲石・凹石	18.7	5.7	4.8	662.5	砂岩	不整な柱状の礫を利用。両端と後、一部平坦面を使用。平坦面に1か所凹石としての使用痕あり	D 5 f4, 20.58 m	—	図版42 完存	
59	3	凹石・凹石	(8.7)	(5.5)	4.0	(225.5)	ホルンフェルス	不整形の礫を利用。表裏に凹み。縁辺を中心に敲打痕	D 5 g4, 20.51 m	—	図版42 完存	
第51図	60	3	砥石	9.3	4.8	2.0	94.7	砂岩	扁平な不整形円形の礫を利用。平坦面を主に使用し、一部周縁部も使用。長軸方向の使用痕	D 5 g4, 20.51 m	—	図版42 完存
第52図	61	49	砥石	11.8	8.6	1.2	118.1	砂岩	扁平な楕形の軟砂岩の礫を利用。楕状に広がった辺の片面を利用。砥石としたが、手持ちで内磨したものを研磨するための工具か	D 5 f4, 20.51 m	—	図版42 完存

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第52図 62	4	砥石・ 台石	(9.4)	(7.8)	(5.7)	(625.5)	ホルン フェルス	大型の礫を利用。砥面は平坦で、台石として転用。砥面と側面は風化。破断し裏面の剥離をして転用か。	D 5 d4, 20.54 m	—	国版 42 一部残存
63	3	石皿	(10.0)	(7.3)	3.6	(206.5)	砂岩	目の粗い板状の軟砂岩を利用。右側面は成形されているようだが詳細不明。使用面が皿状に(1.3)cm窪む。	D 5 g4, g5一拵	—	国版 42 一部残存

第34号竪穴住居跡 (S I 34) (第47・53図, 第32表, 図版12・42)

位置 C 5 i 4・i 5区に所在し、わずかにC 5 j 5区にかかる。

規模と形状 南北はトレンチ幅(実寸1.92m)いっぱい確認されたが、さらに南北に延びる。東西は西部をS I 35に掘り込まれているが、1.36mを確認できた。東側外形線は弧状を呈し、全体形状は径4m前後の不整形円または不整形円形になるものと推定される。明確に住居跡と確認できたわけではないが、規模・形状から住居跡と考えた。

重複関係 西部を縄文時代の竪穴住居跡S I 35に、東部を中・近世の土坑S K 211に掘り込まれている。

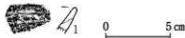
土層 覆土は2層に分層できた。レンズ状堆積をしていることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色(10Y R 3/2) ロームブロック微量。ローム粒子中量, Nt-S微量。焼土微量。締まりやや弱。粘性中
- 2 暗褐色(10Y R 3/4) ロームブロック少量。ローム粒子中量, Nt-S微量。締まりやや弱。粘性中

遺物 土器片2点が出土している。うち、1点を掲載する。

所見 規模・形状から縄文時代の竪穴住居跡と考えられる。時期は、重複するS I 35を含めて出土遺物が少なく、決定が困難である。第2次確認調査時のS I 9・10の範囲がS I 35の範囲に重複していることを考慮すると、その付近の出土遺物からS I 35は晩期中葉頃の可能性が考えられ、本跡もS I 35よりは旧くなるものの近い時期の住居跡と考えてもよいのかもしれない。



第53図 第34号竪穴住居跡
出土遺物実測図

第32表 第34号竪穴住居跡出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	粘土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第53図 1	2	縄文 土器	浅鉢	口縁部, 5%以 下	— — —	内彎気味。外頼。外面縄文施文か。器表荒れて調整不明。粘土粒積み上げ彫形。外面に積み上げ痕を残す	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	二次 焼成	外面に赤い褐色。内面・内底部褐色	C 5 i4, 20.72 m	—	国版 42

第35号竪穴住居跡 (S I 35) (第47図, 図版12)

位置 C5h4・h5区・C5i4・i5区に所在する。

規模と形状 南北はトレンチ幅(実寸1.92m)いっぱい確認されたが、さらに南北に延びる。東西は、東部はS I 34を掘り込む外形線が弧状に捉えられたが、西部はトレンチ西壁セクションで覆土が確認されることから、その西に延びていることが確認できた。弧状の外形線から全体形状はほぼ円形になるものと考えられる。現状で東西1.68mが確認されたが、径はおそらくその倍以上になるものと思われる。明確に住居跡と確認できたわけではないが、規模・形状から住居跡と考えた。壁の立ち上がりは椀状を呈する。

重複関係 東部でS I 34を掘り込んでいる。

土層 覆土は2層に分層できた。下層は壁の立ち上がり際で三角堆積をしており、覆土全体としても自然堆積したものと考えられる。第1層は、第12トレンチサブトレで途切れているが、トレンチ西壁セクションでも確認されている。

土層解説

- 1 黒褐色(10Y R 3/2) ロームブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、締まり中、粘性中
- 2 暗褐色(10Y R 3/3) ロームブロック少量、ローム粒子中量、Nt-S微量、締まり中、粘性中

遺物 出土していない。

所見 上述したように、本跡の位置は第2次確認調査時、第12トレンチにおいてS I 9・10が確認された位置である。規模・形状から縄文時代の竪穴住居跡と考えられる。時期は、出土遺物がなく決定が困難であるが、今回抹消することとしたS I 9・10の範囲がS I 35の範囲に重複していることを考慮すると、その付近の出土遺物からS I 35は晩期中葉頃の可能性が考えられる。

第36号竪穴住居跡 (S I 36) (第47・54図, 第33表, 図版13・42)

位置 C5j5・D5a5区のトレンチ南壁際に位置する。

規模と形状 トレンチ南壁際に弧状のプランをもって確認された。確認されたのは東西2.49m、南北0.38mである。確認されたのは円形プランのごく一部で、そのほとんどがトレンチ南に延びるものと思われる。外形線からすると径4m前後の不整形円形になるものと思われる。明確に住居跡と確認できたわけではないが、規模・形状から住居跡と考えた。

重複関係 SK210に確認部分の中央やや西寄りを掘り込まれている。SK210は後述のとおり縄文時代の土坑と考えられる。

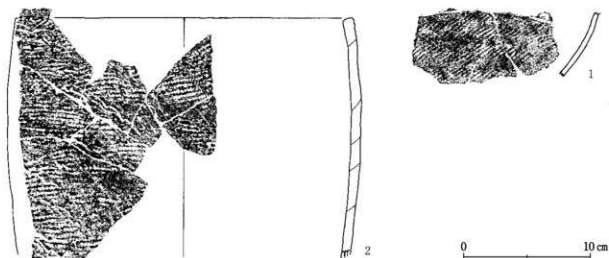
土層 トレンチ掘削段階では認識できなかったが、セクションを見ると確認面で確認するまでに20cm以上掘り込んでしまっていた。覆土は確認面の上で2層に分層できた。自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色(10Y R 3/2) ロームブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、締まり中、粘性やや弱
- 2 黒褐色(10Y R 3/2) ロームブロック少量、ローム粒子微量、Nt-S微量、炭化物微量、締まりやや弱、粘性中

遺物 土器片15点、剥片3点、合計18点が出土している。うち、土器片2点を掲載する。

所見 規模・形状・出土遺物から縄文時代の竪穴住居跡と考えられる。



第54図 第36号竪穴住居跡出土遺物実測図

第33表 第36号竪穴住居跡出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第54図 1	9	縄文 土器	浅鉢	胴部、 10%	—	内壁、大きく外傾する胴部。外面 蓋上部に口縁部文様帯との境 界と思われる細い縦走沈線。そ の下部単筋縄文L R。内面ナデ 薄手	やや粗悪。メ ノウ粒中量。 石英粒・チャ ート粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 灰色砂粒微量	普通	外面灰黄褐色。 内面に薄い 黄褐色。内 部褐色	D 5 a5, 20.65 m	3片、 ほかに同 一製体2 片	図版42 外面炭化 物付着
2	1	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 15%	[26.8] (18.9)	内壁、わずかに外傾して立ち上 がり。口縁部付近でわずかに内 傾。最大径口縁下8cm付近で [28.0]cm。外面結節をもつ単筋 縄文L Rの斜回転。内面ナデ(桑 痕文状)	メノウ粒少量。 石英粒・凝灰 岩粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒・ 薄層骨針微量	普通。 一部二 次焼成	外面黒褐色。 内面、内部灰 黄褐色。一部 黒色	D 5 a5, 20.63 m	8片	図版42 外面炭化 物付着

第209号土坑 (SK209) (第47・55図, 第34表, 図版42・43)

位置 D5b4・D5c4区のトレンチ北壁際に位置し、北部はトレンチ外に延びる。

規模と形状 現状では不整楕円形の南半分が確認されている状況である。東西は、セクションでの最大幅65cmを測る。南北は現状で65cmを測るが、土坑長軸の半分くらいか。主軸方位はN-13°-Eを指す。セクション面で捉えられる深さは18cmであるが、掘り込んでの調査はしていないのでそれ以上は不明である。立ち上がりはわずかに外傾する。

重複関係 なし。

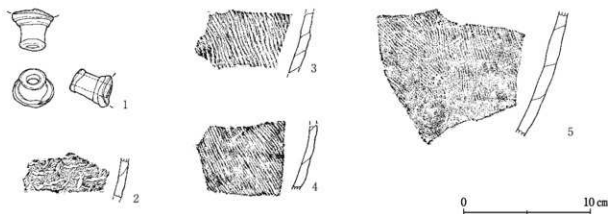
土層 覆土は1層である。自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 (10YR 2/2) ロームブロック微量。ローム粒子少量。Nt-S微量。焼土微量。締まりやや弱。粘性弱

遺物 土器片5点が出土しており、全点を掲載する。

所見 形状の特徴も特にはなく、重複する遺構もないが、出土遺物は縄文時代晩期中葉のものが主体となっており、その時期の土坑と見られる。性格は不明である。



第55図 第209号土坑出土遺物実測図

第34表 第209号土坑出土遺物観察表

種別 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第55図	1	縄文 土器	注口 土器	注口部 5%以下	—	斜め上方を向く注口部。断面わ ずかに扁平。先端は平坦。先端 部に強い粘土層1条。胴部との 接合部に少量を帯く。粘土層部 分を除く注口幅18.8～20.4 mm。上下17.4～18.0mm。孔径 9～10mm。外面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 礫・雲母細粒 微量	普通 焼け むら	外面にふい黄 褐色・灰褐色。 内面灰黄 褐色。内部浅 黄褐色	D 5 b4, 20.52 m	—	図版42
	2	縄文 土器	深鉢	胴部。 5%以下	—	内面勾味。外縁。外面一部粘土 層横上げ痕が残る上に粗い網目 状燃余文。内面ナデ。一部ケス リ状	メノウ粒中量。 石英粒・雲母 細粒・赤褐色 砂粒微量	普通	外面橙褐色。内 面にふい黄橙 色。内部灰 褐色	D 5 b4, 20.53 m	—	図版42 晩期粗製 土器
	3	縄文 土器	深鉢	胴部。 5%以下	—	わずかに内彎。外縁。外面やや 太い燃余文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 赤褐色砂粒・ 海綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。内部 にふい黄褐色	D 5 b4, 20.59 m	—	図版42 晩期粗製 土器
	4	縄文 土器	深鉢	胴部。 5%以下	—	わずかに内彎。外縁。外面やや 細かな燃余文。内面ナデ	メノウ粒少量。 メノウ礫・石 英粒・石英礫・ チャート礫・ 凝灰岩礫・黒 色砂粒・海綿 骨針微量	良好	外面灰黄色。 内面暗灰黄 褐色。内部浅 黄褐色	D 5 b4, 20.53 m	—	図版42 晩期粗製 土器
	5	縄文 土器	深鉢	胴部。 5%以下	—	わずかに内彎。外縁。外面やや 細かな燃余文。内面ナデ・粗い ミガキ。	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒微量	普通 焼け むら	外面灰黄褐 色・黒褐色。 内面にふい黄 褐色・灰褐色。 内部にふい黄 褐色	D 5 b4, 20.52 m	—	図版43 晩期粗製 土器

第210号土坑 (SK210) (第47・56図, 第35表, 図版13・43)

位置 C 5 j 5・D 5 a 5区に位置する。

規模と形状 東西56cm, 南北38.5cmの楕円形を呈している。主軸方向はN-73°-Eを指す。

重複関係 SI 36の北部を掘り込んでいる。

土層 セクションには掛かっておらず、掘り込んでの調査もしていないが、確認面で観察した。

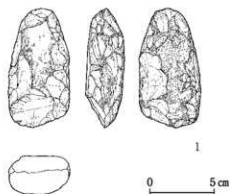
中・近世の土坑の覆土などとは異なり、混入物も少なく、縄文時代の遺構の覆土に近い。

土層解説

1 黒色 (10YR 2/1) ロームブロック微量, ローム粒子微量, Nt-S微量, 炭化物微量, 締まりやや弱, 粘性中

遺物 石器1点(打製石斧)が出土しており、その1点を掲載する。

所見 形状・覆土・出土遺物等から縄文時代の土坑と考えられる。縄文時代の堅穴住居跡S I 36を掘り込んでおり、それよりは新しい。周辺の出土遺物等からは晩期の可能性が考えられるものの、時期的な絞り込みは困難である。性格は不明である。



第56図 第210号土坑出土遺物実測図

第35表 第210号土坑出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第56図 1	1	打製 石斧	9.3	4.8	3.0	174.7	ホルン フェルス	楕円に近い分厚い礫を利用し、周囲を剥離して整形。一部敲打により調整。先端部を大きく剥離して片刃の刃部をつくる	D 5 a4 20.64 m	—	図版 43

第212号土坑 (SK212) (第47図, 図版13)

位置 トレンチ東端部, D 5; 4 区のサブトレ内で確認された。低位段丘から小支谷に落ち込む緩斜面に立地している。

規模と形状 サブトレ底面では径80cm程度の円形プランの約3分の1程度が確認されており、3分の2はトレンチ北側に延びているものと推定される。セクション面での最大幅は103cmを測る。立ち上がりは碗状を呈する。

重複関係 東部でSK214の西部を掘り込んでいるのがセクションで確認できる。

土層 覆土は3層に分層でき、レンズ状堆積をしていることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 (10Y R 3/2) ローム粒子微量, Nt-S 微量, 締まり中, 粘性やや弱
- 2 黒褐色 (10Y R 3/1) ローム粒子少量, Nt-S 微量, 締まりやや弱, 粘性やや弱
- 3 暗褐色 (10Y R 3/4) ロームブロック微量, ローム粒子中量, Nt-S 微量, 締まりやや弱, 粘性やや弱

遺物 出土していない。ただ、遺構と認識する以前に付近から縄文土器片が出土している。

所見 遺構の形状や覆土の状況, 上記の遺物出土状況等からは縄文時代の土坑である可能性が高い。性格は不明である。

第213号土坑 (SK213) (第47図, 図版13)

位置 トレンチ東端部, D 5; 4 区サブトレ内南側に位置する。

規模と形状 サブトレを掘り込んだ際に底面で確認した。現状で東西39cm, 南北12cmの半円形に確認されているが、径45cmほどの円形の約4分の1程度が確認されているだけで、4分の3は未掘部分に延びていると思われる。立ち上がりは碗状を呈している。

重複関係 なし。

土層 SK212・214同様, 掘り込み面は31 T 第1層下面である。セクション図は作成していない

が、土層の観察結果を記す。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/4) ロームブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、締まりやや弱、粘性やや弱

遺物 出土していない。ただ、遺構と認識する以前に付近から縄文土器片が出土している。

所見 遺構の形状や覆土の状況、上記の遺物出土状況等からは縄文時代の土坑である可能性が高い。性格は不明である。立地・形状その他、SK212・214と共通する点が多く、時期や性格等が類似する遺構である可能性が高い。

第214号土坑(SK214)(第47図, 図版13)

位置 トレンチ東端部, D5f4区サブトレ内で確認された。低位段丘から小支谷に落ち込む緩斜面に立地している。

規模と形状 サブトレ底面では径44cm程度の円形プランの2分の1弱が確認されており、2分の1強はトレンチ北側に延びているものと推定される。セクション面での最大幅は、西はSK212に掘り込まれ、東はトレンチ外に延びるが、確認できる限りで40cmを測る。立ち上がりは外傾する。残存する状況からはSK212と同様な円形プランの楕形の土坑と考えられる。

重複関係 西部をSK212に掘り込まれているのがセクションで確認できる。

土層 覆土は2層に分層でき、レンズ状堆積の様相を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色(10YR3/2) ロームブロック微量、ローム粒子微量、Nt-S微量、締まり中、粘性やや弱
2 暗褐色(10YR3/3) ロームブロック微量、ローム粒子少量、Nt-S微量、締まりやや弱、粘性やや弱

遺物 出土していない。ただ、遺構と認識する以前に付近から縄文土器片が出土している。

所見 遺構の形状や覆土の状況、上記の遺物出土状況等からは縄文時代の土坑である可能性が高い。性格は不明である。立地・形状その他、SK212と共通する点が多く、時期や性格等が類似する遺構である可能性が高い。

②中・近世

第205号土坑(SK205)(第47・57図, 第36表, 図版13・43)

位置 トレンチ中央やや東寄り, D5e4・e5・D5f4・f5区に位置する。

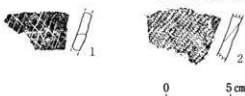
規模と形状 長軸をN-64°Eに置く不整隅丸長方形を呈し、長軸192cm、短軸106cmを測る。

重複関係 南部でSK206を掘り込み、全体でSI33を掘り込む。

土層 掘り込んでの調査はしていない。覆土は褐色がかった粘土質の土である。以下、確認面での観察の結果を記す。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/3) ローム粒子微量、Nt-S微量、黄褐色粘土塊多量、砂少量、炭土微量、土器細片微量、締まりやや強、粘性やや強



第57図 第205号土坑出土遺物実測図

遺物 土器片8点が出土している。混入品であるが、うち2点を掲載する。

所見 形状や覆土の類似から粘土貼り土坑で、性格は中・近世の土壇墓と考えられる。遺物は混入品である。

第36表 第205号土坑出土遺物観察表

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第57図 1	4	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内唇、外縁。外面一部 粘土様種上げ面が残る上に刷目 状熱糸文。内面ナデ、一部ケズ リ状	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒微量	普通	外面黒褐色、 内面・内部灰 褐色	確認面 一括	—	図版43 晩期粗製 土器。 混入
2	2	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内唇欠味、外縁。外面単節縄文 L R、内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。内部 にふい黄褐色	D 5 f 5、 2061 m	—	図版43 混入

第206号土坑（SK206）（第47図，図版13）

位置 トレンチ中央やや東寄り，D5e5・D5f5区に位置する。

規模と形状 北部をSK205に掘り込まれ，南部はトレンチ外に延びるため，詳細は不明であるが，東西の外形線がほぼ平行し，北東部でコーナーになる様相を呈することから，隅丸長方形になるものと考えられる。東西は145cm，南北は確認できる限りで47cmを測る。主軸方位は，正確な計測はできないが，N-67°-E前後であろう。

重複関係 縄文時代の竪穴住居跡S I 33を掘り込み，中・近世の土壌墓SK205に掘り込まれる。

土層 掘り込んでの調査はしていないが，南壁セクションに上部の覆土1層が現れている。黄褐色で粘土質の土層である。

土層解説

- 1 にふい黄褐色 (10Y R 4/3) ロームブロック微量，ローム粒子微量，Nt-S微量，灰白色粘土ブロック少量，砂少量，礫少量，土器細片少量，締まりやや弱，粘性やや強

遺物 セクション面の土器細片は取り上げていない。石器の可能性のある砂岩の破砕礫1点が確認作業中に出土しているが，石器であったとしても混入品であろう。

所見 形状や覆土の類似から中・近世の土壌墓と考えられる。

第207号土坑（SK207）（第47図，図版12）

位置 D5h4区に位置し，わずかにD5i4区にかかる。

規模と形状 サブトレ底面で確認した。外形線は東西で確認できたが，南北はサブトレの幅内で確認したのみである。したがって，東西は150cmを測るが，南北はサブトレの幅（実寸43.5cm）でしか確認できていない。本遺跡で頻例が多く認められる中・近世の土壌墓の一つとすれば，東西に長軸（主軸）を置くものと考えられる。主軸方位は，東西の外形線からはN-77°-Eとなる。

重複関係 西部で縄文時代の竪穴住居跡S I 33東端部を掘り込んでいる。

土層 掘り込んでの調査はしていないが，北壁セクションで上部の覆土1層が確認されている。黄褐色がかった粘土質の土層である。

土層解説

- 1 灰黄褐色 (10Y R 4/2) ローム粒子微量，Nt-S微量，焼土微量，締まり中，粘性やや強

遺物 出土していない。

所見 想定される形状や覆土の類似から粘土貼り土坑で，性格は中・近世の土壌墓と考えられる。

第208号土坑（SK208）（第47図，図版12）

位置 D5d5区に位置する。形状からは西側はD5c5区に、南側はトレンチ南側に延びるものと思われる。

規模と形状 西部を中・近世の溝跡SD14に掘り込まれ、南部はトレンチ外に延びるが、残存部の形状から東西に長軸を置く隅丸長方形になるものと考えられる。現状での計測値は東西103cm、南北67cmである。主軸は、現状で北辺と東辺が鈍角をなすため計測が難しいが、おおむねN-70°-E前後になろう。

重複関係 東部で縄文時代の堅穴住居跡S I 33を掘り込み、西部を中・近世の溝跡SD14に掘り込まれている。

土層 掘り込んでの調査はしていないが、セクションで上部の覆土1層が確認されている。褐色がかかった粘土質の土層である。

土層解説

- 1 暗褐色(10YR3/4) ロームブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S微量、灰白色粘土ブロック少量、砂少量、土器細片少量、締まりやや弱、粘性中

遺物 出土していない。セクション面の土器細片は取り上げていない。

所見 形状や覆土の類似から中・近世の土壌墓と考えられる。

第211号土坑（SK211）（第47図，図版13）

位置 トレンチ西部、C5j4区に位置し、西側はわずかにC5i4区に、南側はわずかにC5js区にかかる。北側はトレンチ外に延びる。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びている。現状で方形または長方形になるものと思われ、後述するように中・近世の土壌墓とすれば、東西に主軸（長軸）を置く長方形と考えられよう。現状で東西200cm、南北107cmを測る。主軸が南辺に平行すると見れば、その方位はN-63°-Eを指す。深さは、西部でわずかながら底面が確認できており、これによれば確認面から28cmである。

重複関係 西部でわずかに縄文時代の堅穴住居跡S I 34を掘り込んでいる。

土層 覆土は単一層であり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色(10YR3/1) ロームブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S微量、灰白色粘土ブロック少量、礫少量、焼土微量、土器細片少量、締まり弱、粘性中

遺物 出土していない。セクションに現れた土器細片は取り上げていない。

所見 覆土の状況は他の中・近世土壌墓としたものよりロームや粘土の含有量が少ないが、形状などから基本的には同様の土坑、すなわち中・近世の土壌墓と考えてよいのであろう。他よりやや大型の土壌墓である。

第219号土坑（SK219）（第47図，図版12）

位置 D5c4・D5d4区のトレンチ北壁セクション面で確認された。

規模と形状 面的な掘り込みでは認識できず、掘削後にセクション面で確認した。そのため平面形状は不明である。セクション面で確認されたのは幅108cm、深さ19cmである。その上層は新しい客土層であることから、土坑の上部は削平され下底面付近だけが残存したものと考えられる。

重複関係 セクション面では、本跡が第14号溝跡（SD14）と第236号土坑（SK236）の上を覆

うように重複しているのが確認できた。

土層 覆土と見られる1層が確認された。灰黄褐色粘土ブロックを多く含み、壁に粘土が貼られている明確な状況は認められなかったが、本跡は粘土貼り土坑と考えられる。第1層はその覆土と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色(10Y R 3/2) ローム粒子微量, Nt-S微量, 砂質灰黄褐色粘土ブロック(10Y R 5/2) 多量, 炭化物微量, 雜り中, 粘性中

遺物 出土していない。

所見 本跡は、セクションに表れた断面形状や土層の状況から、中・近世の粘土貼り土坑と考えられる。

第236号土坑 (SK236) (第47図, 図版12)

位置 トレンチ中央やや西側, D5d4区のサブトレンチ底面とトレンチ北壁セクション面で確認された。なお, SK236～238の3基は、調査時点では遺構と認定できず、図面と当時の調査記録から整理段階で認定したため、遺構番号は第6次調査で確認された土坑に後続する番号を付している。

規模と形状 セクション面に連続して、サブトレンチ底面に円形プランの一部と見られる半円形の落ち込みが認められ、現状で東西(セクション面で)40cm, 南北18cmを測るが、残存部からは径50cm前後の円形に復元できよう。

重複関係 SD14とともにSK219に掘り込まれている。SD14との関係は切り合い関係にあるが、深さがことから新旧は不明な状況である。また、南部をSK237に掘り込まれている。

土層 覆土1層が確認された。覆土は、SK219に類似して、砂質の灰黄褐色粘土ブロックを多く含む。

遺物 出土していない。

所見 径50cm前後の円形に復元できる土坑である。SK219との覆土の類似からは、新旧はあるものの、中・近世のほぼ同時期の土坑と考えられる。性格は不明であるが、覆土の類似は粘土貼り土坑であるSK219との何らかの関連を示唆しているように思われる。

第237号土坑 (SK237) (第47図, 図版12)

位置 トレンチ中央やや西側, D5d4区の遺構確認面とサブトレンチ底面で確認された。

規模と形状 径46cmの円形である。

重複関係 北部でSK236を掘り込み、西部でSD14をわずかに掘り込んでいる。また、南部をSK238に掘り込まれている。

土層 掘り込んでの調査はしていないが、確認面等で見える限り、覆土はSK219に類似して、砂質の灰黄褐色粘土ブロックを多く含む。

遺物 出土していない。

所見 SK219との覆土の類似からは、間接的な新旧はあるものの、中・近世のほぼ同時期の土坑と考えられる。性格は不明であるが、覆土の類似は粘土貼り土坑であるSK219との関連を示唆している可能性がある。

第238号土坑（SK238）（第47図，図版12）

位置 トレンチ中央やや西側，D5d4区の遺構確認面で確認された。南部がD5d5区にかかる。

規模と形状 径48～51cmの不整形円形である。

重複関係 北部でSK237を，西部でSD14を掘り込んでいる。

土層 掘り込んでの調査はしていないが，確認面等で見ると，覆土はSK219に類似して，砂質の灰黄褐色粘土ブロックを多く含む。

遺物 出土していない。

所見 SK236・237との連続する位置関係や形状・規模・覆土の共通性からは，これら3基の時期・性格は同様のものと考えられる。さらにSK219との覆土の類似からは，多少の新旧はあるものの，中・近世のほぼ同時期の土坑と考えられ，性格も関連している可能性が考えられる。

第14号溝跡（SD14）（第47図，図版12）

位置 D5c4・c5区に位置し，一部D5d4・d5区にかかる。トレンチの中央部である。

規模と形状 確認できる最大幅は59cmを測る。長さはトレンチ幅いっぱい（実寸1.86m）で確認されているが，さらに南北に延びる。走向方位はN-23°-Wである。深さは南北壁のセクションで最大11cmが確認できるが，掘り込んでの調査はしておらず，断面形状も含めて不明である。

重複関係 確認面で中・近世の土坑SK208を本跡が掘り込んでいるのが確認できた。トレンチ南壁セクションでは関係の土層が薄く新旧関係が不明確である。トレンチ北壁のセクション面では，中・近世の粘土貼り土坑SK219が本跡上部を掘り込んで構築されているのが確認できた。また，SK237・238にも掘り込まれている。SK236にも掘り込まれている可能性がある。

土層 掘り込んでの調査はしていないが，覆土は現状で1層が確認されている。

土層解説

1. 黒褐色（10YR2/2）ロームブロック微量，ローム粒子微量，Ni-S微量，炭化物少量，砂ブロック少量，礫少量，土器細片微量，締まり中，粘性やや弱

遺物 出土していない。

所見 本跡に掘り込まれる遺構と本跡を掘り込む遺構がいずれも中・近世の土坑であり，新旧関係から本跡も中・近世の溝跡である。掘り込んでの調査は行なっておらず，断面形状等は確認していない。小規模な溝跡であり，土地区画等の溝とも考えられるが，性格は不明と言わざるをえない。

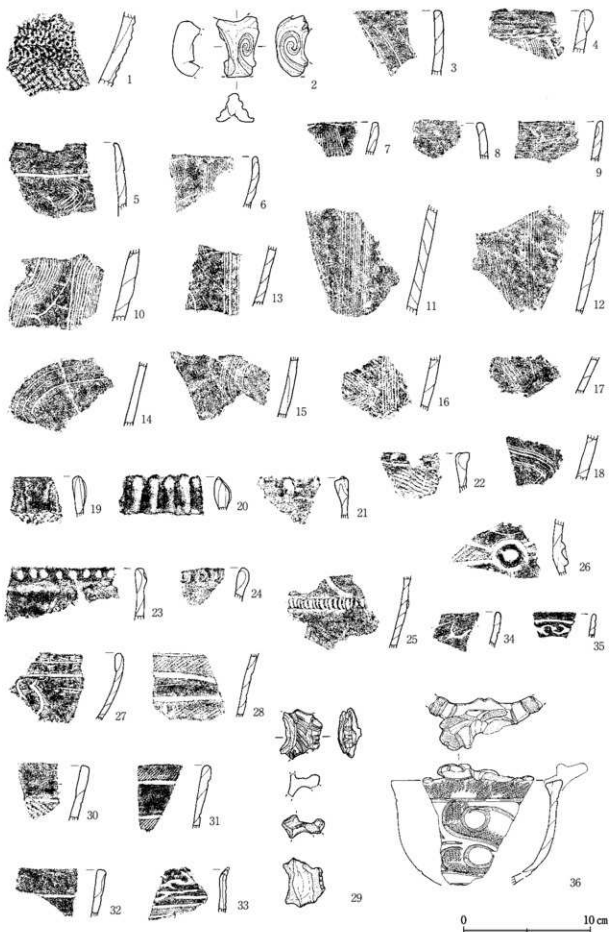
③遺構外出土遺物（第58～65図、第37表、図版43～52）

土器片等5,016点、土製品12点、石器・石製品・礫・剥片等1,320点、骨片28点、その他15点（鉄製品・鉄滓等13点、ガラス製品2点）、合計6,391点が出土している。うち、土器片等173点（縄文土器164点、弥生土器2点、土師器1点、灰釉陶器4点、青磁1点、土師質土器1点）、土製品10点、石器・石製品29点（石鏃8点、石錐1点、石錘4点、礫器1点、敲石5点、磨石4点、凹石2点、砥石1点、石棒類3点）、その他7点（鉄製品2点、鉄滓4点、蹴石1点）、合計219点を掲載する。

（3）所見

第31トレンチは、遺跡のもっとも北西部に設定した東西トレンチである。第12トレンチで確認されていたS I 09・10は存在が確認できず、抹消した。

一方、新たに堅穴住居跡4軒（S I 33～36）が確認された。いずれも縄文時代晩期のものと考えられた。遺跡北西端部における縄文時代晩期の集落の展開が確認されたことになる。遺跡のほぼ全域への展開が確認されている平安時代の集落跡は、本トレンチでは確認されなかった。



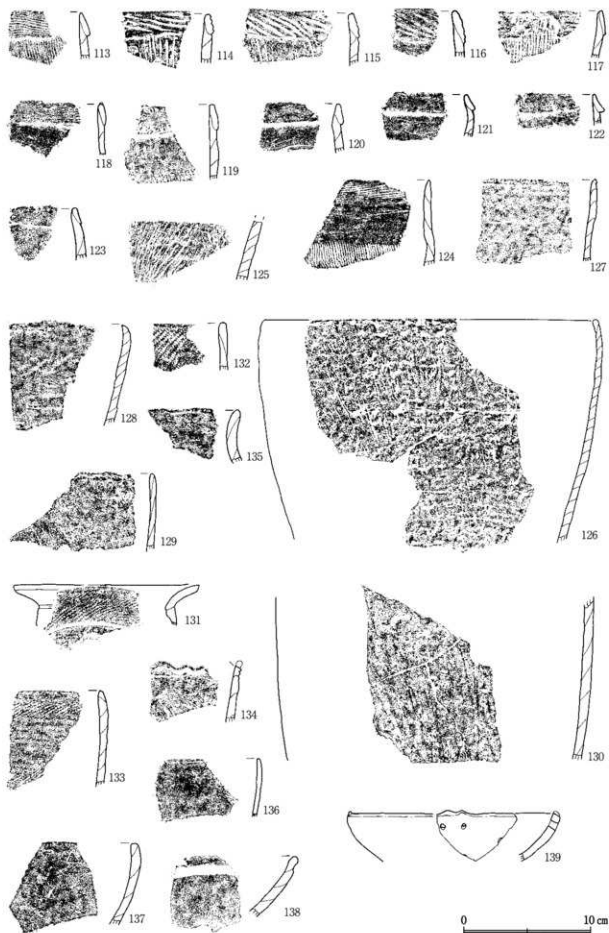
第58図 第31 トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



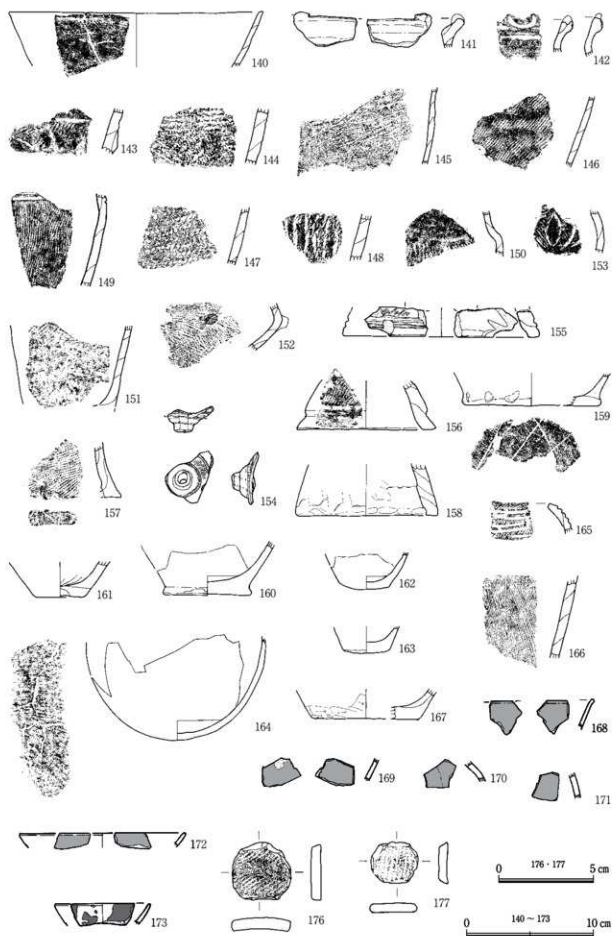
第59図 第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)



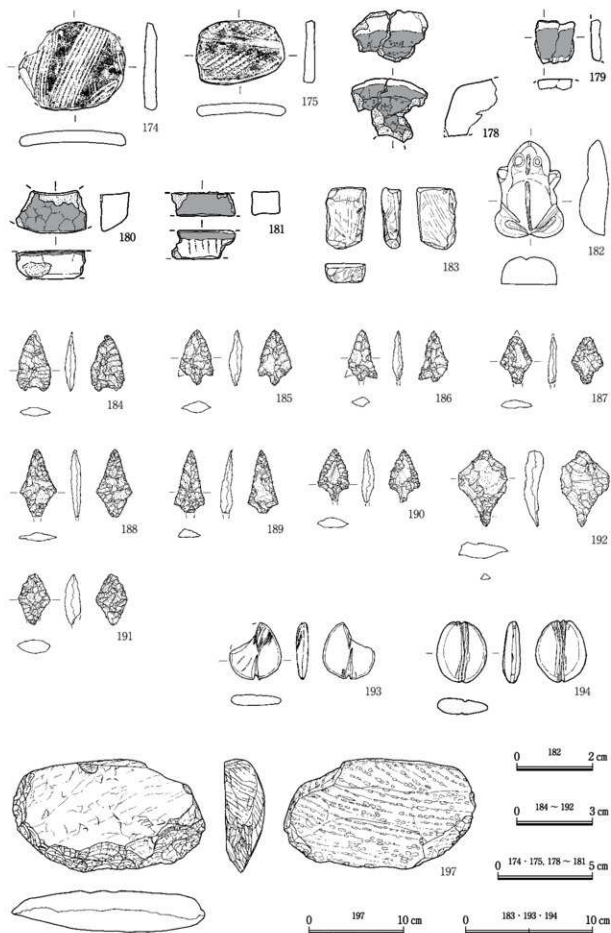
第60図 第31 トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)



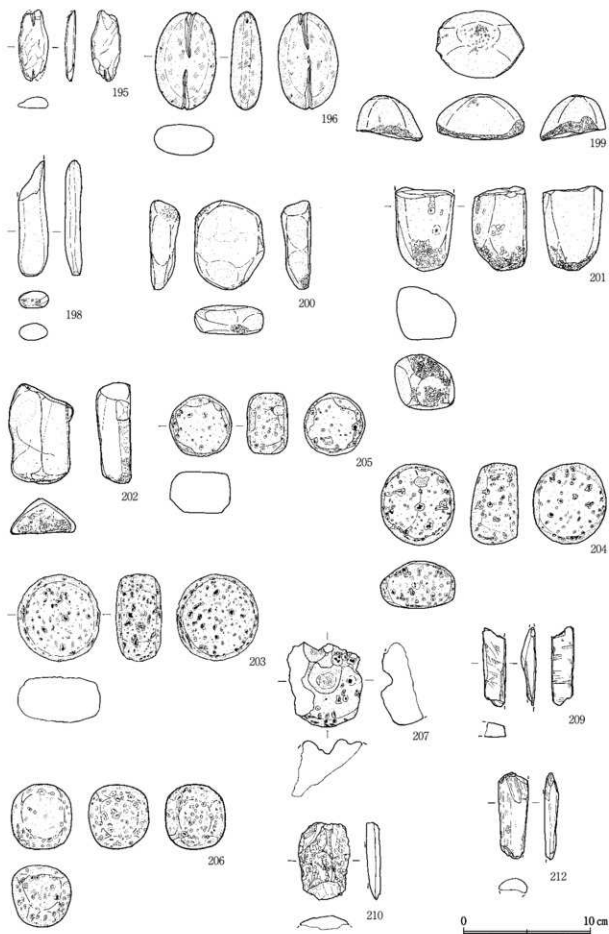
第61図 第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(4)



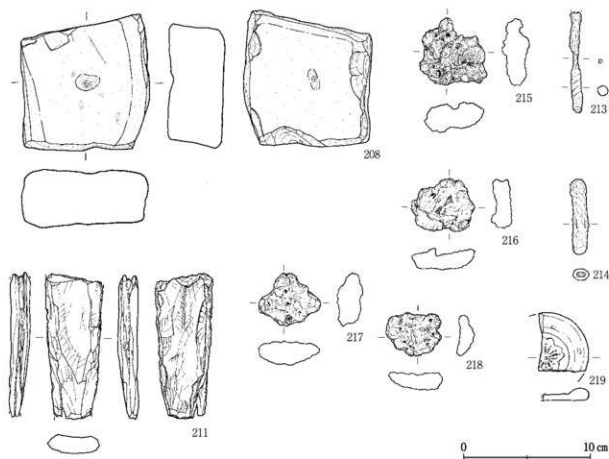
第62図 第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(5)



第63図 第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(6)



第64図 第31 トレンチ遺構外出土遺物実測図(7)



第65図 第31トレンチ遺構外出土遺物実測図(8)

第37表 第31トレンチ遺構外出土遺物観察表

種別 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第58図 1	159	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内壁、外傾。厚手。外面上位に 一ブ文。下半多糸縄文原体による 羽状縄文。内面ナデ	横種含む。メ ノウ粒少量。 メノウ塵・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒 微量	普通	外面にふい、黄 褐色。内面明 黄褐色。内部 黒色	D 5 a5 20.66 m	—	図版43 前期前葉・ 関山式
2	396	縄文 土器	深鉢	把手 5%以下	—	口縁部近くの外面に貼付され た。縦に楕状をなす把手。粘土 塊を纏きながら成形。横断面三 角形で、傾面に沈線により渦巻 文を表現。全体ナデ	メノウ粒少量。 メノウ塵・石 英粒・凝灰岩 粒微量	良好 堅緻	内外面・内部 とも灰褐色。 黒褐色	C 5 b5. 20.68 m	—	図版43 中期中葉 か
3	30	縄文 土器	深鉢	口縁一 胴部、 5%以下	—	わずかに内傾。ほぼ直立。角縁。 外面斜位で纏らな弧状条縄文。 内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・チャ ート粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・赤褐色砂 粒微量	良好	外面にふい赤 褐色。内面に ふい、橙色。内 部灰褐色	D 5 e4- e5. I B 層一括	—	図版43 後期後半 安行系
4	106	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	外反。外傾。口縁端部に外傾か ら粘土板を補正して肥厚させて その下位に縦位の条縄文。施文 其は幅約7mm。条縄の単位は4 条。口縁部と胴部(肥厚部と条 縄文)の境界に横走沈線1条。 内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒褐色砂 粒・薄鱗骨針 微量	良好	内外面におい 灰褐色。内部 褐色	D 5 b4- b5. I 層 一括	—	図版43 後期製 土器
5	156	縄文 土器	深鉢	口縁一 胴部、 5%以下	—	わずかに内傾。わずかに内傾。口縁 部外面に横走沈線1条施文。そ の後下位に縦位波状の条縄文。 条縄の単位は9条以上。(主なる もの5条)。内面ナデ	メノウ粒少量。 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	外面にふい、赤 褐色。内面灰 黄褐色。浅黄 褐色。内部褐 灰色	D 5 a4 20.78 m	—	図版43 後期製 土器

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第58図												
6	350	縄文 土器	深鉢	口縁一 割部、 5%以下	—	内野、わずかに外縁。単純口縁、 外面縦文と弧状(波状)の一部か の条線文。条線の単位は6条。 外面に一部粘土紐積上げ痕が 残る。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・赤褐色砂 粒・海綿骨針 微量	良好	外面にふい 赤褐色・暗赤 褐色・赤褐色 内部にふい黄 褐色	D 5 d4・ d5、I層 一括	—	図版43 後期粗製 土器
7	382	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内野気味、外縁。端部角頭状、 外面縦位の条線文。条線の単位 5条か。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・凝灰岩 礫・灰色砂粒 微量	普通	外面にふい赤 褐色。内面灰 赤色。内部灰 灰色	D 5 f4・ f5一括	—	図版43 後期粗製 土器
8	28	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内野、わずかに内縁。 口縁端部付着外面に横位の細か な条線文。その下位、縦位波状 の条線文の始点か。内面ナデ、 一部粘土紐積上げ痕残る	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩礫・黒色砂 粒・赤褐色砂 粒微量	普通	内外面にふい 褐色。内部褐 灰色	D 5 e4・ c5、I B層 一括	—	図版43 後期粗製 土器
9	100	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内野気味、わずかに外縁。内面 の一部に粘土板を補足して成形。 端部角頭状。外面ヘラナデ (条線文か)。内面ヘラナデ、 のちナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒、褐色砂 粒微量	普通、 焼け むら	外面にふい橙 褐色。内部 褐色	D 5 a4・ a5、I層 一括	—	図版43 時期不明 (後期粗製 土器か)
10	255	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内野気味、外縁。厚手。外面縦 位波状、直線状の条線文。条線 の単位は12条。現存中央部の 太い条線は施文具の端部か。内 面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・チャ ート礫・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・褐色砂粒 微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色。 内部黒褐色	D 5 f4、 2064 m	—	図版43 後期粗製 土器
11	221	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	直線的。外縁。粘土紐の任意 面側を下方向へ、外面一部ケズリ のち縦位の条線文。条線の単位 は12条。一部粘土紐積上げ痕 残る。内面ナデ、一部ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・チャ ート礫・凝灰 岩粒・褐色砂 粒微量	良好、 一部 二次焼 成	外面にふい赤 褐色・褐色。 内面・内部 褐色	D 5 d4、 2066 m	—	図版43 後期粗製 土器。 S I 33(覆 土)に帰属 の可能性
12	358	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内野、外縁。外面縦位・ 斜位の条線文。条線の単位7条。 内面ナデ。一部粘土紐積上げ痕 残る	メノウ粒少量、 石英粒・チャ ート礫・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・海綿骨針 微量	良好、 下手 二次焼 成	外面黒色、に ふい褐色。内 面にふい褐色。 内部褐色	D 5 e4・ c5、I層 一括	—	図版43 後期粗製 土器
13	187	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内野、外縁。外面ケズ リのち縦位直線と縦位波状の条 線文。条線の単位は3条以上。 内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・凝灰岩礫 ・褐色砂礫・海 綿骨針微量	普通、 焼け むら	外面にふい橙 褐色・黒褐色。 内部褐色	D 5 c4、 2062 m	—	図版43 後期粗製 土器
14	69	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	直線的。外縁。外面ナデ、のち 縦位の弧状条線文。条線の単位 は3条確認できるが、恐らく上 位にもう1条あり、そこで破損。 内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、 石英粒・チャ ート礫・凝灰 岩粒・褐色砂 粒・褐色砂粒 微量	普通	外面にふい 褐色・灰褐色。 内面にふい黄 褐色。内部 褐色	D 5 b4、 2089 m	2片	図版43 後期粗製 土器
15	249	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内野、外縁。外面ケズ リのち縦位・弧状(波状の一部 か)の条線文。条線の単位は9 条。内面ナデ	メノウ粒中量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・凝灰岩礫 ・黒色砂粒微量	普通	外面にふい橙 色・にふい橙 色。内面・内 部にふい褐色	D 5 e4、 2070 m	3片	図版43 後期粗製 土器。 S I 33(覆 土)に帰属 の可能性
16	155	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内野、外縁。外面直線と 波状の条線文。条線の単位は8 条。内面ナデ	メノウ粒中量、 石英粒・石英 礫・雲母細粒・ 凝灰岩粒・凝 灰岩礫・褐色 砂粒微量	普通	外面にふい赤 褐色。内面に ふい褐色。内 部明褐色	D 5 a4、 2069 m	—	図版43 後期粗製 土器
17	83	縄文 土器	深鉢	下半部、 5%以下	—	わずかに内野、外縁。厚手。外 面ナデ、のち縦位の弧状条線文。 条線の単位は5条。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・チャ ート礫・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・褐色砂粒・海 綿骨針微量	普通	外面・内部に ふい黄褐色。 内面褐色	D 5 a4・ a5、サブ トレイ 一括	—	図版44 後期粗製 土器
18	88	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内野、外縁。外面縦位 の波状条線文。条線の単位は7 条。内面ナデ	メノウ粒中量、 石英粒・チャ ート礫・凝灰 岩粒・凝灰岩 礫・黒色砂粒 微量	普通	外面にふい橙 色・黒褐色。 内面にふい橙 色。内部灰褐 色	D 5 f4、 f5、サブ トレイ 一括	—	図版44 後期粗製 土器

探洞 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第58区												
19	111	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内側気味、わずかに内傾。口縁部内外に粘土板を補足して肥厚させ、外面に指頭による連続押圧。のち胴部に太い単節縄文LR。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒、雲母細粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面にふい褐色・黒褐色、内面にふい黄褐色。内部黒褐色	D5b4・b5、I層一括	—	図版44後期粗製土器
20	157	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内傾。口縁部内外面に粘土板を補足して肥厚させ、外面に指頭による連続押圧。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒・凝灰岩粒・灰色砂粒・海綿骨針微量	普通	内外面にふい赤褐色、にふい黄褐色。内部鈍い黄褐色	D5a4・20.77m	—	図版44後期粗製土器
21	106	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内傾、わずかに内傾。口縁部内外に粘土板を補足して肥厚させて角頭状とし、外面個々に指頭により押し上げるような押圧を連続。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面黒褐色、内面にふい黄褐色・黒色、内部灰色。内部黒褐色	D5b4・b5、II層一括	—	図版44後期粗製土器
22	89	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内傾、わずかに内傾。口縁部は外側に粘土を補足し隆部の幅を広げて角頭に作り、外面に指頭押圧。その下位無節縄文Rを地文に口縁部下に横走沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・凝灰岩粒・灰色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内面にふい赤褐色	D5g4・g5、サブトレ一括	—	図版44後期
23	198	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内傾、ほぼ直立。口縁部角頭状。口縁部内側に粘土を補足して外側に肥厚させ、ヘア状施文具による連続刺突。胴部外面条線と結節縄文かと思われ、文様の一部か。詳細不明。内面ナデ	メノウ粒少量、やや砂質。メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	外面灰褐色、にふい黄褐色。内面にふい黄褐色。内部灰褐色、にふい褐色	D5d5・20.71m	2片	図版44後期粗製土器 S.I.33(覆土)に帰属の可能性
24	382	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内側気味、外傾。底部を外側に肥厚させ、外面に鋭い爪状の施文具で連続刺突。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒微量	普通	外面暗赤褐色・黒褐色、内面暗赤褐色。内部にふい赤褐色	D5f4・f5一括	—	図版44後期粗製土器
25	360	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内傾、外傾。薄手。外面ヘア状施文具の先端で細い連続刺突。隆部状の視覚効果。上位には浅い沈線による弧状文。下位にはヘア先による斜位のごく浅い線(文様かどうかは不明)。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒・赤褐色礫・海綿骨針微量	外面二次焼成	外面にふい赤褐色・黒褐色、内面にふい赤褐色。内部暗灰色	D5e4・e5、II層一括	—	図版44後期か
26	350	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	外反気味で内面に縦やかな稜をもって屈曲、わずかに内傾。胴部外面に円形の粘土を貼付し中央を棒状施文具により凹ませる。その両側に単節縄文Lを地文として施し、上下を沈線で区画し、区画外を磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色、内面暗灰色。内部明暗灰色	D5d4・d5、II層一括	—	図版44後期か
27	104	縄文 土器	深鉢	口縁部・ 胴部、 5%以下	—	内傾、外傾。口縁部内側に粘土板を補足し肥厚させる。薄手。外面ナデ。のち横走沈線3条とその下位に縦位の波状沈線文。内面ナデ。一部粘土粒積上げ痕が残る	メノウ粒・メノウ礫少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒・凝灰岩粒・赤褐色礫・赤褐色砂粒微量	良好	外面浅黄褐色。内面・内部灰白色	C5f4・f5、II層一括	—	図版44後期粗製土器
28	206	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに外反、外傾。外面は単節縄文L Rを地文に横走沈線施し現状3段のうち2段目を磨り消し、3段目にはヘア状施文具による切り込みで2割1單位の瘤状突起を作る。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい黄褐色。内面灰黄褐色。器底下淡褐色。内部暗灰色	D5d5・20.65m	—	図版44後期未業一晚期付喪。S.I.33(覆土)に帰属の可能性
29	347	縄文 土器	手筒形土器	施状部・ 膝状部、 20%	—	小さな塊状部分に平たい膝状の裝飾部が付く。塊の径は4cm前後。膝の突出は1.9cm。膝には上面に軸に対して斜位の沈線3条。先端は上下に肥厚させ、沈線状のキザミ3条。両脇にヘア先による細かいキザミ。塊内面・膝下面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	二次焼成(特に下面)	外面暗灰色、塊内面にふい褐色。内部暗褐色	D5a4・a5、II層一括	—	図版44後期後業・安行2式
30	57	縄文 土器	深鉢	口縁部・ 胴部、 5%以下	—	内側気味、わずかに外傾。やや角頭状。口縁部外面1ガキ。胴部外面単節縄文R Lを地文に上位を鋭い沈線で区画。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・灰色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面暗赤褐色。内面灰褐色。内部灰褐色	C5f4・20.89m	—	図版44晩期前業・大洞B式。S.I.34(覆土)に帰属の可能性

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 or 高さ (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第58区												
31	114	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内外気味、外傾。外面細かな 単節縄文L Rを地文に口縁部下に 横走沈線2条を施しその間を磨 り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒、雲母 細粒、凝灰岩 粒、褐色砂粒 微量	良好	外面灰黄褐色、 黒褐色、 内面に濃い黄 褐色。内部褐色	D 5 e4・ e5、I層 一括	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B式
32	119	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内彎、わずかに外傾。 内傾状。外面ナデ。のち細い横 走沈線1条。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒、凝灰 岩粒、褐色砂 粒、黒色砂粒 微量	良好	内外面・内部 とも浅黄褐色。 内面一部 褐色	D 5 d4・ d5、II層 一括	—	図版44 晩期前葉 か
33	100	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎する胴部から屈曲して外 反、わずかに外傾。胴部と口縁 部の突起。器体は2枚の粘土 板を貼り合わせて成形。外面内 組三又文。その下位細い燃赤文 (または無節縄文)。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒、凝灰 岩粒、海綿骨 針微量	普通	外面灰黄褐色、 内面、内 部褐色	D 5 a4・ a5、I層 一括	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B式、 海綿骨針 顕著
34	95	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎、外傾。薄手。外面細かな 縄文(燃赤文?)を地文に細い 沈線で三又文を描く。三又文は 連続か。内面細いミガキ。一部 粘土被覆仕上げ痕を残す	メノウ粒少量、 石英粒、雲母 細粒、凝灰岩 粒、黒色砂粒、 海綿骨針微量	良好	外面・内部に おしい褐色。内 面におしい褐色、 黒褐色	D 5 a4・ a5、I層 一括	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B式
35	84	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	—	内外気味、わずかに外傾、薄手。 外面口縁部部下に横走沈線。そ の下連結した内組三又文。内面 ミガキ	やや精良。メ ノウ粒、石英 粒、雲母細粒、 凝灰岩粒、 黒色砂粒、 海綿骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に おしい褐色。内 部明褐色	D 5 b4・ b5、サブ トレー 一括	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B式
36	231	縄文 土器	鉢	口縁～ 底部、 15%	[13.6] (9.5)	底部(丸底か)から内彎・外傾 して胴部が立ち上がり、口縁部 付近で直立。口縁部は内側に粘 土を補足して内外に肥厚させ、 底部に雲状の複雑な突起を付 け、内側に先端にキギミを入 れた突起を付ける。突起左右の 口縁部にも低い突起。突起に は細かな無節縄文L。外面単節 縄文L Rを地文に横位・弧状・ 円形の沈線を施し一部を磨り消 し。内面ナデ。口縁付近一部ミ ガキ	メノウ粒少量、 石英粒、雲母 細粒、凝灰岩 粒、灰色砂粒、 海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色、 器表下褐色、 内部灰白色	D 5 e5、 20.67 m	2片	図版44 晩期前葉・ 安行3 a S I 33(履 土)に帰属 の可能性
第59区												
37	211	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	[18.0] (3.9)	内彎し大きく外傾する胴部から 内面にふいばをもつて屈曲し 外反する口縁部。外面単節縄文 L Rを地文に口縁部付近外面 縁部に主軸三又文、弧線、 横走沈線。内面ミガキ。内外 器表(内面の一部彫刻痕)に 黒色物質着。黒漆塗か	メノウ粒少量、 石英粒、凝灰 岩粒、黒色砂 粒微量	良好	内外面黒褐色、 内 部黒褐色	D 5 e4、 20.67 m	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B式、 S I 33(履 土)に帰属 の可能性
38	88	縄文 土器	小型 壺	胴部、 5%以下	—	内彎、内傾。上縁は屈曲して口 縁部に移行する様相。薄手。外 面屈曲部と下位に横走沈線。間 に入組三又文を施し、付近をミ ガキ。下位は地文の単節縄文L R。内面ナデ	やや精良。メ ノウ粒、石英 粒、雲母細粒、 凝灰岩粒、黒 色砂粒、海綿 骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。内部 におしい褐色	D 5 f4・ f5、サブ トレー 一括	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B式
39	400	縄文 土器	注口 土器	注口部、 5%以下	—	胴部に斜め上向きに貼り付けら れた注口。わずかに下向きに彎 曲。貫通孔は径8mm前後で注口 部の彎曲に沿って彎曲。下部分 には突起が付けられ、全体とし て男性器様。外面ミガキ。胴 部内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒、凝灰 岩粒、褐色砂 粒微量	良好	外面王灰褐色、 内面黒褐色、 器表下褐色、 内部黒褐色	埋土中	—	図版44 晩期初期
40	377	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎気味・外傾。外面結節をも つ単節縄文L R。内面ナデ	やや砂質。メ ノウ粒中量、 石英粒、雲母 細粒、凝灰岩 粒、灰色砂粒、 褐色砂粒微量	やや 不良、 焼き 甘い	外面におしい 褐色。内面浅 黄褐色。内部 褐色	D 5 i4、 20.39 m	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B C 式か
41	362	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎気味、わずかに外傾。口縁 部内側に部分的に粘土補足。 外面結節を持つ単節縄文L R。 内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒、凝灰 岩粒、褐色砂 粒微量	良好	外面黒褐色、 内面にふいば 褐色。内部褐色	D 5 g4 g5、II層 一括	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B C 式
42	326	縄文 土器	小型 深鉢	口縁部、 5%以下	—	胴部から緩やかに屈曲して外 反・外傾する口縁部。薄手。口 縁部細かなキギミ。外面へつ 状施具の先端による連続網 文。以下横走沈線2条。結節を 有する単節縄文L R、横走沈線。 施文類は縄文→沈線。内面ナデ。 一部ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒、雲母 細粒、凝灰岩 粒、チャート 粒、凝灰岩粒、 凝灰岩粒微量	普通	内外面黒褐色、 におしい黄 褐色。内部黒 褐色	D 5 g4、 20.58 m	—	図版44 晩期前葉・ 大洞B C 式、 S I 33(履 土)に帰属 の可能性

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
59	43	134	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 胴部、 5%以下	—	内壁・内傾する胴部から屈曲して内湾気味で外傾する口縁部。肩部に小突起。胴部・口縁部・胴部外面に2溝間の縦線。口縁部内面ミガキ。胴部内面ナデ。一部ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面におい褐色。内部褐色	C 5 J 5, II層, 20.85 m	—	図版44 晩期前葉・大淵B C式。外面の一部赤色顔料付着
44	254	縄文 土器	鉢	口縁部、 5%以下	—	外傾。本体器壁は薄い。肩部は内側に粘土を凝結して厚くさせ、面に作り短沈線を描す。胴部に渦巻状の突起。外面単節縄文L R Lを地文に、突起下に貼付文(割離)。その左側に弧状沈線文と一部区画磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	内外面黒褐色。内部褐色	D 5 f 4, 20.69 m	—	図版44 晩期前葉・安行3 a-3 b式。平置式実測	
45	160	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内湾気味。外傾。外面結節を有する単節縄文L R。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	内外面におい黄褐色。内部黄褐色	D 5 a 4, 20.78 m	—	図版44 晩期前葉・大淵B C式	
46	260	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内湾。外傾。外面結節を有する単節縄文L R。内面ナデ	やや精良。メノウ粒・石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	やや不良、焼き甘い	内外面におい黄褐色。内部褐色	D 5 f 5, 20.65 m	—	図版45 晩期前葉・大淵B C式。S 1 33(覆土)に帰属の可能性	
47	219	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内湾。外傾。外面結節をもつ単節縄文L R。現状下端に浅く太い、わずかに左下がり沈線。内面ナデ	やや砂質。メノウ粒少量、凝灰岩粒・黒色砂粒微量	やや不良、焼き甘い	外面暗赤褐色・黒褐色。内面におい赤褐色。内部褐色	D 5 d 4, 20.66 m	—	図版45 晩期前葉・大淵B C式	
48	119	縄文 土器	小型 鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内湾。外傾。薄手。外面半湾状文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面におい褐色。内部褐色	D 5 d 4-d 5, II層一括	—	図版45 晩期前葉・大淵B C式。S 1 33(覆土)に帰属の可能性	
49	119	縄文 土器	小型 深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内湾。外傾。薄手。外面ナデ。のち細い沈線と対向する弧線を描き、下に横走平行沈線2条。弧線と横走沈線に囲まれた中を細密沈線で充ち。内面ナデ	やや精良。石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒微量	普通	内外面灰黄褐色・黒褐色。内部褐色	D 5 d 4-d 5, II層一括	接合し同一個体1片	図版45 晩期前葉・大淵B C式。S 1 33(覆土)に帰属の可能性	
50	362	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 胴部、 5%以下	—	内湾・外傾する胴部から内面に種をもち、外反りに外反する口縁部。角部状の肩部に2個1単位の突起を貼り付け。外面半湾状文。以下横走沈線。地文としての単節縄文L R。内面突起の内側に突起とそれから斜め右下に連続する隆帯。やや粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面におい黄褐色・黒褐色。器表下におい褐色。内部褐色	D 5 g 4-g 5, II層一括	2片	図版45 晩期前葉・大淵B C式。平置式実測	
51	285	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 胴部、 5%以下	—	胴部から屈曲して外反し大きく外傾する口縁部。肩部を内側に膨らませ、2個1組の突起。外傾には小さなキガキ。内外面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色・暗赤褐色。内部褐色	D 5 f 5, 20.65 m	—	図版45 晩期前葉・大淵B C式。平置式実測。S 1 33(覆土)に帰属の可能性	
52	379	縄文 土器	甕	口縁部、 胴部、 5%以下	[13.6] (38)	わずかに内湾・内傾する胴部から屈曲して内湾気味で外傾する口縁部。口縁部外面ミガキ。屈曲部にわずかな隆帯を作り短沈線を描す。胴部外面半湾状文。口縁部内面ミガキ。胴部内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面灰黄褐色。内面黒褐色。内部褐色	D 5 i 4, 20.37 m	—	図版45 晩期前葉・大淵B C式	
53	97	縄文 土器	小型 甕	胴部、 5%以下	—	わずかに内湾。内傾。薄手。外面上半半湾状文。横走沈線一条。下半に細い単節縄文L Rの地文を残す。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒微量	普通	外面におい褐色・黒褐色。内面黒褐色。内部褐色	D 5 f 4-f 5, II層一括	—	図版45 晩期前葉・大淵B C式	

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第59区												
54	93	縄文 土器	小型 鉢	胴部、 5%以下	—	内野気味でわずかに内傾。上部は屈曲して外傾する口縁部に移行する様相。湾手。外面半歯状文。その下位横走沈線2条。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石英 英粒・凝灰岩 礫・凝灰岩粒 微量	良好	サンドイッチ 状。外面黒褐色、 内面褐色。器表下に ふい橙色。内部 黒褐色	C514・ f5.Ⅱ層 一括	—	図版45 晩期前葉・ 大割B C式
55	361	縄文 土器	注口 土器	口縁部、 5%	—	内野、わずかに内傾。湾手。口縁部端部棒状道具の連続押し口により小突起。外面半歯状文。下位に横走沈線2条。内面ナデ。一部ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・雲母 細粒	良好	外面黒褐色、 内面灰黄褐色。 内部褐色	D514・ f5.Ⅱ層 一括	—	図版45 晩期前葉・ 大割B C式
56	21	縄文 土器	注口 土器か	口縁部、 5%以下	—	湾手。わずかに内野。内傾。外面半歯状文。内面ナデ。一部縁土線接合痕を残す	メノウ粒少量、 石英粒・黒色 砂粒・海綿骨 針微量	普通	外面黒褐色、 内面灰黄褐色。 内部にふい黄 褐色	C514・ f5.Ⅱ層 一括	—	図版45 晩期前葉・ 大割B C式
57	265	縄文 土器	注口 土器	口縁部、 5%	(23)	わずかに内野。内傾。小型。外面沈線で切り分けた半歯状文の点列2段。内面ナデ	やや砂質。メ ノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒、 海綿骨針微量	良好	外面赤褐色、 内面黒褐色。内 部にふい赤褐色	D515・ 20.65 m	—	図版45 晩期前葉・ 大割B C式 S133(覆 土)に帰属 の可能性
58	276	縄文 土器	埴	口縁～ 胴部、 20%	[118] (5.0)	内野・外傾して立ち上がる胴部。口縁部ではほぼ直立。湾手。口縁部内部内8状。肩部外面ナデにより凹み。のち、胴部に外面半歯状文とL地文。内面ナデ。のちやや粗いミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒、 海綿骨針微量	良好	外面黒色、灰 黄褐色。内面 にふい橙色。 内部褐色	D514・ 20.66 m	3片	図版45 晩期前葉 か。S133(覆 土)に帰属 の可能性
59	399	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内野気味。わずかに外傾。端部外部状。外面半歯状文L.R.その下位に横走沈線現状で7条。施文帯は最上位の沈線のち縄文。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒、 海綿骨針微量	良好、 堅緻	内外面・内部 とも黒褐色	C515 サブトレ レ内攪 乱中	—	図版45 晩期前葉 か。海綿 骨針顕著
60	95	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内野。外傾。口縁部外面単節文L.R.以下。上から横走沈線1条。隆帯とその上へ突起。横走沈線2条。隆帯以下ミガキ。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒、 褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面・内 面にふい赤褐 色。器表下位 褐色。内部褐色	D5a4・ a5.Ⅱ層 一括	—	図版45 晩期前葉 か
61	22	縄文 土器	小型 深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに外反。わずかに外傾。湾手。外面細かい単節文L.R.を地文に横走沈線6条。うち最上段と2段目は浅い短沈線の連続。3～4条。5～6条間、6条下位を磨り消し。内面上位ミガキ。下位ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	外面灰黄褐色 内面・内部 黒褐色	D5a4・ a5.Ⅱ層 一括	—	図版45 晩期前葉 か
62	87	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	外反。外傾。現存最下部は胴部で、わずかに内野する様相。口縁部外部外傾に比較による段差有り。その下位に横走沈線2条。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩礫・凝灰岩 粒・黒色砂粒、 海綿骨針微量	良好	外面黒褐色、 内面・内部灰 褐色	D5e4・ e5.サブ トレ一 括	—	図版45 晩期前葉・ 大割B C式 か
63	88	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	外傾する胴部から屈曲し。内面に稜をもって口縁部に移行。口縁部内野気味。外傾。外面単節文L.R.。屈曲部に横走沈線。胴部外面丁寧なミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒微量	良好	外面灰黄褐色 内面灰黄褐色 内部黒褐色	D514・ f5.サブ トレ一 括	—	図版45 晩期前葉 か
64	374	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内野気味・外傾。口縁部部にB突起貼り付け(連続状)。内外面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。にふ い橙色。内部 褐色	D514・ f5.Ⅱ層 一括	—	図版45 晩期中葉 か
65	161	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	外反気味。わずかに外傾。外面単節文L.R.を地文に横走沈線・弧状沈線で区画し。一部を磨り消し。形去なし。内面ナデ	メノウ粒、黒 色砂粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	普通	内外面黒褐色 内面灰黄褐色、 内部灰黄色	D5a5・ 20.71 m	—	図版45 晩期前葉・ 大割C2式
66	116	縄文 土器	鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	直線的。外傾。口縁部内面側を中心に粘土を堆積して角部状とし。一部を盛り上げてさらに面部を凹ませた突起を付ける。胴部外面単節文L.R.を地文に横走沈線・弧状沈線で区画し磨り消し。形去はない。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒、 黒色砂粒・橙 色砂粒微量	良好	外面にふい褐色 内面・黒褐色。 内部にふい黄 褐色。内部褐色	D5g4・ g5.Ⅱ層 一括	—	図版45 晩期粗製 土器

探区番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第59区	67	373	縄文土器	小型深鉢	口縁部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						外反、外傾。口縁部にB突起部付。口縁部外面細かな単節横文L・R。胴部との境界に横走沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面黒色、内面黒褐色。器表下の方に赤褐色。内部陶灰色	D 5 e4・e5、I 層一括	—	国版45 晩期中葉か
	68	382	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						内彎気味、わずかに外傾。端部角張状。外面へ先での連続的突起状で2段。段間と下位に横走沈線。端部・内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒微量	良好、堅靱	内外面黒褐色・黒褐色。内部に赤褐色	D 5 f4・f5一括	—	国版45 晩期中葉・安行3 c・3 d式か
	69	118	縄文土器	小型鉢	口縁部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						内彎、外傾。薄手。やや角張状。口縁部外面横走沈線2条。その間にへう状施文具による連続的突起。胴部単節横文L・Rを地文に、その下位磨り消し。彫去はない。施文類は縄文2・2条目の横走沈線。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面黒色・内面に赤褐色	D 5 e4・e5、I 層一括	—	国版45 晩期中葉・大割C1・C2式
	70	222	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						外反気味、外傾。外面粘土紐を貼り付けて朝足の隆帯とし、隆帯を含めて単節横文L・Rを地文として施文。隆帯には短沈線の連続(環状文か)。ほかには横位・斜位の沈線を施し、一部区画を磨り消し。彫去なし。内面ナデ。一部ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面暗赤褐色。内部陶灰色	D 5 e4・20.66 m	—	国版45 晩期中葉・大割C2式。S133(覆土)に帰属の可能性
	71	339	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						内彎気味、外傾。現存上位左は粘土紐の端部を外面に突出させて、貼り付け状に作る。外面単節横文L・Rを地文に三文文、横位・斜位の沈線を引き、一部区画を磨り消し。彫去なし。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面黒褐色。内面に赤・黄褐色。内部黒色	D 5 a4・20.75 m	—	国版45 晩期中葉・大割C2式か
	72	301	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						わずかに内彎。大きく外傾。外面単節横文L・Rを地文に横走沈線の沈線を引き、区画の一部を磨り消し。彫去あり。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通、一部二次焼成	外面灰黄褐色。内面灰黄褐色。内部陶灰色	D 5 f4・20.64 m	—	国版45 晩期中葉か。S133(覆土)に帰属の可能性
	73	88	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						外反、外傾。外面無節横文Lを地文に上1条。下2条の横走沈線で区画し、その間に屈曲する沈線を施し一方を磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・赤褐色砂粒・シヤモツトカ)微量	普通	外面黒褐色。内面暗褐色。内部陶灰色	D 5 f4・f5サブトレー一括	2片	国版45 晩期中葉
	74	100	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						内彎、外傾。内面の一部に粘土紐を補足して成形。外面単節横文L・Rを地文に口縁部に横走沈線2条。下平地文を彫去(文様不明)。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	普通	外面褐色。内面に赤褐色	D 5 a4・a5、I 層一括	—	国版45 晩期中葉・大割C1式か
第60区	75	107	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						内彎・外傾する胴部から屈曲して外傾する口縁部。口縁部内面から外面宛密着布か。口縁部胴部境界横走沈線。以下沈線による曲線文。その下位横走沈線2条。内外面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色。外側及び内部面赤褐色。下部陶灰色。内部黒色	D 5 d4・d5、I 層一括	—	国版45 晩期中葉・大割C2式か
	76	149	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	(17.4) (3.5)	—	—	—	—	—	—
						わずかに内彎・大きく外傾する胴部から、緩やかに内側に屈曲して立ち上がる口縁部。薄手。口縁部外面に横走沈線2条。その下位細かな単節横文L・Rを地文に沈線と磨り消しにより雲形文を抽出。彫去なし。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・灰色砂粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面黒褐色。内部陶灰色	D 5 a4・20.79 m	—	国版45 晩期中葉・大割C2式
	77	50	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						わずかに内彎する胴部から屈曲して内彎気味に立ち上がる口縁部。外傾。口縁部外側にキザリ。その下位太く深い凹線。胴部外面単節横文Lを地文に上1条に横走沈線2条。上位の沈線には連続的突起。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・黒褐色砂粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面褐色。内面陶灰色	D 5 g4・g5、サブトレー深さ15 cm以上一括	—	国版45 晩期か
	78	24	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
						わずかに内彎。わずかに外傾。薄手。口縁部内面は粘土紐を補足して突出させ、内凹ミガキ状の端部に沈線を送らせ、外面下向きの弧状沈線文(おそらく連続的)を施して内部に横位のしかりした沈線3条。下位を彫去。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・石英礫・凝灰岩粒・赤褐色砂粒微量	良好、堅靱	内外面に赤褐色。内部明陶灰色	D 5 e4・e5、I B層一括	—	国版45 晩期か

第3章 第3節 遺構と遺物

神国番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第60国												
79	382	縄文土器	小型鉢	口縁部、5%以下	—	外反、外傾。薄手。肩部に突起を作り、外面には横かな単筋文L.Rを地文に横走沈線と突起側に逆字形に延びる沈線。その下位に傾位の大きい傾斜と小さな凹形の凹み。突起の内面逆字状の沈線。その下位隆線と凹線。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒、褐色砂粒微量	普通	外面にふい・橙色。内面黒褐色。内部褐色	D 5 f4- f3一括	—	図版46 晩期中葉・大洲C2式。口縁部～外面赤色顔料付着
80	22	縄文土器	鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内脣、内傾。口縁部は内面側に粘土を補足して突出させ、外面側にはB突起のような突起を付ける(割落)。外面単筋縄文L.Rを地文に大組み状の沈線文を施し、一部磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒、赤褐色砂粒、海綿骨針微量	良好、堅緻	外面暗赤褐色・黒褐色。内面にふい褐色。黒褐色。内部褐色褐色。内部褐色褐色。	D 5 a4- a3, 1 B層一括	—	図版46 晩期中葉・大洲C2式
81	87	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内脣平直。大きく外傾。薄手。外面単筋縄文L.Rを地文に横走沈線2条。その間を彫去し曲線的な文様を表現。彫去の下位は彫去しミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒、褐色砂粒微量	良好	外面にふい・黄褐色。内面灰黄褐色。内部にふい・褐色。	D 5 e4- e5, サブトレー一括	—	図版46 晩期中葉・大洲C1式
82	101	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内脣、外傾。外面単筋縄文L.Rを地文に磨消縄文技法によりO字文を表現。彫去は深くない。内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒、赤褐色砂粒、海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色・灰褐色。内面灰黄褐色。にふい・黄褐色。内部黒色。	D 5 e4- e5, II層一括	—	図版46 晩期中葉・大洲C2式
83	382	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内脣、大きく外傾。薄手。外面単筋縄文L.Rを地文に弧状の沈線を引き一部区画を残して磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒、褐色砂粒、海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面灰黄褐色。内部褐色褐色。	D 5 f4- f5, I一括	—	図版46 晩期中葉・大洲C2式
84	263	縄文土器	浅鉢	底部、10%	(20) 8.8	先底からわずかに内脣、大きく外傾して立ち上がる沈線。胴部単筋縄文L.Rを地文に沈線による文様(詳細不明)。底部との境界は沈線を横状に沿らす。底面にも沈線による径5.5cmの同心円。底面・内面ミガキ	やや粗悪。メノウ粒中量、石英粒・石英粒、凝灰岩粒、凝灰岩礫、褐色砂粒微量	普通	内外面黒褐色。外面器表下褐色。内部褐色褐色。	D 5 f5, 20.65m	2片	図版46 晩期中葉・S 133(覆土)に帰属の可能性
85	337	縄文土器	浅鉢	底部、5%以下	(1.1) 4.0	上げ底。縦やかに胴部に移行。胴部外面縄文(単筋縄文L.R)が、径6.6cm部分に底部と同心円状に沈線。底部との間ミガキ。底面・内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒、黒色砂粒微量	普通	内外面・内部とも黒色。	D 5 f4, 20.44m	—	図版46 晩期中葉か
86	170	縄文土器	壺	口縁～胴部、10%	(10.8) (4.4)	内傾する胴部から屈曲して立ち上がる頸部と口縁部。口縁部は内脣させる一方外面に粘土を補足して突出させる。頸部は斜めに突起(おそらく1対)。胴部外面には隆線にキザミ。無文部ミガキ。内面ナデ。頸部以下雑	メノウ粒少量、石英粒・石英粒・凝灰岩粒、赤褐色砂粒、海綿骨針微量	普通	内外面にふい・褐色。内部褐色褐色。灰白色。	D 5 b5, 20.75m	2片	図版46 晩期中葉・大洲C1式
87	120	縄文土器	壺	口縁～胴部、5%以下	—	内脣・内傾する胴部から縦やかに屈曲してわずかに外反・外傾する口縁部。薄手。口縁部外面単筋縄文L.R。胴部外面に横走沈線。胴部外面沈線による弧状文(三叉文か)。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ粒・石英粒・凝灰岩粒、褐色砂粒、灰褐色砂粒微量	良好	外面にふい・褐色。黒褐色。内面黒褐色。灰褐色褐色。内部褐色褐色。	D 5 e4- e5, II層一括	—	図版46 晩期中葉・大洲C1式
88	144	縄文土器	壺	口縁～胴部、5%以下	—	外反・わずかに内傾する頸部から縦やかに屈曲して外傾する口縁部。頸部を外側に屈曲させ、ペー状粘土具による港状突起。口縁部外面横走沈線1条。その下に単筋縄文L.Rを地文に斜めに区画か。内面ナデ。一部粘土粘り残り	メノウ粒少量、石英粒・石英粒・凝灰岩粒、赤褐色砂粒、海綿骨針微量	良好	外面にふい・黄褐色。内面灰黄褐色。内部にふい・褐色。	D 5 a5, 20.74m	—	図版46 晩期中葉・大洲C1式。S 136(覆土)に帰属の可能性
89	260	縄文土器	壺	口縁～胴部、5%以下	—	わずかに外反・内傾。頸部は内面側と突起を付し、両側に沈線沿らす。外傾側には小さなキザミ。外面単筋縄文L.Rを地文に横走沈線3条。横状と斜状を組合せた沈線文。内面ミガキ。下半ナデ	メノウ粒少量、メノウ粒・石英粒・凝灰岩粒、黒褐色砂粒微量	良好、堅緻	内外面黒色。内部黒色。	D 5 f5, 20.65m	—	図版46 晩期中葉・大洲C2式。S 133(覆土)に帰属の可能性
90	209	縄文土器	小型壺	口縁～胴部、5%以下	—	内脣・内傾する胴部から屈曲して外反・外傾する短い口縁部。口縁部から胴部の外面は単筋縄文L.Rを地文に頸部に横走沈線。胴部に横走、弧状の沈線を施し一部磨り消し。彫去なし。口縁部内面ミガキ。以下ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒、灰褐色砂粒微量	良好、堅緻	内外面暗赤褐色。内部赤褐色。	D 5 d4, 20.66m	—	図版46 晩期中葉・大洲C2式。S 133(覆土)に帰属の可能性

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第60区												
91	158	縄文 土器	壺	胴部, 5%以下	—	内傾する胴部から緩やかに屈曲して立ち上る頸部。屈曲部外面に隆帯を付し短沈線を連続させて腰線状浮文に作る。胴部外面に単節縄文L Rを地文として、弧状沈線を描し部分的に磨り消し。胴部外面ミガキ。内面ナデ。	メノウ粒少量、 メノウ礫・石英 粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 灰色砂粒・海 綿骨針微量	普通	内外面黒褐色。外面の一部分明褐色。内部明褐色。	D5a4, 20.71m	—	図版46 晩期中葉・ 大割C1 C2式
92	116	縄文 土器	壺	胴部, 5%以下	—	強く内傾する胴部から屈曲して外反する頸部。胴部外面に単節縄文L R。屈曲部外面には隆帯を貼り付け、棒状植文具で連続刺突。内面ナデ。	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・黒色砂 粒・褐色砂粒 微量	良好	外面黒褐色。内面黒褐色。	D5g4, I層一 拵	—	図版46 晩期中葉・ 大割C1 C2式
93	117	縄文 土器	壺	胴部, 5%以下	—	強く内傾する胴部から屈曲して頸部が外傾する様相。屈曲部外面には隆帯を貼り付け、短沈線を連続させる。胴部外面単節縄文L Rを地文に沈線による曲線文。内面ナデ。	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・黒色砂 粒・褐色砂粒 微量	やや 不良、 焼き 甘い	外面黄褐色。内面黒褐色。内部褐色。	D5b4, b5, II層 一拵	—	図版46 晩期中葉・ 大割C2式
94	362	縄文 土器	小型 甕または 注口土 器	胴部, 5%以下	—	外反・内傾。上端粘土律剥離。棒状沈線3条(1条は剥離部分)。その下位に粘土紐を貼り付け隆帯を作る。隆帯に突起を付け、左右の隆帯上に連続刺突。内面ナデ。	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	外面にふいね色。内面褐色。内部褐色。	D5g4, g5, II層 一拵	—	図版46 晩期中葉・ 大割C2式 か
96	277	縄文 土器	壺	肩～胴 部, 5% 以下	—	内傾し強く内傾する肩部から緩やかに屈曲して外反する頸部。胴部外面単節縄文L R。胴部外面頸部隆帯と地文後・棒状沈線3条。その上位の地文不明。内面ナデ。のちろいミガキ。粘土結核み上げ痕外面に一部、内面に多く残る。	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・石英礫・ 雲母細粒・凝 灰岩粒・褐色 砂粒・海綿骨 針微量	良好	外面・内部褐色。内面黒褐色。	D5f4, 20.64m	—	図版46 晩期中葉・ 大割C2式 か。 S13(覆土)に腐 蝕の可能性
96	120	縄文 土器	壺か	胴(肩) 部, 5% 以下	—	内傾・内傾する胴下半部からやや強く屈曲して強く内傾する肩部。やや薄手。外面細かな単節縄文L Rを地文に沈線による弧線文と三文文。一部区画を磨り消し。形去なし。内面ナデ。	メノウ粒少量、 石英粒・チャ ート粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・褐色砂粒 微量	普通	外面明黄褐色。内面・内部にふいね褐色。	D5e4, e5, II層 一拵	—	図版46 晩期中葉・ 大割C1 C2式
97	239	縄文 土器	壺	胴部, 5%	—	内傾。強く内傾。外面現状上位は沈線により人組文。中下位は弧状沈線の連続によりメ字状の内文様を露出。上下位に半円・圓形に菱形状の文様も露出される。内面ナデ。	やや砂質。メ ノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	やや 不良、 焼き 甘い 外面 風化 激しい	外面褐色(明)。内面にふいね色。内部褐色(暗)	D5e5, 20.65m	—	図版46 晩期中葉・ 大割C1 式
98	120	縄文 土器	壺	胴部, 10%	—	内傾する胴部。外傾して立ち上り上半では内傾。薄手。上半外面単節縄文L Rを地文に沈線による弧線文。全体の文様構成不明。下半ナデ。内面ナデ。	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	内外面・内部ともにふいね褐色。	D5e4, e5, II層 一拵	—	図版46 晩期中葉・ 大割C1 C2式か
99	382	縄文 土器	注口 土器	口縁部, 5%以下	—	内傾。内傾。薄手。外面単節縄文L Rを地文に右下がり・左下がりの沈線を引き一部区画を残して磨り消し。内面ナデ。	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・褐色砂 粒・黒色砂粒 微量	普通	内外面黒褐色。内部黒褐色。	D5f4, f5一拵	—	図版46 晩期中葉・ 大割C2 式。内面 赤色顔料 付着
100	90	縄文 土器	壺か	肩～胴 部, 5% 以下	—	内傾気味で外傾する胴部から屈曲して外反しわずかに内傾する肩部。屈曲部の上位外面はナデ。屈曲部外面に之山の突起を付し、左右にメ字状植文具に付し、広く深い沈線。その下位縄文(詳細不明)を地文に同様の沈線2条。内面ナデ。	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	普通	外面灰褐色。内面にふいね褐色。内部褐色。	D5b4, b5, サブ レー 拵	—	図版46 晩期中葉・ 大割C2式 か
101	121	縄文 土器	小型 深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに外傾。薄手。肩部に突起を作り、それを粘土紐で巻き、突起させて外傾に垂らす。内外面ナデ。	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・滑石粒・ 黒色砂粒・灰 色砂粒微量	普通	内外面にふいね黄褐色。内部灰白色。	D5f4, f5, II層 一拵	—	図版46 晩期。 平置き実測
102	100	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	わずかに内傾。外傾。外面沈線によるジグザグ文。内面ナデ。	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒・ 黒色砂粒・赤 褐色砂粒微量	普通	外面にふいね赤褐色。内面黒褐色。内部黒褐色。	D5a4, a5, II層 一拵	—	図版46 晩期後葉 か

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第60区												
103	98	縄文 土器	小型 浅鉢	口縁部 5%以下	—	内甕、大きく外傾。外面上下に横走沈線2条、間に変形工字文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石英 粒・凝灰岩 粒・赤褐色砂 粒微量	普通	サンドイッチ 状。内面灰白 色、外面に ぶい・褐色。内 部褐色	D 5 g4・ g5、I層 一括	—	図版46 晩期後葉、 大前A式か
104	344	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	[2L.0] (48)	内甕・外傾して立ち上がり、口縁部で内傾。口縁部内面に粘土を塗して幅広くや内面のの小波状とし、胴部外側縁や小さな小波状。外面太く深いヘラ掻き沈線により網状浮線を描出。中段の3本の浮線を収束させ、ヘラ先により楕円形の凹みを作る。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	外面にぶい・黄 褐色・黒褐色 。内面灰黄 褐色。内部陶 灰色	D 5 g4・ 20.57 m	—	図版46 晩期後葉、 千瀬式。 外面赤色 塗彩。 S I 33(覆 土)に帰属 の可能性
105	383	縄文 土器	甕	肩～胴 部、5% 以下	—	内甕・内傾する胴部から頸部で屈曲して立ち上がる様相。肩部外面変形工字文様の沈線文。その下位横走沈線2条。胴部縦位の熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒、 褐色砂粒微量	やや 不良、 焼き 甘い	外面 浅黄褐色 。内面灰白 色。内部灰褐色	D 5 g4・ g5、I層 一括	—	図版46 晩期後葉
106	384	縄文 土器	甕	口縁～ 胴部、 5%以下	—	胴部から外面に横をもつて立ち上がる胴部から外反・外傾する口縁部。口縁部内面側には太い沈線を高らせ、肩部受け口状。肩部直下外面に横走沈線。頸部下の横には突起を付け内側に沈線。変形工字文か。内面ナデ	やや砂質。メ ノウ粒少量。 石英粒・凝灰 岩粒・褐色砂 粒微量	普通	内外面・内部 とも褐色。内 外面の一部 灰黄褐色	D 5 h4・ h5、I層 一括	—	図版47 晩期後葉
107	286	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	わずかに内甕。わずかに内傾。複合口縁。口縁部外面ナデ。胴部網目状熱糸文。内外面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	普通	外面にぶい・褐 色。内面灰白 ・褐色。内部 灰褐色	D 5 f5、 20.67 m	—	図版47 晩期粗製 土器。 S I 33(覆 土)に帰属 の可能性
108	325	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内甕気味。内傾気味。複合口縁。口縁部外面横位の網目状熱糸文。胴部縦位の網目状熱糸文。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・石英礫 ・雲母細粒・凝 灰岩粒・砂岩 礫微量	普通	外面にぶい・黄 褐色。内面灰 黄褐色。内部 褐色	D 5 g4、 20.60 m	—	図版47 晩期粗製 土器。 S I 33(覆 土)に帰属 の可能性
109	374	縄文 土器	深鉢	口縁部 5%以下	—	内甕・外傾から口縁部で外反気味・内傾。複合口縁。口縁部外面横位の短沈線。胴部外面網目状熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・石英礫 ・雲母細粒・凝 灰岩粒・褐色 砂粒・褐色砂 粒微量	良好	サンドイッチ 状。内面 にぶい・褐色。内 部褐色	D 5 f4・ f5、I層 一括	—	図版47 晩期粗製 土器
110	107	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内甕・わずかに内傾する胴部から横や斜めに屈曲して外傾する口縁部。複合口縁。口縁部内面ナデ。胴部外面横位の網目状熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 黒褐色砂粒微 量	良好	外面にぶい・黄 褐色・黒褐色 。内面にぶい 褐色。内部灰 褐色	D 5 d4・ d5、I層 一括	—	図版47 晩期粗製 土器
111	169	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	内甕気味。外傾。外面網目状熱糸文。一部粘土塗層仕上げ痕が残る。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・凝灰岩礫 ・褐色砂粒・海 綿管針微量	普通	外面にぶい・赤 褐色。内面・ 内部褐色	D 5 b5、 20.72 m	—	図版47 晩期粗製 土器
112	100	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	わずかに内甕。外傾。外面網目状熱糸文。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒・ 褐色砂粒・海 綿管針微量	普通	外面にぶい・赤 褐色・黒褐色 。内面黒褐 褐色。内部黒 褐色	D 5 g4・ a5、I層 一括	—	図版47 晩期粗製 土器
第61区												
113	313	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内甕気味。内傾気味。複合口縁。口縁部外面横位の熱糸文。胴部縦位の熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒 ・黒色砂粒微 量	普通	外面 灰黄褐色 。にぶい・褐色 。内面褐色 。明褐色色。 内部褐色	D 5 g4、 20.58 m	—	図版47 晩期粗製 土器。 S I 33(覆 土)に帰属 の可能性
114	116	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	胴部外反気味。口縁部内甕気味。わずかに外傾。複合口縁。角筒状。口縁部外面横位に短い突起の太い熱糸文。胴部外面縦位の太い熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒 ・黒色砂粒・橙 色砂粒微量	良好	外面にぶい・褐 色・黒褐色 。内面にぶい・ 褐色。内部陶 灰色	D 5 g4・ g5、I層 一括	—	図版47 晩期粗製 土器

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第61区												
115	294	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに内傾。複合口縁。角頭状。口縁部外縁斜位の太い熱糸文。胴部腹位の熱糸文(口縁部とは異なる厚体か。器表荒れにより不明)。のち上位ナデ。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい褐色。内面にふい黄褐色。内部褐色	D 5 f5、 20.68 m	—	国版47 晩期粗製土器。 S 133(覆土)に帰属の可能性
116	50	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内唇。ほぼ直立か。複合口縁。外面斜行する太い熱糸文。胴部外面・内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい赤褐色。内面にふい褐色。内部灰褐色	D 5 g4、 a5、I層 15 cm以上一括	—	国版47 晩期粗製土器
117	100	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに外傾。複合口縁。端部角頭状。口縁部外面ナデ。胴部腹位の熱糸文。複合口縁の中央部は剥離して外反し。胴部の熱糸文が端部付近から施文されているのがわかる。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい褐色。内面にふい褐色。内部褐色	D 5 a4、 a5、I層 一括	—	国版47 晩期粗製土器
118	95	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに外反。わずかに内傾。複合口縁に結位の熱糸文。口縁部縦文やかなキザミ。胴部外面ナデ。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい赤褐色。内面灰褐色。内部赤褐色・褐色	D 5 a4、 a5、I層 一括	—	国版47 晩期粗製土器
119	309	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇気味。内傾気味。複合口縁。角頭状。口縁部外面ナデ。胴部腹位の熱糸文。のち上位ナデ。内面ヘラナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・砂岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面にふい黄褐色。内部褐色	D 5 g5、 20.62 m	—	国版47 晩期粗製土器。 S 133(覆土)に帰属の可能性
120	362	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに内傾する胴部から縦やかに屈曲して外傾する口縁部。複合口縁。端部角頭状。胴部外面ナデ。弧状の染灰(詳細不明)。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色。内面にふい黄褐色。内部褐色	D 5 g4、 a5、I層 一括	—	国版47 晩期粗製土器
121	84	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇・外傾から口縁部で外反。複合口縁。内外面ナデ。胴部外面に粘土柱積み上げ痕残る	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面にふい褐色・黒褐色。内部褐色。黒褐色	D 5 b4、 b5、サブ プレート 一括	—	国版47 晩期粗製土器。内面灰化物付着
122	51	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	わずかに内唇。わずかに内傾。複合口縁。内外面ナデ。内外面に一部粘土柱積み上げ痕を残す	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい褐色。内面浅黄褐色。内部褐色	D 5 b4、 b5、サブ プレート 15 cm以上一括	—	国版47 晩期粗製土器
123	21	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	複合口縁。わずかに内唇。口縁部付近で外反。わずかに内傾。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・褐色砂粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい褐色。内面灰褐色。内部褐色	C 5 j4、 j5、I B 層一括	—	国版47 晩期粗製土器
124	179	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内唇気味でわずかに外傾する胴部から縦やかに屈曲して外反し外傾気味になる口縁部。口縁部外面斜位の熱糸文。頭部無文(ナデ)。胴部腹位の熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘い	内外面にふい黄褐色。内面一部褐色。内部灰白色	D 5 e4、 20.70 m	—	国版47 晩期粗製土器
125	280	縄文土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	外反気味。外傾。外面斜位の熱糸文。粘土柱積み上げ痕顕著。内面丁寧ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	二次焼成	内外面灰黄褐色。内部褐色	D 5 f4、 20.66 m	—	国版47 晩期粗製土器。二次焼成上部外面(口縁部)から下9~11cm付近に灰化物付着。S 133(覆土)に帰属の可能性
126	224	縄文土器	深鉢	口縁部、 5%以下	[36.5]、 [17.6]	わずかに内唇。外傾。口縁部で内唇。わずかに内傾。細い粘土柱を積み上げて成形。1段は7~11mm。外面ケズリ。内面ナデ。内外面に粘土柱積み上げ痕残る(外面に多い)	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・チャート粒・凝灰岩粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通。下部二次焼成	外面褐色。にふい黄褐色。内面褐色。内部褐色。外面二次焼成部褐色	D 5 e4、 20.59 m	7片、ほかには接合しない。同一個体2片	国版47 晩期粗製土器。二次焼成上部外面(口縁部)から下9~11cm付近に灰化物付着。S 133(覆土)に帰属の可能性

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第61図												
127	246	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	外反気味の胴部から口縁付近で わずかに内彎。全体としてわずかに 外傾。薄手。外面粗雑なナデ。 輪縁のみ多く残る。内面下 丁寧ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	普通	外面にふい青 褐色にふい暗 色・灰青褐色。 内面にふい褐色。 内 部陶灰色	D 5 e4、 20.66 m	—	図版 47 晩期か
128	223	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内彎気味。わずかに外傾。口縁 部で内彎。細い粘土粒を多用。 外面ナデ。内面ナデ。内外面 とも一部粘土粒積上げ痕残る	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・凝灰岩雜 褐色砂粒微量	良好、 堅固	外面褐色。に ふい青褐色。内 部陶灰色	D 5 e4、 20.66 m	—	図版 48 晩期前製 土器。 S 133(覆土) に帰属 の可能性
129	147	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	わずかに内彎。わずかに外傾。薄 手。外面ケズリ。のちナデ。粘 土粒積上げ痕多く残る。内面ナ デ。一部粘土粒積上げ痕残る	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒微量	良好	外面にふい赤 褐色。内面に ふい褐色。内 部淡褐色	D 5 a4、 20.82 m	2片	図版 48 晩期前製 土器
130	264	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%	—	わずかに内彎。わずかに外傾。 現在部径 [232～252] cm。外 面細位のヘラナデ(粗いミガキ 状)。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 礫微量	普通	外面黒褐色。 内面にふい赤 褐色・黒褐色。 内部陶灰色	D 5 f5、 20.65 m	5片	図版 48 晩期か。 内外面炭 化物付着。 S 133(覆土) に帰属 の可能性
131	358	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	[14.8] [32]	内彎・内傾する胴部から内面に 線をもつて屈曲し。外反・大き く外傾する口縁部。口縁部外 面ケズリ。口縁部外面細粒陶文 L R。 屈曲部に細い根状沈線。以下 文様が彫られているが詳細不 明。口縁部内面ミガキ。胴部内 面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒、 褐色砂粒微量	良好	外面灰黄褐 色。内面黒 褐色。内面 白色。内部 陶灰色	D 5 e4、 c5. II 層 一括	—	図版 48 晩期か
132	88	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	内彎気味。上部で外反気味。ほ ぼ直立。外面単節陶文 L R。内 面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	普通	外面にふい褐 色・黒褐色。 内面・内部に ふい褐色	D 5 f4、 c5. サブ トレー	—	図版 48 晩期
133	360	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	わずかに内彎。わずかに外傾。 薄手。口縁部外外面ケズリ。外 面細節を有する単節陶文 L R の 帯が現状で2段。段間はナデ 滑しか。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒、 黒色砂粒、海 綿骨針微量	良好	内外面褐色。 内部陶灰色	D 5 e4、 c5. II 層 一括	—	図版 48 晩期か
134	243	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	外反気味。外傾。口縁部に棒 状施文具により内側から外側に 向かってキヤミを入れ。小波状 に作る。外面ケズリ。一部輪 縁のみ残る。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・チヤ ー粒・凝灰岩 粒微量	普通	外面灰黄褐 色・褐色。内 面淡黄褐色。 内部陶灰色	D 5 e4、 20.70 m	—	図版 48 晩期か
135	140	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	外反・内傾する胴部から緩やかに 屈曲して外傾する口縁部。内 外面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・赤褐色砂 粒微量	やや 焼き 甘い	外面にふい青 褐色にふい暗 褐色。内面黒 褐色。内部陶 灰色	C 5 f4、 20.81 m	—	図版 48 晩期か
136	281	縄文 土器	小型 深鉢	口縁～ 胴部、 10%	—	わずかに内彎。わずかに外傾。 薄手。内外面ケズリ。のちナ デ(外面やや丁寧)	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・凝灰岩粒、 黒色砂粒微量	良好	外面褐色・灰 褐色。内面・ 内部黒褐色	D 5 f4、 20.65 m	—	図版 48 晩期。内 外面赤色 塗彩。S 1 33(覆土) に帰属の 可能性
137	128	縄文 土器	鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内彎。外傾。角頭状。外面ヘラ ケズリ。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒、 褐色砂粒微量	普通	外面灰黄褐 色。内面にふ い青褐色。内 部灰黄色	C 5 i5、 II 層、 20.80 m	—	図版 48 晩期前製 粗製土器。 S 134(覆土) に帰属の 可能性
138	304	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	—	わずかに内彎。大きく外傾。口 縁部下外面に溝を彫らし。それ により段を作る。内外面ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・黒色砂 粒・海綿骨針 微量	普通	内外面黒褐 色。外面面表 下。にふい赤 褐色。内部陶 灰色	D 5 f4、 20.61 m	—	図版 48 晩期前製 土器。S 1 33(覆土) に帰属の 可能性
139	282	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	[16.0] [38]	内彎。大きく外傾。口縁部は 外側から角頭状に作り B 突起 付。その下位に焼成前穿孔 2 孔 (径 4mm)。外面ヘラケズリ。 のちナデ。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	良好	内外面褐色。 内部陶灰色	D 5 f5、 20.65 m	—	図版 48 時期不明。 S 133(覆土) に帰属の 可能性

陣区番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高さ・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第62区	140	166	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	(4.3)	内脣、大きく外傾。薄手。口縁肩部内傾状。外面ナデ。内面ナデ。少量ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通、焼けむら	外面灰白色、内面灰黒色、内部褐色	D5 b5、D30.75 m	2片	図版48 晩期か
	141	121	縄文土器	壺	口縁部、5%以下	—	内傾する頸部から屈曲して外傾する口縁部。肩部付近でわずかに内脣。肩部に突起。2個1対か。内面、外面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・黒色砂粒・灰色砂粒微量	普通	外面にふい黄褐色、内面灰褐色	D5 f4、f3.5 1層一括	—	図版48 晩期中葉・大洲C14C2式
	142	383	縄文土器	壺	口縁～胴部、5%以下	—	内傾する頸部から屈曲し、外傾して直線的に立ち上がる頸部。肩部を外側に厚ませ、2個1対の突起を付け、両側肩部に沈線の高さを、突起外面2個を繋ぐU字状の沈線。肩部外面横走沈線。頸部外面ミガキ、内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	良好	外面黒色・黒褐色、内面黒褐色、内部褐色	D5 g4、g5 一括	—	図版48 晩期
	143	26	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	直線的。外傾。外面単節縄文LRを施文に。横走沈線1条。下向き弧状沈線文。弧状沈線の横に2個1対の突起有り。横走沈線の上と弧状沈線の下張り直し。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒微量	普通	外面褐色、内面褐色、器表下稜色、内部明褐色	D5 e4、e5.1 B層一括	—	図版48 晩期前葉・安行系か
	144	150	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内脣。外傾。外面単節縄文LRを縦横・斜位に施文。内面ナデ	やや粗重。メノウ粒中量、メノウ礫・石英粒・石英礫・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・灰色砂粒微量	普通	外面黒褐色、内面褐色	D5 a4、20.80 m	—	図版48 晩期か
	145	229	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内脣。わずかに外傾から上部で外反。外面単節縄文LR・外面粘土継積上げ残る内面ナデ	やや砂質。メノウ粒中量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒微量	やや不良、焼き甘い	外面にふい赤褐色、内面褐色、にふい黄褐色、にふい黄褐色	D5 e5、20.67 m	—	図版48 S133(覆土)に帰属の可能性
	146	145	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内脣。外傾。薄手。外面単節縄文LRを施文し。間隔を置いて一部をナデ消し。沈線区画はない。一部粘土継積上げ残る。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒	良好	内外面黒褐色、内部黒色	D5 a5、20.69 m	—	図版48 晩期。S136(覆土)に帰属の可能性
	147	210	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内脣。外傾。外面太い単節縄文LR。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・灰色砂粒微量	良好	外面にふい赤褐色、内面褐色、内部褐色	D5 d5、20.70 m	—	図版48 時期不明。S133(覆土)に帰属の可能性
	148	118	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内脣気味。外傾。外面縦位の太く粗い懸糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	二次焼成	外面浅黄褐色、内面にふい黄褐色・黒褐色、内部褐色	D5 e4、e5.1 層一括	—	図版48 晩期
	149	177	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内脣。外傾。上端で内傾。外面細かい単節縄文LRを施文し。上端に平行する横走沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	良好、下手二次焼成	外面明赤褐色、内面黒褐色、にふい褐色、内部褐色	D5 b4、20.58 m	—	図版48 晩期
	150	88	縄文土器	鉢	頸～胴部、5%以下	—	内脣・外傾する頸部から外反、内傾する頸部。頸部内外面ミガキ。胴部外面懸糸文。内面ナデ。一部ミガキ状	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にふい褐色・黒褐色、内面灰褐色、内部にふい褐色	D5 f4、f3.5サブトロー一括	2片	図版48 晩期中葉～後葉
	151	360	縄文土器	小型深鉢	胴下部、5%	(6.4)	底部から直線的に外傾して立ち上がる胴部。上部外面に単節縄文LR。以下ナデ。一部ミガキ。内面ナデ。上部ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・凝灰岩粒・凝灰岩礫・チャート粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	二次焼成	外面灰黄褐色・黒褐色、内面黒色にふい黄褐色、にふい黄褐色	D5 e4、e5.1 層一括	—	図版49 時期不明
	152	267	縄文土器	浅鉢	脣～胴部、5%以下	—	内脣が大きく外傾する頸部から屈曲して内傾する頸部。肩部外面に長さ22mm楕円形、高さ5mmの突起。現状2個(1個剥離・貼り付け。胴部外面横位・斜位の懸糸文。内面やや粗いミガキ	メノウ粒中量、石英粒・雲母細粒・凝灰岩粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色、内面褐色、灰黄褐色、内部褐色	D5 f4、20.70 m	—	図版49 晩期中葉。S133(覆土)に帰属の可能性

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第62区													
153	26	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%以下	—	内嚢、内傾。上端部は外反する 椀相。外面単節縄文RLを地文 に配位の左右対向之重弧状沈線 文。間の杏仁形部分と上下を磨 り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・黒色砂 粒・赤褐色砂 粒微量	良好	内外面灰褐色、 内部に深い赤褐色	D5e4・ e5、I B層一拵	—	国取49 中期中葉か	
154	119	縄文 土器	注口 土器	注口部、 5%以下	—	土器本体から斜めの上向きに突出 する注口部。注口は短く、基部に は粘土による半球形の塊隆。突起 の高さは基部を含めても13mmと 低い。本体は外面単節縄文LRを 地文に配い弧状沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒、褐色砂 粒微量	普通	外面灰青褐色、 内面暗灰褐色	D5d4・ d5、II層一拵	—	国取49 晩期	
155	52	縄文 土器	台付鉢	脚台部、 5%以下	(2.3) (15.2)	内嚢気味、内傾。底面から2cm ほどから上に透孔。透孔の下部 は横に延びる椀相。上位は不明。 外面単節縄文LRを地文に下位 に2条の横走沈線。指文具はア シ状のものか。沈線の途切れは 粘土中の礫によるもの。内面ナ デ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・褐色砂 粒微量	普通	内外面灰褐色、 黒褐色、 内部灰褐色	D5i4・ i5、サブ T層深さ 15cm以 上一拵	—	国取49 晩期中葉 か	
156	106	縄文 土器	台付鉢	脚台部、 5%以下	(3.9) (11.0)	内嚢、内傾。外面単節縄文LR を地文に下部磨り消し。内面外 ズリ、のちナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・雲母細 粒・チャート 粒・凝灰岩粒、 凝灰岩礫、褐 色砂粒微量	良好	外面に深い黄 褐色、内面灰 黄褐色、内部 褐灰色	D5b4・ b5、II層一拵	—	国取49 晩期	
157	382	縄文 土器	台付鉢	脚台部、 5%以下	—	外反、内傾。外面単節縄文LR、 底部木葉痕。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒、褐色砂 粒・海綿骨針 微量	普通	外面灰青褐色 、内面淡青 褐色、内部褐 灰色	D5f4・ f5一拵	—	国取49 晩期か	
158	95	縄文 土器	台付鉢	脚台部、 5%以下	(4.1) (11.0)	内嚢気味、内傾。厚手。内外面 ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・石英礫・ 凝灰岩粒、赤 褐色砂粒微量	普通	外面灰褐色、 内面に深い 褐色、内部褐 灰色	D5a4・ a5、II層一拵	—	国取49 時期不明	
159	362	縄文 土器	深鉢	底部、 5%以下	(2.6) (10.4)	平底から内嚢気味の胴部が外傾 して立ち上がる。胴部薄手。外 面ナデ。最下部に指節瓦痕。内 面ヘラナデ。底部木葉痕	メノウ粒少量、 メノウ礫・石 英粒・凝灰岩 粒・灰色砂粒、 海綿骨針微量	二次 焼成	外面に深い黄 褐色・褐灰色、 内面褐色、浅 黄褐色、内部 褐灰色	D5g4・ g5、II層一拵	3片	国取49 時期不明、 海綿骨針 顕著	
160	178	縄文 土器	深鉢	胴・底 部、5%	(4.2) (7.0)	平底から内嚢・外傾して立ち上 がる胴部。底部接地部横に張り 出す。胴部外面ヘラケズリのみ ナデ。底面ナデ。植物片付痕残 る。内面丁寧ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒、赤褐色 砂粒微量	普通	外面黒褐色、 灰褐色、内面 黒褐色、内部 褐灰色	D5b4、 20.56m	—	国取49 晩期か	
161	65	縄文 土器	小型 深鉢	胴・底 部、20%	(2.8) (4.0)	平底だが、粘土板接合後の整形 不足のため中央部付近が一部凹 む。胴部は内嚢気味に外傾して 立ち上がる。内外面ナデ。内 面には強い指ナデの痕跡	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩礫、黒色砂 粒・赤褐色砂 粒微量	やや 不焼 き甘い	外面淡黄色、 一部褐色、内 面・内部黒色	D5a4、 20.84m	—	国取49 時期不明	
162	162	縄文 土器	小型鉢	胴・底 部、30%	(2.9) 3.8	丸底気味の平底から内嚢・外傾 して立ち上がる胴部。薄手。外 面ヘラケズリ。底面ナデ。内面 ヘラナデ・ナデ	メノウ粒少量、 褐色砂粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒 微量	普通	外面黒褐色、 暗灰黄色、内 部灰黄色	D5a5、 20.62m	—	国取49 晩期か、 S136(覆 土)に帰属 の可能性	
163	362	縄文 土器	小型 深鉢	底部、 5%以下	(2.1) 3.6	丸底気味の底部から外傾する胴 部が立ち上がる。小型、薄手。 内外面・底面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・黒色砂粒 微量	普通、 焼け むら (二次 焼成 か)	外面に深い橙 褐色・褐灰色、 内面に深い黄 褐色。器表下 淡褐色、内部 褐灰色	D5g4・ g5、II層一拵	—	国取49 時期不明	
164	201	縄文 土器	壺	胴・底 部、40%	(8.1)	丸底から連続して内嚢する胴部 が立ち上がる。球形胴。薄手。 外面ミガキ。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・凝灰岩 粒・褐色砂粒、 海綿骨針微量	良好	外面褐灰色、 内面に深い黄 褐色。器表下 淡褐色、内部 褐灰色	D5d5、 20.69m	—	国取49 時期不明、 13片は かに 含ま ない 1個は 6片	国取49 時期不明、 一部赤色 顔料付着。 S133(覆 土)に帰属 の可能性
165	95	弥生 土器	小型鉢	口縁部、 5%以下	—	内嚢、微く内傾。口がすぼまる 鉢。外面細かな単節縄文LRを 地文に沈線により工字文を表現。 縦に繋ぐ沈線は深い施文 で幅広く施文。内面ナデ。粘土 種様上げ痕を残す	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒、黒色砂 粒、海綿骨針 微量	良好	外面灰褐色、 内面に深い 褐色、内部褐 灰色	D5a4・ a5、II層一拵	—	国取49 前期	

検出 番号	台帳 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第62区	166	341	弥生 土器	胴部、 5%以下	— —	内湾内味、外傾。外面斜位の朱 紅文、内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・雲母 細粒・チャー ト粒・凝灰岩 粒・海綿骨針 微量	良好	外面黒褐色。 内面灰黄褐色。 内部にぶい 褐色	D 5 b4・ 20.68 m	—	国版 49 中期前葉	
	167	100	土師器	底部、 5%以下	(2.4) [8.4]	平底から外傾して立ち上がる体 部。外部外面ナデ。底部周辺 ラケズリ。体部内面・底面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・凝灰 岩粒・赤褐色 砂粒微量	良好、 堅緻	外面・器表下 明赤褐色。内 面にぶい褐色 。内面赤灰 色	D 5 a4・ a5、I層 一括	2片	国版 49 平安時代	
	168	49	灰軸 陶器	口縁～ 体部、 5%以下	—	わずかに内湾。外傾。口縁部で 外反。ロクロ成形。内外面ロク ロナデ。内外面灰軸。口縁部内 面に厚く掛かる	石英粒少量、 黒色砂粒微量	窯 焼成	軸：オリブ トレ深 さ15cm まで一 括	D 5 b4・ a5、I層 一括	—	国版 49 9-10世紀。 平置き実測	
	169	37	灰軸 陶器	体部、 5%以下	—	わずかに内湾。外傾。ロクロ成 形。内外面ロクロナデ。内外 面灰軸。外面上部の一部厚く掛か るも一部を残して剥落	石英粒少量、 黒色砂粒微量	窯 焼成	軸：オリブ トレ深 さ15cm まで一 括	D 5 b4・ a5、I B 層一括	—	国版 49 9-10世紀。 平置き実測	
	170	32	灰軸 陶器	体部(肩 部付近 か)、5 %以下	—	内湾、内傾。ロクロ成形。外面 灰軸。右半分厚く掛かる。内面 ロクロナデ	石英粒少量、 黒色砂粒・褐 色砂粒微量	窯 焼成	軸：オリブ トレ深 さ15cm まで一 括	D 5 g4・ a5、I B 層一括	—	国版 49 9-10世紀。 平置き実測	
	171	126	灰軸 陶器	不明 (破片)	体部、 5%以下	—	わずかに内湾。内傾か。薄手。 ロクロ成形。外面灰軸	メノウ粒・黒 色砂粒・褐色 砂粒微量	窯 焼成	軸：灰オリ ブ色。器胎 一括	D 5 g4・ a5、I B 層一括	—	国版 49 平安時代。 平置き実測
	172	28	青磁 碗か	口縁部、 5%以下	[13.0] (1.1)	わずかに内湾。大きく外傾。内 外面施釉	やや緑がかった 赤褐色土。黒 色砂粒微量	窯 焼成	軸：オリブ トレ深 さ15cm まで一 括	D 5 c4・ c5、I B 層一括	—	国版 49 龍泉窯。 13世紀ころ	
	173	38	土師質 土器	口縁～ 体部、 5%以下	[7.4] (1.7)	内湾、外傾。成形不明。内外面 ロクロナデ	やや精良。メ ノウ粒・石英 粒微量	良好	外面褐色。内 面赤灰色。内 部に赤褐色	D 5 g4・ a5、I B 層一括	—	国版 49 内外面ケー ム状物貫 付着。中世	

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第63区	174	153	土器 片円 盤	4.6	5.6	—	(21.1)	不整形円形。周縁を切断し ておおよそ成形し研磨整形。 素材は朱紅文土器片。朱紅 文は斜位と縦の波状。朱紅 の単位は7条。裏面ミガキ	良好、 堅緻	表面褐色・黒 褐色。裏面 ぶい褐色。内 部にぶい黄褐 色	D 5 a5、 II層 一括	—	国版 49 一部欠損。 S 136(覆 土)に帰属 の可能性
	175	88	土器 片円 盤	3.3	4.7	—	11.0	不整形円形。単節縄文LR を底文に浅い沈線2条を施 す土器片の周縁を比較 的に研磨整形	良好	表面灰黄褐色。 裏面褐色。器 表下にぶい褐色 。内部黒褐色 (明)	D 5 d4・ b5、I層 一括	—	国版 49 完存
第62区	176	348	土器 片円 盤	3.0	3.1	—	7.9	やや小型。不整形円形。単節 縄文LRを施文する土器片 の周縁を折断して成形し、 比較的丁寧な研磨して整 形	普通	表面黒褐色。 裏面灰黄褐色。 内部にぶい 褐色	D 5 b4・ b5、I層 一括	—	国版 49 完存
	177	117	土器 片円 盤	2.2	2.5	—	3.3	小型。不整形円形。薄手の土 器片の周縁を折断して成形 し、わずかに角を研磨して 整形。素材の土器は単節縄 文LRを施文	普通	表面暗赤褐色。 裏面褐色。内 部黒色	D 5 b4・ b5、I層 一括	—	国版 50 完存

第3章 第3節 遺構と遺物

神田 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第63区													
178	82	輪郭口	(28)	(4.0)	[2.0-2.5]	(201)	中心に円形の送風孔を持つ輪郭口の先端部。先端部での器厚約2.5cm。径は7cm前後と推定。基部に向かって径を増す。先端は高温で焼熟し溶融・発達。溶融の範囲からは先端1cmほどが斜めに突出していたものと思われる。	メノウ粒少量、石英粒・凝灰岩粒微量	窯成か、堅緻	器体外面灰黄褐色。被熱部褐色。内部に赤い色。被熱部内部に赤い赤褐色。	C5H・D5サブトレー一括	3片	国版50一部残存。中・近世以降か
179	82	輪郭口か	(23)	(2.1)	—	(33)	現状薄い割片。先端部分が被熱・発達していることから裂口と判断。外面は破やかに彎曲しており、推定される径はかなりの大きい。外面ナア	メノウ粒少量、メノウ礫、凝灰岩粒微量	窯成か、堅緻	器体外面に赤い黄褐色。被熱部黄灰色。内部先端から褐灰色・に赤褐色・浅黄褐色。	C5H・D5サブトレー一括	2片	国版50一部残存。中・近世以降か
180	95	鍛冶炉部品	(3.7)	(2.2)	[8.0]	(120)	ドーナツ状製品の一部。断面は一面が平坦。外側は斜めで裏面に緩やかに連続し、ドーナツ状の内側はわずかに彎曲。平坦な面は焼熟し溶融・発達。各面ナア、斜め向き出す歯状のものを支えるパッキンのようなものか	メノウ少量、石英粒・雲母粒・赤褐色砂粒微量	窯成か、堅緻	器体褐色。被熱部灰白色。被熱部器表下暗赤褐色。	D5a4・a5、I層一括	—	国版50一部残存。中・近世以降か
181	22	鍛冶炉部品	(3.3)	1.3	—	(69)	断面長方形の棒状品。厚さ1.5cm。頂下側面には板の正目の圧痕。頂面と上側面の一部が被熱し溶融。鍛冶炉の目地などの部品か	メノウ少量、石英粒・雲母粒・赤褐色砂粒微量	窯成か、堅緻	器体褐色。被熱部灰白色。被熱部器表下暗赤褐色。	D5a4・a5、I層一括	—	国版50一部残存。中・近世以降か
182	176	泥面子	26	19	—	26	カエル形。脚を折り曲げた状態を表現。型作り。目を突出させ、背の中心線や脚は沈線で表現。背を丸く盛り上げ、太った印象	シャモット少量、メノウ粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量。おそらく型作り用に調整された素地土	良好	表裏面褐色	D5b4、30.57m	—	国版50完存
183	88	煤落とし	4.8	3.2	—	25.2	瓦再利用。正面上部に瓦としての外面が残る。長方形。厚さ15cm。破断面以外には調整痕または使用痕としての縦線・斜線の痕。破断面部分を含めた縁は磨耗しており、現状が最終形か	石英粒・雲母粒・凝灰岩・黒色砂粒・褐色砂粒微量	窯成	灰色。一部褐色（瓦としての外面）	D5F4・F5サブトレー一括	—	国版50完形。中・近・現代

神田 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第63区											
184	185	石版	(22)	1.3	0.4	(1.0)	オパール	凹基無茎。薄い割片を利用。縦線から調整距離。調整角は小さく、比較的長い距離を連続的に入れる。先端部欠損はガジリ	D5b4、II層、20.70m	—	国版50一部欠損
185	32	石版	2.2	(1.4)	0.5	(0.9)	メノウ	凹基有茎。やや厚めの割片を素材とし周縁部に調整距離を残す	D5g4・g5、I層一括	—	国版50一部欠損
186	378	石版	(20)	(1.2)	0.4	(0.6)	珪質頁岩	凹基有茎。自然面を一部に残す割片を利用。両側縁からの調整距離は不安定	D514、テストピット一括	—	国版50一部欠損
187	13	石版	(19)	1.2	0.3	(0.6)	メノウ	薄い割片を素材として周縁部に細かな調整を連続して加える。表裏面とも中央部に素材時の調整距離を残す。凸基有茎	C514・J5、I層一括	—	国版50一部欠損
188	340	石版	(27)	1.4	0.4	(1.0)	メノウ	尖基(変形)。透明感のある良質で薄い割片を利用。調整角は小さく、薄く仕上がる。ほぼ左右対称で整美。縦線からの距離は比較的揃うが、一部幅広や長い距離が混じる。	D5a4、II層、20.74m	—	国版50一部欠損
189	175	石版	(25)	1.2	0.5	(0.8)	メノウ	凸基有茎。良質な。反りのある割片を利用。バルブ側を基部とし、縦線への連続した調整により調整。ほぼ左右対称で精美。裏面には素材時の調整距離が残る	D5b4、II層、20.63m	—	国版50一部欠損
190	392	石版	(21)	1.3	0.4	(0.9)	赤玉石	凸基有茎。反りのある割片を利用。両側縁から調整距離を残す	D5b4、II層	—	国版50一部欠損

検出 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第63区 191	36	石鎌	(20)	1.2	0.6	(1.2)	メノウ	尖基(菱形)。分厚い素材を利用し、円縁から調整するが、厚みが取れていない。基部の欠損は石理に沿った欠損で、製作時欠損の可能性	D 5 g4- g5, I B 層一括	—	国版 50 一部欠損	
	192	103	石鎌	3.0	2.0	0.7	2.9	メノウ	やや厚みがあり彎曲した刃片を利用。一端を細く断面三角形に調整して刃部とする。頭部は周縁を粗く調整。一部素材時の割離面を残す	D 5 g4- g5, II 層 一括	—	国版 50 完存
	193	76	石鎌	4.5	4.1	0.9	(19.2)	ホルン フェルス	扁平で不整形円形の礫を利用。長軸両端に研磨により深い切目を入れる。表裏とも切目の周辺に擦痕が認められる	D 5 b4, サブトレ, 2061 m	—	国版 50 一部欠損。 S 133(覆 土)に帰属 の可能性
	194	338	石鎌	4.8	3.9	1.3	35.0	ホルン フェルスか	扁平な不整形円形の礫を利用した右磨石鎌。一端は研磨調整。溝を切る際の傷が多く残る	D 5 i4, II 層, 2066 m	—	国版 50 完存
第64区 195	203	石鎌	5.6	2.4	0.9	(14.2)	粘板岩	扁平で不整形円形の礫を利用。長軸両端に研磨により切目を入れる。石材が柔らかいためか切目付近に擦痕は認められない	D 5 d5, II 層, 2072 m	—	国版 50 一部欠損	
第63区 196	194	石鎌	7.6	4.7	2.4	109.0	多孔質 安山岩	きめ細かい良質な礫を利用し、ほぼ全面研磨によりやや扁平な不整形円形に整形。両端から深い切目を入れる。切目の周辺に擦痕が認められる	D 5 c5, II 層, 2069 m	—	国版 50 完存。 一部被熱。 S 133(覆 土)に帰属 の可能性	
	197	298	礫器	11.9	20.3	4.3	1364	ホルン フェルス	節理に沿って割れた礫を利用。正面の平らな面は割離面との風化度が異なる製作に伴う分割面ではない。不整形円形の長軸縁に片側から割離を加え刃部を形成。大型	D 5 f4, II 層, 2060 m	—	国版 51 完存。 S 133(覆 土)に帰属 の可能性
第64区 198	353	敲石	(9.1)	2.3	1.3	(28.6)	砂岩	縦質・緻密な砂岩の扁平で縦長い礫を利用。一端に使用痕。上下運動による敲打が想定される。欠損している他端も同様に使用された可能性	D 5 g4- g5, II 層 一括	—	国版 51 一部欠損	
第63区 199	240	敲石	3.6	6.9	5.2	142.0	砂岩	縦質な砂岩の円礫を分割し、分割面の両端付近を中心に鋭角部の縁辺を使用。円運動による敲打。円礫としての一端にもわずかな使用痕	D 5 e4, II 層, 2070 m	—	国版 51 完存	
	200	116	敲石	7.0	5.5	2.4	133.2	砂岩	扁平な不整形の礫を利用。長軸側の左上と右下のコーナー部に使用痕。円運動による敲打が想定される	D 5 g4- g5, II 層 一括	—	国版 51 完存
第63区 201	234	敲石	(6.6)	(4.7)	4.3	(20.5)	砂岩	棒状礫を利用。一端とその周辺(他端は折損)に使用痕。円運動を中心に上下運動での使用痕も	D 5 e5, II 層, 2077 m	—	国版 51 一部残存	
	202	351	敲石	7.9	5.1	2.7	(140.9)	砂岩	縦質な砂岩の、不整形長方形で断面扁平な三角形の礫を利用。右側面には貫入したメノウの層。上下運動による敲打で一端を主に使用。他端にも若干の使用痕	D 5 e4- e5, II 層 一括	—	国版 51 一部欠損
第63区 203	232	磨石	6.9	6.5	3.6	201.5	多孔質 安山岩	礫を利用し、周囲をほぼ円形に整形して使用。裏面は自然面に近い	D 5 e5, II 層, 2072 m	—	国版 51 完存	
	204	165	磨石	6.4	5.8	3.7	191.9	多孔質 安山岩	やや扁平な礫を利用し、周縁を敲打。一部研磨により不整形円形に整形。正面・裏面は自然面に近い。主に下面を使用	D 5 b4, II 層, 2075 m	—	国版 51 完存
第63区 205	302	磨石	4.9	4.8	3.3	109.3	多孔質 安山岩	小型。円形。礫の周囲を調整して使用。正面・裏面は凹凸あり。磨りにはあまり使用していないか	D 5 f4, II 層, 2061 m	—	国版 51 完存。 S 133(覆 土)に帰属 の可能性	
	206	22	磨石	5.1	4.7	4.8	(114.1)	多孔質 安山岩	球形に近い礫を利用。やや立方体状とも言えるが、使用のためかは不明	D 5 a4- a5, I B 層一括	—	国版 51 一部欠損 (ガタリ)
第63区 207	385	凹石	(6.6)	(5.9)	(4.4)	(86.9)	多孔質 安山岩	全体形状不明。径10cm程度の楕円形か。凹みは現状で2か所。現存中央部の凹みは径2.5cmの不整形円形で深さは1.0cm。図上部の凹みは径2.0cmの円形か。深さは1.8cm	D 5 i4, サブス トゥ ビット 一括	—	国版 51 一部残存	
	208	80	凹石	10.8	10.2	4.6	(756.5)	砂岩	軟砂岩の板状礫を利用。図上下面を折断して不整形円形に整形し、正面と裏面のほぼ中央部を使用。正面の凹みは長径18mm、短径13mmの不整形円形で深さ3mmほど。裏面の凹みは長径18mm、短径8mmの長楕円形で深さ1mmほど。正面・裏面に新旧の傷	D 5 i4, サブトレ, 2069 m	—	国版 51 ほぼ完存
第64区 209	400	砥石	(6.2)	(1.8)	1.1	(15.6)	粘板岩	右側面・裏面は砥石としての原形をとどめるが残面は正面のみ。中央が山形に残るが上下は摩擦が著しい。左側面は破断面	埋土中	—	国版 51 一部残存	
第64区 210	271	石棒	(6.1)	(4.0)	(1.1)	(31.6)	粘板岩	敲打整形途中の未成品。復元径6cm前後の小型石棒と推定。正面図下からの割離は敲打より新しく、再利用の意図があった可能性	D 5 f4, II 層, 2063 m	—	国版 51 一部残存。 S 133(覆 土)に帰属 の可能性	

第3章 第3節 遺構と遺物

神図 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第65図 211	64	石剣 未成 品	(11.4)	(4.6)	(1.6)	(1285)	粘板岩	板状に寛削りし、一端が幅広、他端がやや狭くなる形に成形し、両側縁付近に敲打整形を開始した段階の未成品。形状からは先端部に近いと推定	D 5 g4, 2085 m	—	国版 52 一部残存
第64図 212	400	石刀 か	(6.8)	(2.4)	(1.2)	(239)	粘板岩	石棒類の破片。断面楕円形の一部に近いが固有稜線に2稜をもって細い平坦面が形成されている。表面は研削調整	埋土中	—	国版 51 一部残存

神図 番号	台帳 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第65図 213	111	鉄鏃 か	(7.9)	1.1	0.8	(7.3)	鉄	先端部が折損。鏃に覆われているが中央部は細く断面方形（1辺4mm前後）で、下部は繊維状のもので巻かれている。長距離か	D 5 b4- b5, II 層 一括	—	国版 52 一部残存	
	214	不明 鉄製 品	6.0	1.5	0.9	9.0	鉄	鏃に覆われているが完存か。鏃が剥離した際、破断面で認められた本体断面は幅7mm、厚さ4mmの長楕円形	D 5 e4- e5, II 層 一括	2 片 (1片 は鏃)	国版 52 完存	
	215	23	鉄洋	5.2	5.4	2.4	68.1	鉄	腕状洋。下面は一部が腕状だが、凹凸が激しく一部突出	D 5 b4- b5, I B 層一括	—	国版 52 完存
	216	212	鉄洋	3.9	5.0	1.8	53.9	鉄	腕状洋。小型だが欠損部分はなく、刃の規模を反映するものと考えられる	D 5 d4, II 層, 2079 m	—	国版 52 完存
	217	359	鉄洋	(4.2)	4.9	2.0	(49.9)	鉄	腕状洋。小型だが欠損部分は少なく、刃の規模を反映するものと考えられる	D 5 d4- d5, II 層 一括	—	国版 52 一部欠損
	218	93	鉄洋	(3.4)	4.4	1.5	(33.8)	鉄	腕状洋。小型だが欠損部分はわずかであり、刃の規模を反映するものと考えられる	C 514- 15, II 層 一括	—	国版 52 一部欠損
	219	91	顕石	(4.7)	(4.0)	0.9	(22.9)	ガラス	ほぼ正円に復元可能。外区は断面かまぼこ形に盛り上げ、内区は薄く作り（厚さ0.4cm）桜花を浮彫状（厚さ0.5mm前後）に表現。型作り	D 514- 15, サブ トレー 一括	—	国版 52 一部残存。 近・現代

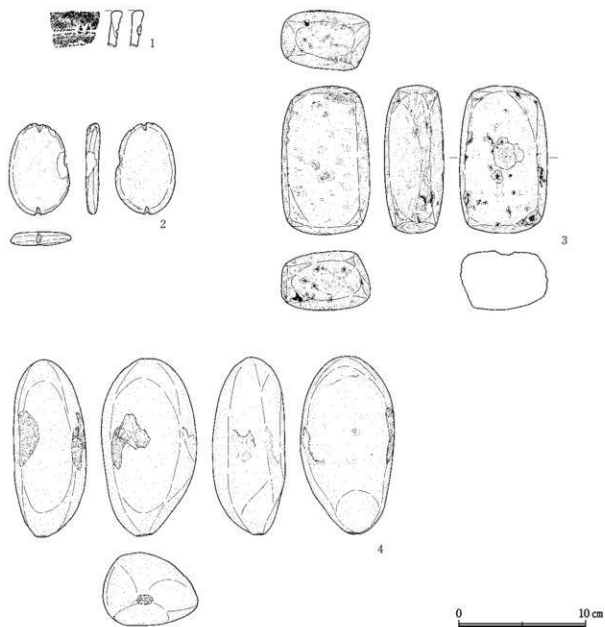
6 表面採集

(1) 調査概要

トレンチによる確認調査に並行して、随時、調査区周辺の地表面の遺物採集を試みた。

(2) 表面採集遺物 (第66図、第38表、図版52)

土器片28点、石器・石製品・剥片等17点を採集した。うち、土器片1点、石器・石製品3点、合計4点を掲載する。



第66図 表面採集遺物実測図

第38表 表面採集遺物観察表

検出番号	台帳番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第66回 1	82	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— — —	内側気味、わずかに外側。口縁角縁。外面細かな単筋縄文し目を施すに細く鋭い横走沈線2条を施す。上位の沈線に掛けて半截竹管状施文具で2個1組の刺突小さな隆起をつくる。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・燧灰岩粒・黒色砂粒微量	良好	外面にふいね色・棕色。内面にふい赤褐色。内部にふい棕色	畦畔ブク付近表採	—	国版52後期

検出番号	台帳番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第66回 2	88	石鉢	7.2	4.8	1.2	(532)	砂岩	楕円形で扁平な転轡を利用。両端に摺りによる短い切目。正面右側縁の側縁や上部の切目状の凹みは意図的のものではない	遺跡北東側表採	—	国版52
3	101	磨石・凹石	11.6	7.0	4.7	6430	多孔質安山岩	長方形の分厚い板状の磨石で、のち凹石に転用。6面とも使用。磨石としては正面と裏面を主に使用。両端は主に敲石として使用。裏面の凹みは径20mm前後、深さ最大3mm。正面の凹みは形成初期	2017年8月、遺跡北東側車場で表採	—	国版52
4	87	敲石	14.0	7.5	5.8	800.5	砂岩	楕円形に近い転轡を利用。主に側縁2か所を使用。一端にも使用面。側縁では使用にによるハジケが認められる	遺跡西元で表採	—	国版52

(3) 所見

遺跡として括った区域の周辺でも縄文時代の遺物が採集されている。縄文時代の集落の範囲は、現在捉えている遺跡の範囲を若干超えている可能性がある。

第4章 総括

泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在し、久慈川右岸の低位段丘上に立地している。標高20～21mで、東側の水田面からの比高は2mほどであり、現況は水田(陸田)、宅地、原野である。遺跡の面積は7,697㎡である。

平成18年に鈴木素行氏によって調査され、弥生時代初頭の再葬墓遺跡であることが確認され、また人面付壺形土器等が出土した。常陸大宮市教育委員会が実施した、再葬墓の分布を確認することを主眼とした第1～4次確認調査では、第2トレンチ(平成18年調査のトレンチを第1トレンチとして)から第27トレンチまで調査を行っており、一部トレンチ間についてはB～D地区として再葬墓の分布を面的に把握する調査を行なっている。調査面積は合計1,059.75㎡である。

第4次確認調査までに確認された遺構は、堅穴住居跡26軒(縄文時代5軒、平安時代21軒)、掘立柱建物跡5棟(平安時代1棟、中世3棟、近世1棟)、土坑180基(縄文時代4基、弥生時代46基=性格不明遺構としていたSX1を含む、平安時代5基、中世14基、近世1基、時期不明110基)、溝跡11条(弥生時代1条、中世6条、時期不明4条)、井戸跡1基(中世)、性格不明遺構4基(時期不明)であった(報告書V, pp.166-169)。

このうち再葬墓は、弥生時代の土坑及び性格不明遺構46基のうちの30基である。再葬墓及び関連遺構については、約30mの範囲内に集中しており、その中でも多数の土器が埋納される大型の再葬墓が密集する地域(東群)と単数土器再葬墓と中規模の再葬墓がまばらに分布する地域(西群)があることが確認できた。確認された再葬墓内の土器は、蓋など骨蔵器以外のものを含め153点にのぼることも判明した(報告書V, p.189)。

第4次までの調査では、当遺跡が縄文時代晩期の集落遺跡であることも明らかになった。再葬墓遺跡が縄文晩期の集落に重複して形成される例は多く、当遺跡でも縄文晩期の集落とある程度の時間的な間隙を持ちながらも、何らかの関係をもって再葬墓群が形成されたものと考えられた(報告書V, p.237)。

こうした第4次確認調査までの調査成果を「泉坂下遺跡V」としてまとめ、それをもとに平成29年に国に史跡指定を申請したところ、同年、弥生時代中期初頭の再葬墓遺跡として国の史跡指定を受けることができた。人面付壺形土器をはじめとする再葬墓出土の遺物は、同年相前後して国の重要文化財指定を受けた。

第4次確認調査までの主目的は遺跡の保存活用のために国指定史跡の指定を受けることであったが、それが達成できた次の段階ではいかに遺跡の保存・整備・活用をしていくかが大きな課題となった。その課題解決のためには、再葬墓とおそらく何らかの関係のある縄文晩期の集落の在り方を明らかにすることが必要と考えられた。第5次確認調査の目的はそこにあった。

第5次確認調査では、第28～31トレンチを設定して調査を行なった。第28トレンチは第12トレンチ南部で確認された第12号堅穴住居跡の規模等を把握するため、第29トレンチは第26号堅穴住居跡の規模等を把握するため第26号堅穴住居跡の中央部を通り第27トレンチに直交するよう、それぞれ設定した。さらに縄文時代晩期の住居跡が遺跡北西部の遺構確認が不十分と思われたため、第12トレンチに直交させて東に第30・31トレンチを設定した。今回の調査のトレンチ5本での総面積は144㎡(拡張区を含む)である。

今回の調査で新たに確認した遺構は、堅穴住居跡11軒(縄文時代7軒、平安時代4軒)、土坑

29基（縄文時代8基，中・近世19基，時期不明2基），溝跡2条（中・近世）である。

今回の調査までの総調査面積は1,203.75㎡になる。前回調査までに確認した遺構は上記のとおりであるが、そのうち今回の調査で保留または抹消した竪穴住居跡が3軒あるので、都合、竪穴住居跡34軒（縄文時代9軒，平安時代25軒），掘立柱建物跡5棟（平安時代1棟，中世3棟，近世1棟），土坑209基（縄文時代12基，弥生時代46基，平安時代5基，中・近世34基，時期不明112基），溝跡13条（弥生時代1条，中・近世8条，時期不明4条），井戸跡1基（中世），性格不明遺構4基（時期不明）が今回までの調査で確認されたことになる。

確認された弥生時代の土坑のうち30基は再葬墓であり、同時代のそのほかの土坑も再葬墓関連遺構と考えられる。一方、縄文時代の竪穴住居跡9軒はいずれも晩期のものである。縄文時代晩期の住居跡と弥生時代再葬墓の間には空白期間があるようである。また、分布の中心は縄文時代の竪穴住居跡が遺跡の北西部、再葬墓及び再葬墓関連遺構は北東部にあることが確認されており、区域が若干ずれるものの、縄文晩期の集落が廃絶した跡に、空白期間において弥生時代の再葬墓群が形成されたものと考えられる。縄文晩期の集落跡に弥生時代前・中期の再葬墓群が形成される例は多く、何らかの関係があると考えられている（報告書V，p.237）。

遺跡整備を進める上では、今次調査の情報は不十分とは言え、重要なものである。再葬墓との関連が考えられる縄文晩期集落に関しては、晩期初頭の径10m前後の大型で円形のプランを持つ住居跡があり、晩期中葉と見られる径4～5mの円形の住居跡がある。それらは遺跡中央部から北西部にかけて分布しているのが確認された。また、平安時代及び中・近世の遺構も遺跡中央部から北西部にかけて広く分布していることも確認された。

注目される遺物としては、第30トレンチで出土した縄文時代の人面付土器がある。出土位置やレベルからは第30号竪穴住居跡の覆土からの出土と推定されるが、出土状況からは本来第30号竪穴住居跡に所属するものではなく、竪穴住居の廃絶後、その埋没過程で廃棄等により覆土に含まれることになったものと判断した。時期については、文様の特徴等から縄文晩期前葉・大洞BC式期と考えている。第30号竪穴住居跡もほぼ同時期と考えられ、両者は相前後する時期の遺構と遺物ということになる。人面付土器は出土例が少なく、県内ではほかに5例が知られているだけである³¹。5例とは、稲敷市福田貝塚出土例[柴田1911]、北茨城市上野台遺跡出土例[川崎1972、茨城県史編さん1979]、那珂市南竈内遺跡出土例[萩野谷2020]、坂東市（旧岩井市）岩井出土例（東博蔵J-1870）[東博2013]、利根町立木貝塚出土例[東博2013]である。立木貝塚例は壺形土器、他は注口土器、または注口土器と推定されるものである。時期的には、福田貝塚例と上野台遺跡例は晩期初頭の安行3a式または大洞B式、南竈内遺跡例は晩期前葉・大洞BC式を中心とする時期が考えられる。岩井例は詳細が不明であるが時期的には晩期とされている。立木貝塚例は人面が山形土偶のそれと共通し、おそらく後期後半のものと考えられる。人面付土器は、他地域の例を含め、全体としては晩期前葉の注口土器が多いようである[江坂1960、鈴木2007、渡辺1998]。今回の例は注口土器ではなく壺形土器で、人面は胴部上半に付されている。人面の表現は、鼻から眉にかけてm字状の粘土帯貼り付けによる点は福田貝塚例や南竈内遺跡例などとも共通するが、目を沈線により杏仁形に表現する点などは独特である³²。また、人面の付された反対側、つまり後頭部にあたる部分には沈線による縦位の連続屈曲文が20条施されており、土器に施された文様というよりは人面とセットになった頭髮の表現と見られる。さらに、その下端には粘土帯が横位に貼り付けられていて、髪の影響を表現しているように見える。人面付土器は独特の特徴を持つものが多いが、本例もその例に漏れず独特の存在感を示している。

なお、人面付土器で頭髮を表現したと思われる例としては、栃木県足利市あがた駅南遺跡出土例がある[江原・谷中2020]。顔面両脇と後頭部に沈線による縦位の鋸歯文帯を施しており、泉坂下遺跡例の連続屈曲文に類似している。この類似については、頭髮の表現という基本的なアイデアのもとで具体的な表現も類似したものと理解される。時期的には、あがた駅南遺跡例は口縁部の玉抱き三叉文から晩期初頭と考えられ、泉坂下遺跡例に先行するものである。両者には、あるいは表現上の系譜が辿れるのかもしれない。

ともかく、弥生時代再葬墓から人面付壺形土器が出土した遺跡において縄文時代晩期の人面付土器が出土したことについては、それらの間に何らかの関連があるのか、それとも偶然的なせる業なのか興味深い問題である。弥生時代再葬墓が縄文時代晩期の集落跡に重複して営まれる例は多く、そうした中で起こる現象ではあるが、その関連については現在のところ何も語ることはできない。ただ、全くの偶然とも思えない。類例の増加を待って改めて検討することとしたい。

【註】

- 1 ほかに東茨城郡茨城町小堤貝塚で出土しているとされる[茨城町史編さん委1987]が、人面付土器ではなく遮光器系の中空土偶頭部と考える。理由は、形状が土偶頭部の形状に類似しているほか、「口縁部」にある4か所の破断面が中空土偶頭頂部に多く見られるブリッジ状の装飾の破損の痕跡と見られることである。
- 2 類例としては千葉県桜宮遺跡例[萩野谷2022]があるが、稀有な表現方法である。なお、目頭の処理など微細な点では両者に違いも見られる。

【参考文献】

- 茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会（編）1979『茨城県史料』考古資料編先土器・縄文時代、茨城県
茨城町史編さん委員会編集・発行1987『茨城町小堤貝塚』
- 江坂輝彌1960『土偶』校倉書房
- 江原英・谷中隆2020『あがた駅南遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第396集
- 川崎純徳1972『上野台遺跡』『縄文時代土偶・土版・岩偶・岩版・資料（その1）』常総台地研究会資料（1）、pp.28-30
- 後藤俊一他2016『泉坂下遺跡V』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第26集（「報告書V」と略記）
- 柴田常恵1911『常陸福田発見の石器時代土器』『人類学雑誌』第27巻第1号、pp.56-57
- 鈴木克彦2007『注口土器の集成研究』雄山閣
- 東京国立博物館編集・発行2013『（特集陳列）パンフレット』縄文土器に飾られた人物と動物（東博HP参照）
- 萩野谷悟2020『茨城県那珂市南麓内遺跡の人面付土器』『茨城県考古学協会誌』第32号、pp.39-50
- 萩野谷悟2022『千葉県多古町桜宮遺跡の人面付土器』『茨城県考古学協会誌』第34号、pp.107-122
- 渡辺誠1998『人面装飾付注口土器と関連する土器群について』『七社宮遺跡』福島県浪江町教育委員会、pp.229-257

付章 泉坂下遺跡第5次確認調査の出土骨

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

泉坂下遺跡（茨城県常陸大宮市泉字坂下に所在）は、那珂台地から東に下った久慈川右岸の低位段丘上に位置する。これまでの発掘調査により、縄文～平安時代にわたる集落や墓域などが確認されている。また、弥生時代中期前葉の再葬墓遺跡として残存状況が良好な遺構が確認され、墓域の全貌が判明したことも知られている。今回、第5次確認調査で検出された骨類について、その種類を明らかにするために骨同定を実施した。

1. 試料

試料は、第5次確認調査で採取された73試料の内、骨角器のNo.136（第29トレンチ）、No.613（第30トレンチ）の2試料が対象とされている。

この他、比較的保存状態が良好なNo.552（第29トレンチ：SI26）、No.3（第31トレンチ：SI33）、No.118（第31トレンチ：SI33）、No.25（第29トレンチ）、No.26（第29トレンチ）、No.693（第30トレンチ）、No.696（第30トレンチ）を観察した。

2. 分析方法

試料を実体顕微鏡および肉眼観察を行い、形態的特徴から種・部位を特定する。

3. 結果

今回の試料からは、ウシ目（Artiodactyla）イノシシ科（Suidae）のイノシシ（*Sus scrofa*）、シカ科（Cervidae）ニホンジカ（*Cervus nippon*）の2種類が確認できる。出土骨は、いずれも焼けており、中には加工痕が残る骨もみられる。同定結果を表に示し、以下結果を記す。

(1)骨角器

・No.136（第29トレンチ）

イノシシの第2/5中手骨/中足骨、ニホンジカの角、獣類の部位不明破片である。イノシシの第2/5中手骨/中足骨、ニホンジカの角は、加工された痕跡が認められる。なお、イノシシの第2/5中手骨/中足骨は、遠位端が未化骨で外れる。

・No.613（第30トレンチ）

ニホンジカの角の可能性のある破片である。髪針の頭部とされる。

表 第5次確認調査出土骨同定結果

試料種類	サンプル番号	トレンチ	遺構	種類	部位	左右	部分	数量	被加工	備考
骨角器	136	29	—	イノシシ	第2/5中手骨/中足骨		破片	1	○	遠位端未化骨外れ。「切痕のある動物骨片」(第21図68、図版25)
				ニホンジカ	角		破片	1	○	
				哺乳類	不明		破片	1	○	
	613	30	—	ニホンジカ?	角?		破片	1	○	「髪針頭部」(第46図210、図版38)
別途抽出試料	552	29	SI26	イノシシ	下顎骨		癒合部	1	○	
	3	31	SI33	ニホンジカ	末節骨		近位端	1	○	
	118	31	SI33	ニホンジカ	椎骨	右	近位端	1	○	
	25	29	—	イノシシ	中節骨		略定	1	○	3片の内1点を対象
	26	29	—	イノシシ	中節骨		略定	1	○	
	693	30	—	哺乳類	椎骨		椎体片	1	○	3片の内1点を対象幼獣
	696	30	—	哺乳類	大腸骨		近位端	1	○	

(2)別途抽出試料

- ・No.552 (第29トレンチ:SI26)
イノシシの下顎骨の連合部である。
- ・No.3 (第31トレンチ:SI33)
ニホンジカの末節骨である。近位端が残る。
- ・No.118 (第31トレンチ:SI33)
ニホンジカの右橈骨近位端である。
- ・No.25 (第29トレンチ)
試料中には3片の破片がみられ、その内1点を対象とした。イノシシの中節骨である。ほぼ完存する。
- ・No.26 (第29トレンチ)
イノシシの中節骨である。ほぼ完存する。
- ・No.693 (第30トレンチ)
試料中には3片の破片がみられ、その内1点を対象とした。哺乳類の椎骨である。椎体板が未化骨で外れる。幼獣である。
- ・No.696 (第30トレンチ)
哺乳類の大腿骨近位端(骨頭部)である。

4. 考察

イノシシやニホンジカは、縄文時代以降の遺跡において最もよくみられる種類である。食料資源等のほかに、毛皮の利用、骨角器の素材としての利用がある。特に、No.136のニホンジカ角は加工された痕跡がみられ、No.613の髪針頭部は、ニホンジカの角の可能性のある破片である。さらに、No.136で検出されるイノシシの第2/5中手骨/中足骨は、骨体部に直線的な傷跡がみられる。

なお、イノシシは、骨角器No.136の第2/5中手骨/中足骨で遠位端が未化骨で外れることから、幼獣が含まれている。また、種類を特定できなかったがNo.693の哺乳類椎骨も椎体板が未化骨で外れることから幼獣に由来する。このように遺跡の周辺では、イノシシのように幼獣が生育するような繁殖集団が存在していたとみられ、これら幼獣も狩猟の対象となっていたと考えられる。

ところで、茨城県内に位置する貝塚でニホンジカ・イノシシ以外の種類では、つくば市の上境旭台貝塚でアナグマ・タヌキが(西本,2015)、玉造町(現行方市)の井上貝塚でイヌ・タヌキ・テン・ネズミ類等(汀,1999)が、麻生町(現行方市)の於下貝塚でノウサギ・アカネズミ・タヌキ・キツネ・イヌ・テン・アナグマ・クジラ類・イルカ科・バンドウイルカ(麻生町教育委員会,1992)が検出されている。本遺跡においてもニホンジカ・イノシシ以外の動物が利用されていた可能性があり、今後の調査に期待がかかる。

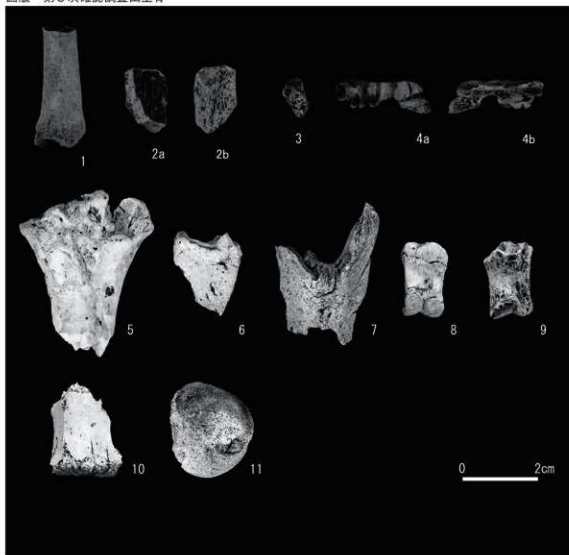
【引用文献】

麻生町教育委員会,1992.於下貝塚発掘調査報告書,202p.

西本 豊弘,2015.上境旭台貝塚平成22年度調査出土の動物遺体。「茨城県教育財団文化財調査報告第397集 上境旭台貝塚4 中根・金田台特定土地地区圏整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XⅨ」,公益財団法人茨城県教育財団,158-163.

汀 安衛,1999.井上貝塚出土脊椎動物遺体。「茨城県行方郡玉造町 井上貝塚出土脊椎動物遺体調査報告書」玉造町遺跡調査会,1-25.

図版 第5次確認調査出土骨



- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1. イノシシ第2/5中手骨/中足骨 (No.136:29T) | 2. ニホンジカ角 (No.136:29T) |
| 3. 哺乳類部位不明破片 (No.136:29T) | 4. 骨角器 (髮針頭部) ニホンジカ角? (No.613:30T) |
| 5. ニホンジカ右機骨 (No.118:SI33:31T) | 6. ニホンジカ末節骨 (No.3:SI33:31T) |
| 7. イノシシ下顎骨 (No.552:SI26:29T) | 8. イノシシ中節骨 (No.25:29T) |
| 9. イノシシ中節骨 (No.26:29T) | 10. 哺乳類椎骨 (No.693:30T) |
| 11. 哺乳類大腿骨 (No.696:30T) | |

写 真 图 版



遺跡全景（南から、久慈川上流部・男体山方面を望む）



遺跡全景（北西から、久慈川下流方面を望む）



道跡全景（西から、久慈川低地・阿武隈山地方を望む）



道跡全景とトレンチ配置状況（鉛直、上やや右が北）